せんよう-ぎょぎょう［専用漁業］専用漁場に於いてなす漁業。免許漁業の一種。この漁業免許は，漁業組合がその地先水面の専用を出願した場合に限り免許される。古く免許になつたものの内には，漁業組合に限らず，又その地先水面に限らず，その漁場を専用して漁業し來つた慣行に因つて，その漁場を慣行者に免許した専用漁業もある。

せんよう-ぎょじょう［専用漁場］専用漁業の免許を受けた漁場。

せんよう-こうかいにっし［船用航海日誌］一等運轉士の保管する日誌で，毎日の記事を當直日誌より轉寫し，船長の署名を受けるもの。この日誌を法定上の航海日誌に對し"航泊日誌"ともいふ。

せんよう-じ［船用時］航海中の船舶が船内で採用する時刻。港灣碇泊中の船は陸上と同じ標準時を使用するが，港を去つて遠洋を航海する場合には時刻帶時間又は視時を使用する。

せんり-ひん［戰利品］交戰者が交戰條規に從ひ敵から獲得した財貨。（分捕品）

せん-りゃく［戰略］多くの戰鬪を戰爭目的のために運用する兵術。⇨戰術。

——-たんい［戰略單位］各種の艦型より成る戰術單位の數個を合し，1指揮官の下に統率し獨立して1方面の作戰に從事し得べき1個兵力。**——-ちてん**［戰略地點］戰域若しくは戰區内に於いて對抗兵軍の作戰に間接の與力を有する地點。例へば軍港・要港・要塞地・大市街その他交通機關の集點或は潤澤の兵資を有する港市等。**——-ようてん**［戰略要點］戰域若しくは戰區に於いてこれを保有すると否とが，對抗兵軍の作戰（戰爭）に直接至大の與力を有する戰略地點。⇨戰略地點。

せん-りゅう［潛流］海水の中層又は下層の流れ。

せん-れい［戰例］過去の戰鬪で行はれた具體的事實。

せん-れい［船齡］船舶新舊の程度を表はすもの。船齡何年とはその船の竣工後經過した年數である。商船では本船竣工後最初に下附を受けた國籍證書の日附より起算するを普通とする。⇨艦齡。

せん-れつ［戰列］戰鬪に於ける隊列。**——-かん**［戰列艦］全裝帆船で甲板3層を有し，その各層に大砲を裝備し現時の戰艦に相當する木艦。

せん-ろう［船樓］貫通した上甲板よりも高くなつてゐる船體の部分。船首樓・船橋樓・船尾樓の總稱。（船閣）

そ

そい-ぶね［添舟］親船に備へ附けてある小舟。

そう［艙］①船體内で荷物を積むべき區劃。②船艙。ふなぐら。

そう［艘］船を數へるに用ひる語。隻に同じ。

そう-あげ［總揚］荷役の都合等により積荷を各受荷主別に仕分けて陸揚げ引渡をなさず，その地揚げ積荷の全部を一括陸揚げすること。

そう-あんしゃ-せん［雙喞車船］雙螺旋船に同じ。➔同項。

そう-いん［總員］①全員。②現に當直にある役員以外のものをいふ。（日課施行に用ふ）**——-おこし**［總員起］艦船部隊で總員を起床させる號令。**——-しゅうごう**［總員集合］艦船に於いて全員を集合させるために下す號令。艦砲長の講評・訓示・士官の著退任・進級その他の申渡し等の場合に行ふ。

そう-うん［層雲］地平線に並行して層狀をなし，地上から600米内外の低い所に生ずる雲。

そう-うんちん［總運賃］運賃を運送せる積荷の重量・容積或は價格により定めず，單に或る船舶を以て運搬する積荷について或る港間幾程と約定した運賃。一旦總運賃を約定するときは，引渡の際荷物の大小多寡を論ぜずその約定運賃が支拂はれる。（綜合運賃・總括運賃）

そう-えいへい-れいしき［總衛兵禮式］艦船部隊で衛兵司令の指揮する衛兵隊を以て行ふ禮式。

そう-かい［藻海］北大西洋中，浮藻及び海藻で覆はれた區域（北緯20～40度，西經35～75度）。ホンダハラ（海藻の一種）が縺れ合つて，見渡す限り藻類が筏のやうに水面に浮んで航海の難所をなし，その面積は歐洲大陸に匹敵するほど廣い。サラガッソ海(Saragasso Sea)といふ。（藻の海）

そう-かい［掃海］水中に敷設された機雷を除去する作業。掃海艇の掃海索によつて機雷の繫維索を拘束し，淺海面まで曳航して爆發せしめる方法と，防雷具を取附けて航走し機雷の繫維索を切斷して浮上るや撃沈す

る方法とがある。前者を對艦式掃海，後者を單艦式掃海といふ。 ——き［掃海機］磁氣機雷發見用の裝置を施した直徑約24呎の金屬製の環を爆擊機の下に取附けたもの。——ぐ［掃海具］掃海に使用する兵器をいふ。2隻の艦艇で曳航するものと，軍艦で曳航するものとある。掃海索・浮標・沈降器を組合せ機雷敷設原を模索する。 ——さく［掃海索］掃海作業に使用する機雷を引つかける索。——そくりょうほう［掃海測量法］錘測のみにては海底に在る尖岩などを看過ごす虞があるので，一定の深さに掃海索を水平に張りつつ所要の箇所を進行して海中を一掃し，若し掃海索に觸れるものがあるとその箇所を更に錘測して水深を確める方法。 ⇨オッター-ボード(otter-board)。——たい［掃海隊］掃海艇2隻以上を以て編成せられた海上部隊。これを統率する兵科士官を掃海隊司令といふ。

そうかい-てい［掃海艇］艦隊の出入港或は機雷沈置の虞ある海面を航行するに當つて，その前路に横はる機雷を掃除する短艇。——たい［掃海艇隊］機動艇又はカッター2隻より成る掃海艇數對をもつて編制するもの。 ⇨特別掃海艇隊・聯合掃海艇隊。

そうかい-ぶね［雙海船］捕鯨用日本型漁船。網を積んで漁場に赴き，勞子船にて追ひ來れる鯨の前方適當なる場所にこの網を張下し，鯨を網に纏絡させる。

そうか-かいていでんせん［裝荷海底電線］導體の上に導磁率の多い合金を捲いて通信速度を增進するやうにした電線。普通のものを無裝荷海底電線といふ。

そうかく-るい［雙殼類］蛤などのやうに左右2個の介殼ある軟體動物。

そうか-ていこう［造渦抵抗］推進器の回轉によつて生ずる渦水が船體の進行を阻止せんとする作用で，速力の增すに從つてこの抵抗が加はる。

そう-かん［送還］①船員又は船客を乘船地へ送りかへすこと。②在留外國人が在留國の安寧秩序を亂し，又は亂す虞ある場合その本國に送り還すこと。

そう-かん［操艦］艦を操縱すること。

そうがん-きょう［雙眼鏡］2箇の望遠鏡の光軸を平行に竝べ，兩眼で同時に遠距離にある物體を擴大して觀望し得る光學器械。射擊指揮や當直中に常に使用する。

そう-き［裝氣］壓搾空氣を裝塡すること。

そうきか-しかん［造機科士官］技術科士官の舊稱の一。機關の製造・修理に關することを掌る技術官。海軍造機少尉～造機中將の官階があつた。

そうき-ちょう［操機長］普通船員の一。機關長・機關士の命を受け，機關部各現業作業の監督及び機關部普通船員の秩序維持に當る機關部職長。舊稱火夫長。

そうき-て［操機手］船舶に乘組み機關士又は操機長の命を受け，機關部作業竝びに航海中は當直に就き機關室内にあつて當直機關士を輔佐し，注油その他の雜業に從事する機關部普通船員。舊稱油差。

そうぐう-せん［遭遇戰］豫期せずして不時に敵と遭遇して行ふ戰鬪。(不期戰)

そう-けいちゅう［雙繫柱］繫船索その他大索を捲き止める2個の鐵筒。(ボラード-ヘッド(bollard-heads))

そうけい-とう［增揭燈］衝突豫防法に規定してある船燈で大檣上，檣燈から少くも15呎上方に揭げ船の進行方向を知らせるためのもの。

そう-こう［艙口］船舶の貨物艙に搭載せる貨物の積卸しのため，上甲板に設けた方形の開口。(ハッチ(hatch))

〜-えんざい［艙口緣材］艙口の四圍に設けられた小高い緣(へり)を形作る木材をいふ。(ハッチ-コーミンゲ(hatch-coaming))

〜-おおい［艙口覆］船舶の艙口に被せる帆布製の覆。艙口覆布。(ハッチ-カバー(hatch-cover))

〜-がいはん［艙口蓋板］船舶の艙口の揚蓋(ふた)のこと。(ハッチ-ボード(hatch-board))

〜-くさび［艙口楔］艙口を密閉するときに用ひる締附用の木製楔。

〜-けんさ［艙口檢査］海難報告をなす時，鑑定人の面前にて艙口を開き，海水浸水の有無，荷積の方法の良否等の事實につき受ける鑑定及び檢査をいふ。

〜-しんこくしょ［艙口申告書］外國貿易船が開港場に入港した時船長より稅關に差出す書類で，艙口の所在・個數・船名及び國籍を記載する。

〜-にやく［艙口荷役］艙口から貨物の揚げ卸しをすること。貨物を絞轆に引掛け起重機或は船舶に裝備してあるデリックを運轉し，艙口を通じて陸揚や積込をする。

〜-ひょう［艙口表］各船舶の載貨噸數に從ひ積入貨物噸數とその

使用船腹とを明記して，載貨噸数の餘剰の有無を明かにするための一覽表。(ハッチ-リスト(hatch-list))

〜-ふうさ［艙口封鎖］外國貿易船の積載貨物は日沒より日出迄の間は積卸しを許さざる規定に基づき，日沒時に稅關吏が艙口を閉鎖しこれに封印を施すことをいふ。

そう-こう［裝甲］敵彈に破られぬために，必要な部分に厚い鋼鈑を張ること。艦船に於いては水線及び砲塔等，重要部に厚き裝甲を施す。**——かん**［裝甲艦］敵彈防禦用のため鋼鈑を裝備した軍艦。甲鐵艦は舊稱。**——かんばん**［裝甲甲板］特種の厚い鋼甲板で通例その兩側は下方に彎曲し，水線下に於いて舷側と接合し，假令舷側は敵彈のために破られてもこの甲板によつて機關室・彈藥庫等主要部を防護するためのもの。**——じゅんようかん**［裝甲巡洋艦］巡洋艦としての任務以外に，主力艦隊に加はつて戰鬪に參加するを目的とし，速力は戰艦より大で，相當の防禦力・攻擊力を具有し，20糎砲等を備へ艦の致命部を甲鐵鈑で防禦してあるもの。**——たい**［裝甲帶］敵彈に對し水線附近を防護するため，船體外鈑の一部に裝著する厚い鋼鈑帶。小艦艇には通例これを施さない。**——はん**［裝甲鈑］敵彈の穿入を防ぐため，舷側若しくは砲臺等を被覆する堅牢な特種の鋼鈑。

そうこう-きょり［走行距離］飛行機の離水する迄に水面を駛走する距離。

そう-こうげき［總攻擊］我が兵力の全部を以て敵を攻擊すること。

そうこ-しょうけん［倉庫證券］貨物を倉庫へ寄託した場合に，寄託者の請求により倉庫營業者の發行する有價證券で，保管貨物を代表し且つこれを處分し得る效力を有する。

そうこ-せん［倉庫船］倉庫代用として貨物保管のために使用される船。

そうこ-てんけん［倉庫點檢］艦長が副長・各科長・甲板士官・受持准士官等を從へ，艦内の諸倉庫を點檢すること。

そうこ-ばん［倉庫番］船舶各部の用品及び器具の保管・手入等を掌るもの。機關倉庫番・甲板倉庫番の類。機關庫手・甲板庫手の舊稱。

そうさい-るい［總鰓類］その鰓は普通の魚類のやうに薄片を呈せず小さく圓い若干の葉となつて鰓弓につき，皮膚は骨質の板を以て蔽はれてゐる硬骨魚類。"たつのおとしご"はこの類に屬する。

そう-さく［搜索］所在未知の敵を探索する行動。⇨偵察。**——れつ**［搜索列］2隻以上を以て敵を探索する場合に形成する艦列。

そうざ-てい［雙座艇］1艇座に櫓手が2人左右に並んで著坐する短艇。

そう-し［漕姿］短艇を漕ぐ姿勢。

そうじ-ばん［掃除番］艦内の清掃に從事する當番。中下甲板掃除番・厠掃除番など。

そうじ-ふく［掃除服］艦船部隊に於いて石炭搭載，その他汚染事業に從事する時，又は機械室・罐室に當直する時などに，下士官・兵の著用する服。

そうじ-ポンプ［掃除ポンプ］二衝式機關の換氣に必要な低壓壓搾空氣を作るポンプ。

そう-しゃ［掃射］機銃や小銃をうつて敵を悉くなぎはらふこと。

そうしゃ-たい［草沙堆］沙濱を有する入江。泥質又は砂地性の水上に現出してゐる孤立した沙洲。

そう-しゅ［漕手］①短艇を漕ぐ人。②櫓櫂を操る者。**——ざ**［漕手座］短艇櫓手の座板で且つ梁の用をなすもの。

そうしゅう-き［操舟機］敵前で迅速に河川を渡過するに使用する折疊舟につける一種の發動機で，いづれも陸上の運搬が輕便で渡河地點まで運び河川に臨べて直に機舟を形成する。陸軍の重要な渡過資材の一。

そうじゅう-せい［操縱性］船が思ふままに動く性質。船舶の操縱上の性能又は船舶の運動力。

そう-しん［送信］電信を送ること。送信機は電信機の發信の發送に用ひる機械。受信の對。

そうしん-せんしょ［送信船所］信號の通信を送る艦船・信號所・無線電信所・無線電信局など。

そう-ず［總圖］海圖の一。大區域を一目するための圖面。大洋の航海に使用する海圖。分圖等の對。

そう-すいしんき-せん［雙推進器船］雙螺旋船に同じ。→同項。

そうすい-ポンプ［送水ポンプ］表面復水器の細管内に海水を循環させ，その管を冷却させるために使ふポンプ。循環ポンプともいふ。

そうせい-ほう［層成砲］砲身を堅牢にするため2層以上の筒を重ね合せ燒嵌めにした大砲。

そう-せき［送籍］事故ある下士官・兵を艦船部隊より在籍地の海兵團に送ること。

そうせき-うん［層積雲］冬に特に多い天空を蔽ふ黑灰色の下層雲。雲の形

が波狀をなす場合には波狀雲又はうね雲ともいふ。

そう-せん[操船] 船舶を意のままに操縱すること。(行船)

ぞう-せん[造船] 艦船を設計・建造すること。これに關する科學を造船學，技術を造船術といふ。

〜-か-しかん[造船科士官] 技術科士官の舊稱の一。造船に關することを掌る技術官で，海軍造船少尉〜造船中將の官階があつた。

〜-きかほう[造船幾何法] 船體の外形及び構造部分を，設計圖から實物大又は適當の大きさに擴大して各部分の形を整へる方法。現圖場の木張床の上に白墨で線を描いて行ふ。

〜-きてい[造船規程] 造船に關して保安及び技術上，船體・機關等の主要部の構造法並びに諸材の寸法及び材料の選擇法等を示した規程。

〜-くみあい[造船組合] 造船事業法により造船業者がその事業の改良發達を圖るために設立した組合で，組合員の事業に必要なる物の取得・保有・供給・共同施設・組合員間に於ける事業の統制・指導・研究及び調査等をなす非營利法人。

〜-じぎょうほう[造船事業法] 造船事業を許可制として遞信省の統制下に置き，これを保護助長するとともに優秀船舶の廉價建造を促進することを目的とする昭和14年4月公布の法律。

〜-じょ[造船所] 船舶の建造・改造又は修理をなし，多くは舶用諸機關をも製造する一種の綜合工場。

〜-しょうれいきん[造船奬勵金] 定められた條件に適合する優秀船舶を建造する自國民に對し，政府から特定の標準によつて給與される奬勵金。

〜-せんきょ[造船船渠] 新造船の建造に用ひる乾船渠。

〜-だい[造船臺] 堅固な地盤で水面に向け緩かな勾配を有する構築物で，附近に各種の起重機を備へその臺上で船體を建造するもの。

〜-とうせいかい[造船統制會] 民間の造船事業の總力を有效に發揮させるため，その綜合的統制運營を圖りかつ造船に關する國策の立案及び遂行に協力する使命をもつ重要產業團體令によつて設立された團體。

ぞう-そく[增速] 艦艇の速力を增加すること。

そう-だ[操舵] 舵輪を操作して舵をとり，船首の方向を任意に變換すること。舵をとること。→舵輪。

〜-いん[操舵員] 操舵にあたる下士官・兵で，通例海軍航海學校の操舵練習生教程修了者を以てこれに充てる。

〜-かんきょう[操舵艦橋] 羅針儀や操舵輪などの備へてある船體の中央より少し前のあたりに，高く築かれた展望臺のやうな所。

〜-き[操舵機] 舵取機に同じ。→同項。

〜-ごうれい[操舵號令] 航海中操舵員に對し舵又は針路に關し下される號令。面舵・取舵・戻せ・面舵(又は取舵)に抵(ア)て・宜候等。

〜-しつ[操舵室] 舵輪を備へた甲板室で，航海船橋或は同船橋の直下に設け，航海に必要な器械・計器具・圖誌・信號旗などが室內に置いてある。

〜-ちょう[操舵長] 航海長の命を承け軍艦の操舵裝置の整備に任ずる特務士官又は准士官。

〜-て[操舵手] ①船の舵取。②船舶に乘組み運轉士又は甲板長の命を受け，航海中は當直に就き船橋にありて當直運轉士を輔佐し，主に操舵に從事しその他の雜務をなし，碇泊中は主として艉門當直をなす甲板部普通船員。舊稱舵取。(コーター-マスター(quarter-master))

〜-もくひょう-とう[操舵目標燈] 船燈の一。航行中の曳船及び被曳船が，後續被曳船の操舵目標として煙突又は後檣の後方に揭げるもの。

〜-よう-らしんぎ[操舵用羅針儀] 操舵手が操舵をするのに使用する羅針儀で，操舵室及び後部甲板舵輪に据ゑつける。(航用羅針儀・航用羅盤)

〜-りん[操舵輪] 舵輪に同じ。→同項。

そう-だ[雙舵] 河川航行專用の雙螺旋船などに於いて推進器の直後に1個づつ裝備された舵。三螺旋船の各推進器の直後に1個づつ裝備されたものを三舵といふ。この式は極めて稀で舵效きを特に必要とする場合に採用される。

そうたい-かん[相對艦] 向きあつてゐる合番號の敵艦。

そうたい-ほういせん[相對方位線] 例へば右舷正橫といふやうに，船體の首尾線などを基準として表はす方位の線。(關係方位線)

そう-たんてい[總短艇] 艦船に搭載するすべての短艇。總短艇挽漕は，軍艦の總短艇を水上に卸し所定の航路を挽漕して歸り著き，最後の短艇の揚收を完了するまでの時間の遲速を競ふ訓練。

そう-ちょう[雙潮] 高潮となつた後に海面が少し低下し暫らくたつてから再び上昇し2度目の高潮を生じ，若しくはこれと反對に低潮が2回の小低潮から成るもの。

そう-てい[掃艇] 艦船裝載の短艇を掃海に使用するときの呼稱。

そう-てい[漕艇] ①手漕により運航する短艇。(手漕艇) ②短艇を漕ぐこと。

そうていがた-ひこうてい[雙艇型飛行艇] 左右に平行な2個の艇體を有する飛行艇。

そう-てん[裝塡] 銃砲に彈藥をつめこむこと。 **——じょう**[裝塡杖] 彈丸を砲の腔内にこめるために，彈底を衝いて押入れる木製の棒。

そう-とう[叢島] 大小幾多の島嶼を一括していふ。叢島の内には群島・列島・諸島を包有することもある。

そう-とう[掃蕩] 敵をはらひのぞくこと。敵を打ち平らげること。

そう-トンすう[總噸數] 船舶の總體積(測度甲板下の船内の體積と測度甲板上の船橋樓等の體積の和)から，下記の場所の上甲板上にあるものを除いた體積卽ち總積量を100立方呎又は1000/353立方米或は2.83立方米を1噸として表はした噸數。①操舵機具・繫船機具・揚錨機具及び主機關と連結しない副汽罐・副汽機に供用される場所。②機關室・操舵室・貯室及び出入口室。③採光通風に要する場所及び便所。④主務大臣に於いて船舶の安全・衛生又は利用上前各號に準ずべきものと認める場所。商船の大きさは普通總噸數で表はす。⇨測度甲板。

そうない-かんし[艙内監視] 荷役中甲板員をして，船内人足等の拔荷又は艙内に於ける喫煙を防止するために，監視せしめること。(ホールド-ウオッチ(hold-watch))

そうない-じゅうつうざい[艙内縱通材] 船艙内の兩側壁の肋骨の内側に沿ひ，これを横切つて船の前後に走る縱通材。船體の縱强力に資し肋骨を相互に連結してその横强力を補助し，且つ外板を剛直ならしめる作用をする。

そうない-そう[艙内槽] 艙内に設ける特に深い水槽で，液體貨物を積込むのが目的であるが，一般貨物艙・脚荷水槽又は燃料油槽として利用することもある。(ジープ-タンク(deep-tank))

そうなん-しんごう[遭難信號] 難船信號に同じ。➔同項。

そうなん-せん[遭難船] 危險に陷つてゐる船をいふ。

そう-ぬり[總塗] 船體の外部總體の塗換を一時に行ふこと。

そう-はつ[早發] 時機尙早に發砲又は爆發すること。

そうはつどうき-がた[雙發動機型] 飛行機の原動力たる發動機を2個裝設したもの。略して雙發といふ。

そうは-ていこう[造波抵抗] 船舶が水上を航走する際又は推進器の回轉により一種の波を生じ，それが船體の進行を阻止せんとする抵抗力。

そう-ばりき[總馬力] 裝備してある機械の馬力を合計したもの。

そう-はん[總帆] 前後の檣に懸けた全部の帆。

そう-はん[增帆] 懸ける帆の數をますこと。

そう-ひょう[叢氷] 海氷の破片の上に降り積もる雪や海水の繁吹(しぶき)とがぶつて出來た高低複雜な形の，大きな浮氷の集合したもの。

そう-びょう[走錨] 投下してある錨が水底を引きづれること。錨がひけること。

そう-びょう[增錨] 碇泊中用ひてある錨の數を增すこと。荒天の際船舶の保安上他の錨を更に入れることがある。

そうびょう-かんぱん[操錨甲板] 錨作業用甲板(アンカー-デッキ(anchor-deck))・矮小船首樓(モンキー-フォクスル(monkey-forecastle))ともいふ。

そうびょう-けいさ[雙錨繫鎖] 雙錨泊の際艦の振れ廻りにより生ずる兩舷錨鎖の揺みを防ぐために用ひるもので，兩端には兩舷錨鎖を鎖駐するため，大鐶と同型なる鎖鐶1個及び2個を連繫した脚を備へる。鎖鐶1個のものを短脚(舷錨鎖を鎖駐)，2個のものを長脚(舷錨鎖を鎖駐)といふ。(ムーリング-スウイブル(mooring-swivel))

そうびょう-はく[雙錨泊] 左右兩舷錨をおろして碇泊すること。錨地が狹隘で艦船の輻輳する泊地に碇泊する場合，艦列の正しきを望む場合，艦位の異動量を少なからしめる場合，風潮激甚にして艦の繫駐力を增すべき場合に行ふ。

ぞう-ふ[雜布] 古綿をほぐして束ねたもので，甲板拭ひや靴底拭ひに用ひられるもの。(スウォブ(swab))

そうふう-き[送風機] 罐の爐に空氣を送る補助機械。渦卷送風機・軸流送風機・ターボ送風機などがある。

そう-ふしゅうがた-すいじょうき[雙浮舟型水上機] 左右に平行な2個の浮舟を有する水上機。俗稱"下駄穿き"。

ぞう-へい[造兵] 兵器の製造。**——-がく**[造兵學] 兵器の性質・構造・理論及びその用法等を研究する工學分科の一。**——-かしかん**[造兵科士官] 技術科士官の舊稱の一。造兵に關することを掌る技術官。海軍造兵少尉～造兵中將の官階があつた。

そう-ほう[漕法] 短艇を漕いで進ませる方法。

そう-やく[裝藥] 彈丸を發射するため大砲の藥室内で發火させる火藥。彈丸はこの火藥の燃燒瓦斯で押し出される。一種の砲に於いて裝藥量に多少の別あり强裝藥・常裝藥・弱裝藥といひ，普通の射擊には常裝藥を用ふ。射擊訓練用の減量裝藥を減裝藥，空放用のものを空放裝藥といふ。

そう-よく[雙翼] 中堅の左右にある隊列。左翼隊と右翼隊。

そうらせん-せん[雙螺旋船] 2個の螺旋推進器を船尾の水中の左右兩側に對して備へた船。三螺旋船は船尾水中の中央に1個，兩側に各1個づつ，四螺旋船は船尾水中の兩側に各2個づつの暗車を備へてゐる船。(雙推進器船・雙暗車船)

そう-りつ[漕率] 短艇を漕ぐ早さで1分間を標準とする。ピッチ(pitch)。漕手が最も安易に有效に平均して最高速力を出し得る漕ぐ早さを平常漕率といふ。

そう-りょう[總量] 貨物の總重量。容器に入れられ又は包裝せられたままの重量。

そう-りょく[漕力] ①櫓櫂などを用ひ船を漕ぐ力量。②螺旋推進器の翼が水を押す力。

そえ-ずな[添索] 大索端に附した短小の索で，他の大索に結び附けるのに用ひるもの。(ブライドル(bridle))

そか-ぎょるい[遡河魚類] 鮎・鱒・公魚・鮭・鱒など河流を遡る習性をもつ魚類。

そくうん-き[測雲器] 雲の進行方向と速度とを測定する器械。

そく-えい[側衛] 艦隊若しくは艦船の側方を防衛する艦艇。

そく-えん[測鉛] 白打紐製の測鉛線の先に底部に窪みのある鉛塊をつけたもの。艦橋の兩側に設けた臺からこれを水中に投げ入れて海の深さを測り海底の土質を知るもので，輕測鉛と重測鉛の2種ある。⇨各項。(レッド(lead)) **——しゅ**[測鉛手] 測鉛を水中に投下し水深や底質を檢しこれを艦船橋へ報告する者。**——せん**[測鉛線] 輕測鉛に取附けた白打紐(ビンセン)

でこれに深さを示す符號をつけてあるもの。(レッド-ライン(lead-line))

そく-がん[簇岩] 1線若しくは1列をなしてゐないで群集する岩。

そく-ぐ[屬具] 船舶に備ふべき航海に必要な諸器具。號鐘・時計・雙眼鏡・晴雨計・寒暖計・測程具・測定機械・砂漏計・測鉛・時辰儀・六分儀・羅針儀・船燈・號角・火箭・國旗・信號旗・國際通信書・船名錄・航海曆など。**——もくろく**[屬具目錄] 船舶の個々の屬具につきその名稱及び員數等を記載し屬具の範圍を明かにする書類で，船舶には法律上必ず備附けを要する法定書類である。

そく-こう[續航] 一船が他船の後につづいて航行すること。

そく-さく[測索] 測鉛につけて，海中に投じ深さをはかる索(ナワ)。

そくじ-たいき[即時待機] 機關用語。短時間を以て出動準備を整へ得るやうにして居ること。

そくし-べん[塞止弁] 罐から汽機に供給する蒸氣の通路を開閉する弁。主汽機に供給する所にあるものを主塞止弁(シュシソクベン)，補機に供給する所にあるものを補助塞止弁といふ。(ストップ-バルブ(stop-valve))

そく-しゃ[側射] 側面を攻擊する射擊。

そくしゃ-ほう[速射砲] 發射速度の迅速なる大砲。15糎砲以下で毎分6～7發以上の發射速度を有す。

そく-しん[測深] 測深儀を用ひるなど各種の方法により，河・海の水深を計測すること。船内の浸水，水槽内の水量を測ることも測深といふ。**——かん**[測深錘] 目盛を施した細い金屬製の棒でその一端に細繩の附いてゐる水槽・油槽・淦水などの量を測知するもの。多くの船舶では毎日朝夕或は必要に應じ，甲板に通じてゐる管の蓋をあけこの棒を垂らし底部に下した後，これを引揚げて濡れた所の目盛を讀む。**——かん**[測深管] 測水管ともいふ。(サウンディング-パイプ(sounding-pipe)) **——ぎ**[測深儀] 水深を測り併せて海底の質を知るための器械。測鉛・トムソン式測深儀・音響測深儀などの種類がある。**——こうほう**[測深航法] 測深儀を用ひ深淺測量(ソクシンソクリョウ)をすることにより，船舶の位置を決定しつつ航行する方法。⇨測深儀。**——だい**[測深臺] 錘測する際測鉛手の踏臺とするため所要の時に船橋兩側の船外に突出させる臺。(投鉛臺)

そく-そう[側槽] 船の兩舷に沿へる水槽。

そくてい-ぎ[測程儀] 船舶の航走距離及び速力を測る器械。手用測程儀・

特許測程儀・電氣測程儀・去式艦底測程儀などの種類がある。(ログ(log))

そくてい-さく［測程索］ 手用測程儀に用ひる150尋位の長さの細索で，その一端に扇形板を取附け航走中の速力を測るため結節をつけてあるもの。(ハンド-ログ-ライン(hand-log-line))

そく-てき［測的］ 目標を測定すること。卽ち大砲射擊や魚雷發射などに必要な距離・的速・列線方位角・的針・變距等を測定すること。 **——いん**［測的員］敵艦の距離・針路・速力等を測定する兵員。 **——しょげん**［測的諸元］射擊や發射に必要なる距離・的針・列線方位角・的速・變距・苗頭をいふ。

そくど-かんぱん［測度甲板］甲板1～2層を備へる船舶では上甲板を，3層以上を備へる船舶では最下層甲板から第2層にある甲板。

そく-とく［測得］ 水深測量及び高度計測等によつて得た結果。

そくど-けい［速度計］ ピトー管又はベンチュリー管に或る速度を有する空氣を衝突させて，その壓力差を目盛に現はす航空計器。

そく-ほう［側砲］主力艦の舷側に裝備してある副砲のやうに片舷のみに發射し得る大砲。

そく-まく［側幕］ 艦橋などの兩舷側方に展張する風浪を防ぐための帆布製幕。(サイド-スクリーン(side-screen))

そく-りゅう［續流］海流が滿干潮後まで引續いて流れること。

そくりゅう-けい［測流計］ 所要の深度に於ける海流の方向や速さを測る器械。

そくりょう-かん［測量艦］海圖作製の目的を以て水深・潮流・海底の狀態等を測量する特務艦。

そくりょう-げんず［測量原圖］測量の出來あがつたもので海圖調製の基本となる圖。

そくりょう-てい［測量艇］測量に向くやうに特別に造られた小艇で，測量艦に搭載し大きな艦船では動けない港灣の中とか靜穩な海上で測量に從事する。

そく-りょく［速力］時速卽ち1時間の航走速度。艦船の速力は節(ノット)，飛行機の速力は粁(キロメートル)で表はす。 **——しけん-ひょうちゅう**［速力試驗標柱］船舶の公試運轉を行ふため定距離をおいて立てられた2對の白色標柱で，各對の標柱は平行してゐる。最高速力で各對の標柱を結ぶ線に直角の方向

に進み，最初に1對の標柱を見通した時と次の標柱を見通した時との各時刻を計り，兩標柱間航走所要時間と距離との比で速力を算出する。 **——しんごう**［速力信號］艦船の航海中自艦船の速力を他艦船に知らせる信號。速力標の高さによつて速力を示し後退の場合には反對にこれを揭げる。速力信號當番がこれを取扱ふ。 **——つうしんき**［速力通信器］艦橋又はその附近に設け航海中機械室へ速力を指示するのに用ひる器械で，前車又は電氣裝置により確實迅速に通信し得るやうになつてゐる。速力通信器當番がこれを操作する。 **——とう**［速力燈］夜間航海をするとき自艦の航行速力を後續艦に標示するための燈光。普通前檣の下桁の兩端に點ず。 **——ひょう**［速力標］鋼製環に網を張つた赤色圓錘型の形象で，航行中これを前檣下桁端に揭げ自艦推進器の回轉狀態(前進・後進・速力)を他艦に表示する。夜間は速力燈を以てこれに代へる。(スピード-マーク(speed-mark))

そこ-いた［底板］ 船艇の底を構成する板材。

そ-こう［遡航・溯航］流にさからつて航行すること。

そ-こう［遡江］①船舶で河川を遡ること。②揚子江をさかのぼることをもいふ。 **——きょり**［遡江距離］船舶が河川を遡航した距離又は遡江し得る河口からの距離。

そこ-うお［底魚］水底に接し又は泥中に身を埋めて棲息する魚類。

そこざし-あみ［底刺網］ 刺網の一種。水底を餌匂し又は水底近くを游泳する魚を漁獲するため，底部に重い沈子(イハ)を附け上部に浮子(アバ)を結び網裾を水底に接せしめ網を屏風のやうに立たせる。夜間魚類の棲息する場所を圍んで張り下し，翌朝これを引揚げて網目に刺され若しくは網地に纏絡してゐる魚類を捕へる。

そこしき-あみ［底敷網］ 皿形をした敷網。網全體を水中に沈め，自然に入る魚又は集魚燈・撒餌等により人爲的に魚を網上に誘致して漁獲する。

そこ-ずみ［底積］最下方に積附けること又はその荷物。

そこつわたつみ-の-かみ［底津綿津見神］海を掌る神。

そこ-なみ［底波］ 颱風の後又は遠くの地震の結果生ずる浪の大うねり。相當深所まで水の動搖を感ずる。

そこ-なむら［底魚群］鰹などの群集が水面に游泳せずに沈下してゐるもの。
⇨なむら。

そこ-に［底荷］船脚を重くし動搖顚覆を豫防するために船底に積入れる水・油・砂礫又は或る種の重量荷物をいふ。而して二重底船の底荷を容れる場所をバラスト-タンクといひ，舶用機關によつて水・燃料・油又は燃料炭等を積込む。バラスト・輕荷(カルニ)に同じ。➔各項。 ——**こうかい**［底荷航海］積むべき貨物又は船客が無い場合に，船脚を適度にするための底荷(水・燃料又は砂礫等)のみを積んで航海すること。(空船航海) ——**だいよう-かぶつ**［底荷代用貨物］①普通底荷として積込まれないが，積附の如何によつて底荷にも適する貨物。主に穀物・石炭等。②底荷として積込まれた貨物。(バラスト-カーゴ-(ballast-cargo)) ——**ひ**［底荷費］底荷積込費。底荷を積入れるために要する一切の費用で，要すれば陸揚又は取捨ての費用をも含む。

そこはえ-なわ［底延繩］水底に沈め延(ハ)へる延繩。沈子を用ひて幹繩を水底に沈めるもの。種類が最も多く，れんこだひ延繩はその大規模なもの。⇨延繩。

そこ-びき［底退］岸に打上げた海水が底をくぐつて後戻りすること。これに足をさらはれ水中に轉倒して溺れることがある。

そこひき-あみ［底曳網］海底に棲息する魚類を漁獲するため，海底に接著しつつ引曳する囊網或は一囊兩翼より成る網。浮子及び沈子を備へる手繰網と，木竹で網口を開かしめる桁網(ケタ)など裝置の異なるものがある。

そこびらき-ぶね［底開船］土運船の一種。その中央の土砂を入れるべき部分の底を開放し得るもの。

そこ-めがね［底眼鏡］①底部の開いた方形の函の底にガラスを張り，水面に淺く挿入して水底に棲息する魚介の有無を見る具。(水眼鏡(ミズメガネ)・覘(メマキ)・覘眼鏡(メマキメガネ)) ②魚油又は動物性の油を海上に撒布し，水面を鏡の如くにして海底を透見すること。"すまし"ともいふ。

そこ-もの［底物］底魚。海底に棲息する魚類。大陸棚に棲んでゐるものが最も多い。

そこ-ゆうれい［底幽靈］陸からの淡水を多量に混じた鹽分の淡い輕い水が，鹽分の濃い海水の表面に著るしい層をなしてゐる所に船を入れると，速力の遲い櫓船等は殆んど進むことが出來なくなる。この海洋學上でいふ内波(ウチナミ)の現象を九州の西海では底幽靈につかれたといひ，筑前沿岸では引き幽靈といつてゐる。⇨死水(シニミズ)。

そこり［干潮］①干潮が最低面に達した時。②潮の全く干ること。 ——**まわし**［干潮際］干潮前後の潮流緩慢な釣魚に適する潮時。

そ-し［阻止］敵の運動を阻礙してその進軍を抑止する作戰行爲。

そ-じょう［遡上・溯上］河川の上流にさかのぼること。

そ-すい［疏水］①舟運などのために土地を切開いて水路を設け通水させること。多くは湖沼・河川より水を引き地勢により開溝とし又は隧道を設ける。②水を流し出すこと。船内排水の仕掛を疏水裝置，排水の本管を疏水主管(ポンプ)といふことがある。

そ-だ［粗朶］伐り取つた樹の枝。薪又は堤を築く料とし，又は海苔養殖用の簀の材料とする。 ——**ずけ**［粗朶漬］魚の粗朶に集る習性を利用したもので，產卵のため或は隱れるために集つた魚を捕へる。

そっ-き［測器］艦船に備へ附ける經線儀・甲板時計・時計・雙眼鏡・望遠鏡・六分儀・測程儀・測深儀などのこと。⇨計器。

そっ-きょ［測距］計器により目標の距離を測定すること。計器を用ひないときは目測といふ。 ——**き**［測距儀］遠距離にある目標までの距離を測定する光學兵器。(レーンジ-ファインダー(range-finder)) ——**て**［測距手］測距儀に就いて指示された目標の距離を測定する配置にある兵員。

そっ-こう［續航］航海を繼航すること。②前續艦のあとをついて航進すること。

そっ-こう［測候］氣象の觀測。 ——**しょ**［測候所］氣象・地震等の觀測をして天氣豫報及び暴風警報を發する所。中央氣象臺に屬し各地方樞要の地に設けてある。

そで-あみ［袖網］網漁具の局部名稱。曳網の左右翼に取附けた部分。定置漁具に於ける垣網(ケタ)の部分も袖網と呼ぶことがある。

そで-しょう［袖章］海軍軍人又は高等海員の階級を示すために軍服又は制服の袖に著けるしるし。

そと-うみ［外海］陸地から遠く離れた海。内海の對。

そとぐるま-せん［外輪船］外車船に同じ。喞輪船(ウケモンジ)の對。➔外車船。

そと-こあげ［外小揚］沖の親船から米俵を傳馬船で運漕して，江戸幕府の米藏の河岸に積むことを業とした人夫。河岸より藏の内へ運び込むものを小揚といふ。

そとまわり-らせん［外旋螺旋］雙螺旋船の左右1對の推進器が首尾線か

ら外側に向つて回轉するもの。

そなえ ソナヘ［備］①防禦。警戒。②隊列。陣列。

そね［硝・曾根］海中の暗礁で魚族の多く集まる所。

そばえ ソバヘ［戯］①日の照つてゐるのに小雨の降るといふやうな時をいふ。②そばふること。

そぼ・ふ ソボフ［戯ふ］①風がゆるく吹くこと。②雨がしとしとと降ること。訛つて"そばへる"ともいふ。

そめ・やかた［染屋形］彩色した船の屋形。

ソラノ［solano］西班牙東岸に多い地中海の强猛な南東熱風で，塵埃を伴ふもの。

そりこ・ぶね［反船］荒波を避けるために舳が反りかへつてゐる漁船。

そろばん［算盤］舟を水上に卸し又陸に引上げる時に使ふ特殊の修羅(シユラ)。何本かの修羅の兩側に木をつけて梯子のやうに造り，しかも各修羅は自由に回轉するやうにしたもの。巨大な算盤との意。これを用ひて小型船を進水させる事を算盤卸しといふ地方もある。

ソワブ　ヤップ島土人の礁湖内運搬用カヌー。長大で材を繼ぎ合せて製し，帆をつけず船底は扁平，船首は高く持上り浮木は常に右舷に位する。

た

だ［駄］魚の漁獲高をあらはす語。1駄は2000尾。

たい［堆］洲及び礁に比し，やや深處に伏在する海洋中の凸處。沙堆(サタイ)・草沙堆(サウサタイ)・泥堆(デイタイ)・礫堆(レキタイ)等の區別がある。(海堆)

たい・あたり［體當］機に乘じて突進し己の體を以て相手の體を衝き倒してその構へを破る劍道術から轉じて，自己の搭乘する飛行機で敵の艦船に肉迫して攻擊する意氣込みをいふ。

たいあつ・しんど［耐壓深度］潜水艦の外殼が海水の水壓に耐へる限界の深度。近代潜水艦の潜水限度は深度100米内外であるがこの3倍位の餘裕はとつてある。

ダイアホン［diaphone］サイレンの構造と類似し低調高勢の音響を發する霧信號で，發音後直に全音に達するので音の切れ目が明瞭である。

たい・あみ タヒ…［鯛網］鯛を捕る網の總稱。その網は地方により異なり，瀬戸内海では鯛縛網又は鯛地漕網のことである。

だいあみ・ぎょぎょう …ヤウ［臺網漁業］定置漁業中規模の最も大なるもの。この類に該當する漁業は凡そ59種あり，大敷網・大謀網・角網・建網・行成網などが主なものである。沿岸から沖に向かひ垣根のやうな網(垣網と稱す)を張り，その先端に大きな囊網を敷設し，沿岸に沿つて游泳して來る魚類を垣網によつてこの囊網の中に導き捕る漁業。⇨定置漁業。

だいいっしゅ・ぐんそう …サウ［第一種軍裝］海軍服裝中，冬の平常用軍服のこと。海軍服裝には正裝(大禮服)・禮裝・通常禮裝と軍裝とがあり，冬の軍裝が第一種軍裝，夏の軍裝が第二種軍裝である。

だいいっしゅ・せん［第一種船］船舶設備規定により船舶に備ふべき短艇その他の救命器具の數量及び種類決定上分たれたる船舶の種別で第1～6種迄ある。各種別に應じその航行區域及び備附くべき救命設備の種類竝びに程度を異にするが第一種船は近海以上の航行區域を有する旅客船である。

たいいん・げつ［太陰月］新月から新月，又は滿月から滿月までを1月としたので，1朔望月は平均太陽日で表はせば29日12時44分2秒8に當る。(朔望月)

たいいん・じ［太陰時］太陰を對照として測る時間の總稱で，太陰の極上子午線正中後の西方時角。潮時推測などに重要である外，日常生活には殆んど關係がない。

たいいん・じつ［太陰日］月の中心が2回引續いて同一子午線に正中する間隔。その長さは一定しないが，平均は平時の24時48分29秒に當る。

たいいん・ちょう …チヤウ［太陰潮］月の潮汐力によつて起る潮。月の起潮力と太陽の起潮力との比は2.2倍。

たいいん・にっしゅうちょう …ニチシユウチヤウ［太陰日週潮］太陰によつて生ずる約1日を週期とする潮。

たいえい・きかん［滯泳期間］洄游魚族の或る海區に滯留する期間。

たい・えき［退役］士官又は准士官が豫備役を滿期となり，又は傷痍・疾病のため現役・豫備役を退くこと及び退きたる後をいふ。

たい・か …ヤウ［滯貨］賣捌き得ざるため又は輸送力不足のため倉庫等に滯積さ

れてある貨物。

たい-かん［退艦］ ①轉任又は轉勤などの際乘組員がその乘艦を退去すること。②軍艦へ來た外來者がその艦を辭去すること。

だい-かん［代艦］ 廢棄された軍艦の代りに新に建造される軍艦。

だい-かん［大鐶］ 錨鎖各節の末端にある鎖鐶で，接續鐵枷を鎖駐するため中に鐶柱なく從つて小鐶に比しその徑の大なるもの。（エンド-リンク end-link）

たいかん-きょほう-じだい［大艦巨砲時代］ 第一次世界大戰後，各國が大艦巨砲主義を採用して海軍擴張を行つた時代。華府會議で成立した軍縮協定により一時中止されたが，該條約廢棄後更に復活した。

たいかん-きょほう-しゅぎ［大艦巨砲主義］ 列國の建艦競爭の熾烈となるに從ひ，特に主力艦たる戰艦の艦型竝びに大砲が次第に大きくなり，排水量35000噸，砲の口徑40糎(16吋)に達した。しかも今後益々大艦巨砲を建造せんとする方針をいふ。

だい-かんちょう［大干潮］ 1日の中に起る2回の干潮の中にてその低き方。高き方を小干潮といふに對す。（低低潮）

たい-き［大氣］ 地球の表面を圍繞する混合瓦斯體卽ち空氣で上層に至るほど密度は稀薄になる。**——-さ**［大氣差］氣差に同じ。➔同項。**——-ちょうせき**［大氣潮汐］ 地球を包む大氣が海水の潮汐の現象と同樣に週期的にその形狀を變へること。氣象潮に非ず。

たい-き［待機］ ①或る機會を待ちうかがふこと。②戰場で出動準備をして命令の下るのを待つてゐること。**——-じょ**［待機所］飛行機搭乘員や高角砲員などが命令を待つてゐる艦内の一區劃。

たいきゃく-せん［退却戰］戰場を離れつつ守勢をとり戰ふこと。追擊戰の對。

だい-きゅうちょう［大急潮］ 沖合の水塊が多量に沿岸へ流入して沿岸の廣い區域に强い流れを起し，沿岸の水温を急に上昇させる現象。

たい-きょ［退去］ 船舶が遭難した場合に乘員がその船を見棄てて立ち退くこと。

だい-きょうふう［大强風］①海上大浪の頗る高い程度の風。②秒速20.8～24.4米の風。

だい-く［大工］船匠の舊稱。➔同項。

たい-くう［滯空］ 航空機に搭乘して空中に居ること。

たいくう-しゃげき［對空射擊］ 艦船又は陸上に來襲する飛行機に對して銃砲擊を加へること。

たいくう-せんとう［對空戰鬪］ 敵飛行機の來襲に對し高角砲・高射機關銃等を以て射擊し戰鬪を交へること。

たいくう-へいき［對空兵器］ 飛行機射擊用の高角砲・機銃等の總稱。

たいくう-ぼうぎょ［對空防禦］ 敵機の來襲に備へて防ぎまもること。

たい-けい［隊形］ 編制された艦船が作戰その他の行動のため集合して形成する制規の形狀。戰鬪隊形・攻擊隊形・巡航隊形などの如くに用ひられる。（フォーメーション(formation)）

たいけい-ず［對景圖］ 山・島嶼・海岸などの形態を海上より眺めて，眼に映るものを航海者の參考に資するために描いた圖。

たい-けん［大圈］地球の中心を通る任意の平面と地球表面との交はりの圓。この大圈は地球面の兩地間の最短距離である。**——-こうほう**［大圈航法］大圈航路を航海する航海術。**——-こうろ**［大圈航路］途中に何の障碍物もない廣い海上を最短距離で走るための地球上の大圈に沿へる航路。

たい-こう［帶甲］裝甲帶に同じ。➔同項。主帶甲・水線帶甲・舷側上(中)列帶甲など。

だい-こうけい-ほう［大口徑砲］25糎砲以上の大砲のことで現に我が海軍では40糎砲・36糎砲・25糎砲を使用してゐる。

たい-こうたいこう-き［太皇太后旗］ 太皇太后陛下乘御の艦艇に掲揚する旗。

だいこうちょう-へいきん-すいめん［大高潮平均水面］ 舊規定による海圖上，陸上物體の高さを測る標準となつた水面。

たいこ-ばり［太鼓針］ 延繩に用ひるやうな返(もどり)のない曲角の圓弧の長い釣針。

たい-じ［對持］ 戰ふと否とに拘はらず敵と對抗を持續する作戰行爲。**——-せん**［對持戰］ 敵に對し攻勢又は守勢を取り戰を持續するもの。

だい-じゅん［大巡］ 大型巡洋艦の略。口徑15.5糎以上の備砲を有する巡洋艦。（一等巡洋艦・甲級巡洋艦・甲巡・重巡）

たい-しょう［大檣］ 3本の檣のうちで中央のもの。2本の檣のうちでは後方のもの。（メーン-マスト(main-mast)）

だい-しょう［代將］ 外國の海軍で將官代理又は司令官代理をなす少將と

大佐との間の官名。我が海軍にはこの官名がない。(コンモドール(commodore))

たいしょう-き[大將旗] 司令長官として指揮權を有する海軍大將の旗章。その坐乘する艦船又は鎮守府・司令部廳舍等に揭げる。(將旗)

だいしょう-き[代將旗] 司令官たる海軍大佐の旗章で，將旗に準じて揭揚する。

だいしんどよう-せんすいぐ[大深度用潛水具] 潛水服の如く著用するもので，胴體は不銹鋼製の蛇腹式，手足も蛇腹式で鋏を有する義手及び移動用義足があり，頭部に兜を取附け，厚硝子窓・空氣出入弁・電話器等を備へ又外部を照射する電燈を腹部に有するもの。

たい-せき[堆積] 河水・海水又は風等の運搬し來る土砂・沙礫などが集積又は沈澱すること。**——とう**[堆積島] 火山の噴出物又は生物の遺骸等の堆積物から成る島。

たい-せん[對潛] 潛水艦を目標とすることを意味する。對潛防禦の類。**——ちょくえい**[對潛直衛] 潛水艦の襲擊に備へるため艦隊の航行中輕巡・驅逐艦などで警戒幕を張り直衛すること。⇨直衛。**——へいき**[對潛兵器] 爆雷・防潛網・水中聽音器・水中測距儀など。

たい-せん[滯船] 荷役の都合等にて船舶を碇泊期間以上に碇泊させること。この超過日數に對しては普通，滯船料の問題が起る。⇨碇泊期間・滯船料。**——りょう**[滯船料] 碇泊料又は日數超過增拂金とも稱し，碇泊期間を超過して船積陸揚をなしたる場合，その日數超過に對し傭船者又は荷主から船主に支拂ふ一種の割增金。(デマレージ(demurrage)) ⇨碇泊期間・滯船。

だい-せん[代船] 事故その他に因り或る船に代つて就航する船。

たいち-かいがん[對置海岸] 海岸線の屈曲あるもの。海岸の山の岩石に硬軟があつた場合に，波蝕によつて軟層は削られ後退して灣になり，硬い所は半島となつて殘り海岸線に屈曲を生ずる。

たい-ちょう[退潮] 潮がひくこと。(引潮)

だい-ちょう[大潮] 陰曆の1日又は15日の滿潮。(おほしほ) **——さ**[大潮差] 大潮期の潮差の平均値。**——しょう**[大潮升] 基本水準面から測つた大潮の平均高潮面に至るまでの高さ。

だいていちょう-へいきんすいめん[大低潮平均水面] 夏冬に於ける大

潮時の低潮の平均水面。

だいとうあ-かい[大東亞海] 濠亞地中海と呼ばれてゐたものを昭和17年に新に命名されたもの。➔同項。

だいどころ-ぶね[臺所船] 昔，日本の大船に附屬して食物を調進せる船。(廚船(ちうせん))

だいなんよう-けん[大南洋圈] 我が國の委任統治地域たる內南洋と比律賓・蘭領東印度・マライ群島などを包含する外南洋とを併せて，近時この稱を用ひることがある。

だいに-しかんじしつ[第二士官次室] 特務士官たる中・少尉のために士官次室と別に設けた公室。

だいにじ-こう[第二次航] 船舶がある航路に就航してから第2回目の航海をいふ。(次航とは別)

だいにしゅ-ぐんそう[第二種軍裝] 夏服。⇨第一種軍裝。

だいにっぽん-かいようしょうねんだん[大日本海洋少年團] 青少年をして義勇奉公の精神を涵養するとともに海事思想を鼓吹し，海防觀念を確立し且つ水產・交通・運輸等に關する知識を啓發する目的でこれが達成に必要な諸事業を行ふ團體。東京都澁谷區原宿に在る。

だいにっぽん-かいようれんめい[大日本海洋聯盟] 昭和17年6月遞信省の指導により結成された團體。海事に關係ある公益團體を會員としてその橫斷的調整結集を圖り，以て海事思想の普及及び振興を强化擴充する目的とする。東京都京橋區新川二丁目に在る。

だいにっぽん-がくとかいようきょうれん-しんこうかい[大日本學徒海洋教練振興會] 諸學校の學生・生徒に海洋精神を涵養し海洋知識技能を修得せしめる目的を以て，文部大臣を會長，文部・海軍兩次官を副會長とし，文部省內に中央本部を，鎮守府及び地方海軍人事部所在地毎に地方支部を，各都道府縣その他に聯絡部を置き，各學校の海洋班に聯絡して海洋教練を實施する機關。

だいねん-せん[代燃船] 燃料としてガソリンの代りに無煙炭・コーライト・木炭などを使用する發動機船。

たい-は[大破] 破損の程度大なること。大本營發表用語としては戰鬪の結果損傷してその修理不能又は極めて困難な艦船をいふ。⇨中破・小破。

だい-ば[臺場] 江戸幕末，要害の地に大砲を据ゑつけ海防に備へた砲臺。

ダイバー［diver］潜水夫。**——ボート**［diver-boat］眞珠貝・白蝶貝などを採收する潜水業者の使用する船。

たい-はく［滞泊］船舶がその港に或る期間碇泊すること。

たいは-せい［耐波性］船舶航行中大浪にあつたとき，これに耐へ得る性能。

だいはつ-せん［大發船］平底式發動機附の鐵艇。上陸作戰に用ひられ河川の渡航にも有用で，防彈裝置を施し輕便・靜肅・高速なる性能を有するもの。略して大發といふ。

たい-はん［大帆］横帆船の前檣・大檣・後檣の最下帆。（コース(course)）

だいひょう-き［代表旗］旗旒信號を行ふに當り，3字信號及び4字信號を綴る際1綴の中に同一信號旗を2個以上使用する代りに用ひる旗。第一代表旗より第三代表旗までの3種があり全部三角旗である。

ダイビング［diving］①水泳の飛込み。②飛行機の急降下。③潜水。

たい-ふう［颱風］南洋方面に發生して支那・日本・比律賓附近を襲ふ颶風。（タイフーン(typhoon)）**——がん**［颱風眼］颱風の區域内は風雨ともに强く中心に近づく程烈しくなるが，唯中心に當る所は微風又は靜穩の區域があつて，雨止み，雲が霽れて青空を現出してゐる。これを颱風眼といひ，海上では颱風眼の中では三角波が立つ。⇨颶風眼。

だい-ふひょう［大浮氷］浮氷原で氷野より小さいもの。その限界の見える點が氷野と異なる。

タイフーン［typhoon］颱風。➔同項。

たい-ほう［大砲］火藥の力によつて砲彈を發射する兵器。砲身・砲架及びそれ等の附屬品から成り，形態又は用途によつて諸種に分類される。海軍では砲熕，陸軍では火砲といふ。

だいぼう-あみ［大謀網］定置漁業臺網の一種。鮪大謀・鰤大謀・鮭大謀等がある。

だい-ほんえい［大本營］戰時又は事變に大元帥陛下が海陸軍を統帥あらせられる最高の機關。平時の軍令部・參謀本部などは大本營の一部となる。**——かいぐんほうどうぶ**［大本營海軍報道部］⇨海軍報道部員。

タイム-ボール［time-ball］時球。➔同項。

たいゆう-ざ［大熊座］北極に近い大星座。肉眼で見える星約150，その中で最も大なるもの7を北斗星といふ。北斗七星は柄杓の形に似てゐる。

だい-ゆうせい［大遊星］水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星の稱。小遊星の對。（大惑星）

たい-よう［大洋］①おほうみ。大海。②現在地球表面積の5分の4を占めてゐる太平洋・大西洋・印度洋・北極洋・南極洋の如く地球表面の海の廣く深いもの。**——うんが**［大洋運河］スエズ運河・パナマ運河のやうに大洋を聯絡するもの。**——ぎょ**［大洋魚］大洋に分布する魚類で，沿岸魚の對。大洋の表層には游泳の活潑な魚が見られ，薄明區域には銀白色をした小さな發光魚が多く，暗黑區域には口の大きな黑い魚が分布し，底にはヒゲダラ類のやうな尾の長い魚が多い。**——く**［大洋區］海底地形の名稱。陸に近い比較的淺い陸棚から陸棚崖といふ急斜面部となり，そこから先は一般に水深3000～4000米の深海床が廣く發達し，この區域を大洋區又は大洋底といふ。**——こうろし**［大洋航路誌］水路部刊行の各大洋の氣象・海流・航路を記したもの。**——とう**［大洋島］大洋中にある島。大洋とは初めから無關係の純然たる島で，海底火山島・珊瑚島はこれに屬する。大陸島の對。

たいよう-じ［太陽時］太陽日の24分の1。太陽時には眞太陽による現時（眞時）と平太陽による平時（常用時）とがあり，これらの間には時差率だけの違がある。

たいよう-じつ［太陽日］太陽に對して地球が1回自轉する間隙。㋑視陽日。眞太陽が同一子午線に續いて2回正中する間隙。㋺平陽日。平均太陽が同一子午線に續いて2回正中する間隙。その長さ一定せざる1年間の視陽日を平均し，常用に供するもの。

たいよう-ちょう［太陽潮］太陽の引力に因つて生ずる潮。⇨太陰潮。

だいらっかく-だん［大落角彈］落角が大きく上から落ちて來る彈丸。大口徑砲の遠距離彈道は高度5000米以上の大圓弧を畫き，目標に命中する時は，垂直に近い角度を以て落下する。（大落下彈）⇨落角。

たいりくせい-きこう［大陸性氣候］陸地内部に見られる太陽熱の吸收・放散ともに著しく，夏冬若しくは晝夜の溫度の差異甚しきもの。海洋性氣候の對。

たいりく-とう［大陸島］大陸の一部が分離して生じた島。大洋島の對。（陸島・分離島）

たい-りゅう［對流］液體又は氣體の熱せられるとき循環運動をなすこと。海水は比熱が大きい上に冷くなるにつれて水の比重が增し，重くなつ

た水は下に沈み，反對に中層の水が上昇してくる，その運動現象のこと。

——けん［對流圏］①氣象學語。大氣の對流の行はれる範圍で地上平均約11粁位の高さまでをいふ。それから上は成層圏。對流圏と成層圏との境を止對流層又は圏界面といふ。赤道地方では地上17粁に達し極地方では6粁位に減ずる。②海洋學語。熱帶を源とする暖かい鹽分の多い海水の循環する區域。

たい-りょう［大漁］漁獲物の多いこと。**——おどり**［大漁踊］漁村に於いて，大漁を喜び祝ふため又は不漁の時に大漁を祈願するために漁師等の行ふ踊。**——ぶし**［大漁節］漁村に於いて，大漁踊に合せて歌ひ又正月にその年の大漁を前祝ひする場合，新造船の船卸しを行ふ場合などに歌ふもの。（大漁歌）

ダウンホール［downhaul］圓材・帆などを引き卸すのに用ひる綱。卸索。

だかい-せん［打械船］中古水軍で使用した200石内外の堅牢且つ輕快な戰船。敵船に近接し砲烙を投げ込み，龜甲船と同樣その甲羅は解脫自在で船床に括著せる左右7本の械(カイ)にて漕ぎ，また檣を立て風力を利用することも出來たもの。（打櫂船・打槳船）

たかお-ふね［高尾船］關舟(セキブネ)の古名。➔同項。

たかき-ていちょう［高き低潮］相次ぐ2低潮中の高い方。

だ-かく［舵角］舵に與へる首尾線（中心線）からの角度。船首轉向の際標準となるものを基準舵角又は常用舵角（面舵・取舵とも約15度）といふ。**——しき**［舵角指示器］舵の現になせる角度を艦橋等の指示盤に現はす計器。

たか-しお［高潮］①みちしほ。②海の波が大きく立つこと。つなみ。

たか-せ［高瀬］①川の淺い所。（あさせ）②高瀬船の略稱。**——ぶね**［高瀬船］昔のは小形で底深く，後世のは大形で底を平たく淺く造りどんな川瀬の淺い所でも通り得るやうにした川船で，多くは貨物の運輸に使用される。普通の川船のやうな船首船尾を有するものと，船首船尾とも切形になり前後いづれの方向へも棹さし得るものとある。略して高瀬(タカセ)といふ。

たかつな-あみ［高綱網］地引網の引綱の特に長いもの。地引網では遠く岸を離れて囊を投じ綱を長く延ばして引寄せることを"高く引く"といふ。

たか-ばえ［高簗］海中の淺瀬で割合に高いもの。"はえ"ともいふ。

たか-はぎ［高剝］和船の船側の重要な部分で，上棚の上部の長厚なる板材。これに船張を貫通して船體の側面を堅固にする。

だ-かん［蛇管］ポンプから先に取附け水などの傳送に用ひる屈伸自在の管革蛇管・厚布蛇管・護謨蛇管があり，根元に取附けるものを吸込蛇管といふ。（ホーズ(hose)）

だ-き［舵機］操舵機に同じ。➔同項。**——しつ**［舵機室］舵取機を据附けてある所。⇨舵取機。

たきいれ-あみ［焚入網］魚類の火光に集合する習性を利用して，篝火を點じ誘致して捕獲する敷網。鯖焚入網の類。焚寄網(タキヨセアミ)ともいふ。

たきぐち-ど［焚口戸］船用罐の炉の前面に取附けられた戸で，火を焚く際に開閉するもの。横に開くものと，縱に開くものとある。焚口扉ともいふ。

たきし［舵・舵］（古）船具の名。かぢ。

たきち［激・滾ち］（古）水のたぎつこと。わきあがること。さかまくこと。

だき-ぶね［抱船］一つの船が他の船を舷側に横附けして曳航すること。

たきよせ-あみ［焚寄網］焚入網に同じ。➔同項。

たきよせ-ぎょぎょう［焚寄漁業］火を焚き鰯・鯖・鰺等を集めて捕る漁業の總稱であるが，主として網漁業に對して用ひる。今日では石油・カーバイド又は電氣による集魚燈を用ひ，これも焚寄漁業と呼んでゐる。

たくえつ-ふう［卓越風］地方で屢々或る方向にばかり吹く風。

たくじょう-ひょうざん［卓狀氷山］氷堤より分離した卓狀のもの。

タクチカル-ダイヤメーター［tactical-diameter］旋回徑。➔同項。

たぐり-つり［手繰釣］道絲を1～2尋宛手繰つては延ばしつつ釣る法。

たぐり-ぶね［手繰船］①網搔舟(アミカキブネ)に同じ。②今井船に同じ。➔各項。

たけたば-ぶね［竹束船］竹束を楯とした昔の軍船。

たこ-あな［蛸穴］海底の蛸の入り込む穴。この穴にそれぞれ名を附けその所有者が定まつてゐて一種の財産になつてゐることもある。

だ-こう［蛇行］①川がS字狀に屈曲すること。山地では山脚を削り平地では河道を變へることもある。②蛇が這ふやうな形で航進すること。（蛇行運動・之字運動）**——うんどう**［蛇行運動］くねりまがつて航行する陣形運動。**——りゅう**［蛇行流］河道の屈曲してゐる河流。

だ-こう［舵效］舵のききめ。操舵の效果。舵の面に生ずる水の壓力が船體に及ぼす影響。**——そくりょく**［舵效速力］操舵が有效にきく程度の極微速力。

たこ-かぎ［蛸鉤］蛸を捕獲するのに用ひる漁具。長い竿の端に鉤を取附け

蛸を引っ掛けて捕るもの。

たこ-つぼ［蛸壺］ 海中に沈め蛸を捕へるために用ひる素燒の壺。これを1條の繩に100個餘り連結して使用する。

タコメーター［tachometer］ 水流の速度を測定するに用ひる器械。(流速計)

たざ-き［多座機］ 數人の搭乘員を乘せる飛行機。攻擊機のやうな大型機は皆これである。

だ-さく［舵索］ 舵柄に附け舵を操る索。

だし（方）山・陸地から海上に向つて吹き出す風。裏日本一帶及びその他の地方に分布してゐる語で，春から夏にかけて頻發する風。(出風(だかぜ))

だしあみるい-ぎょぎょう［出網類漁業］ 定置漁業の一種。海岸から沖に向つて垣網を張り出して定置し，沿岸に沿つて洄游する魚類の通過を止め，ここに溜つた魚を地曳網などで漁獲するもの。

だし-かぜ［出風］ 船を出すに都合のよい風。北國地方の方言では巽(東南)の方角から吹く風。船を西北の日本海へ出し得る便宜の風との義。

だし-しお［出潮］ 海岸が彎曲してゐる場合岸に沿つて流れる潮流がこれに衝突して沖へ流れ出すものをいひ，その方向は潮流の强弱によつて變る。

だ-しゅ［舵手］ 操舵手に同じ。➔同項。

だしょう-せん［打槳船］ 左右兩舷に櫂を具へて漕ぐ中古水軍に用ひた船。槳とは櫂のこと。(打械船)

だしょう-ふひょう［打鐘浮標］ 航路標識の一種。港口附近その他に於いて水中に浮動し得るやうに碇泊した鐘で，海波の動搖により自動的に生ずる鳴鐘によつて淺瀨その他障碍物の存在を船舶に報じ安全なる通路を知らすもの。(ベル-ブイ(bell-buoy))

だ-しん［舵針］ ピントル(pintle)に同じ。➔同項。

だしん-ざい［舵心材］ 舵の回轉軸で上端は船の內部に通じそこに舵柄を取附け，下部は舵針及び舵蛮金によつて舵柱材(船尾材の一部)に連結され旋回する。

たすけ-ぶね［助船］ 遭難者又は遭難船を救助する船。

た-せん［拖船］ 北滿河川に使用する舢船(ジャンク)。推進裝置を有せず從つて自力で航行せず，貨物を搭載して曳船に曳航される鐵鋼船で，木船も少しはある。風拖船は拖船の一種で，風船(帆船)の檣を切斷した木船で拖船と同じく曳船に曳航される。

たたえ［湛］滿潮に同じ。➔同項。

たたき-あみ［叩網］ 旋刺網の一種。網船2隻を用ひ，竿で水面を叩いて網で圍んだ魚を驅りたて魚を網目に刺さしるもの。鮪・小鯖・小鰺等の漁獲に用ひる。

たたき-ずり［叩釣］ 1米位の竿に鉤と絲を附け，水面に振込んで，鉤が水面に達した時，手早く引上げる。これを連續して行ふもので，恰も水面を叩いてゐるやうに見える。鮠(ハヤ)・やまべなど瀨釣にこの方法を用ひる。

たたみ-ぶね［疊船］ 中古水軍に用ひた船で，平常は疊み込んで格納し所要に應じこれを水に浮べ，又渡河の際浮橋にも使用した。(入子船(いりこぶね))

タータン［tartan］地中海で用ひられる單檣三角帆の小舟。

たち-いかり［立錨］ 錨鎖を捲き上ぐるに際し錨孔が錨の直上に來た時，卽ち錨が泥土中にあると否とに拘はらず錨鎖が水面に對し垂直に張つた時。

たち-およぎ［立泳］ 上體を垂直に保ち，手を使用することなく兩足を交互に後下方に踏んで浮揚する泳法。立體泳法。

たちば-ずり［立場釣］鮪を釣る竿釣の一種。長い竹竿で鉤に生鰯をつけて餌とし，その竿を操つて鰯の游泳するやうに上下左右に動かし，鮪が鉤にかかると緡絲は竿から外づれ，以後は緡絲により手釣と同じ方法で引揚げる。大魚の場合には更に銛を投じ又は手鉤(テカギ)をかけて引揚げる。"とばせづり"ともいふ。

だちゅう-ざい［舵柱材］船尾に取附ける垂直の材料で，これに舵の回轉軸たる舵心材を附ける。

たつ［起］日本型漁船の舵床の上に立ててある鳥居狀の物。檣を倒した時これに乘せて支へ，日覆・雨覆をする場合などにも役立たせる。

たつ-がしら［龍頭］ 和船の船首。錨などの頭。

タック［tack］①帆の前端下隅で檣に近い下端。②帆の前端下隅を引張る小索。③上手廻。④帆船が風を同一舷に受けて航走した方向・針路又は航程。海軍ではテッキと呼稱してゐる。

だっ-せん［脫船］ 乘組員がその船から脫け出して歸船せぬこと。

たっ-ちゃく［達著］短艇を舷門・棧橋・陸岸等につけること。

たっとう-ぶね［尊船］軍用船。3～4端帆の荷船又は早船づくりで，大竹を藤蔦で束ね軸の左右に船底から上部まで積上げ，表に竹束盾をつけ軸に石火矢2挺を裝備し胴間に戰兵5～6名を配置した。オランダから傳習して

造つた。

たつ-まき［龍卷］ 大氣中に激しい渦動が起り中心の氣壓が低下し，その周圍及び下層から空氣が急旋回をなして上昇する現象。その時濃斗狀の雲が下垂し龍の上昇する如き觀を呈するによりこの名がある。

たて-あみ［建網］ ①定置漁業に屬する網の總稱であるが，一つの網の呼稱にも用ひる。⇨定置漁業。②移動しない底刺網の別名。

たて-かじ［立舵］日本型船の舵。航走の際その舵を舵床に直角に取附けることをいふ。

たて-きかん［竪機關］機械を直立に据え附け汽筩を上に曲肱をその直下で回轉させるもの。現今の機械は多くこの式に屬する。（直立機械・竪機械）

たてきり-あみ［建切網］建干網に同じ。➔同項。

たて-こはや［伊達小早］ 漆で丹青に彩色した小早船。

たて-つけ［立附］ 或る作業を實施するに當り，人員を整備し要具を携帶し，何時でも著手することが出來るやうにすること。

たで-ながし［蓼流］ 蓼の葉を揉んで液汁を池や溜の水に流し込み，魚類が醉つて浮上るのを捕ること。

たて-なみ［縱波］ 船舶の艏艉線の方向に進む波。横波の對。

たで-ふね［燻船］ 船底を燻して船蟲・貝殼などを驅除すること。又，船燻ともいふ。

たて-ぼし［建干・立干］遠淺の海中に立干網又は簀を立て，潮が干て後そこに置去りにされた魚を捕へる方法。（江干・江切）　**——あみ**［建干網］漁具の名。入江で潮滿ち魚の入り來つた時，この網で建てきり，干潮時を待つて捕獲する。（江切網・江干網）

たな［棚］水溫によつて，魚の游泳層が異なる場合が多い。その層を棚といふ。

たな-あみ［棚網］ 建干網に同じ。➔同項。

たな-いた［棚板］ 和船でその體を形造り浮力を生ずる元となる大切な板。

たな-おぶね［棚小舟］棚のある小舟。⇨船棚。

たななし-おぶね［棚無小舟］（古）船棚卽ち側板の附いてゐない刳船。

た-なわ［手繩］①漁具と漁具とを連結するために漁具の端に附けた繩。②鵜につけて鵜を使ふ繩。

たばこ-ぼん［煙草盆］ 艦船の甲板上で用ひる煙草盆は，圓形小桶狀のものに火繩を挾む金屬製の棒を立て吸殼は桶の中に捨てるやうになつてゐて，喫煙するための點火にはマツチを用ひない。

タバネクル［tabernacle］橋脚承。➔同項。

たば-る［煙る］ 船を陸に上げて船底を火でいぶすこと。

ダビット［davit］ 短艇・魚雷などの重量物揚卸用として，舷側或は積込口附近に設けてある鋼材で，用途により短艇ダビット（ボート-ダビット＝boat davit）・魚雷ダビット・舷梯ダビットなどといふ。**——いじさく**［ダビット維持索］ダビット等を前方に維持する前張索及び後方に維持する後張索を合せていふ。

タービン［turbine］ 噴出する蒸氣又は水を翼に受けて，或はそれ等の噴出する反動で回轉する原動機のこと。蒸氣を使用するものを蒸氣タービン，水を用ひるものを水力タービン又は水タービンといふ。**——せん**［タービン船］蒸氣タービンを推進機械とする船舶。現今大馬力を要する軍艦及び大旅客船は殆んどタービン汽機を主機としてゐる。（タービン汽船・タービン汽機船）⇨蒸氣タービン。**——でんきすいしんせん**［タービン電氣推進船］蒸氣タービンを運轉して發電機を回轉し，この電力を以て螺旋推進器軸回轉用の電動機を運轉して航行する船舶。**——でんどう-きかん**［タービン電動機關］ 蒸氣タービンで發電機を運轉して電氣を起し，この電力を使つて推進器の軸に連れてある電動機を回轉する機關。

だ-ふ［舵夫］ 操舵手に同じ。➔同項。

た-ぶね［田船］ 水田で用ひる底の淺い小さい船。

タフレール［taffrail］ 船尾にある欄干の手摺をいふ。

だ-へい［舵柄］ 木製か鐵製で操舵の目的を以て舵頭に裝すゐもの。（チラー（tiller））　**——しんごう**［舵柄信號］舵柄標に同じ。➔同項。**——ひょう**［舵柄標］ 自艦の操舵狀況を他艦に示すため後檣附近後方から見易い所に揭げる形象。右舷を綠色左舷を赤色とし，且つ舵と關連して上下運動をするやうにしてあるので，左右兩形象の相對位置により舵の方向及び轉舵角度の大小を推知することが出來る。これを舵柄信號といふ。

だ-ほ［拿捕］ 戰時，交戰國の艦船が，敵國の艦・船舶又は封鎖違反或は戰時禁制品を輸送する中立國の艦・船舶を强力を以てその軍憲の權力內に置くこと。捕獲の前提として停船・臨檢・搜索等の結果これをなす。**——**

せん［拿捕船］拿捕したる船舶。拿捕せられたる船舶は被拿捕船。（戰利船・捕獲船）⇨拿捕。——とっきょしせん［拿捕特許私船］交戰國家より拿捕免狀を得て敵國商船等の拿捕に從事する私船。西曆1856年巴里宣言によつて廢止された。

ターボ-そうふうき［ターボ(turbo)送風機］タービン裝置により風を發生せしめる機械。ターボ(turbo)はタービン(turbine)の意。

ターポーリン［tarpaulin］帆布を縫合せ，タールなど防水塗料を施した船の艙口蓋板の覆布。又調鉛手の膠蔽。

たま-あみ［玉網］"たもあみ"に同じ。➔同項。

ため［溜］滿潮時に水の流動せぬこと。

たも［撈］撈網(ろもう)の略稱。——あみ［撈網］①浮游する魚類をすくひ取る網。木の幹を柄とし兩方の枝を曲げて圓形にしたものと，竹と木とを組合せて三角形又は圓形に作つたものとある。これに網を囊狀に張る。②漁獲した魚を取扱ふに使用する抄網。（たまあみ・たも・たま）

たら-ぎょせん［鱈漁船］小漁船は沿岸で漁業に從事するが300～400噸の大型漁船は小漁艇十數隻を搭載し，小漁艇で漁獲した鱈は母船が處理・鹽藏して歸港する。

たらし［垂］浮錨(ふいかい)・海錨に同じ。➔各項。

だらだら-しお［滴滴潮］陰曆十日は小潮の絕頂で，潮の上げ下げが頗る緩漫になり終日だらだらと流れ通すことからこの名がある。（長潮）

タラップ　船內昇降用の舷梯の俗稱。商船でこの語を用ひ，海軍では"ラダー"若しくはこれを訛つて"ラッタル"といふ。

タリーマン［tallyman］①本船乘組の檢數人，普通荷物方と稱す。（荷物方）②檢數人，積荷受渡の際荷物の數をとる者。略して"タリー"ともいふ。

だ-りょく［惰力］航進中の船舶の機關を停止後なほ進行を續ける惰性。各種の速力に應ずる惰力はこれを表に作つて船舶の操縱に便する。これを惰力表といふ。

だ-りん［舵輪］操舵室の中央操舵臺に取附けた車輪の如きもの。船首に面しこれを右方に回轉すると中央操舵裝置を介して舵は右方に偏し面舵がとられ，反對にこれを左方に回轉すれば取舵がとられる。——とうばん［舵輪當番］航海中船橋に在つて操舵輪に就く當直の操舵手。

たる-かいせん［樽廻船］江戸時代，主として大阪から江戸への酒荷の運

送に從事した船。大帆により推進し船首高く，船尾に角形の大舵を備へた大形和船で，船艙は酒樽を積み込むのに都合よく造られてゐた。（樽船・樽番船）

タール-ずな［タール索］麻を材料とし，その纖維に植物性タールを浸してから絢(ない)つた索で，抗張力は白麻索よりやや劣るが水分のため腐ることが少い。

たる-ばんせん［樽番船］樽廻船に同じ。➔同項。

たる-ぶね［樽船］樽廻船に同じ。➔同項。

だるま-せん［達磨船］西洋型の比較的幅の廣い大傳馬船。

たるまわし-せん［樽廻船］➔たるくわいせん。

たるみ［弛］潮流の緩漫になること。

たるみ-いかり［弛錨］雙錨泊の際緊張してゐない方の錨。張錨の對。

たるみ-びょうさ［弛錨鎖］雙錨泊の場合張りのかかつてゐない方の錨鎖。張錨鎖の對。

だれ-しお［惰潮］長潮(ながしほ)に同じ。➔同項。

ターレット-かんぱんせん［ターレット(turret)甲板船］橫斷面が酒樽利に似た型の貨物船。石炭・鑛石・穀類等のやうな撒積貨物を艙內に搭載するとき，空所なく釣合よく積まれ移動することなく安全である。

だ-れん［舵鏈］舵輪と舵とを接續する鎖。

たれんそう-きじゅう［多聯裝機銃］機銃の銃身を多數一箇所に集めたもの。ポムポム砲。

だ-ろう［舵樓・拖樓］大船の船尾に設けて操舵を指揮する者の居る小高い臺。（船櫓(ふなやぐら)）

タワー-マスト［tower-mast］前檣が櫓のやうな形をしたもの。"やぐらマスト"ともいふ。

たわら-ながし［俵流］米俵又は叺の類を水面に流して魚を追ひ一所に追ひ詰めて川魚を捕る方法。

たん［反］帆木綿1幅を1反といふ。35反の帆などといふ。

たん-あんしゃせん［單暗車船］單螺旋船に同じ。➔同項。

たんいつ-こうけい-かん［單一口徑艦］同一口徑の砲のみを裝備した軍艦。

たんえん-ふんか［淡煙焚火］出來るだけ煙を出さないやうに罐の火をたく方法。

たんおう-じん[名] [単横陣] 各艦が一列横隊に並んだ陣形。
タンカー [tanker] 油槽船。タンク船。石油運送船。
たんかい-こう [探海鉤] 海底を探る鐵鉤。(クリーパー(creeper)・探海錨)
たんかい-せん[名] [単桅船] 帆柱が1本の船。
たんかい-とう [探海燈] 探照燈の舊稱。
たんかい-びょう[名] [探海錨] 水中に遺失した物を引揚げるのに用ひる錨。
だん-がん[名] [弾丸] 砲弾及び銃弾の總稱。砲弾は大は40糎の重量1瓲餘のものから小は40粍の1瓲にも足りないものに至るまで種々あり，徹甲弾・通常弾及び高爆弾の3種に大別する。
たんかん-せんとう [単艦戦闘] 軍艦1隻のみで行ふ各個の戦闘。
だん-き [暖機] 機械を暖めていつでも使用し得るやうにしておくこと。
だん-きゅう[名] [段丘] 海岸又は河湖に生成する階段狀の地形。海成段丘・河成段丘・湖成段丘の別がある。⇨海成段丘。
たんきゅう-せん[名] [単級船] 一等船客に對する設備のみを主とした船。
たんけん-せん [探檢船] 危險を冒して實地に就き調査に從事する船。
たん-こ [淡湖] 淡水の湖。鹹湖の對。
だん-こ [弾庫] 弾丸を貯藏する倉庫。
だん-こう [弾孔] 弾丸の穿つた孔。
たんこう-せい[名] [堪航性] ①船舶が安全に航海し得る性能。船體堅牢で屬具完備し炭水・食料品・乘組員等の充實してゐること。(航海堪能力・堪航力) ②飛行機に就いても空中耐航力ある機體裝備の完全な狀態をいふ。
だんこう-そくせき [弾孔塞席] 舷側の弾孔による浸水を塞ぐためのマット。
だんこう-そくせん [弾孔塞栓] 鐵桿の一端に弾丸形の木片を取附け，その周圍に帆布を附著して圓錐形の袋を作り，これに麻屑を入れたもの。弾孔を一時塞ぐに用ひる。
たんこう-のうりょく[名] [堪航能力] ①船舶が安全に航海に堪へ得る能力で，船舶の種類・構造・船齢・積荷の種類・航海の長短・季節等によつて異なる。②航空機に就いても飛行に耐へる能力のことをいふ。
たん-こくさいこうかい[名] [短國際航海] 一國と他國との間の航海を國際航海といひ，その中で航海中海岸より200海里を超えないものを短國際航海といふ。長國際航海の對。
たんこく-しき [単殼式] 潜水艦の船殼が一重のもので，水中の性能には最

も有利である。複殼式の對。
だん-こん [弾痕] 艦船・飛行機や標的などに弾丸の命中した痕跡。
たん-さ [短鎖] 錨鎖と同大の約10個の鎖環より成る錨鎖の一片で，前端は錨鐵枷で錨の鎖に接續し後端は接續鐵枷で轉鎖に鎖駐する。(レングスニング-ピース(lengthening-piece)) ⇨鐵枷(ケッカ)・轉鎖。
たんざ-き [単座機] 操縱者1人のみ坐乘する飛行機。
だん-さく [段索] 索梯(ラッタル)の段。(ラットリン(ratline)・ラットライン)
たんざ-てい [単座艇] 各漕手座毎に1名の漕手が操櫓する短艇。
たん-しゅう[名] [端舟] ①はしけ。ボート。②短艇の舊稱。
たんじゅう-じん[名] [単縱陣] 各艦が一列縱隊を以て進航する陣形。
たんしょう-とう[名] [探照燈] 强力なアーク燈を拋物線反射鏡の焦點に置き，光を平行に反射させ遠距離を照射させる燈。(探海燈)
たんしん-き [探信機] 水中超音波を送り，潜航する潜水艦よりの反響によつてその所在を探知する兵器。水中測距儀の役目もする。(水中探信儀) ⇨水中聽音器。
だん-しんとう[名] [弾震盪] 手近に爆弾・砲弾等の炸裂した音響のために，精神及び言語作用などに異狀を呈するに至るもの。
たん-すい[名] [淡水] 鹽分を含まない水。まみづ。 ——**ぎょ** [淡水魚] 淡水に棲息する魚類。 ——**ぎょぎょう**[名] [淡水漁業] 湖沼・河川等で營む漁業。(內水漁業) ——**こ** [淡水湖] 水1リットル中の固形物500瓲以下の湖。 ——**せい** [淡水棲] 淡水の中に棲息すること。又，その動物。 ——**そう**[名] [淡水藻] 淡水中に生ずる藻類。 ——**ようしょく**[名] [淡水養殖] 淡水中に棲息する魚貝類等を養殖すること。鹹水養殖の對。
たん-すいしんき-せん[名] [単推進器船] 単螺旋船に同じ。➔同項。(単暗車船)
だんそう-かいがん [斷層海岸] 斷層によつて一方の地盤が沈水し斷層崖が海に迫つてゐるもの。
だんそう-こ [斷層湖] 斷層地に出來た湖沼。諏訪湖・猪苗代湖はその例で，深度大にして湖岸は湖盆に向つて急傾斜をなしてゐる。
たんそう-ほうとう[名] [単裝砲塔] 砲塔內に大砲1門だけ裝備してあるもの。2門以上裝備してあるものを聯裝砲塔といふ。
だん-だい [弾臺] 砲側に設けてある弾丸用の架臺で，戦時は常に應急弾丸を備へて置く所。

だん-ちゃく［弾著］弾丸が目標に達すること。**——-かんそく**［弾著觀測］弾丸が目標に命中若しくは前後左右に落下するのを判別すること。**——-きょり**［弾著距離］發射弾丸の到達する距離。

たん-ちょう［湍潮］海底質の特異性又は風・浪・反對の水流などによつて起る速度の早い潮流。

たん-てい［短艇］西洋型小船。櫓(ろ)を以て推進するものを櫓艇，機關により推進するものを機動艇(機艇)，櫓艇にして帆裝を有するものを帆走艇といふ。短艇にはその使用目的に從つて種類が多い。(ボート(boat))

〜-いかり［短艇錨］短艇の錨泊に用ひる小さい錨。(ボート-アンカー(boat-anchor))

〜-か［短艇架］短艇を甲板上に据ゑ置く臺。(艇架・ボート-チョック(boat-chock))

〜-かんぱん［短艇甲板］短艇は通常最上甲板の兩舷側或は一部の空所に收置するので，その附近一帶を短艇甲板(ボートデック)といふ。

〜-きょうそう［短艇競漕］一定線上に2艘以上の短艇を竝べ同時に出發させ，勝敗を決するものと，タイム-レースといつて出發點から一定の時間を隔てて次々に出發させ決勝點までの所要時間を測りその最短のものを勝とするものと，追衝競漕といつて一定の間隔で1列に配置し同時に出發させ後艇が前艇に追附き接觸する時後艇の勝とし，追附くことの出來ぬ時は配置順を變更して再競漕を行ふものとがある。

〜-ぐんそう［短艇軍裝］陸戰隊を乘艇させ又は哨戒任務に就け或は敵艦船の拿捕・臨檢等のために派遣する際に，短艇を武裝すること。

〜-こう［短艇鉤］短艇ダビットに同じ。➔同項。

〜-さく［短艇索］短艇を引揚げ又は降下する際に用ひる滑車の通索。(ボート-フォール(boat-fall))

〜-しき［短艇指揮］短艇の指揮號令を掌る士官次室將校又は少尉候補生で帆走艇にありては自ら操舵する。(チャージ(charge))

〜-しきもの［短艇敷物］乘艇者の識別を明示するため將官は金色，艦長は赤色，士官は綠色で，錨及び線を羅紗製の敷物に縫ひ附けたもの。略して敷物といふ。

〜-ダビット［短艇ダビット(davit)］短艇を揚げ卸しするため上甲板舷側に備附られる2本の鐵材又は木材。短艇鉤。

〜-ちょう［短艇長］艦載水雷艇・汽艇・ランチ・カッター等の操舵をなし且つその短艇の艇員を監督して保存整備に當る水兵科の下士官。略して艇長といふ。

〜-らしんぎ［短艇羅針儀］短艇に備へる小型磁氣羅針儀。

たんていがた-ひこうてい［單艇型飛行艇］中央に1個の艇體を有する飛行艇。雙艇型と異なり1對の翼端浮舟をつけて水上の安定を保つてゐる。一般に飛行艇はこの型式が多い。

たんてい-じん［單梯陣］斜線に排列した艦隊の陣形。右(左)の方を先頭にしたものを右(左)先鋒單梯陣といひ，中央を先頭としその左右の斜線に排列したものを凸梯陣といふ。➡梯陣。

たんてい-せん［單底船］一重の船底を有する船。木船及び長さ100米未滿の鋼船の船體は單底構造である。

たん-テークル［單絞轆］1條の通索と1個又は2個の滑車とを以て構成する絞轆。單ホイップ(single whip)・複ホイップ(double whip)・ランナー(runner)・ボルトン(burton)などの種類がある。複絞轆の對。

タンデム-キャビン［tandem-cabin］船幅の廣い客船には採光が外舷から出來る外側船室と全く電燈のみによる內側船室とを設けるが，特に內側船室にも窓の光を入れるやうに配置をした船室。

だん-どう［彈道］①發射された彈丸が目標に達するまでに，空中を運動する時に描く通路。②正確には，大砲の筒での彈丸の運動を膛內彈道，空中を飛ぶ間が膛外彈道，目標を破壞する間を侵徹彈道又は破壞彈道といふ。**——-がく**［彈道學］彈道に關する事項を研究する科學。

たんとう-きかい［單筒機械］罐より來る蒸氣を唯1個の汽筩內で働かせた後，直に復水器又は大氣中に逃出せしめるもの。單筩機械ともいふ。

たんどく-かいそん［單獨海損］特擔分損とも稱し，海損中共同海損に非ざる損害で，損害を被つた船主又は荷主が單獨に負擔する。共同海損の對。

たんどく-くんれん［單獨訓練］艦隊で，週課の實施を各艦長に命じて行ふこと。

たんどく-ひこう［單獨飛行］飛行練習生が教員との同乘飛行及び離著陸の練習を了へた後，自分1人であらゆる處置判斷を下して飛行をすること。

たんぱ［短波］波長10〜100米の電磁波。指向性アンテナと併用して遠距離對外通信に使用される。波長10米以下のものは超短波と稱せられる。(短

波長)

たん-ぴ［炭費］　焚料炭に要する費用。

たん-びょう［探錨］①亡失した錨をさがすこと。揚錨中若しくは投錨時に錨鎖が切斷して捨錨後，これを揚收せんとする場合などに行ふ。②水中に在る物を搜索するのに用ひる錨。

たんびょう-はく［單錨泊］　左舷錨若しくは右舷錨のいづれか一つの錨をおろして碇泊すること。

たん-ふしゅうがた-すいじょうき［單浮舟型水上機］　中央に1個の浮舟を有する水上機。翼端に1對の浮舟をつけてゐる事が雙浮舟型と異なる。

タンブラー［tumbler］錨繋持鏈の一端を鉤を以て錨を船首舷上に繋持し，投錨に際しその"レバー"を起して錨を遊離させる鐵銲。

だんぺい-せん［圓平船］主に石炭積み込みに用ひる小舟。長さ約6～7間。幅は比較的廣いもの。

だんぺん-ぼうぎょもう［彈片防禦網］彈片の飛散を防いで死傷の程度を少くするために張る網。(スプリンターネット(splinter-net))

たんぼ　①袋網などの浮(ウキ)にしてある樽。②(方)海へ潛れぬ者のあだ名。磯人(イソビト)の對。③入江の船溜り。湛浦。

だん-ぼう［彈帽］被帽徹甲彈の頭部に被せる鋼製帽。

たん-みん［蛋民］　廣東省の珠江上に浮ぶ小舟に住み，漁業と渡船を業とし水上に生れ水上に死し陸上人と交際も結婚もしないといはれる種族。

だん-やく［彈藥］彈丸と裝藥との總稱。**——つうろ**［彈藥通路］防禦甲板の下，兩舷側に近く縱行する通路で，彈藥を彈藥庫より揚彈機に運搬し，或は前後部の砲の彈藥を互に融通させるのに用ひられる。

だんやく-こ［彈藥庫］　①彈丸と藥莢と一體をなす8糎砲以下の小口徑砲の彈藥包及び機銃・小銃・拳銃の彈藥包を格納する倉庫で，通例水線下の防護甲板にある。②彈庫と火藥庫との總稱。**——ちょう**［彈藥庫長］軍艦の彈藥庫の長として作業の遂行，部下の監督に任ずる下士官。

たんゆ-こんしょう［炭油混燒］石炭と燃料油とを同時に燃燒させること。

たんよう-き［單葉機］1翼を有する飛行機。高速機に適し取扱輕便にして價格も低廉であるが，割合に重い構造となり複葉機に比し安定性が乏しい。

たん-らせん-せん［單螺旋船］1個の螺旋推進器を備へた船。(單推進器船・單暗車船)

だん-りゅう［暖流］周圍の海水より溫度が高い海流。多くは鹹度も高く赤道地方から南・北兩極の高緯度の方へ流れてゐる。寒流の對。黑潮・對馬海流の類。

だん-りょう［彈量］　彈丸の重量。

たん-りょく［堪力］索の彈性限界以內の最大荷重量をいふ。漸次大なる荷重を加ふるときは索は緊張延伸するもその荷重を去れば再び原體に復し毫も變形損傷せざる最大荷重量で，通例使用力の2倍を以て標準とする。

ち

ち-えい［地映］極地方に於ける丘陵から晴澄な大氣に映ずる放射狀の影像。

チェスツリー［chess-tree］艇尾に於いて兩緣板の間に架した木材。

チェスト［chest］衣服箱。➔同項。

チェーン［chain］鎖，錨鎖。**——ケーブル**［chain-cable］錨に取附ける鐵鎖。錨索の場合は單にケーブルといふ。**——パイプ**［chain-pipe］錨鎖管(ケンバン)。➔同項。**——ロッカー**［chain-locker］錨鎖庫。➔同項。

ち-がい［稚貝］プランクトンから成長して貝になつて間もないもの。

ちか-いかり［近錨］　錨鎖を捲き上げるに際し，その錨鎖の長さが水深の約一倍半卽ち錨孔より錨迄の角度が約45度となつた時をいふ。

ちがい-ほうけん［治外法權］外國の領土內に居つて，その國の統治權の支配に服從しなくてもよい特權。例へば一國の軍艦が他國の領土內に碇泊する時他國の主權が絕對にその軍艦內に及ばないやうな一國の主權を外國の領土內に執行する國際法上の權利。

ち-ぎょ［稚魚］うなの子。**——き**［稚魚期］後期仔魚期を終へて體形がほぼその特徵を表はす迄の時期。(若魚期)　**——ぎょぎょう**［稚魚漁業］俗に"しらす"と稱するもの，その他各種の機弱な稚魚を漁獲する漁業。しらす地曳網・手繰網・こませ網・打瀨網などを使用する。

ちきょう［地峽］陸と陸とを連れる頸部狀に幅が著しく狹くなつてゐる所。(地頸(チケイ))　**——うんが**［地峽運河］地峽を掘鑿して相對する兩洋

に通水した運河。

チーク［teak］熱帶產の常綠喬木で，その材質は輕く堅く脂脂收縮少く永く腐朽することのないため艦船用材として用ひられる。

ちくじ-かいとう［逐次回頭］單縱陣で進航する艦隊の先頭艦が進路を變更した位置に於いて，後續各艦が順を逐つて向を變へること。

ちくよう-ち［蓄養池］漁獲又は購入した活魚又は養殖用の種魚・種蝦などを，一時又は相當期間放養して置く池。海又は河や湖の一部分を區切つて池を造る。

ち-し［地嘴］ 岬に同じ。➔同項。

ち-し［稚仔］ 魚の子。(稚魚・魚仔・魚苗)

ちしま-かいりゅう［千島海流］ ベーリング海に發する寒流でカムチャッカ半島・千島列島並びに北海道の東岸を洗ひ，襟裳岬沖合から金華山沖に至り暖流と合する寒流。(親潮・カムチャッカ海流)

ちせき-せん［籍籍船］ 國內船舶關係法規の嚴重なる拘束から免かれるため又は營業を圓滑に遂行せんがため，船舶所有者又は資本主の所屬國以外の外國政府より船舶の國籍を取得したる船舶。

ち-たい［地帶］ 區劃した境界。中立地帶・交戰地帶・要塞地帶など。

ち-ちゅう［躊躇］航海中の船舶が溺者又は他船の救助に從事する等の場合に，暫時前進を止め又は漂泊して殆んど同じ所に留まること。汽船では容易であるが帆船では帆と舵との複雜な操縱を要する。(ヒーブ-ツー(heave-to))

ちっ-こう［築港］ 港灣の地形に應じて必要なる工事を施し外海からの波を防ぎ艦船の碇泊を安全ならしめ，且つ水陸連絡の設備を有する所。

ち-はつ［遲發］ 發砲の際引金を引いてから若干秒時遲れて發射又は爆發すること。

ち-びれ［脂鰭］ 魚の背鰭の後部と尾部との間にあつて，鰭條の無い肉塊のやうな小さい鰭。鮭・鱒類の魚には必ずあるもの。

ちひろ-たくなわ［千尋楮繩］（古）延繩に同じ。➔同項。

チーフ-エンジニヤー［chief-engineer］機關長。➔同項。

チーフ-オフィサー［chief-officer］一等運轉士。➔同項。

チーフ-スチュワード［chief-steward］司厨長。➔同項。

ちへい-せん［地平線］ 觀測者の眼から海面に引いた切線の切點を通り地平圈に平行する小圈。海と空との相接するところにできる線。(地平・水平線)

ちほう-かいぐん-じんじぶ［地方海軍人事部］所轄地方の海軍兵の徵募・點呼・軍事普及等の事務を處理する官廳で，札幌・青森・秋田・仙臺・長野・宇都宮・靜岡・名古屋・津・大阪・神戶・松江・高松・高知・福岡・熊本・鹿兒島・新潟及び金澤等の各地に設置されてゐる。

ちほうざいきん-かいぐんぶかん［地方在勤海軍武官］必要な港の所在地に在勤する海軍武官。その在勤地名を冠稱して○○在勤海軍武官と稱し，鎭守府司令長官・警備府司令長官又は艦隊司令長官に隸し，在勤地方の警備又は出師準備に關する事務を掌る。その事務所を地方在勤海軍武官府といふ。

ちほう-じ［地方時］ その地での時刻，卽ちその地に於ける子午線に太陽の正中する時刻を正午としこれを基準として定めた時刻制。標準時に對する語。

ちほう-ちょうぼ-かん［地方徵募官］都廳府縣の海軍兵徵募事務を分掌する書記官若しくは地方事務官。

ちほう-てんきよほう-しんごう［地方天氣豫報信號］19の信號旗により天氣豫報を行ふ信號。三角旗は風向を，方旗は天氣を，又長旗は溫度の昇降を表はす。夜間は旗の代りに白燈・橙燈・藍燈及び綠燈の4種を以て標示す。

ちほう-ふう［地方風］地形などの關係により，一定の季節に，或る地方にのみ吹く特殊の風。

ちめい-しんごう［地名信號］旗旗により地名を表示する信號たいふ。

ちめい-だん［致命彈］ 艦船の沈沒する原因となつたその射彈。また戰死の原因となつたその射彈。

ちもん-こうほう［地文航法］①航海術の一方法。海圖及び羅針儀又は六分儀等を使用し，地物の觀測により船位を測定して航行する方法。天文航法の對。②航空機航法の一方法。

チャイナ-クリッパー［China-clipper］汎米飛行機會社の桑港マニラ間定期旅客航空用とした大型快速飛行艇。

ちゃくしょく-だん［著色彈］發砲後赤い火青い火を發する彈丸で，自艦の彈著と他艦のものとの識別を容易ならしめるもの。

ちゃく-しん［著信］電信が宛名の當人に到著すること。發信の對。**——しゃ**［著信者］信號・電信の宛名人。**——せんしょ**［著信船所］信號・電信の

著信者が居る艦船・官廳等。

ちゃく-すい [著水] 飛行艇並びに水上機が水面に降り著くこと。 **——きょり** [著水距離] 飛行機が著水してから水上を滑走する距離。

ちゃく-せん [著船] 船が港に著くこと。又その著いた船。 **——あんない** [著船案内] 船主又は傭船者が本船の入港或は入港日時を荷受人に通知すること又はその通知狀。

ちゃくたつ-しんろ [著達針路] 航海中の最後の針路。起程針路の對。

ちゃくたつ-ち [著達地] 航海中の或る到達地。航海の計算に用ひられる語。起程地の對。

ちゃく-だん [著彈] 發射した彈丸の到著すること。又到著した彈丸。

ちゃく-てい [著底] 曳索などの海底に觸著すること。

ちゃくはつ-しんかん [著發信管] 彈丸の目標に到達したる瞬時に，その炸藥に點火して炸裂させる裝置にした信管。

ちゃくはつ-だん [著發彈] 著發信管を裝置せる砲彈。

ちゃくはつ-とどけ [著發屆] 船舶の入港及び出港に際し，船長自身地方在勤海軍武官府に出頭して提出すべき書類。

ちゃく-わたし [著渡] 積荷が目的地に到著次第受渡をなすことを約する，商品の受渡時期に關する取極め。

チャージ [charge] 海軍の短艇指揮。ボート-チャージ(boat-charge)の略。

チャーター [charter] 傭船契約。 **——パーテー** [charter-party] 傭船契約。➔同項。 **——ベース** [charter-base] 船舶運航費は經常費と航海費とに大別され，定期傭船契約に於いては普通船主は經常費を負擔し傭船者は航海費のみを負擔する。從つて定期傭船の場合に於ける船主の利益はその收入する傭船料より船主負擔の船舶經常費を差引いた殘額である。而して一般に傭船料は重量1噸1ヶ月建なれば船舶經常費を重量1噸1ヶ月幾何となし置けば，傭船引合に際し傭船料率との比較對照容易にして採算をとるに便利である。又自營の場合船主の利益は收入運賃より自己負擔の船舶經常費及び航海費を差引いた殘額にして，その採算の標準は定期傭船契約の場合に引直して見るのが普通である。卽ち豫定收入運賃より航海費を控除しその殘額を當該航海に要すべき日數にて除したる商を30倍して1ヶ月の假定收入を求めこれを本船の重量1噸當りに換算する。これ卽ちチャーター-ベースにして換言すればチャーター-ベースとは自營の場合，傭船引

合の標準を定期傭船契約の傭船料率に引直したるものといふべきである。

チャータラー [charterer] 傭船者。➔同項。

チャーターレージ [charterage] 傭船料。➔同項。

ちゃっ-かく [著角] 彈丸が目的物に命中した時目標面に對する角度。

ちゃっ-かん [著艦] 艦上機が艦船の甲板上に降り著くこと。 **——そくど** [著艦速度] 艦上機の重要な性能の一。母艦に到著する時の所要速度。

ちゃっこう-とどけ [著港屆] 開港港則の施行される港に入港した船舶が外航船の場合は港務部並びに稅關に，內航船の場合は港務部に，著港後24時間以內に提出すべき書類。

ちゃつみ-ぶね [茶積船] クリッパー(clipper)に同じ。➔同項。

チャート [chart] 海圖。➔同項。

ちゃ-ぶね [茶船] ①運送用の細長く小さい川船。又飲食物を賣る川船。②川遊に用ひる小船。

ちゃや-ぶね [茶屋船] 交趾地方に渡航した茶屋四郎次郎の御朱印船。純日本式構造で3檣の內2檣には筵帆を，1檣には木綿帆を張り，帆は皆四角帆。船尾には有蓋の舵樓があり甲板は1層で貨物は船艙に積載した。

ちゃん [瀝青] 油類又は樹脂などを乾溜してつくつた黑色又は濃褐色の粘質又は固體の有機物で，木材の腐朽を防ぎ又甲板の隙間を塞ぐのに塗りこむもの。(ピッチ(pitch))

チャンネル [channel] ①往時帆船各檣の兩側に外舷に縱に平らに取附けられた臺で，檣を維持する靜索を固定する用をなす。②鋼材の一種。

ちゅうおう-おうだんめん-ず [中央橫斷面圖] 船體の中央部橫斷面により，肋骨・梁・甲板・外板その他船の主なる構造・材料の寸法を示す圖面。

ちゅうおう-すいさんぎょうかい [中央水產業會] 水產業團體法により設立する最上部團體。都廳府縣水產業會並びに全國を地區とする漁業會及び製造業會を以て會員とし，水產業に關する國策に卽應し水產業の整備發達を圖り且つ會員の事業の發達に必要なる事業を行ふ。元の帝國水產會と全國漁業組合聯合會と合併したものに相當する。

ちゅうおう-ひょうじゅんじ [中央標準時] 東經135度の子午線の時刻。東は千島より西は琉球(八重山及び宮古列島を除く)に至る間で使用した當時に於いて東部・西部標準時に對し用ひられた語。

ちゅうおう-ほうだい-かん [中央砲臺艦] 甲板の中央部に裝甲を以て防

護した砲臺を備へる軍艦。

ちゅう-がえり [宙返] ①空中で機體の軌跡が垂直に圓形を描く特殊飛行法。空中戰鬪の時,後上方から敵機が追つて來た時これを行ひ,上へかはすことが出來る。②水泳で飛込の際高所より水面に達する間に虛空にて身體をひるがへすこと。**——おうてん** [宙返橫轉] 宙返りの頂點に達した時飛行機の縱軸に添つて半旋轉し,今までと反對の方向に行ふ水平飛行。敵機と相對した時これを行ふと敵機よりも高い場所を占めて敵機の後に迫ることが出來る。(インメルマン反轉)

ちゅう-かん [中鐶] 鎖鎖各節の小鐶と大鐶をつなぐ鎖鐶で鐶柱を有するが,大鐶を連れるので小鐶より少し大きなもの。(エンラーヂド-リンク(enlarged-link))

ちゅうかん-けんさ [中間檢査] 船舶の定期檢査と定期檢査との中間に於いて行ふ簡易な檢査。

ちゅうかん-こう [中間港] 始發港と目的港との間で寄港すべき港。

ちゅうかん-じょうたい [中間狀態] 潛水艦の潛入か浮上かの際に船體の一部を水面上に露出せる狀態。

ちゅうかん-せん [中間線] 深海と淺海との中間深度の海底に敷設する海底電線。直徑1.2吋前後,1海里の重量4噸弱。

ちゅうかん-せんとう [晝間戰鬪] 日中に行はれる戰鬪。略して晝戰といふ。夜間戰鬪の對。

ちゅうかん-ドック [中間ドック] 船舶は船底檢査のため毎年1回は船渠に入らねばならぬが,客船等で大抵1ヶ年を待たずしてこの間に船底を掃除し塗料を塗り換へるために入渠すること。

ちゅうかん-は [中間波] 無線電信で中波と短波との間卽ち50～200米の電波。(中短波)

ちゅう-かんばん [中甲板] 上甲板の直下にある船の全長に亙る甲板。軍艦では前部より順次中甲板第一區・第二區等と稱し,主として乘員の居住に充て,又商船の客室・食堂などはこの甲板に在るものが多い。(ツイン-デッキ('tween-deck 又は between-deck))

ちゅうかん-れんしゅうき [中間練習機] 初步練習機により基本教育を受けた者の訓練を容易ならしめるために,300馬力內外の發動機を備へ時速250粁程度で高等飛行も自由に行はれるやうな構造の飛行機。陸上・水上を冠

して呼稱することもある。

ちゅうき-ポンプ [抽氣ポンプ] 復水器內の復水・空氣・蒸發氣を引き出し眞空を作るポンプ。(エヤー-ポンプ(air-pump))

ちゅう-きょり-せん [中距離戰] 遠距離と近距離との中間に於いて行はれる戰鬪を漠然と言ひ表はす用語で一定のものではない。

ちゅうけい-かん [中繼艦] 送信艦と受信艦との間にあつて通信のなかつぎをする軍艦。

ちゅうけい-こう [中繼港] 交通の分岐點に位しその地理的利點によつて貨物を各方面より集め更に各方面に積移し轉送する港。

ちゅう-げ-かんばん [中下甲板] 中甲板及び下甲板の併稱。上甲板に對していふ。

ちゅう-こう [中攻] 中型攻擊機の略稱。

ちゅうこう-かっしゃ [中孔滑車] 木片或は鐵片の中央を刳り抜きその內部下面に3～4個の溝を刻んだもので,帶索等の緊張に用ひる。(ハート(heart))

ちゅう-こうけい-ほう [中口徑砲] 12糎砲以上25糎砲未滿の大砲で,現に我が海軍では20糎砲・15.5糎砲・15糎砲・14糎砲・12.7糎砲・12糎砲を使用してゐる。

ちゅう-さい [廚宰] 海軍の主計科員で烹炊の事務を掌る下士官の舊稱。

ちゅう-ざい [肘材] 西洋型船舶の船體構成に或る角度を以て相交はる材料と材料とを堅牢に連結するために使用する肘狀板。肋骨と梁とを繫ぐための肘板など。(ブラケット(bracket))

ちゅうざい-ぶかん [駐在武官] 軍事研究及び軍と外部との連絡のために,國外に派遣される士官。

ちゅうざ-ばん [柱座板] 短艇の內底にあつてキールの上部に縱行する木板。(キールソン-ボード(keelson-board))

ちゅうじょう-かやく [紐狀火藥] 大砲の裝藥とする無煙火藥。綿火藥とニトログリセリンとアセトンとを適量に混じて,これを水壓機で押し圓孔から突き出して紐狀となしこれを適宜の長さに切斷したもの。(コルダイト(cordite))

ちゅうしんせん-かくへき [中心線隔壁] 船舶の中心線にある隔壁。

ちゅう-すい [注水] 水槽などに水を流し入れること。注水嘴(漲水コッグ

に同じ)の如く用ひられる。②水槽などにポンプにより水を張らせること。**——そうち**[注水裝置] ①船舶を入渠させる場合に乾船渠内に海水を流し入れるしかけ。②軍艦の火藥庫が危險な場合，或は片舷に浸水して艦が大傾斜したのを矯正せんとする場合，又は船舶を自沈させる際には，注水弁を開いて注水する。③潜水艦が潜航するときはメーンタンクに海水を注水する。**——て**[注水手] 潜水艦の注水弁開閉の配置に就く兵員。**——べん**[注水弁] 火藥庫その他特別の區劃に注水の必要が起つた場合に，開いて海水を流しこむための弁。

ちゅうせき-ち[沖積地] 川が下流に土砂を堆積して出來た土地。

ちゅうせき-ど[沖積土] 海岸又は河岸に，土砂の沈みよどんで出來た土質。

ちゅう-そう[中舶] 上甲板と中甲板との中間空積。その下部船舶卽ち下舶に對していふ。

ちゅうそう-うん[中層雲] 高さ3～6粁位の間に出る雲。雲形は高積雲と高層雲の2種。

ちゅう-だ[中舵] 潜水艦の中央部兩舷に取附けてある舵で，潜舵と同樣に艦に深度を與へるもの。

ちゅうたい-き[駐退機] 大砲の彈丸發射に際して起る後退力を制限し，砲身・砲架を迅速に舊位置に復させる裝置。

ちゅう-ちょう[中潮] 大潮と小潮との中間の潮汐。

ちゅうねん-ぶね[中年船] 日本型帆船の建造後7～12年の間のものの俗稱。

ちゅう-は[中破] 大東亞戰爭に大本營發表用語として，戰鬪の結果損傷したるもその修理可能と認める艦船をいふ。⇨大破。

ちゅう-は[中波] 無線電信で波長が100～3000米の電波。

ちゅう-ひょう[晝標] 航路標識の一。晝間だけの目標となるもので，立標・浮標はその形狀及び塗色に種々工夫して目に附き易いやうにしてある。

ちゅう-びょう[中錨] 船尾外舷若しくは中部外舷に備へ，假泊又は錨地變更の場合又は船の振れ廻るのを防ぐ場合などに用ひられる錨で，普通はこれを運搬して投錨する。(ストリーム-アンカー(stream-anchor))

ちゅう-ふ[厨夫] 調理員の舊稱。➔同項。

ちゅうぶ-かんぱん[中部甲板] 露天甲板を前・中・後部に區分した場合にその中部のことで，前檣と後檣との間の甲板を指すことが多い。

ちゅうぶんいど-こうほう[中分緯度航法] 船舶が子午線上を航する時

はその緯度のみを變じ，赤道又は距等圏上を航する時はその經度のみを變す，然るに某地の方向に航する時はその緯度經度ともに變す。かかる場合に距等圏航法の原理を基礎として東西距と變經との關係を求める航法。

ちゅうゆ-き[注油器] 機械の摩擦を少くするための潤滑油を注入する器械で，遠心注油器・視滴注油器・自動注油器・吸上注油機などの諸種類がある。

ちゅうゆ-ちょう[注油長] 各主機械室各直の先任注油手。注油手を指揮し，規定の注油法を嚴守し運轉規律の勵行振肅に任ずる者。

ちゅうりつ-かぶつ[中立貨物] 海戰法規により，絕對的戰時禁制品でなく條件附戰時禁制品でもない中立性を有する貨物。

ちゅうりつ-こう[中立港] 局外中立國の港。その港内に於いては絕對に戰爭行爲をなすことが出來ない。

ちゅうりつせん-しょう[中立船證] 局外中立を宣言した第三國の船舶が交戰國の何れよりも，妄りに捕獲・擊沈その他の危害を加へられざるために所持する一種の船籍證明書。

ちゅうりつ-せんぱく[中立船舶] 中立國の國旗を揭げる船舶。

ちゅう-りゅう[中流] ①河の幅の中央部。②河の上流と下流の中間部。③氣流の幅の中央部。

ちょうい-かんそく[潮位觀測] 潮の干滿現象を觀察してその變化を測度すること。

ちょうおん-き[聽音機] 音響によつて飛行機・潜水艦の來襲及び地雷敷設・坑道作業等を測知する機械の總稱。⇨水中聽音器。

ちょうおん-て[聽音手] 水中聽音器で水中測的に從事する兵員。

ちょう-か[潮河] 潮汐の入り込んで著しくその影響を受ける河川。潮候により流向・流速が變化する。

ちょう-かい[潮解] 固體が空氣中より濕氣を吸收して溶解すること。不純な食鹽の潮解がその例。

ちょうかく-きらい[聽覺機雷] 軍艦や汽船などの推進器の音響を利用したもので，機雷罐の中に水壓を感ずる道具と音叉のやうな振動機がこの仕掛を合して電路を完成する。遠方では音響が弱く振動機の搖れ方が小さいが，船が近くなるとこれが大きく搖れて一方の電路に觸著して爆發を惹き起す。

ちょうかく-りつ[釣獲率] 釣針100に對する釣獲尾數の割合を示すもの。

延縄漁業などに主として用ひられる語。

ちょうか-ていはくりょう [超過碇泊料] 日數超過增拂金又は單に滯船料とも稱せられ，碇泊日數(期間)を超過して船積・陸揚をなした場合，傭船者がその超過日數に對し傭船料の外に船主に支拂ふ增拂金額。

ちょうかん-かんそく [潮間觀測] 海洋調査の一方法。一定の場所に於いて滿潮から次の滿潮まで又は干潮から次の干潮まで，每時各水層に於ける狀況を觀測調査し或はその場所の潮流の變化などを詳かにしたりする。

ちょうかん-ぎょじょう [潮間漁場] 沿岸漁場の一で潮間帶で飫・石干見等による魚類及び貝類・海苔等の漁業が行はれる場所。

ちょうかん-たい [潮間帶] 滿潮線と干潮線との間の沿岸部。

ちょうかん-ち [潮間池] 潮間帶に出來る水溜り。タイド-プール(tide-pool)。

ちょうかん-てい [長官艇] 司令長官の乘艇として特に定められた艇。又長官の坐乘せる艇。

ちょう-き [長旗] 艦艇を指揮する將校の旗章で，その艦艇に揭揚する幅狹く丈の長い旗。(ペンデント(pendant 又は pendent))

ちょう-き [弔旗] 弔意を表するため旗竿の頭より半ば下げた位置に揭げる旗。(半旗)

ちょうきち-ぶね [長吉船] 猪牙船(ちょきぶね)に同じ。➔同項。

ちょうきょり-ほう [長距離砲] 遠距離戰鬪を目的とする大口徑砲。

ちょう-げき [跳擊] 跳彈が目標にあたること。

ちょう-こう [潮口] 潮流の出入によつて出來る潟湖の出口。それを通つて船が潟湖に出入することが出來る。

ちょう-こう [潮候] 潮のさしひきの時刻。潮時(しおどき)。 **——じ** [潮候時] 朔望高潮時に同じ。➔同項。 **——りつ** [潮候率] 大潮の時の高潮間隙の平均率。地方によつてほぼ一定してゐて函館では4時間，本州中央では3時間，紐育では8時間。

ちょう-こう [潮港] 潮汐の干滿の差著しく，その差が約3米以上もある港。閉口港と開口港とあり，何れも潮汐によつて區別する名稱。

ちょう-こう [潮降] 潮の退(ひ)くこと。潮昇の對。

ちょう-こう [潮高] 潮汐の高さ。平均水面下にある一定水面(標準港の平均水面の高さ×潮高改正數)よりの潮の高さ。ほぼ最低低潮面より潮の高

さに相當する。

ちょうこう-せん [朝貢船] 他國が貢物を奉るために來朝する時に用ひる船。

ちょう-こくさいこうかい [長國際航海] 一國と他國との間の航海を國際航海といひ，その中で航海中海岸より200海里以上離れることあるものを長國際航海といふ。短國際航海の對。

ちょう-さ [潮差] 相次ぐ高潮面と低潮面との水位の差。➔潮汐。

ちょう-じゅう [弔銃] 海軍葬儀を行ふ際，規定に從つて小銃の齊發を行ふこと。

ちょう-しょう [潮昇] 潮の差すこと。潮降の對。

ちょう-しん [長臣] 中古水軍の幕僚長。

ちょう-しん [潮信] 潮のさしひきする時刻。潮時(しおどき)。

ちょう-しんごう [潮信號] 或る水道の潮高を記號にて標示すること。潮汐信號・潮位信號ともいふ。

ちょう-す [朝す] 小水が大水に流れ入ること。注ぐ。"海に朝す"の類。

ちょう-すい [漲水] 水を多量にどつと入れること。又みなぎる水。漲水弁・漲水コックなどの如く用ひられる。

ちょうすい-こう [潮水閘] 潮汐を感ずる外部船溜と內港・運河又は河川との間にある閘門。

ちょう-せき [潮汐] 海水の水位が主に地球に對する月と太陽の引力によつて規則正しく週期的に昇降する現象。"うしほ・しほ・汐潮"ともいふ。海面の漸次上昇しつつある間を漲潮，その最も上昇した時を滿潮(みちしお)又は高潮，滿潮から海面が下降し行く間を落潮，その最も下降した時を干潮(ひしお)又は低潮といふ。朔(新月)望(滿月)の頃には月と太陽が地球と一直線にあるので，兩者の引力相合するため潮の干滿の差が最大でこれを大潮，朔望の中間卽ち上弦又は下弦の時は月と太陽とが地球に對し直角の位置に來るので，その引力は相減殺されて潮の干滿の差が最小でこれを小潮といふ。相次ぐ高潮と低潮の水位の差を潮差といふ。 **——か** [潮汐河] 河口より遡つた若干距離まで潮汐の影響を受ける河。 **——こう** [潮汐港] 潮汐の干滿の影響を相當に蒙る港。 **——ひょう** [潮汐表] 各地に於ける將來の潮汐の豫報を表記したもの。わが水路部編纂の潮汐表は，上下卷からなり各地に於ける每日の高潮・低潮の時及び高さの豫報，主要海峽に於け

る毎日の轉流時，流速最强時の流速，潮汐の常數・潮信及び潮流に關する事等が揭げられてゐる。

ちょう-せん [挑戰] 敵に兵戰を挑むこと。

ちょうせん-ぶね [朝鮮船] 我が國に來航した朝鮮李朝時代の船で，帆は2桅を用ひ船の大きさは我が國の50～60挺立のものに相當し，舳に鬼面を畫き特有の樣式を持つもの。朝鮮船舶の汎稱ではない。

ちょうそく-き [調速器] 機械に平調な運動を保たせるために電氣・蒸氣・水等の供給を自動的に調整するもの。

ちょうだ-の-そなえ [長蛇の備] 中古水軍の用ひた陣形。兵船を縱に置き舳艫相啣み首尾相應じて敵にあたるもの。單縱陣。

ちょう-だん [跳彈] 彈丸が一旦水面に觸れて再び飛び行くこと。又その彈丸。

ちょう-たんぱ [超短波] 無線電信で波長が10米以下の電波。近距離祕密通信に用ひる。

ちょう-ちょう [漲潮] 潮のみなぎること。あげしほになること。落潮の對。⇨潮汐。**——-びょう** [漲潮錨] 漲潮流と落潮流の强き場所に雙錨碇泊中船を維持する錨。落潮錨の對。(フラッド-アンカー(flood-anchor))

ちょうちょう-びらき [蝶々開] 縱帆裝置の帆船が順風を受けて航走するとき，前後の檣に展じた帆を左右兩舷に張り出して帆走すること。觀音開又は兩翼開ともいふ。

ちょうてい-きょり [調定距離] 魚雷發射を行ふ際に，豫め發停裝置に所求の目盛を合せて自停距離を調整するその距離をいふ。

ちょう-てん [頂點] ①觀測者の直上の天體の一點をいふ。②彈道の最上點。

ちょう-とう [長濤] 洋上の或る場所に嵐があると波長の長い週期の緩かな濤が遙か遠方まで傳はり，風の無い處でも"うねり"がある。この長い大濤のことで相模灘の沿海で土用波と呼ばれてゐるのもこの長濤である。

ちょう-どきゅうかん [超弩級艦] 攻擊力・防禦力その他諸般の設備に於いて弩級艦に超越せる軍艦。

ちょう-は [長波] 無線電信で波長が3000～20000米の電波。

ちょう-はく [潮泊] 碇泊中の船が船首を潮流に向けてゐる狀態。

ちょう-ふく-しん [長幅深] 漁船の重要寸法で，所定の測り方により測つた長さ・幅・深さ。

ちょうふく-ほけん [重複保險] 同一被保險利益に對し同一期間內，同一危險につき2個以上の保險契約があり，その保險金額の合計が保險價格を超過する場合をいふ。

ちょう-へい [徵兵] 海軍で徵兵適齡に達した者が徵兵官の檢査を受け，合格した者の中から指定徵集されて海軍兵籍に編入したもの。服役期間3年。⇨海軍徵兵。

ちょう-ほう [弔砲] 弔意を表するために定間隔をおいて大砲の空放發射を行ふこと。

ちょう-ほう [諜報] 間諜・第三國人・俘虜及び住民から得た資料又は新聞・雜誌又は書信等の間接手段により，敵情を偵察するのに役立つ材料。

ちょうぼ-けんさ [徵募檢査] 海軍志願兵として水兵・飛行兵・整備兵・機關兵・工作兵・軍樂兵・衞生兵・主計兵及び技術兵採用の際施行する身體檢査及び學力試驗。

ちょうよう-せん [徵傭船] 戰時若しくは事變に際し，政府が命令により傭ひ上げて公用のため使用する民間の船舶。

ちょうり-いん [調理員] ①食物の料理に從事する主計兵。②炊事に從事する普通船員で1～3等の別がある。舊稱厨夫。

ちょうり-て [調理手] 料理・炊事に從事し麵麭又は菓子製造をなす普通船員。1～2等の別がある。舊稱料理人・麵麭(パン)燒・ベーカー(baker)。

ちょう-りゅう [長旒] 長旗と同じ。➔同項。

ちょう-りゅう [潮流] 潮の干滿に伴ひ海水が週期的に水平方向に移動すること。漲潮に伴ふを漲潮流(上げ潮)，落潮に伴ふを落潮流(下げ潮)といふ。(潮汐流) **——-きらい** [潮流機雷] 潮流の强い處に於いても所定の位置を保ち得るやうな特別構造の機雷。**——-けい** [潮流計] 船を錨で止めこの計器を海中に入れておくと，これに取附けてあるプロペラーが流れに當つて一定時間に回轉する數を記錄して潮流の速度を測り，又矢羽根の向きに應じて廻る磁石の針の向で潮流の流れる方向がわかるやうに作られてある。(流速計・驗流器) **——-こう** [潮流港] 潮港に同じ。➔同項。**——-しんごう** [潮流信號] 潮流の速い海峽に於ける潮流の情勢を船舶に通報する信號で，潮流の方向及び流速の大小を表示して船舶航行の安全を圖るもの。**——-ず** [潮流圖] 各地の潮況を調査し水路部で刊行するもので沿岸を航海するに肝要な圖。潮の流の特に强い場所の潮の干滿，水面の高

低狀況などが記載してある。 ——はく［潮流泊］船舶の碇泊せるとき潮流が强いため，その船首が風に向はずして潮流の來る方に向つた場合の稱。

ちょう-りょく［潮力］潮汐の干滿卽ち水位の變動に因つて起る力。これを動力源とするものに㋑閘門を設け滿潮時に流入し干潮時に流出する落差を利用して動力を得るもの，㋺干滿潮時の急流をプロペラ水車に作用せしめるもの，㋩潮の干滿による浮子の昇降を齒車の連鎖機構により高速回轉を得て發電機を運轉するもの等がある。

ちょう-れい［潮齡］朔望の時から大潮までの間隙。我が國太平洋沿岸では2～3日。

ちょう-ろう［長浪］うねりの波長が大なるもの。(長濤)

ちょう-ろう［潮浪］大洋中で潮汐の運動が發生し諸海灣に傳播する海水狀態。

ちょ-がん［著岩］海面上に露出してゐる航海目標として顯著な岩。

ちょき-ぶね［猪牙船］川船の一種。略して猪牙(ちょき)ともいふ。細長い形の屋根がない輕快な遊船で現今はこの型の船に發動機をも裝置し簡單に日覆を設け遊船として用ひる。元は兵庫の飛脚船(ひきゃくぶね)を兵庫の猪牙船と地名にて呼んだ。(ちょけぶね・山谷船(やまやぶね))

ちょく［直］當直。

ちょく-えい［直衛］①潜水艦に對して主力艦・艦隊・輸送船隊などを護る驅逐艦の警戒幕。(警戒幕) ②艦隊若しくは艦船に附隨して直接防衛すること。又その部隊。

ちょく-げき［直擊］彈丸・爆彈が目標に命中すること。目標の間近に落ちたものを至近彈といふ。

ちょくしゃ-きょり［直射距離］照尺を測へる必要なき近距離。

ちょくせつ-ごえい［直接護衛］商船の集團護衛法。速力のほぼ同樣な商船數隻を以て商船團を編成し，その周圍を驅逐艦又は飛行機等が護衛して航行すること。間接護衛の對。

ちょくせつ-しゃげき［直接射擊］照準を直接目標に向けて發射する射擊法。間接射擊の對。

ちょくせつ-しょうじゅん［直接照準］射擊目標に對し直接にれらびを定めること。方位盤射擊の對。

ちょくせつ-ぼうえき［直接貿易］第三國を經由せず，外國に於ける取引先と

直接取引をなす貿易。

ちょくぞく-しきかん［直屬指揮官］系統上自己の屬する隊の最も直接に關係ある指揮權を有する將校。

ちょく-そつ［直率］司令長官又は司令官が麾下の艦隊又は戰隊を直接に統率指揮すること。

ちょくりつ-きかい［直立機械］竪機關(たてきかん)に同じ。→同項。

ちょくりつ-ぼうはてい［直立防波堤］コンクリート塊・石枠・鐵筋コンクリート函塊・石材等を以て，その兩側を殆んど垂直に近く築きあげた防波堤。海底が固い岩盤か石材が高價な地方又は波力の强大な海等に適する。

ちょくれつ-とう［直列燈］數個の燈を上下に連揭したもの。

チョコベン　ヤップ島土人の交通用カヌー。大型で帆を裝備し外洋を航するのに適す。

ちょ-せん［緒戰］攻擊戰鬪の第一期卽ち戰鬪の開始より酣戰期までの戰鬪。(しょせん)

ちょせん-ち［貯線池］海底電線(かいていでんせん)を貯藏する水槽。海水を充滿又は排出し得るやうになつてゐる鐵又は煉瓦造の圓形槽で，その中央に心を有し海底電線を捲込み又は取出す裝置がある。

ちょたん-せん［貯炭船］船艙に石炭を貯へ，これを他船に供給する一種の匣船(はこぶね)。

ちょっきり-もり［ちょつきり銛］"いるか"又は"かぢき"等の大型な魚を突き取る漁具。銛の形は菱形で，前面は刃，後面は鏃(やじり)の作用をなす。これに3尋内外の木柄を附し，銛の後端には長き銛綱をつける。銛士(はっし)は發動機船の船首臺上(特別な臺を設ける)に立ち，魚に近づいて突く。銛が刺されば柄は手に殘り，銛綱は繰伸ばされ魚は銛綱によつて船に連絡する。それで銛綱を手繰り魚を引揚げる。燕銛(つばくろもり)ともいふ。

チョック［chock］①物體の轉動を防ぐための小木片。②短艇を艦上に收めた時その側腹下に置く楔形木具。③飛行機の車輪止めの器材。

ちょっこう［直航］途中寄港することなく直に目的地に航行すること。 ——せん［直航船］①遠洋漁業に際し，漁業で製造した罐詰を外國へ直接に輸出する船舶。②途中寄港しないで直接目的地に航行する船舶。 ——ろ［直航路］積地を出帆した船が途中何れにも寄港せず仕向地に航行する場合，その航路を直航路といひ，その航程を直行距離といふ。

ちょ-もくひょう [著目標] 航海上よく目標となる陸上の地物。

ちょろ 海女が乘つて潜をする圖よりも小型の船で加敷が無いので正面から見ると張りがすつと少なく，底板の上に直接1枚板の棚が附いてゐる。(志摩諸島の方言) 神島ではこれをテントともチヤかとも呼んでゐる。

チヨロンコ-せん [チヨロンコ船] 瀬戸内海の西部豐前海に活躍してゐる舳が鋭い三角形をなし，その先端は鶴の嘴のやうに長く突き出で，舳や艫の兩底部が著しく彎曲し，船體が輕くて迅速な行動が出來るが不安定でもある船。土地の者は動力附の漁船に對して小漁船と呼びチヨンコロ船の異名もある。

ちり 日本型船の艫部の後端に附せられた厚き2寸5分條の木材で，船體後部の裝飾となるもの。

ちん-か [沈荷] 海上保險用語。船舶が航海中海難に遭遇し，危險を免れるために，海中に投棄した積荷で海中に沈沒して引揚げられざるもの。

ちん-がん [沈岩] 最低低潮面下にあつて露出しない岩。

ちんこう-かいがん [沈降海岸] 陸地の沈降により出來た海岸で，その附近には陸地より分離して生じた小嶼が海岸に接近して散在することが多い。

ちんこう-かいがんせん [沈降海岸線] 地盤の沈降作用により海岸の土地が海底に沈んで新しく出來た海岸線。

ちんこう-べん [沈降弁] 魚雷の後部浮室と機關室との隔壁部に設けられ，魚雷が目標に命中しなかつた場合には航走末期に同弁を開いて，後部浮室内に海水を導き自沈せしめるやうな仕掛になつてゐる。

ちん-ざ [沈坐] 潜水艦が海底に居坐ること。荒天の際水上航行が困難な場合又は敵の動靜を窺つて好機を覘ふ場合などにこれを行ふ。また事故による故障のため暫く海底に沈坐することもある。

ちん-し [沈子] 漁具の附屬品。網や釣具に附けて漁具を適當の深さに沈め或は移動せぬやうにする。鉛・陶器・石などで造る。"いわ・びし・おもり"又は"しづみ"といふ。**——ずな** [沈子綱] 沈子綱・沈子繩に同じ。→各項。

ちんじゅ-ふ [鎮守府] 各軍港にあつて所在地名を冠稱し，所管海軍區の防禦及び警備並びに出師準備に關することを掌る。**——しれいちょうかん** [鎮守府司令長官] 鎮守府の長官。天皇に直隷し，海軍大臣の命を受けて

軍政を掌り部下の艦船部隊を統率し，作戰計畫に關しては軍令部總長の指示を承ける。海軍大將又は中將がこれに親補せられる。

ちん-しょう [沈床] 水害を防ぐために木材・粗朶或は石塊等を沈めて川床に設けたもの。

ちん-ずみ [賃積] 1噸何程といふ運賃率により運賃を課徴し積船の運送をなすこと。個品運送の場合は多く賃積である。**——ぶね** [賃積船] 賃積輸送をなす船。普通，定期船に多い。

ちん-せき [沈積] 水中にある物が沈下して堆積すること。

ちん-せん [沈船] 沈沒してゐる船。**——ふひょう** [沈船浮標] 沈沒難破船の位置を表示するための鐘形の浮標。綠色に塗つて白色で"沈船"の字を描く。

ちん-ち [沈置] 錨・錘・機雷等を海底に沈めて設置すること。**——きらい** [沈置機雷] 水底に敷設した機雷。

ちん-ど [沈度] 魚雷射入雷道に於ける最大深度をいふ。

ちん-ぼつ [沈沒] 水中に沈んで見えなくなること。

ちんぼついち-ふひょう [沈沒位置浮標] 電話浮標に同じ。→同項。

ちんぼつ-たん [沈沒炭] 港内で石炭を積出す荷役に從事中に海中にこぼれ落ちたものを引揚げた石炭をいふ。

つ

つ [津] ①船舶の碇泊する處。(船著・港) ②渡船場。

つい-げき [追擊] 敵の退却するを攻擊すること。**——せん** [追擊戰] 攻勢を取り敵を追つて戰ふもの。退却戰の對。

ついしょう-きょうそう [追衝競漕] 競漕艇を定間隔で1列に配置し同時に出發させ後艇が前艇に追附き接觸する時後艇の勝とし，追附くことが出來ぬ時は配置順を變更して更に再競漕を行ふ。競漕艇を2隻並べて行ふには狹すぎる水路で行ふ競漕の方法。

ついじょう-けん [追躡權] 領海に於ける警察權の延長で，外國船舶が領

海内に於いて罪を犯した場合，領海内より追跡し始める時はそれを公海にまで繼續して捕獲し得る權利。(追跡權)

ついせき-けん [追跡權] 追躡權(ツイジョウケン)に同じ。➔同項。

ついせき-りゅう [追跡流] 船體が前進する時，船側と水との摩擦により前進方向に追跡する表面水流をいふ。

ついていしき-そうかい [對艇式掃海] 1對の船で索を海中に曳きこれに機雷を引掛ける掃海法。機雷の繫維索が切れて浮いたときは射撃してこれを沈め又は安全な地點に曳行する。

つい-び [追尾] 敵を追躡する作戰行爲。

ついぶ-かいぞくし [追捕海賊使] 王朝時代に海賊を追ひかけて捕へるために設けられた官職。(追捕使)

つう-うん [通運] 荷物を運び屆けること。(運送)

つうか-かぶつ [通過貨物] 通過商業又は中繼貿易の目的たる貨物。或る港(一關稅地域)に一時陸揚げせられ，その儘又は多少加工して他地(他關稅地域)に再積出される貨物。

つうか-ほう [通過報] 船舶が特に指定された海岸燈臺の附近を通過する時，その燈臺から船名と通過時刻とを船主その他請求者に電報で通知する方法で，この請求者は豫め關係電信局へその船名・船籍・燈臺名を定め一定料金を納めて申込む。

つうか-ぼうえき [通過貿易] 輸入貨物をその儘又は僅かの加工を施して再輸出する貿易。主に船舶の出入貨物の中繼に便利なる港灣で行はれる。(中繼貿易)

つうかん-こう [通關港] 旅客の入出國又は貨物の輸出入につき，關稅法の規定に從ひ稅關に對し通關手續をなす港。

つうぎ-せん [通議船] 捕虜交換若しくは敵國との談判などに用ひられる休戰旗を揭げた船。(捕虜交換船)

つう-こう [通航] 船舶が特種の水路などを通行すること。 **——りょう** [通航料] 河川の改修・運河の開鑿・橋梁の架設等を行へる公共團體，又は私人が通航する船舶・人又は車馬から徵集する料金。

つう-さく [通索] 滑車に通した索條。その固定した方を根本(ネモト)，引張る方を引手(ヒキテ)といふ。

つう-しょう [通商] 國を異にする人が互に交通し商事をいとなむこと。

——はかい [通商破壞] 交戰國の一方が航行中の敵國船舶を襲撃して撃沈若しくは破壞し，以て他國との通商交通を破摧すること。 **——ふうさ** [通商封鎖] 交戰國の一方が實力(海軍力)を以て海上よりする敵國との通商交通を遮斷すること。➪封鎖・經濟封鎖。

つうしょう-こうかい-じょうやく [通商航海條約] 主として通商・航海に關する事項及びそれに附隨して當事國國民の入國・居住・營業・領事の交換などにつき規定する條約。

つうじょう-だん [通常彈] 敵艦の非裝甲部の破壞を主とする砲彈で，彈腔に多量の炸藥を有し，命中の際爆裂して人員の殺傷，器物の破壞を行ふ。

つうじょう-れいそう [通常禮裝] 海軍服裝の一。大祭祝日の遙拜式・分隊點檢・檢閲を受ける時，證書・褒狀の授與式などに著用するもの。

つう-しん [通信] ①國際通信書によれば，有線電信・無線電信・無線電話・視覺信號又は音響信號の何れかにより發信すること。②郵便・電信・電話などによつて相互の意思を通ずること。③新聞雜誌などに揭載する事柄を知らせること。

〜-か [通信科] 無線通信事務を擔當する艦内の一科で，通信長を科長としその下に通信士・掌通信長及び下士官・兵を配し1個分隊を編成す。分隊長は通信長，分隊士は通信士。

〜-さんぼう [通信參謀] 幕僚の一員で，通信に關する事務を處理する將校。

〜-し [通信士] 通信長の命を承け，その職務を分擔補助する乘組兵科士官。

〜-たんにん-かん [通信擔任艦] 艦隊の通信事務を簡捷にするため，その取扱方を特に指定された軍艦。

〜-ちょう [通信長] 通信科の長で通信諸裝置を整備し，電信員を統率指揮する兵科士官。

〜-てい [通信艇] 艦隊が港灣泊地に碇泊中，旗艦と陸上並びに各艦との連絡を行ふために交代で定められた汽艇。

〜-とう [通信筒] ①飛行機から艦船・陸上部隊に投下して通信をするのに用ひる通信文を容れる金屬製の筒。②航行中の艦船が綱をつけて海中に流し，他艦船に送る金屬製の筒。

〜-ぶ [通信部] 海員職制の一。無線電信及び各信號の發受信に關する

事務を司る。無線電信局長・通信士・聽取員等がこれに屬する。無線部ともいふ。

〜ぼうがい[通信妨害] 强力なる電波を發して敵の無線通信を攪亂妨害して，その目的を達成せしめざること。

つう-せき[通跡] ①前の船の通つた跡。②操舵號令詞"…の通跡(ツウセキ)"は，追從すべき艦(船)を指示しその通跡を續行せしめんとするときに用ひる。

つう-せん[通船] ①船舶と陸上とを連絡往復する船。(かよひ船) ②艦船に搭載せる橋艇。陸上部隊で使用されるときは傳馬船と稱す。 **——りょう**[通船料] ①碇泊中の船舶と陸上との交通連絡に使用する通船の料金。②船舶の碇泊中，日中何回，夜間何回といふやうに定期的に本船と陸上との交通連絡に使用する通船の料金。附通船料(ツウセンリョウ)ともいふ。

つうふう-き[通風機] 艦船内の換氣を行ふ機械で，給氣通風機と排氣通風機とがある。

つうふう-とう[通風筒] 機關室・船艙・船室・居住甲板などへ空氣を流入せしめるため露天甲板などに設けた空筒。吸氣筒と排氣筒とあり，その形狀によつて鶏頸形・蕈形・煙管形・頭巾形・通風筒などといふ。

つうふう-ろ[通風路] 罐室や機械室に空氣を供給するため上甲板から各甲板を貫通してゐる鐵筒の空氣通路。

つうほう-かん[通報艦] 敵情偵察又は命令傳達などを任務とする軍艦。日清・日露戰役時代にはこの艦種があつたが，現時はこの稱がない。

つうほう-とう[通報筒] 軍艦の司令塔から防禦甲板に通ずる甲鐵筒。司令塔から艦内各部に傳達する通信裝置を，敵彈によつて蒙る被害に對して防護するために設けるもの。

つう-ろ[通路] 艦船で乘員の行き通ひする細い道筋。彈藥通路・翼内通路・艦橋通路など。(パッセージ(passage))

つか[柄] ①釣船の差板(サシイタ)の間を支へてあるもの。②刀劍の手に持つべきところ。

つがい[鉸] 櫓腕と櫓下との接合部。

つかいばん-ぶね[使番船] 戰時は傳令，平時は諸地方に出張して役人の能否を視察する使番の乘る船。

つかみあげ-しゅんせつせん[掴上浚渫船] 掴みバケツ或は他の掴み裝置を用ひた起重機を船體に裝置し，河川港灣を浚渫する船。

つき-いそ[築磯] 人工で漁場を築くこと又はその築いた漁場。木材で大きな枠を組み或は古船などに石又は樹の枝等を深山積み，その中に海藻や魚貝を俵に詰めて積み込み適當な場所を選んで海底に沈める。これに海藻や小蟲が繁殖し小魚が集り，更にそれを餌とする大型の魚も集り，隱れ場となり繁殖場ともなつて漁場が出來る。主として釣の漁場になる。

つぎ-ざお[繼竿] 携帶又は格納に便するため，必要に應じてつぎ合はせるやうに作つた釣竿。

つきだし-ふとう[突出埠頭] 海(河)岸より水面に突出してゐる埠頭。操船上その他の都合により，水面積の割合に水際線の多きを望む場合の築造形式。

つきない-ずみ[月内積] 荷物の船積期日を示す語。その月中に船積することを要する。更に上旬積・中旬積・月末積の如く細別される。某月積といふに同じ。

つき-の-でしお[月の出汐] 月の出づるとともに差して來る潮。

つぎ-び[繼火] 機關用語。埋火の後必要に應じて時々少量の石炭を加へ火力を保たせること。

つきん-ぼう[突棒] 銛竿の先端に銛先を裝著し(銛先には50糎程の銛鋼を附す)船首に立つてこれを構へ，水面に極めて近く浮游する魚類を追尾し，刺突して漁獲する漁業。鮪(マグロ)・旗魚(カジキ)類を漁獲目的とする。突棒漁業の略稱。 **——ぎょせん**[突棒漁船] 突棒漁業を行ふ漁船。船首に船外まで突出した特殊な魚突臺を備へ橋頭に魚見臺がある。

つく[柄] 櫓の頭にあつて櫓繩をかける凸起。(櫓栓(ロセン))

つぐ-ぶね[舶] 大きな海船。(つむ・つぐのふね)

つくろい-ぬり[繕塗] 船體の保存上塗具の剝落し又は錆落したした後の必要な部分のみを補つて塗裝すること。塗換の程度に及ばないものに行ふ。

つけ-いた[附板] 櫓挺の中棚の前端と艇首材下部とを接續する三角型の木板で，普通これを有しないものが多い。

つけ-え[漬餌] 撒餌(マキエ)に用ひる材料を土又は小麥粉などと練り固めたもの，又は魚の腸若しくは内臟などを水底に置き魚を集めるもの。(つけゑさ)

つけ-しば[漬柴] ①空木(ウツギ)を刈り束ねて藁に包み綱に結へつけて岸近い水中に浮かせて置き，數日後これを引上げて小蝦などを捕る漁法。②小枝の多い灌木・黃楊(ツゲ)などを束ね石を附して海底に沈め(目標を附す)，烏賊(イカ)が產卵のため集まるを待ち引網にて捕る。卵の產附された漬柴はその場

に棄てて沈めるので烏賊の繁殖を害することはない。③しばづけともいふ。

つけ-ば［附場］ ①魚類誘致の設備をした漁場。最も大規模なものに鰤(ブリ)附漁業の附場がある。長さ15尺位の孟宗竹5〜10本を束ね綻にて定置する。これを1個の附場とし1浬間隔位に沖に向つて一直線に20個位敷設する。②川魚の卵を産む場所。"つきば"ともいふ。

つじ-かぜ［旋風］ つむじ風。略して"つじ"ともいふ。

つしま-かいりゅう…リウ［對馬海流］ 黒潮の支流で，九州西岸を北上し對馬海峡を經て日本海に入り，本州北西岸に沿うて北東に向ひ津輕海峡及び宗谷海峡からそれぞれ太平洋及びオホツク海へ分流を出し韓國海峡に達する。

つしま-ぶね［對馬船］ 昔，朝鮮との貿易に對馬國から出した船。

つずりじ-しんごう［綴字信號］ 旗旗信號で綴らんとする名稱を綴字通り文字旗で表示するもの。正しくは綴字(テイジ)信號と發音するが多く用ひない。

つ-だし［津出］ 荷船を港より出帆させること。貨物を輸出すること。

つちすり［腴］魚の腹の肥えた所。すなすり。

つちはこび-ぶね［土運船］ 浚渫した土砂を運搬する船。自航し得るものと曳船に曳行されるものとがある。

つつ-き［筒木］ 舟の中央にあつて帆柱を立てる木。

つつ-さき［筒先］ 眞鍮製で厚布蛇管(ホウヒダカン)の一端に取附け海水を噴射させるもの。(ブランチ-パイプ(branch-pipe))

つつ-ばしら［筒柱］ 船中の船靈を祀つてある所。中程に穴をあけてある。筒穴といふ地方もある。

つ-どめ［津留］ 往時船舶の港に滯留することをいつたもの。

つな［綱］麻・楮・棧橋・蔦などの纖維又は針金などをより合せて長く延ばしたもの。船舶に於いては"索"の字を用ひることが多い。**——わたし**［綱渡］瀨の早い河などで太い綱を兩岸に渡し，それを便りにして船を渡すこと。又その渡し場。

つなぎ-ぶね［繋船］①河岸につなぎとめた船。②繋ぎ合せ同伴して行く船。③休航中の船舶を相當の期間港外等に繋ぐこと。

つな-ぐ［索具］ 索で造つた船具又は結合した滑車。

つな-ぐら［索庫］ 艦船の索具類を格納しておく所。

つなしめ-つち［索締槌］ 索の接著及び括著に用ひる槌で大小の2種ある。

つなしめ-ら［索緊螺］ 2本の鋼索を繋ぎ合はせる器具で，左捻と右捻のね

じを持ち，これを回轉することによつて鋼索を張つたり緩めたりする。(ターンバックル(turnbuckle))

つな-て［綱手］ 流れを遡るとき船をつないで曳く綱。(ひきづな・綱手運)

——なわ…ナハ［綱手縄］綱手たるなは。**——ぶね**［綱手船］綱手で曳く川船。(引船)

つなとり-くい…クヒ［綱取杭］漁船などを繋留するために設けられた杭。

つな-ばしご［索梯子］港外などで水先人を乘船させる時とか，波が高くて普通の舷梯の使用困難な場合に使ふ木製の圓い足懸けを取附けた綱梯子で，その足懸けをラウンドといふ。(ジャコブス-ラッダー(Jacob's ladder))

つな-びらき［綱開］ 出船の前に船の守護神に酒を供へ，祝の謠曲をうたひ船員みな神酒をいただいて祝賀する儀式。

つ-なみ［津浪］ 海底の地震や海底噴火・暴風等により巨大な浪が急に起つて，不時に陸地を侵すもの。⇨波浪。

つな-みち［索道］ 曳索・繋留索等の動索を舷外より甲板上に縺れず擦れさせずに導くため，甲板・舷側附近に取附けてある受金。轉子(コロ)の附いたものを"コロ"索道＝ローラー-フェーア-リーダー(roller-fair-leader)といふ。(フェーア-リーダー(fair-leader))

つのしき-きらい［角式機雷］ 機雷罐の外部に數本の角が出てゐて，艦船がこれに觸衝すると内部のガラス罎が破壞し，その藥液が罐内にある電池の基鈑に作用して電路を完成し，電流を信管に通じ自動的に爆發を惹き起す裝置になつてゐるもの。(觸角式機雷)

つの-ずり…ヅリ［角釣］鰹釣などに用ひる。擬餌鉤は牛角・水牛角・山羊角・鯨骨・象牙等に鋼鐵又は眞鍮製の釣鉤を植ゑ，その基部に短册形のフグの皮片を卷き附けたもの。

つばめ-もり［燕銛］"ちよつきりもり"に同じ。➔同項。

ツー-ブロックス［two-blocks］ 絞轆を張詰めて上下兩滑車が相接するに至りたる狀態。一杆。

つぼ-あみ［坪網・壺網］ 定置漁業の一種。規模は大きくない。垣網部によつて圍網内に誘導し圍網の所々には圓錐形の囊網を附けこれに陷れる。囊網の中には返網(ヘンアミ)を取附け，囊網の中に陷つた魚は絶對に脱出出來ない網。

つみ-あわせ…アハセ［積合］ ①廣く一般より積荷を募集し個々の積荷につき運送契約をなし，これ等を1船に積み合せ運送すること。個品運送契約に同じ。

→同項。②船舶の積載能力を充分利用するために，重量貨物及び容積貨物を適當に積合せること。 ——けいやく［積合契約］個品運送契約に同じ。→同項。

つみ-おくり［積送］ 商品の受渡時期を定める語。賣主が或る期間に商品の發送を終ることを約し，同期限内積出し完了を以て商品の引渡完了となすもので，延著より生ずる損失は買主の負擔となる。大體某月船積渡・某月出港手續終了渡及び某月出帆渡の3種がある。

つみおろし-きかい［積卸機械］ 荷役設備の一で起重機・昇降機等をいふ。

つみかえ-こう［積替港］搭載荷物を別の船に積み替へる港。(接續港)

つみきり-しゅつぱん［積切出帆］船舶が出帆時刻を豫定せず，積荷終了次第出帆すること。

つみこみ-おくりじょう［積込送狀］ 積荷を船舶に積込むまでの費用全部を含むものを，商品の價格として仕切つた送狀。

つみこみ-じゅうりょう［積込重量］ 本船積込當時に於ける積荷の重量。引渡重量の對。

つみだし-こう［積出港］荷物を船舶により積出す港。

つみ-ち［積地］ 積込地。船積地。陸揚又は揚地の對。

つみ-つけ［積附］ 運送の目的を達成するに適當な方法を以て，荷物を船舶内に積込配置すること。

つみとり-こう［積取港］積荷港に同じ。→同項。荷揚港の對。

つみとり-ぶね［積取船］ 漁獲物を中繼する船。

つみ-に［積荷］ 船舶に搭載した又は搭載する荷物。

〜-**あんない**［積荷案内］荷送人が荷受人に發する荷物の積送通知狀。通常，搭載船名・出帆日・荷印番號・到著港・代金支拂方法等に關する事項を記載する。

〜-**いふ**［積荷委付］免責委付の一。積荷の利害關係人が，船長の代理行爲により，その積荷について生じた債務に對し，責任を免れるために積荷を委付すること。⇨委付。

〜-**うけとりしょ**［積荷受取書］ 船積請求書記載の荷物を本船に積込んだ時，船長又は一等運轉士がその旨を認めて荷送人に返却する船積請求書の寫し。性質は積荷受取證に同じ。

〜-**うけとりしょう**［積荷受取證］ 船舶に貨物の積取を終つた時に，船長又は運轉士が受領の證として荷主に交付する證書。メーツ-レシーツ(mate's receipt)又はシッピング-レシーツ(shipping receipt)ともいひ，荷主はこれと引換に船荷證券の發行を受ける。

〜-**うんちん-めいさいひょう**［積荷運賃明細表］ 單に運賃明細表とも稱し，積荷目錄に記載される積載貨物の明細以外に運賃率・支拂又は取立方法等に關する事項の記入されてゐる船會社の社内執務用書類。通常陸上店にて作製，數通を本船に手交，本船は一部を本船控として保留し，殘りを陸揚港店及び本店等關係先に送達する。

〜-**こう**［積荷港］荷物を船舶に積込む港。(船積港)

〜-**しょるい**［積荷書類］ 船積書類に同じ。→同項。

〜-**なかだちにん**［積荷仲立人］ 海運業者と荷主との間に介在して，荷物の蒐集・周旋・運送・積卸の取扱ひをなすもの。回漕問屋に同じ。→同項。

〜-**ほけん**［積荷保險］ 海上運送に隨伴する各種の危險に因り積荷に生じた損害を塡補する事を目的とする保險。⇨貨物保險。

〜-**もくろく**［積荷目錄］ 荷捌用又は稅關提出用等のため普通，本船によつて作製せられる本船積載貨物の明細書。船舶の名稱・國籍・積荷の品名・荷印・數量・仕向地・荷受人・荷送人等を記載する。(マニフェスト(manifest))

つみ-にっき［積日記］昔，積荷に關する一切の事項を記載したもので現今の積荷目錄に相當する。

つみ-のこし［積殘］ 船腹又は出帆期日の都合などで，積荷の全部又は一部を積殘すこと。又は積殘された積荷。

つみ-もどし［積戻］ ①到著した荷物を積出港に送り返すこと。②再輸出に同じ。→同項。

つむ［舶］(古)大船。

つむじ-かぜ［旋風］颶風(タツカ)・颱風(タイフウ)なども旋風の一種であるが一般には簡單なものをいふ。⇨つむじ・つじかぜ。

つめ［爪］錨の腕の兩端にある平滑な部分。海底の泥砂にくひこんで爬持力をもたせ，又は海中のものを引きかけるためのもの。(フリューク(fluke))

つめ-ざお［爪竿］短艇を艦側又は岸壁・棧橋などに引寄せ，或はこれより押離すために用ひる木杆で，その先端に兩爪又は片爪の金具をつけ長短

の2種がある。俗に爪棒ともいふ。(ボート-フック(boat-hook))

つめ-さき［爪先］錨の尖端。(ビル(bill))

つめ-ひも［縮紐］縮帆用短索。(リーフ-ポイント(reef-point))

つめ-びらき［詰開］船首を極度まで風上に廻らせて帆走すること。一杯開。(クローズ-ホールド(close-hauled))

つめ-ぶね［詰舟］番船の①に同じ。➔同項。

つめ-まき［塡巻］大索の上巻の準備として細索を索の撚り目に沿つて捲くこと。(ウォーミング(worming))

つめ-むすび［縮結］長い綱を中間に於いて一時短縮する方法。(シープ-シャンク(sheep-shank))

つ-もと［津元］漁業主。網漁主で，往時は實質上漁村の長であつた。(網場元締・漁名主)

つ-もり［津守］〔古〕津卽ち港を守る人。又わたしもり。

つ-や［津屋・邸家］貨物の集散する主要な船の著く津で各地から輸送してきた貨物を引き受け，これを販賣して口錢を取り，同時に行商人を宿泊させて利を得るを業とした家。後の問屋(トヒヤ)と旅宿とを兼營したもの。

つや-ぶき［艶拭］艦内日常手入として塗漆面の變質を防止するために行ふもので，乾燥した軟かい雑巾を以て塗漆面を拭拂し附著する水分・塵埃等を充分に除去すること。

つら 日本型漁船の舳部の前面に取附けた樫材で，舳部の堅固を保ちその破損を豫防する用をなす船材。

ツライスル［trysail］前檣及び大檣附屬の斜桁(ツライスル)に懸ける大縱帆。

ツラック［truck］冠。檣又は旗竿の頂上に取附ける圓形木片。

つり［釣］餌をつけた絲を垂れて魚を誘つて獲ること。延繩釣・一本釣・手釣があり，又釣堀の釣・岡釣・野釣・海釣・根釣・脚榻釣・流釣・打込釣・てんや釣等その種類が多い。又職業釣と遊漁の釣とは全くその目的を異にするはもちろん，方法にも非常に違ひがある。

つり-あい［釣合］①船首尾の吃水の差。トリム(trim)。船首吃水の大なる場合と船尾吃水の大なる場合，及び兩者平均せる3場合がある。②潜水艦で横の傾斜の場合をもいふ。③帆を風向・風力に最もよく適合させること。**——タンク**［釣合タンク］潜水艦が沈降の際燃料の消費その他重量物の移動によつて前後に傾斜せんとする場合に，少しの海水の出し入れを行ひ

これを調整するため水を容れてあるタンクで，艦の最前部のものを前部釣合タンク，最後部のものを後部釣合タンクといふ。

つり-いかり［吊錨］投錨の用意に錨を舷側に吊すこと。(コッグ-ビル(cock-bill))

つり-ぎょせん［釣漁船］經漁船の外は船型大同小異で，船内の一部を活魚艙(イケス)とするもの多く手釣・延繩釣等を準備し，釣具の操作に適する設備を有する漁船の總稱。

つり-こしかけ［吊腰掛］矩形の板の四隅に綱を結び附け，これを紙鳶の絲を一つに纏めるやうな恰好に合せて1本の綱で吊り下げた腰掛で，水夫が足場のない所で作業する際に使用するもの。(ボースンス-チェアー(boatswain's chair))

ツーリスト-キャビン［tourist-cabin］客室等級呼稱の一。設備・待遇ともに普通客船の二等に準じ船賃比較的低廉な等級。よく一般漫遊旅客に利用されたためにこの稱がある。

つり-ずな［吊索］①物を吊り揚げるのに用ひる索。②短艇を吊り揚げるのに用ひる吊鎖。③桁の中央を檣に吊るための索。通例下桁には鐵鎖，上桁には鋼索製ペンデントを用ひる。

つり-どこ［釣床］兩端を吊り寢床として用ひるもの。艦内の寢具としては麻布製でその中に毛布を敷く。合戰準備の際は括つた釣床を竝べて彈片等の散亂するのを防ぎ止めるに使用し，これをハンモック-マントレットといふ。(ハンモック(hammock))**——てんけん**［釣床點檢］艦内で分隊長は分隊士を從へ，蒲團の覆の清潔なりや，毛布には適宜にアイレットホールを設け且つ姓名を記しありや，クリュー及びレーシングの取附け正しくして且つ破損なきや等を調べた後，副長がこれを點檢する。艦長自らこれを點檢することもある。**——ばんごう**［釣床番號］各兵員の釣床に附けてある順番の符號。これによつて所屬分隊や配置表などを表はすことにもなる。

つり-はずし［釣鉤外］釣鉤が水底の障碍物に懸つて外れ難い場合に使用する道具。錘の一部に針金の環を附けこの環に釣絲を通して沈めると，錘は釣絲を傳つて沈み行き，釣鉤を障碍物から下に引いて外す。錘には別に絲をつけて置いて引揚げる。

つり-ぶね［吊船］深海に沈沒してゐる船を吊り上げる作業に使用する船。

つ-りょう［津料］鎌倉・室町時代に河川湖岸の要津或は海港等に關所を

設け，關津を通過する人又は貨物に對し徵收した稅。河手ともいふ。

つるし-ぐも［吊雲］ 風上風下の氣流の關涉によつて生じ，傾斜して懸垂するやうな形を呈する笠雲の一種。

つる-べ［釣瓶］帆布製の桶狀囊で，綱をつけて上甲板より海に投げ入れ，海水をつり上げて汲む。

つれ-およぎ［連泳］小堀流の編隊遠泳。單獨遠泳を"とほおよぎ"といふ。

つれ-しお［連潮］①流れに沿つてゐる潮。舵利きが惡く操船上困難を伴ふもの。②船の進む方向に流れる潮。

て

て-あみ［手網］①魚群を網漁具の主要部に誘導するための網の一部分。袖網・垣網など。②撈網の如く直接人の手に把持して使用する抄網類。

てい-いん［定員］①艦船部隊で配置を與へられた一定の人員。それ以外の者を定員外といふ。②規定によつて定められた人數。

てい-いん［艇員］短艇の乘組員。艇長と櫓手とから成る。(クルー(crew))

テイ-エヌ-テイ［T.N.T.］トリニトロ-トルエン(tri-nitro-toluene)といふ强烈な爆藥，卽ち佛國のメリニット英國のリーダイト・我が海軍の下瀨火藥に類したものである。(ニトロ-トルオール(nitro-toluol))

てい-か［艇架］短艇を收置するため上甲板に設けられた受座。(ボート-クラッチ(boat-crutch))

てい-かっしゃ［定滑車］一定の場所に固定され，單に力の方向を變ずるために用ひられる滑車。(固定滑車)

てい-かん［低鹹］ 鹽分の低い海水。高鹹の對。

てい-き［定期］ ①時日の定まつてゐること。②海軍の通用語。時刻を定めて發著する舟艇。

〜-けんさ［定期檢査］船舶を初めて航行の用に供しその航行期間を定める時，又は船舶檢査證書の有效期間滿了の時，船舶安全法及び同施行規則によりて行はれる精密な船舶の檢査。

〜-こうかい［定期航海］一定の航路を定期的に航海すること。

〜-こうくうろ［定期航空路］ 定期に旅客及び貨物の航空輸送を行ふ路。

〜-こうろ［定期航路］特定區間を規則的に反復航行する航路。不定期航路の對。

〜-せん［定期船］定期航路に就航し定期航海をなす船舶。

〜-そくりょく［定期速力］ 風波・潮流その他種々の航海事情を參酌し定期編成に用ひた速力。

〜-ふう［定期風］時期を定めてその風向を異にする風。海陸風・氣候風の類。

〜-ほけん［定期保險］特定の期間に對する海上保險。例へば某年1月15日より7月14日迄6ヶ月間に於ける海上危險に對する保險の如し。

〜-ようせん-けいやく［定期傭船契約］一定の期間に對して締結せる傭船契約。普通に傭船といふ時はこの種の傭船契約を指す。タイム-チャーター(time-charter)。 海運市場ではチャーターと通稱する。航海傭船契約の對。⇨傭船契約。

てい-きあつ［低氣壓］氣壓の配置が周圍の地方よりも低くなつてゐるもの。四周の大氣は低氣壓の中心を目指して渦を卷いて吹き込み，烈しいときは暴風を起す。中心に吹き込む風は北半球では時計の針と反對の方向に，南半球では時計の針と同方向に旋轉する。

ていくう-ひこう［低空飛行］雲の下を低く飛ぶとか偵察の必要上低く飛ぶことで，高度に一定の標準や限度はない。

ティー-クリッパー［tea-clipper］船體が幅の割に細長く船首の尖つた輕快なシップ型帆船。支那・英國間の航路を支那から新茶を積んで各船全力を盡して急航したもの。クリッパーとも呼んでゐた。

てい-けい［碇繫］ 船舶が自身の持つ錨で港にかかること。又，繫船浮標に碇繫するのに一つの浮標に舳を繫ぐ法，前後二つの浮標に舳艫を繫ぐ法，舳を浮標に繫ぎ艫は錨で固定する法などがある。

ていけい-こう［定繫港］その船舶を繫ぎおく一定の港。

ていけい-じょう［定繫場］ その船舶を繫ぎおく一定の場所。

てい-こ［艇庫］ 短艇をしまつておく建物。

てい-こう[抵抗] 船の進行を妨げる力。船體の浸水部面と水との摩擦，船體の水面上にある部分に受ける風，その他波や渦など。

ていこうかい-ほけん[定航海保險] 特定の航海に對する海上保險。例へば横濱～上海間一航海の海上危險に對する保險の如し。

ていこうかい-ようせんけいやく[定航海傭船契約] 運賃積ともいひ，特定の航海に對して締結せる傭船契約。⇨傭船契約。

てい-こうちょう[低高潮] 1日2回の高潮の内でその低い方。

ていこう-はん[抵抗板] 急降下爆撃の際重力と飛行機そのものの速度が加重して搭乘員の目を眩ますので，それを調整するために急降下の途中で開いて空氣抵抗を持たせる支翼のやうな一種のブレーキ。

ていこく-かいじ-きょうかい[帝國海事協會] 一般海事の進歩發達に資するため設立された財團法人で，大正4年以來遞信省の委任により船舶檢査・船級の決定・登錄等を行ひ毎年日本船名錄を刊行する。

ていこく-ざいごう-ぐんじんかい[帝國在鄕軍人會] 在鄕軍人を以て組織する社團法人。明治43年創立。聖旨を奉戴して，平時には軍人精神の振作・軍事知識の增進，戰時には義勇奉公に誠を致す目的で訓練されてゐる。

ていこく-すいさんかい[帝國水產會] 水產會の一。➔同項。

ていこく-すいなん-きゅうさいかい[帝國水難救濟會] 日本沿岸に於ける人又は財產の遭難を救助する公共的事業を營む目的を以て設立された財團法人。本部を東京都深川區佐賀町に置き，支部を全國百餘箇所に設けてある。機關誌"海"を發行。

てい-さ[艇差] 短艇競漕の際，勝敗をあらはすに何艇身の艇差とか何秒の艇差で勝つ等といふ。

てい-ざ[底坐] 海底に居坐ること。(沈坐)

てい-さつ[偵察] 所在既知の敵情を探明する行動。⇨搜索。**——かん**[偵察艦] 偵察に派遣される軍艦。**——き**[偵察機] 艦隊の前路の哨戒，彈著の觀測，敵艦の針路・速力等の偵察，魚雷・機雷に對する見張，味方艦隊在泊中の港灣・泊地の警戒，敵艦隊及び陸上の搜索を任務とする飛行機。**——ひこうてい**[偵察飛行艇] 遠距離偵察又は長時間哨戒の任務に服する飛行艇。

ていじ-せんぽう[丁字戰法] 對抗兩艦隊が丁字形の對勢を以て交戰する戰法。我が艦隊の優速を利用して敵艦隊の先頭又は後尾に出で，我は敵舷側に利く砲力全部を敵艦に集中し，敵の方は艦首若しくは艦尾の少數の砲以外に用ひる機會なからしめること。

ていじそくりょく-しうんてん[遞次速力試運轉] 馬力と速力の關係を測定する試運轉で，機關馬力を常用全力より10～15%餘計に出した過負荷の時，全力・全力の4分の3・2分の1・4分の1等の遞減された馬力で各標柱間の速力を測定する。

ていじ-たいけい[梯次隊形] 梯陣に同じ。➔同項。

てい-しつ[底質] 水底を構成して居る物質。泥・砂・礫・岩など。

てい-しゅ[艇種] 短艇の種類。

てい-しゅ[艇首] 短艇の舳(へさき)。**——いん**[艇首員] 雙座艇に於いては捷利なる者2名を艇首員となし，單座艇に於いては1名を擇んで艇首員となす。(前橈手・バウ-メン(bow-men)) **——ざ**[艇首座] 短艇の前端にある座席。(ヘッド-シート(head-seat)) **——ざい**[艇首材] 短艇の"キール"の前部より起立する材。 **——さく**[艇首索] 小船を陸岸等に繫ぐためその艇首に結びつけてある綱片。 **——たい**[艇首帶] 橈艇の艇首材の前面に貼著けてある眞鍮鈑。

てい-じゅう[底重] 船底が重く速力の遲い船の特徵。トップ-ヘビー(top-heavy)の對。⇨トップ-ヘビー。

ていしゅ-ぶね[亭主船] 船頭自ら持船で商ひをするもの。請合船頭の對。

ていじょう-は[定常波] 一定の場所が上下するのみで前進しない波形。

てい-しょく[底觸] 海洋の深さを測量するとき海中に垂らした錘が海底についたこと。②航行中の船舶の船底が水中の砂洲などに接觸すること。

てい-しん[定針] 艦船若しくは飛行機が所要に應じ適宜な針路をとつて航行の後，或る目的の針路に方位を定めること。

てい-しん[停信] 緊急なる無線通信の迅速なる通達及び空間整理その他必要により一時通信の全部又は一部に對しその實施を中止せしむること。

てい-しん[艇身] 短艇の長さ。競漕などの際は"何艇身の差で"とか"何艇身拔く"等といふ。

てい-しん[梯進] 飛行基地などを次々に躍進すること。

てい-じん[梯陣] 艦隊各艦の針路平行なるも，各艦の位置は先頭艦の斜前若しくは斜後の一線上に在る隊形。右(左)先鋒單梯陣・凸(凹)梯陣などがある。⇨單梯陣。

ていせい-ぎょ［底棲魚］ 常に水の下層に棲息する魚類。

ていせい-せいぶつ［底棲生物］ 水底に附著し或は水底に接して生活する生物。海藻・貝類・ウニ・ヒトデ・エビ・カニ類等。

ていせい-ちそう［汀成地層］ 海岸の水中に鏈物の沈澱堆積せる地層。

てい-せん［汀線］ 海面と陸地との境界線。

てい-せん［停船］ ①船舶の進航を停止せしめその業務に從事せしめざること。平時に於いては國家主權は海上警察權の執行・秘關取締等のため必要に應じ自國領土内にある一切の船舶に對しこれを行使し，戰時に於いては交戰國軍艦が臨檢・捜索・拿捕のためにこれを行ふ。又單に船主の命令により行はれる場合がある。②船舶の進航を停止すること。**——めいれい**［停船命令］停船を命ずること。⇨停船。

てい-せん［停戰］ 兵戰を停止すること。

でい-せん［泥線］ 陸地から海に運ばれる泥土などは水深 200 米位の所までに限られてゐるので，200 米の等深線を泥線ともいふ。

てい-せんしゅろう［低船首樓］ 船首樓の長くして殆んど船橋樓と相接せるもの，若しくは船首樓の高さ低きもの。

てい-せんびろう［低船尾樓］ 船尾樓が殆んど船橋樓と相連なり或は通常の船尾樓より低きもの。

でい-そう［泥艙］ 浚渫船内の浚渫した土砂を入れる所。

てい-そく［艇速］ 短艇の進行する速度。

てい-そく［低速］ 緩漫な速力。速力ののろいこと。高速の對。

てい-た［手板］ 積荷運賃明細表の俗稱。**——しらべ**［手板調］江戸時代に外國船舶の入港した際，その搭載貨物及び旅客の明細書を奉行所に提出させそれ等の取締をしたこと。

てい-たい［艇隊］ 短艇など2隻以上の集合より成る海上部隊。往時は水雷艇隊・潜水艇隊などとも稱した。

てい-たい［艇體］ ①短艇の體形。②飛行艇の胴體であるボートの部分。

でい-たい［泥堆］ 泥の沈澱して出來た淺所。⇨海堆。

ていたい-せん［停滯船］ 戰時軍艦の護衛を受けて航行すべき船舶が，指定された港に集合して出港を待機するもの。

てい-ち［碇置］ 物に錨若しくは重量物を附けて水面若しくは一定の場所に一時繫ぎ置くこと。

ていち-かんそく［定地觀測］海洋調査の一方法。一定の場所に於いて毎日又は1箇月に數回，日時を定めて觀測を行ひ，その地の海洋狀況とその變化を詳しく調べること。

ていち-ぎょぎょう［定置漁業］一漁期の間一定の漁場に漁具を定置して漁獲を行ふ漁業。免許漁業の一種。臺網類漁業・落網類漁業・桁網類漁業・建網類漁業・出網類漁業・張網類漁業・飯粟類漁業の7種があり，地方長官の免許を要する漁業。

ていち-しき［梯置式］ 砲塔などの一つが他のものの上に背負はされたやうになつてゐること。（背負式）

ていちゃく-せいぶつ［定著生物］卵のうちはプランクトンであるが，一度岩などに附くと一生そのまま生活するもの。牡蠣・珊瑚・イソギンチャク・偕老同穴など。

てい-ちょう［停潮］潮汐の進退の際に於ける海面昇降の一時の休止。

てい-ちょう［艇長］短艇乘組員。操舵を掌り艇員を指揮する。（コクスン (coxswain)）

てい-ちょう［低潮］潮の低くなること。高潮の對。（干潮）⇨潮汐。**——かんげき**［低潮間隙］月が觀測地の子午線を經過して後，ほぼ一定の時間がたつて高潮や低潮になる。この低潮になるまでの時の間隔。日によつて數十分以内の變化があるのでその平均を平均低潮間隙といふ。**——せん**［低潮線］干潮の極限に達した時の海面と陸地との交線。干潮汀線。滿潮線の對。

てい-ていちょう［低低潮］1日2回の低潮の内で低い方。

てい-とく［提督］ 艦隊の指揮官。海軍將官の別稱。元は支那清朝時代の武官の名稱であつた。**——ふ**［提督府］明治の初年に置かれたる官司。要港を選んでこれに設け沿海管下の港灣の兵備を管せしめた。明治9年東海・西海鎮守府を置くに及びこれを廢止された。

てい-ねん［停年］① 實役停年の略。現役士官が同一の官等に停まつて服役すべき年限。各科少將3年，各科大尉4年としてあるの類。②現役定限年齡（武官の現役に服する最高年齡）を俗に停年ともいふ。

てい-はく［碇泊］ 船舶が錨を下して泊ること。（船繫）

——きかん［碇泊期間］①船積陸揚期間ともいふ。航海傭船の場合に，傭船者が船積港又は陸揚港に於いて，契約荷物を船積又は陸揚する

ために本船を碇泊せしめ得る期間。②船舶が港に碇泊する期間。

〜こう［碇泊港］船舶の碇泊する港。

〜じんけい［碇泊陣形］艦隊の錨地に碇泊する際に整へる陣形。

〜ぜい［碇泊税］船舶が碇泊し，港灣を利用する事に對し賦課される税金。

〜ちょく［碇泊直］軍艦の碇泊中乘組員の勤める當直。

〜とう［碇泊燈］夜間，碇泊中の船舶がその位置を標示するため揭揚する燈火で，普通には艏と艉に白燈各1個を揭揚する。小船は艏艉のいづれかに1個を揭げる。

〜にっか［碇泊日課］艦船で碇泊中に施行する日常の仕事。航海日課の對。

〜りょう［碇泊料］滯船料に同じ。➔同項。

てい-び［艇尾］短艇の後端部。**——いん**［艇尾員］雙座艇に於いては艇員中最も熟練なる者2名，單座艇に於いて1名を以て艇尾員とする。(後橈手・ストローク-オールス-メン(stroke-oarsmen))**——こしかけ**［艇尾腰掛］艇尾兩舷後隅に設けた腰掛。短艇指揮と艇長とが腰を掛けるところ。**——ざ**［艇尾座］最後漕手座の後部内側の周邊に設けた腰掛。((スターン-ベンチ(stern-bench))。**——ざい**［艇尾材］短艇の艇尾を組み立てる主材で，これに舵を取り附ける。**——しょう**［艇尾床］短艇の最後漕手座より後部の内底をいふ。(スターン-シート(stern-sheet))

てい-ひょう［底氷］河床・湖底・海底に凝結して生じた氷。

てい-びょう［艇錨］短艇に裝備する小形の錨。

てい-ひれ［艇鰭］滑席艇の後部艇底外部についてゐる金屬板で，キールが艇外に無いため横滑りをなし且つ不安定となるのを防ぐためのもの。

てい-ふ［剃夫］艦船に乘組んでゐる理髮人。

てい-へん［定偏］大砲の施條によつて與へられる彈丸の旋轉運動と空氣抗力とによつて，發射された彈丸が彈道面から右又は左に外れる量。苗頭(びょうとう)の一部。

てい-ぼ［艇母］飛行艇母艦の略稱。

てい-ほう［艇砲］汽艇及び短艇に搭載裝備する小口徑砲。

ていめい-きかん［停鳴期間］音響信號の無音な合間。

てい-ら［偵邏］偵察のために巡邏すること。

てい-りゅう［底流］海や川の底の流。(下層流)

で-うお［出魚］海岸に近寄つた魚群が沖合へ出て行く場合に用ひる語。

ておし-ぶね［手押船］櫓・櫂・棹で推進させる小船。(手漕船)

て-かぎ［手鉤］①荷役人夫の使用具。②大魚を釣つて舷に引き寄せた際，又は網の中に繰込んだ魚を取り揚げる際，その他魚を取扱ふ場合に用ひる柄附の鐵鉤。

てき-おん［適温］各水族に最も適當した温度。適水温の略。**——はんい**［適温範圍］生物が生活に耐へ得る水温の限界。生物はこの範圍外になると生理的變調を來たし斃死又は枯死する。

てき-か［敵貨］①敵國又は敵國人の所有に屬する貨。②敵人の所有に屬せざるも敵船内に在つて，その中立性を有することを立證し得ざる貨物。

てきぐ-るい［拋具類］漁具の類別名。圓錐或は方錐の内部の空虛な漁具で魚族の居所を急に包んで取るもの。

てきこく-しせん［敵國私船］敵國の國旗を揭げる私用船。その主なるものは商船。

てきしゃ-きゅうじょ-きょうれん［溺者救助教練］艦船航海中溺者を救助する訓練。機械を停止し轉舵とともに機械を反轉，救助艇を出發させ救命浮標を投入，見張員を高所に上げ艦船を操縱して溺者を收容する。

てき-じょう［敵情］敵の樣子。敵の情況。(敵狀)**——はんだん**［敵情判斷］敵の動作・兵力配置又はその企圖を實際に綜合研究し所要の判斷をなすこと。

てき-しん［的針］標的の進む針路。

てき-すいおん［適水温］魚の種類によつて游泳又は洄游するのに最も適した水温。略して適温。

てき-せい［敵勢］敵軍の勢力。

てき-せい［敵性］敵を助け又は味方を妨害すること。

てきせい-けんさ［適性檢査］特種の任務に應じ智能的及び醫學的に所要の特性を具備するや否やを，各種の方法又は機械によつて檢査すること。

てき-せん［適船］①使用目的に合致する船。②荷主・傭船者・買船者の希望に合する船。

てきぜん-じょうりく［敵前上陸］敵が戰備を整へてゐる面前に，危險を冒して上陸を敢行すること。

てき-そく［的速］ 標的の速力。

てきはん-ほう［適帆法］ 船に最大速力を與へるために，風向・風力に應じて帆桁及び帆を適當に釣り合はせること。

てき-ふう［適風］ ①航海に都合よく，且つ凌ぎ易い適度な風。②帆船の帆走するのに好都合な風。

てぐす［天蠶絲］ 樟蠶(Calgura Saponica)の絲腺を摘出し食酢に浸して引伸ばし精製乾燥して造る線狀の絲で，南支那地方を主産地とする優良品は釣絲，特に釣鉤に近き部分に多く使用し，醫療にも用ひ，劣等品は各種の刷毛に使用する。

てぐり-あみ［手繰網］ 1艘兩艘の引寄網で，船を一定の場所に止め網具を船まで引寄せた後，これを引揚げて底魚類を捕獲する。

てぐり-ぶね［手繰船］ 手繰網を使用する漁船。

テークル［tackle・絞轆］ 滑車に索條を通したもので，索具を緊張し又は重量物取扱等の場合に力の經濟を圖るとともに，加ふべき力の方向を任意に變換するのに使用するもの。

てこぎ-ぶね［手漕船］ 櫂・櫓・棹などで人力を以て推進する船。櫓船・櫂船など。

てさき-しんごう［手先信號］ 機械室の如き喧騒なる所，防空マスクをかけた時など聲を出して用を足せない場合，手先を以て種々の合圖をなし用を辨ずる方法。

で-しお［出汐］ "いでしほ"の略。月の出るとともに滿ちてくる海水。入潮の對。(差潮)

で-す［出洲］ 洲の出てゐる所。(沙嘴)

てずな-まる［手索丸］ 中古水軍で鳶口・熊手などを使用し敵船に引かけて，乘取のため躍り込んだ者の職名。

デスパッチ［despatch］ デスパッチ-マネー(despatch-money)の略。(早出料) **——マネー**［despatch-money］ 早出料。➔同項。

て-すり［手摺］ 船橋・遊歩甲板・その他甲板の周りに設けた欄干。舷梯手摺・階梯手摺・艦首(尾)手摺・前(後)甲板手摺など。(レール(rail))

て-ずり［手釣］ 竿を用ひないで釣絲を手に持つて魚を釣ること。

てっ-か［鐵枷］ 錨鎖を構成する一部で，錨鎖の各節を連接するものを接續鐵枷，短鎖を錨の鎖に鎖駐するに用ひるものを錨鐵枷といふ。

てつ-がい［鐵蓋］ 荒天の際舷窓等の硝子が破損し海水の侵入するのを防ぎ，若しくは燈光の艦外に漏出するのを防ぐために取附けられる鐵製の蓋。(舷窓盲蓋・デッド-ライト(dead-light))

てつ-かぎ［鐵鉤］ 接戰の際敵船に引つかけて，これを引寄せるために使用したもの。

てつ-かっしゃ［鐵滑車］ 鐵又は鋼製の滑車。重量物懸垂用として用ひる。

テッキ［tack］ タック。➔同項。

デッキ［deck］ 甲板(カンパン)。➔同項。 **——カーゴー**［deck-cargo］ 甲板積荷物。➔同項。 **——ゴルフ**［deck-golf］ 船内甲板遊戯の一種。甲板上所々に小圓を描きそれに番號を附して置き，番號順に棒を以て小圓板を圓内に突き入れ，全部入れ終りたる方を勝者とするもので，普通4人が2人づつ敵味方に分れ相互に妨害・援助しつつ勝負を競ふ。 **——チェア**［deck-chair］ 船客の休憩用として客船の甲板の適當の場所に備附けてある椅子で普通は寢椅子。甲板椅子。 **——パッセンジャー**［deck-passenger］ 甲板旅客。➔同項。 **——ハンド**［deck-hand］ 一船に於いて甲板部作業に從事する普通船員の別稱。 **——ビリヤード**［deck-billiards］ 船内甲板遊戯の一種。甲板上に疊一疊位の廣さを碁盤目に區切り，各區に點數を記入して置き，一定の距離より木製の圓盤をその中に棒で突き入れて得點を爭ふ遊戯。 **——プレート**［deck-plate］ 船の頂部を形成する板張で，船内浸水を防ぎ船の縱强力を保持するもの。 **——ライト**［deck-light］ 下方甲板の採光のため厚い硝子を嵌めて甲板に設けた明り取り。(明取(アカリトリ))

てっきん-コンクリート-せん［鐵筋混凝土船］ 混凝土船に同じ。➔同項。

てつ-げい［鐵鯨］ 潜水艦の別稱。

てっこう-せん［鐵鋼船］ 鋼船に同じ。➔同項。

てっこう-だん［徹甲彈］ 軍艦の裝甲鈑のやうな抵抗力の强いものを貫通させるのに用ひる砲彈。ニッケル鋼・クローム鋼などの特殊鋼で造り，彈頭は尖鋭で彈壁を厚くしたもの。

てっこう-ばくだん［徹甲爆彈］ 爆撃機や飛行船が落す爆彈の一種で，砲彈の徹甲榴彈に相當し，軍艦の裝甲鈑などを貫徹してから爆發して破壞力を逞しくするもの。破甲爆彈ともいふ。

てっこつ-もくひせん［鐵骨木皮船］ 船體中，梁材・肋材・龍骨等の主要な骨骼が鐵材を以て成り，船殼その他は木材によれる船舶。(木鐵交造船)

てっ-しゅう [鐵舟] 鐵製の短艇で敵前上陸や渡河の際などに用ひられる。

てっ-せん [鐵船] 鋼鐵で建造した船。造船史上木船時代と鋼船時代との中間卽ち18世紀の末から19世紀の中頃までの過渡期に造られたもので，19世紀の後半から鋼船時代が出現した。

てったい-かっしゃ [鐵帶滑車] 木製殼に帶索の代りに鐵帶を有する滑車。

てっ-てい [鐵梯] 各甲板又は機械室等に設けたる昇降用の鐵杆製階梯。

デッド-アイ [dead-eye] 三目滑車。➔同項。

デッド-ウィンド [dead-wind] 向ひ風。船の針路の眞向から吹いて來る風。

デッド-ウエィト [dead-weight] 重量噸。➔同項。

デッド-ウォーター [dead-water] 追跡流の船尾に接した部分。

デッド-ウッド [dead-wood] 船首材及び船尾材と龍骨との相接續する附近に於いて，船體が細くなつてゐる部分。

デッド-フレイト [dead-freight] 不積運送賃。➔同項。

デッド-ライト [dead-light] 盲蓋。➔同項。

デッド-レッコニング [dead-reckoning] 艦(船)位推算。⇨推測位置。

てっ-ぱい [竹筏] 竹で作つた原始的な筏船。古く馬來半島から濠洲地方まで分布してゐたが，現今は臺灣西海岸の南部で用ひられる。

デップス-チャージ [depth-charge] 爆雷。➔同項。

てつ-もっこう [鐵木工] 造船所で罐掛をする職工。⇨罐掛。

て-なわ [手繩] 漁具に結びつけた綱。延繩又は流網の脈繩，投網の龍頭に附けた綱や銛の頭に附けた綱などをいふ。

デネブ [(羅)Deneb] 天測常用恒星の一。白鳥座の十字架の頭部に當る所に輝いてゐる。

デネボラ [(羅)Denebola] 天測常用恒星の一。プロシオン(Procyon)からレグルス(Regulus)に引いた線を更に延長すると獅子座のデネボラ(Denebola)に達する。

テノン [tenon] 枘。➔同項。

て-ばこ [手箱] 下士官・兵に支給される手廻りの小道具を入れておく箱。

てばた-しんごう [手旗信號] 手旗を兩手に持ちこれを振り動かして片假名・アルファベット文字その他の記號を描き通信する信號。

て-ぶね [手船] ①網船に附隨して魚群を探索し，これを誘導して網の中に驅り入れ，網緣を巡視して網形を整へ，又揚網作業中徐々に移動するため錨の位置變換をするなど，雜用を辨ずる漁撈補助船。②船宿から借り船頭を附けずに自分で漕ぐ釣船。

で-ふね [出船] ①港を出帆すること。又その船。入船の對。②繫留船の船首を港外につないでおく向き。 ——**つなぎ** [出船繫] 舳先を沖へ向けて船を繫ぐこと。

デマレージ [demurrage] 滯船料。➔同項。

デリック [derrick] 檣の下部に取り附けられ，多くは長大な木製圓材で，絞轆を備へ船の貨物荷役に使用され，又大型短艇・飛行機その他の重量物を揚卸しするのに用ひられる。《動臂(ドウヒ)起重機》。ヘビー-デリック(heavy-derrick)を扛重(コウヂウ)動臂起重機といふ。

テール-スリップ [tail-slip] 航空用語。飛行機の失速に因り，前後軸線の方向に於ける機の尾翼を眞先にして降著すること。機體を損傷する原因となる。テール-スライド(tail-slide)ともいふ。

デルタ [delta] 河口に堆積せる，上流に頂點を向けた三角形の自然埋立地。その形がギリシャ文字三角形のデルタ Δ と似て居るからいふ。⇨三角洲。

テルテール [telltale] 舵角指示器。➔同項。

テレグラフ [telegraph] 傳令機。➔同項。

テレスコープ [telescope] 望遠鏡。光學的に區別すれば屈折望遠鏡・反射望遠鏡の2種となり，使用目的により天體・地上の2種に分つ。軍用に用ひられるものに照準用・旋回手用等特殊のものがある。

テレモーター [telemotor] 舵取機械を船橋等より遠隔操作する制舵裝置。水壓・油壓等を利用する。

てん [點] 方位を32に等分したその分點。羅牌の外周に施された割度360を32等分し，この1目盛11度15分を1點といふ。

でんあつしき-そくどけい [電壓式速度計] 主機械の瞬時の回轉を計り得るやうに電壓を應用した速度計で，構造が簡單で指度が正確な長所を有する。

てん-い [轉位] 一定時間に航走した航路及び航程。

てん-か [轉科] 海軍兵が現兵科より他の兵科に轉ずること。主計兵以外の者が普通科經理術練習生教程を修業後主計兵となり，水兵・機關兵が普通科整備術練習生又は航空兵器術練習生教程を修業後整備兵となり，又丙種飛行豫科練習生教程を修業後飛行兵となる等のこと。

てん-かい [展開] 敵に對しわが正面を擴張する作戰行爲。

てん-かやく [傳火藥] 裝藥の燃燒を促進し完全に燃燒させる火藥。黑色火藥を使用する。

てん-かん [轉鐶] 碇泊中錨鎖の撚れを防ぐため，節間に入れる器具及び滑車等の方向を自由ならしめる裝置。(スイブル(swivel)) **——かっしゃ** [轉鐶滑車] 木製滑車若しくは金屬製滑車の車の方向を自由ならしめるため，轉鐶を帶に附けた滑車。

てん-かん(せん) [殿艦(船)] 單縱陣で航行する際の最後の軍艦(船舶)。しんがりをする軍艦(船舶)。(しんがり)

てん-き [天氣] ①天空の狀態。そらあひ。天空の晴曇・雨雪・風向・氣溫・氣壓・乾濕等の氣象狀態。②"天氣よし"の略。晴天。③或る場所の任意時刻に於ける氣象狀態。 **——ず** [天氣圖] 各地の天氣の狀態を地圖上のその地點に記入し，一目瞭然たるやうにしたもの。天氣豫報の基本となるもので等壓線・等溫線などが記されてゐる。 **——よほう** [天氣豫報] 天氣圖によつてその地方の氣溫・氣壓の高低・風力・風位を知り，將來の天氣の變化を豫察してこれを公衆に報ずること。

てん-き [點記] 調査報告・測定資料などに基づきその結果を書き入れて圖を作ること。

でんき-サーモスタット [電氣サーモスタット(thermostat)] 一般に電氣を利用し，或る部分の溫度の變化を直接又は間接に阻止する裝置をいひ，船內では火災警報裝置・自動消化裝置等に利用される。

でんき-しゅうぎょ-とう [電氣集魚燈] 電氣燈を集魚燈に利用せるもので，釣用の如き小燭光のものは蓄電池を用ひ，網用の如き大燭光のものには發動機に直結する發電機が用ひられる。

でんき-すいしん-きかん [電氣推進機關] 蒸氣機關或は內燃機關のどちらかで發電機を動かし，その電氣で電動器を回轉させそれを推進器に傳へるもの。

でんき-すいしんせん [電氣推進船] 蒸氣機關又はディーセル機關によつて發電機を回轉せしめて電氣を起し，この電氣を以て電動器(モーター)を動かしてこれに直結した推進器を回轉せしめる船。⇨電氣推進機關。

でんき-はっしゃ [電氣發射] 大砲を發射する場合に，引金を引くと發砲電路が完成し，火管の白金線が燒き切れる瞬間に發火して，傳火藥から裝藥に燃え移り火藥は多量の瓦斯となつて壓力を生じ，彈丸を前方に突き出すやうになつてゐる。

でんき-もり [電氣銛] 捕鯨用の銛で鐵砲によつて發射され，銛繩には電源と結びついたコードがついてゐて銛が發射され，砲身後座の發條が砲身を再び前方へ押出すや否や銛に通じてゐた電流の接觸が切離れこの瞬間に鯨は斃死する。

でんき-ようびょうき [電氣揚錨機] 電力によつて操作する揚錨機で，主にディーセル船に使用される。

てん-げき [塡隙] コーキング(caulking)に同じ。➔同項。

でんげき-せん [電擊戰] 壓倒的優勢なる兵力を以て，敵を迅雷の如く擊滅する戰。

てん-けん [點檢] 一つ一つ改め調べること。⇨分隊點檢・被服點檢。

でん-けん [電鍵] 電路の開閉又は轉換に用ひる電氣用具。電信用と電話用とがある。電鈴(ベル)。

てん-こう [天候] ⇨天氣。

てんこう-さく [轉桁索] 橫帆船の各桁の左右兩端に取附けた一雙の動索で，これによつて桁を風向に應じて水平に操縱し，また桁をその位置に固定させるもの。(ブレース(brace))

てんこう-てん [轉向點] 颱風が東西を軸とした拋物線を描いて進むその頂點。大體緯度20度前後。颱風は轉向點では餘り動かずに一時停滯した後新たな進路に向つて猛進するのを例とする。

てん-ざい [塡材] 木船で船尾材・舵柱並びに船尾縱梁材間に生ずる空所，若しくは橋の甲板に入る所に於いて橋の兩側縱梁並びに前後梁間に生ずる空所を充塡して，該部を堅牢にすべき材料。

てん-じく [轉軸] 裝帆艇の中程に一垂直線を想定し短艇は帆の作用によりこの線を軸心として回轉するもので，これを轉軸といふ。轉軸の位置は艇の釣合の如何によつて前後に移動する。

てん-じく [天軸] 地軸を延長して天球に達せしめたもの。

てん-しょう [天象] 日・月・星辰の象。

てん-しょう [點礁] 海中に點々として散在する水面下にある巖石。

てん-じょう [轉乘] 一艦より他艦へ乘組を移動すること。商船では旅客を一船より他船へ移すこと。

てんじょう-あみ [天井網] 引網の囊部の上面の網。

てん-しん［轉心］ 船體の轉舵旋回する際その中心軸となる所。

てん-しん［轉針］航行中針路を變へること。(變針) ——**てん**［轉針點］針路の變換點。

でんしん-ふごう［電信符號］長短を組合はせた符號で片假名・ローマ字・數字その他必要な記號をあらはすもので，船舶の信號にもこれを使用して相互の意思を通ずることが出來る。

でんしん-へい［電信兵］ 主として無線電信・無線電話を以てする通信に從事する水兵。14～19年の少年で國民學校高等科卒業以上の學力を有する志願者より檢査の上採用され，海兵團にて3ヶ月の新兵教育を受けたる後海軍通信學校に入り專門技術を修得した掌電信兵。

でんせい-かん［傳聲管］ 艦橋・司令塔・砲臺・機械室その他艦內すべての要部を互に連絡し相互に對話し得るやうに裝備された中空管で，その兩端には笛・電鐘若しくは電氣指示器を備へ，通話の際相手の注意を喚起し又發信個所を知らせるやうにしてある。(ボイス-チューブ(voice-tube))

でんせい-き［傳聲器］ メガホン(megaphone)とも稱す。喇叭形のもので，これを口に當てて聲を擴大し遠方まで通ずるもの。

てん-せき［轉籍］ ①船籍の管轄を移すこと。②准士官・下士官・兵などの所屬する兵籍を移すこと。

てん-せん［轉船］ 乘船を他に變更すること。

てん-せん［轉戰］ 此處かしこと場所をかへて戰ふこと。

でんせん-つうろ［電線通路］ 艦內各部に連絡してゐる多數の電線が纏まつて通つてゐる區劃。大艦に於いては防禦甲板以下に縱に設けてある。

でんせん-ふひょう［電線浮標］海底電線を敷設してあることを船舶に標示する浮標。これによつて船がその附近に投錨して電線に故障を生ぜしめることを豫防する。

てん-そく［天測］六分儀で天體の高度(水平線から上の方に天體を仰ぐ角度)をはかること。——**いち**［天測位置］天測により經度と緯度とを決定して求め得た船舶又は飛行機の所在地點。——**てん**［天測點］港灣に近き陸上の經緯度の精確なる地點に於いて，太陽の高度を連測してその地點に於ける精確なる時刻を知り，これによつて經線儀の誤差を改正する。この地點を天測點といふ。海圖上には概ね各港灣毎に天測點を示してある。——**れき**［天測暦］天文航法に專用する表で，太陽・恒星はもちろん月・

惑星をも晝夜を問はず天測計算を行ふに必要なる諸元を表示してある。水路部より毎年7月頃次年の分を發刊する。

てん-だ［轉舵］ 舵輪をめぐらすこと。針路を變更させること。

テンダー［tender］ 曳船兼用の大型小蒸氣船。

てん-たい［天體］ 宇宙空間にある物體。日・月・星辰などの概稱。

てん-たい［點堆］ 孤立してゐる一小淺處。底質が岩礁なるときは點礁，岩礁でないときは點洲といふ。

てんたい-いちひょう［天體位置表］太陽・月・星のその日その日の位置が書いてある表で，我が國では水路部でこれを刊行する。

てん-だん［點灘］ 小淺灘若しくは小礁の孤立してゐるもの。

てんてき-き［點的器］ 大砲に取附け，射手・旋回手が大砲を操作し照準の稽古をする兵器。本器により實彈射擊と同樣の操作を以て照準し，引金を引くと標的板に彈痕が附くやうに裝置したもの。

てん-とう［天釣］沖漁に用ひる五枚板の網船。本州の北端から(主として日本海沿ひに)九州の西海各地に及んでこの名稱が用ひられ，地方によつて大きさも種類もやや異なるものがある。

てんとう-かんしょく［電燈艦飾］國家の大典又は觀艦式等の場合に，艦船が夜間多數の電燈を以て飾ること。電飾ともいふ。(イルミネーション(illumination))

てんとう-かんだんけい［顚倒寒暖計］深海の溫度を正確に測るために，所要の深さに下して急に顚倒させ，その時の溫度をそのまま測れる特別の裝置を施した寒暖計。

でんどう-き［電動機］ 磁界と電流との機械的作用により電氣的勢力を機械的勢力に變成する回轉機。直流電動機・交流電動機の2種に大別する。

てんとう-しけん［轉倒試驗］ 海軍航空機搭乘員適性檢査の際は，回轉椅子に腰をかけさせて上體を上方に屈ませ，椅子を10秒に5回位の早さで5回位廻し急に止めると同時に前方の床に不動の姿勢をとらせる。正姿勢になる迄の秒時を測つて合格・不合格を決定する。

でんどう-せん［電動船］ 電動機によつて推進される船舶。電氣推進船に同じ。→同項。

でんどう-てい［電動艇］ 電動機を裝備してゐる短艇。

でんどう-はつでんき［電動發動機］ 電動機と發電機とを直結し，電氣を起

すと同時に動力を供給して運轉する機械。

てんとう-ぶね[天道船] 過所船(かしょぶね)に同じ。➔同項。

てんねん-こう…ゐ[天然港] 港が岬・島など天然の地形によつて出來てゐるもの。人工港の對。

てんのう-き[天皇旗] 天皇陛下乘御の艦船の大檣頭又は乘御の短艇の艇首旗竿及び海軍官廳へ臨御の時その廳の旗竿に揭揚する御旗。

てんぱ-せん[電波戰] ①敵の通信を妨害したり又味方の位置や企圖を敵に知られないやうに電波の使ひ方を戰時に應用すること。②無線電話・電信を以て對内及び對敵宣傳を行ひ又は敵の宣傳を妨害すること。

てんぱ-たんちき[電波探知機] 超短波を應用し或る物體(飛行機・艦船等)から反射して來る電波を受信し，それによつて反射物體の方向・距離竝びに高度を測定する裝置。對空射擊を行ふ場合，この裝置で敵機の刻々の位置がわかり，從つてその速度竝びに飛行方向が計算せられるから，その算定具を高角砲に連動させて初彈から敵機に命中させることが出來る。(ラジオ-ロケーター(radio-locator))

てん-ぱん[展帆] 疊んであつた帆を懸けること。

てんぴ-えん[天日鹽] 海水を煎熬することなく池を造つて海水を引込み日光及び風力によつて自然に蒸發濃縮の後結晶析出せしめて造つた鹽。

てん-びよう…ゑ[轉錨] 錨場の位置を移すこと。

てん-びん[天秤] 天秤の竿のやうな形をした針金又は細い竹或は鯨の鬚で作つた棒(これをテンビン又トンボといふ)の兩端に餌を結んだ釣具。——**せん**[天秤船] 舊式蒸氣機關ビーム-エンジンを備へた汽船の俗稱。ビーム-エンジンの外形が天秤に似てゐるので名附けられた。

てん-ま[傳馬] 傳馬船の略。——**こみ**[傳馬込] 和船の舳艫の左右にある出入口。——**せん**[傳馬船] 船首尖り船尾平に角型をなし最後端左舷に櫓を備へた小舟で，港内河川など波の大きくない所で交通・遊覽・雜用に使用せられ，海軍の艦船に搭載する櫓艇を特に通船(つうせん)と稱し，陸上部隊では"てんません"と呼ぶ。略して傳馬と稱す。通例1人で漕ぎ舷側に脇櫓を備へ2人で漕ぐものもあり又場合により櫂を使用する。➪通船。

てん-まく[天幕] 雨天及び酷暑の時等に露天甲板上を覆ひ張る帆布製の幕で，周緣には止紐(とめひも)，隣接天幕との接續部には縢紐(かがりひも)が附いてゐる。(オーニング(awning)) ——**こ**[天幕庫] 艦船に於ける天幕類を格納する

倉庫。——**こう**…ゐ[天幕桁] 天幕展張用の縱木。——**しちゅう**[天幕支柱] 天幕を張るために，舷緣などに立てる鐵柱。必要に應じ起倒又は取外し得るやうにしてある。(オーニング-スタンション(awning-stanchion))

てんま-ざ[天馬座] 四邊形を形造る星座。又ペガススの四邊形と呼ばれその一角にあるマルカブは屢々天測にも用ひられ，海員には特に馴染み深い恒星である。

てん-まど[天窓] 採光及び通風のため甲板に設けてある小高い硝子窓。上部に眞鍮の格子がついてゐる。(スカイ-ライト(sky-light))

てん-もん[天文] 天體の現象。——**こうほう**[天文航法] 天體の高度により船の位置を測定して航海する方法で，天體が測定者と水平線をなす角度を六分儀にて測定し，それを定瞬間の時間によつて經度及び緯度を算出する。——**じ**[天文時] 平均太陽時にして正午に起算點をもち，次の日の起算點に至る間を24時間としたもの。天文時にて零時とは常用時で同日の12時に當る。大正14年(西曆1925年)以後は天文時の起算點を常用起算點に移したため現在は區別がない。常用時の對。——**ちょう**…ちゃう[天文潮] 太陽や月の引力によつて現はれる海面の昇降。天體以外の作用に因つて生ずる潮汐と區別する場合に用ひる。太陽潮と太陰潮とを天文潮と總稱する。——**にち**[天文日] 平均太陽の或る子午線通過より次にこの子午線を通過する間をいふ。常用日と相對せしめたるも大正14年(西曆1925年)以後，その起算を子午線通過の12時間前に變更せるため常用日と一致するに至つた。——**はくめい**[天文薄明] 拂曉と黃昏との總稱で，日出前又は日沒後に或る時間天空に薄光の現はれるのをいふ。その原因は空氣中に浮游する微細物のため太陽光線が散亂せられるに因る。太陽光線と地平光線との角度17～18度以内を限界とし，世俗的の薄明は7～8度以内を以て終る。常用薄明の對。➪拂曉・黃昏。

てん-らん[電纜] 絶緣物で包裝した電線又はそれを撚り合せたもの。電力用電纜と通信・信號用電纜の2種に大別する。海底に沈めておくものを海底電纜といふ。——**せん**[電纜船] 水底電線敷設船。(ケーブル-シップ(cable-ship))

てん-りゅう…りう[轉流] ①比較的大きな砂礫や岩塊が，河水の流壓と重力によつて河底を轉がりながら運搬される河水の運搬作用。②潮の變り目に流れの方向を轉換すること。

てんりゅうじ-ぶね［天龍寺船］　室町時代に足利直義が夢窓國師等と議し天龍寺造營の費に充てるために，商船を元國に遣はして貿易させた。その貿易船を天龍寺船といふ。

てんりん-らしんぎ［轉輪羅針儀］　地磁氣を利用する磁氣羅針儀と異なり高速度の回轉をなす獨樂(轉輪)を主體とする羅針儀で，高速度の回轉をなす獨樂の軸がその方向を空間に對し保たんとする性質を利用し，適當なる裝置によればその軸は地軸と平行となりこれにより眞方位の南北を知ることが出來る。地磁氣を利用せざる故に，磁氣羅針儀の如く船體その他の鐵の如きものに因る誤差がない。(ジャイロ-コンパス(gyro-compass))

でん-れい［傳令］　命令・號令を傳達し，その實行に注意すること。又，その人。艦長所在附近にゐて常に艦長の命令を傳達する特別の配置にある者を艦長傳令といふ。　**——き**［傳令機］船橋より機械室・船首尾部その他に命令を傳達し相互間を連絡する裝置。機械室傳令機・繫船用傳令機・操舵傳令機・速力傳機令等がある。(テレグラフ(telegraph))

でん-ろ［電路］電流の通ずる路。電話電路・發砲電路・魚雷發射電路の類。

でんろ-いん［電路員］砲術長・分隊長の命を承け，機關長主管以外の艦內電氣通信器具その他諸電氣裝置の修補に從事しこれを整頓する兵員で，機關長主管の物を處理する機關科員を機關科電路員といふ。

でんわ-ふひょう［電話浮標］潛水艦の上部構造物內に納められ，所要の際，艦內よりこれを水面に浮揚させる裝置となつてゐる沈沒位置浮標。その中に電話器具の裝備があり，位置を知り得るのみならず艦內との通話連絡が出來る。

と

と［門］①海峽。②(古) 川幅の狹いところ。

ど［筌］鰻・泥鰌・蝦などを捕獲する漁具。割竹を編んで長い圓筒狀に作り一方の口を閉ぢ他の入口には漏斗狀のものを嵌め，一度入つた魚が出られないやうにしたもの。餌を入れて水底に沈め又は河流を堰き止めて水をこ

の中に流れさせ數時間放置し，魚の入るままにし，やがて引上げて魚を捕へる。"どう"ともいふ。(筌(ウケ))

と-あみ［投網］上端に手網，下部に沈子(おもり)を附けた圓錐形の漁網。水中に投げひろげ，網が水底に達した後，手網で引寄せ網をすぼめて魚を捕へる。主に淡水又は淺海で用ひる。⇨打網(ウチアミ)・唐網(タウアミ)。

とう-あさ［遠淺］河海などの岸より遠方まで淺いこと。

とう-あつ［膅壓］魚雷發射の際發射空氣(發射火藥)により發射管內に生じたる最高壓力，又は大砲發射の際裝藥により生じたる膅中の最高壓力をいひ，瓩を以て呼稱す。

とうあつ-せん［等壓線］地圖上に氣壓の等しい地點を順次に連れた線。天氣豫報上重要な資料となる。

どう-あみ［胴網］長方形で大敷網よりも小形の囊狀をしてゐる網で，定置漁業張網類の一種。魚類の通過する要衝に細長い囊狀の網を碇又は木竹の支柱で敷設し，これに陷しいれて漁獲する。

どう-いた［胴板］船用罐の圓筒形部で支柱の力によらないで，內から來る汽壓に堪へ得るやうに最も堅牢に構成されたもの。

どう-いん［動員］作戰のために豫備役軍人及び豫備員等を召集し，艦船部隊を編成して裝備及び補給すること。平時編制を戰時編制に移すこと。

とう-う［凍雨］①寒冷な空氣層を通過して落下する雨滴が，霰に似てそれより硬く小氷球となつて降ること。②烈しくふる雨。

とう-えい［冬營］結氷による被害を避けるため船舶が冬籠りすること。北滿河川の船舶は結氷期間運航を停止し，成るべく淺い個所を撰び坐洲させ，河水が凍結すれば船體を包圍する氷を削り去る。船底を修理する必要があれば起重機の一種ジャッキ(Jack)を船底に當てて船體を持上げる。

とうえん-しゅ［投鉛手］艦船の入港に際し水深を測るために測鉛投下をなす者。

とうえん-だい［投鉛臺］測深臺に同じ。➔同項。

とうおん-せん［等溫線］氣溫の配置を示すため，等しい溫度の地點を地圖上に連れた線。

とうかい-きゅうしん［陸界急深］海岸の水深が俄に增加し，更に少しく距ると直に深くなる所。

とうかい-ずくり［渡海造］旅客又は荷物を載せ，主として大阪と九州小

倉との間を往復した海船。5～18反帆の大きさで總屋形・總矢倉で左右に都(シトミ)と臺とがあつた。

とうか-かんせい [燈火管制] 敵機の夜間襲撃に備へるために，燈火の使用を制限すること。

どうか-さく [導火索] 火藥に點火させるための火繩で，緩燃導火索と急燃導火索とがある。

どう-かっしゃ [動滑車] 絞轆使用に際し移動する方の滑車。不動滑車の對。(ランニング-ブロック(running-block))

どう-がわら [艅航] 船底。艅は胴。

とう-かん [燈竿] 竿頭に燈火を點ずる簡單な燈標。棧橋・防波堤等の先端に設けられ，主に小船の航路目標となる。

どう-かん [導環] 彈丸の底部外周に嵌めた銅製環で，裝塡に際し彈丸の滑落を防止し發射に際し旋條(ヤマハ)に喰ひ込み彈丸に旋轉運動を與へ，且つ火藥瓦斯の前方に漏れるのを防ぐもの。

どう-き [同期] 波浪の週期と船體動搖の週期が偶然一致し，船體の動搖が最も激しくなつたことをいふ。(シンクロニスム(synchronism))

とうき-せん [登記船] 船舶登記及び登錄をなし且つ船舶國籍證書を受有することを要する船舶。⇨船舶登記・船舶登錄。

とうき-まんさい-きっすいせん [冬季滿載吃水線] 冬季に於ける船舶の滿載吃水線。冬季は普通，風浪高いために夏季よりも滿載吃水線を低く乾舷を高くせられる。⇨滿載吃水線。

とうきゃく-るい [橈脚類] 甲殼類中の下等な一目。橈脚で游泳し，淡鹹兩水域に棲息する。魚類の天然餌料として主要なプランクトンである。

どうきゅう-かん [同級艦] 同じ等級の軍艦。

とうきょう-ぐんぼうかいぎ [東京軍法會議] 海軍大臣に隷屬し鎭守府・警備府及び艦隊等に屬せざる佐官以下の軍人，その他海軍の用に供する船舶乘員で罪を犯したるものに對し審判する所。

とうぐう-ぶかん [東宮武官] 皇太子殿下に附屬せしめられる陸海軍武官。⇨皇族附武官。

とうぐ-しつ [燈具室] 燈具・燈油などを格納する室。

どう-くつ [洞窟] 海岸の岩の軟かい所や割目の多い部分が，波に浸蝕されて出來たほらあな。

とう-けい [東經] 本初子午線を零度として東方180度までの間の經線。西經の對。

どうけい-かん [同型艦] 同じ型式の軍艦。

どうげん-ていきあつ [動源低氣壓] 兩氣流が相會する界面に發生する低氣壓。(動源颱風)

とうげん-れいしき [登舷禮式] 海軍禮式の一。乘員總員を艦の兩舷に整列させて，貴顯の送迎・出征若しくは遠航の途に上る軍艦に對して敬禮又は送別の意を表すること。

とう-こう [燈光] 船燈又は航路標識の發する光。

とう-こう [凍港] 冬季海面氷結して船舶の出入することが出來ない港。不凍港の對。

とうこう-れいしき [登桁禮式] 桁(ヤード)を有する艦船で貴顯の送迎・出征若しくは遠航の途に上る艦船に對し，各桁の上に乘員を整列せしめて行つた禮式。

とう-こつ [頭骨] 魚の頭部にある骨の總稱。頭骨の中，腦を圍んでゐる骨を頭蓋骨(ズガイ)といひ，頭骨から頭蓋骨を除いた殘りの骨を內臟骨(ナイゾウコツ)といふ。

とうざい-きょ [東西距] 緯度に沿つて測つた子午線間の距離。(デパーチュアー(departure))

とうざい-ぎょ [當歲魚] その年に生れた魚。

どう-さく [動索] 船舶に裝備の圓材・舟艇・帆等の揚げ卸しなどに用ひる動かし得る索具の總稱。多くは麻索及び鋼索を使用する。靜索の對。

どうさく-き [導索器] 索を船內外へ導く際に摩擦を防ぎ索動を輕くするために設けた滑車。(索道(ワイヤ)・フェーアリーダー(fairleader))

どうさん-ばしら [胴棧柱] (方) 日本型漁船に於いて使用する小矢帆柱の異稱。(千葉縣外海の語)

とう-し [島司] 大正15年以前府縣知事監督の下に，島地の行政事務を取扱つた官吏。

とうし-うんそう-けいやく [通運送契約] 通し海上運送契約の意。海上運送人が全運送區間に對する運賃を徵して，自己擔當區間の運送のみならずこれと連絡する他の運送人の運送區間を經て，目的地に至る迄の全運送を引受ける契約。

とうしき-ぼうはてい [島式防波堤] 陸岸又は防波堤から切離して設けた

一文字防波堤，岸壁又は港口に波浪の侵入を防ぐもの。デタッチド-モール(detached mole)といふ。川崎・鶴見埠頭等の防波堤がその例。

どうじ-ちょうせん[同時潮線] 同時刻に高潮になる地點を海圖上で連結した線。普通は太陰時毎に同時潮線を引き，出來た圖を同時潮圖といふ。(同潮線)

とうし-ふなに-しょうけん[通船荷證券] ①海陸連絡輸送の場合に發行せられる1通の船荷證券で，船荷證券と貨物引換證とを合せたもの。②別個の船會社が連絡輸送をなす場合に發行せられる1通の船荷證券で，2枚の船荷證券を兼ねるもの。

とうしゃ-じゅう[投射銃] 艦船を横附けする場合などに迎索を陸岸に放射して達せしめるもの。救助用索條を射出するのに用ひるときはこれを救命銃と呼ぶ。

とうしゃ-ほう[投射砲] 驅逐艦や驅潛艇等に備へてある爆雷を，潛航中の潛水艦のゐると思はれる所へ抛り出す大砲のやうなもの。爆雷砲。

とう-しゅ[櫓手] 短艇を漕ぐ人。現今海軍では漕手といふ。

どう-しゅう[同舟] 同船に同じ。➔同項。

とう-しょ[島嶼] 大島と小島と。又單にしま。

とう-しょう[登檣] 檣に登ること。海技訓練の一としても行はれる。

とう-じょう[搭乘] 船・車又は飛行機にのりこむこと。**——せいびいん**[搭乘整備員] 攻擊機・飛行艇等に搭乘し機上作業に從事する整備科の下士官・兵。

どうじょう-ひこう[同乘飛行] ①飛行練習の初期に初步練習機上操縱者の後方に指導者が同乘して飛行すること。➪初步練習機。②報道班員・見學者などを乘せて飛行すること。

とう-しょく[撞觸] 船舶が棧橋・岸壁・浮標等，水邊若しくは水上にある設置物に衝き當り接觸すること。

とうしん-せん[等深線] 海の深さの等しい點を連れた曲線で，これによつて地球上の海の深さの分布を一目に見ることが出來る。

どうしん-ぼう[同心坊] 漁場主又は監督者の目を盜んで漁獲物を盜み又は隱しておいて，その賣却金を私有すること。九州地方では"かんだら"又は"あかまざらへ"といふ。

とう-すい[統帥] 大なる軍隊を統御してこれを指揮運用することをいふ。又統帥術若しくは統帥機關をも意味する。**——けん**[統帥權] 憲法に基づく天皇陛下が大元帥として陸海軍を指揮統御し給ふ大權。

どうずき-ぶね[胴突船] 昔，水戰の時敵の大船に押掛けて，その船腹を突き破るに用ひた，船首を鐵で卷いた軍船。

とう-せき[投石] 海藻類增殖法の一。石灰藻その他無用又は有害なものが蕃殖して沿岸に於ける岩礁面を占領し，有用藻類の胞子が附著する餘地のない場合，或は有用藻類の蕃殖に適する所で胞子の附著すべき岩石に乏しい所などに，新しい岩石を投入して胞子の附著に便宜を與へ蕃殖を助成する。フノリ・テングサ・コンブなどの增殖に行ふ。

とう-せん[唐船] ①支那の船。支那風の船。②琉球の船の一種。支那に往復した純ジャンク型式で容積大きく構造堅固なもの。"たうしん"とも呼ぶ。

とう-せん[燈船] 船上高く燈火を揭げる航路標識船。河口・淺海・暗礁等を標示するために設置される。(燈臺船)

どう-せん[同船] 同じ船に乘り合はすこと。同じ船。

とう-そう[櫓漕] 短艇を櫓(オール)で漕ぐこと。

とう-だい[燈臺] 航路標識の一。沿岸航行の船舶に陸地の所在・遠近・危險個所等を指示して航海の安全を保たしめ，又は入港船舶に港口の位置を知らしめる等のために設けられる高塔で，主として夜間燈光を用ひる航路標識設備。(燈明臺)**——かんしせん**[燈臺監視船] 航路標識視察船の舊稱。➔同項。**——かんり-ようせいじょ**[燈臺官吏養成所] 將來燈臺官吏たらんとする者を養成する所。運輸通信省海運總局に屬し標識科と無線科とある。横濱市中區北仲通に在る。**——ぜい**[燈臺稅] 航海者の安全及び便宜のために設けられた燈臺・暗礁標・浮標等の維持費として，稅關が船舶よりその噸數に應じて徵收する稅金。**——せん**[燈臺船] 燈船(とうせん)に同じ。➔同項。**——ひょう**[燈臺表] 各地燈臺の燈質，高さ及び位置などを詳記した表。**——もり**[燈臺守] 燈臺の番人。**——りょう**[臺燈料] 船舶が燈臺を利用することに對して課徵せられる一定の賦課金。賦課の標準は國により又港により著しく相違する。

どう-たい[銅帶] 櫓の水搔の破損を防ぐために取附けてある薄い銅板。

とうたつ-こう[到達港] 船舶の發航に際して定められたその航海の最終目的港。積荷の陸揚港とは異なる。

とうちゃく-こう［到著港］ ①到達港に同じ。➔同項。②旅客又は積荷の目的港。

とう-ちゅう［膅中］大砲の砲身の内部や小銃の銃身卽ち筒の中のことをいふ。 **——しょうじゅんき**［膅中照準器］ 大砲の膅軸線と照準線とを整合する器械。

とう-ちょう［膅長］口徑を單位として測る大砲の長さ。

とう-ちょう［鬪潮］河口に於ける河流と潮流との激突。潮浪が河口に於いて流水のためその進行を阻まれ，異常の高さに達して奔流する場合（暴漲潮）に見るもの。

どうちょう-せん［同潮線］同時潮線に同じ。➔同項。

とう-ちょく［當直］かはるがはるそれぞれの持場について當番をすること。 **——かん**［當直艦］艦隊の碇泊中その所屬の軍艦の中から順番に通信艇・當番艇を出し又は訪問使などの任務に當る艦のこと。 **——き**［當直旗］碇泊中當直艦の前檣左舷桁端に揭げて，當直艦たることを表示する旗。 **——しかん**［當直士官］航海中商船の船橋にあつて當直する高級船員。 **——しょうこう**［當直將校］ 艦長の命を承け交番に直接艦の保安に任じ日常の艦務を處理するもので，内務長・航海長・砲術長・水雷長・機雷長・通信長・飛行長・副砲長・高射長・飛行隊長及び兵科分隊長（内務科又は飛行科に配屬された艦長指定の者及び機關科に配屬された者を除く）はこの勤務に服し，中佐及び航海中航海長にはこれを課さないのを例とする。 **——てい**［當直艇］ 艦隊の碇泊中當直艦から派遣して艦隊の雜用を處理する短艇。（當番艇）

とう-てい［橈艇］ 橈を以て推進する短艇。その構造及び大小の差異によりランチ・カッター及び帆布艇と稱す。

どう-てき［動的］ 水上を移動させる標的。

とうてつ-ばん［撓鐵盤］肋骨等の撓鐵工事をなす場合に使用する多數の穴ある鑄物製の臺。

とうでん-ようぎょ［稻田養魚］田植後の水田を利用して鯉・鮒・泥鰌・もろこ等を放ち，落水期に取上げるもの。

とうでん-ようしょく［稻田養殖］稻田養魚に同じ。➔同項。

どう-とう［導燈］航行困難なる水道或は狹隘なる灣口等に於いて航路を表示するために設置する燈で，概ね前後に設けた燈光2個を一直線に見て船を進める。

どう-の-ま［胴の間］ 和船の船體の最も廣い場所で舟夫の居間。その上に檣や帆桁をわたし帆を被せて日覆とし，又は苫を用ひて屋根とする。

とう-はつ［膅發］彈丸が故障のため大砲の膅中で破裂すること。

どうばり-せん［銅張船］ 船底を銅板を以て被包した木船。（被覆船）

とう-ばん［當番］番に當ること。又，その人。（當直） **——しょくじ**［當番食事］當直勤務に就かんとする者が，規定の食事時刻よりも早目に食事を濟ませること。 **——つりどこ**［當番釣床］夜間衞兵等が當直任務に服した場合，總員起床時刻になつてもなほそのまま朝食用意の時刻まで睡眠を許されてゐる者の釣床。その釣床に帆布製の札を吊しておく。 **——てい**［當番艇］艦隊の港灣に碇泊中當直艦から交代に派遣し，艦隊の雜用を辨ずる汽艇又は短艇。

どうひ-きじゅうき［動臂起重機］デリック (derrick)に同じ。➔同項。

とう-ひょう［燈標］燈火による航路標識。燈臺・燈竿・燈船・挂燈立標・挂燈浮標等の總稱。

とう-ひょう［頭標］立標や浮標の頂部に別に附する標識。圓筒形・菱形・球形・三角形・立五形などがある。

とう-びょう［投錨］錨をおろすこと。船がかり。拔錨の對。 **——しじき**［投錨指示旗］艦橋にある艦長が前甲板にある錨作業指揮官へ投錨を指示するに用ひる小旗で右錨は青，左錨は赤。作業指揮官は同じ旗を擧げてこれに應ずる。

どう-ひょう［導標］航行困難なる水道或は狹隘なる灣口等に，航路を指示するために設置されたる畫標で，普通その2個を一直線に見て船を進める。

とう-ぶ［頭部］ 魚雷の頭部には火藥がつめてあつて，その前端には魚雷が敵艦に命中した時その衝擊を火藥に傳へこれを爆發させる爆發尖が取附けられてある。 **——こ**［頭部庫］魚雷の頭部（炸藥の充塡してあるもの）を格納する倉庫。

どうふけん-すいさんぎょうかい［道府縣水產業會］ 水產業團體法により設立する法人の一。當該道府縣の區域の全部又は一部を地區とする漁業界及び製造業會を以て會員とし，水產業に關する國策に卽應し，水產業の整備發達を圖り，且つ會員の事業の發達に必要な事業を行ふ。元の道府縣水產會と郡市水產會と道府縣漁業組合聯合會とを合併したものに相當する。

とう-ほう[答砲] 答禮砲に同じ。➔同項。

とう-ぼう[島棚] 海底に屬する島又は群島の周緣帶で，深海に對し緩斜せる棚狀を呈し常淺線より深さ約100尋卽ち200米迄の區間をいふ。**——がい**[島棚崖] 島棚の邊緣の深海に臨んで多少急斜せる斜面。**——けいしゃ**[島棚傾斜] 島棚が終つてから更に沖合に出て傾斜が急になり，その界が明瞭に區別されるやうになる所。

とうぼ-せん[登簿船] 船舶所有者が船舶登記をなし，且つ船籍港所轄管海官廳備附の船舶原簿に登錄することを要する船舶をいひ，總噸數20噸以上又は積石數200石以上の船舶がこれに當る。(登記船)

とうぼ-トン[登簿噸] 純噸の舊稱。➔同項。

とうみ-ばんしょ[遠見番所] 德川幕府で外國船の動靜を監視するため邊海各地に設置した番所。

とうみょう-だい[燈明臺] 燈臺に同じ。➔同項。

とう-みん[冬眠] 魚類などが，冬季に食慾が減退し，全く食物を攝取せずに水底に潛んでゐること。

とうめい-ど[透明度] 水中に光の透る度合。

どう-もん[洞門] 海中の岩が波に浸蝕され，軟かい所が崩れ落ちて門のやうになつたもの。

どう-よう[動搖] 艦船のゆれ動くこと。横動(ロッリング)・縱動(ピッチング)など。**——どめ**[動搖止] 橈艇の外側水準線の直下に縱行する細長い木材。(ビルジ-ストレーキ(bilge-strake))

どうりゅう-てい[導流堤] 河川の工作物で，これに沿つて流水を導くことにより水路の形を整へ水深を維持する役目をなすもの。

どうりょく-ぎょせん[動力漁船] 發動機附漁船その他動力を以て運航する漁船をいふ。

とうれい-ほう[答禮砲] 他艦よりの禮砲に對して軍艦又は砲臺より答禮として發射する禮砲。(答砲)

とうろう-どう[燈籠堂] 燈臺の古稱。

とうろう-ながし[燈籠流] 燈籠に火を點じて川又は海に流すこと。多くは供養のためにする。

とう-わたり[唐渡] 昔，長崎より東京(トンキン)・交趾(コウチ)・カンボチヤ・シヤム等に渡海したこと。寛永15年より禁止された。

と-か[渡河] 船で河を渡ること。泳ぎ又はかちで水を渡ること。**——てん**[渡河點] 軍隊などが川を渡るのに通過する箇所。

と-かい[渡海] ①船で海を渡ること。(航海・渡航) ②小早舟。5～18反帆の船で小早ともいふ。

とかい-せん[渡海船] 瀨戸內海各地方の海上の飛脚船。5～6反帆から17～18反帆のものがある。海を渡る船。河船に對する稱呼。

とき-つ-かぜ[時つ風] ①時に應じて吹く風。➔海陸風。②(古)潮のさしてくる時に吹く風。潮時の風。

とき-ぶね[解船] 船を解體すること。又は解體する船。(解體船)

どきゅう-せんかん[弩級戰艦] 1906年英國海軍で建造された"ドレッドノート"型の軍艦。日露戰役の黃海海戰の結果から戰艦に大口徑砲多數を裝備する必要を痛感した英國海軍が，大艦巨砲主義を採りこの型の出現となり，爾來超弩級・超々弩級戰艦が各國海軍に出現するに至つた。

どきゅうぜん-かん[弩級前艦] 弩級艦の出現以前に建造された戰艦。

ときょう-せん[渡峽船] 海峽船・連絡船に同じ。➔各項。

どく-ガス[毒瓦斯] 海戰に使用される化學兵器の一。窒息性・催淚性・嚏(ケツ)性・中毒性・糜爛性等があつて，航空機上から爆彈に裝塡して投下する法や雨の如く撒布する法，彈丸に入れて發射する方法などがある。條約上これが使用を禁止されてゐるが，對手國で使用すれば報復として必然使用されることとなる。**——だん**[毒瓦斯彈] 毒瓦斯を充塡した彈丸。

とくがた-くちくかん[特型驅逐艦] 巡洋艦との區別がわからない程の大型驅逐艦で外國ではこれを嚮導驅逐艦とも稱す。我が國の響級(1700噸)・白露級(1368噸)など。

とくぎ-しょう[特技章] 海軍各種學校などの練習生教程を修了した下士官・兵に附與される臂章で，これを有するものを特修兵と稱し，俗に章持ち・マーク持ちと呼ぶ。

どく-ぎょ[毒魚] 毒を有する魚で，この內には內臟とか肉に毒を有するものと，鰭の棘の基部に刺毒を有するものとがある。內臟とか筋肉の毒は加熱によつて分解しないが，刺毒は分解する。

とくしゅう-へい[特修兵] 海軍各學校又は練習航空隊等の練習生教程を修了した下士官・兵。普通科と高等科とに分ち特技章を附與せられ，掌砲兵・掌水雷兵・掌機雷兵・掌測的兵・掌水測兵・掌帆兵・掌信號兵・掌喞

號兵・掌電信兵・掌電測兵・掌飛行兵・掌航空兵器兵・掌整備兵・掌氣象兵・掌機兵・掌電機兵・掌內火兵・掌工兵・掌看護兵・掌經理兵・掌衣糧兵と稱せられる。

とくしゅ-かもつ[特殊貨物] 船舶積載貨物分類の一。積附け及び取扱ひに特別の注意を要する貨物，例へば危險品・高價品・生物・水物・重量品・嵩高物等。

とくしゅせん-けんさ[特殊船檢査] 移民船が船舶安全法施行地に於ける最後の港を發航せんとする時，船舶が臨時旅客又は甲板旅客を運送せんとする時，漁船については漁船特殊規則の定める場合等臨時に特殊の用途に使用する時，船舶安全法及び同施行規則によつて行はれる船舶の檢査。

とくしゅ-ひこう[特殊飛行] 錐揉み・急降下・急上昇・横轉・宙返り・急反轉・失速反轉・垂直旋回・横滑り・背面(裏返し)飛行など，いづれも空中戰鬪の時敵機に對し有利な射擊位置をとり，又爆擊機が爆彈を落す際などに行ふ飛行術。

とくせつ-うんそうせん[特設運送船] 普通の商船に戰時事變に際し必要な艤裝を施し，運送船に充用したもの。給兵船・給水船・給糧船・給炭船・給油船・通信船・雜用船などの總稱。

とくせつ-かんせん[特設艦船] 戰時事變などに特別に設けた艦船で，特設巡洋艦・特設水雷母艦・特設航空母艦・特設掃海母艦・特設砲艦・特設掃海艇・特設工作船・特設港務船・特設測量船・特設碎氷船・特設電線敷設船・特設病院船・特設救難船・特設運送船などの種別がある。

とくせつ-こうくうぼかん[特設航空母艦] 高速の客船又は給油船などを改造して武裝を施し，多數の飛行機を搭載するもの。

とくせつ-じゅんようかん[特設巡洋艦] 戰時に商船に大砲などを搭載して巡洋艦として充用するもの。假裝巡洋艦・補助巡洋艦とも稱した。

どくだん-せんこう[獨斷專行] 上司より一旦出された命令が戰鬪中狀況の變化によつて實施不適當となつた場合，これを命令者に尋ねる餘裕の無い時に，已むを得ず受令者が命令者の意圖に合する如く獨斷で處置することをいふ。

どく-ながし[毒流] 柿澁や蕗(ニヲ)・山椒の皮などを春いたものその他の毒物を川上から流し，魚が毒にあたつて浮び上つて來たのを捕へること。禁止されてゐる漁法である。

とく-ねん-へい[特年兵] 特例年齡兵の略稱。➔同項。

とくべつ-ぎょぎょう[特別漁業] 免許漁業の一種。一定の網場・捕獲場・迫込場・曳揚場等を有し又は一定の水面に於いて飼附(カヒヅケ)をなし，漬場(ツケバ)を設け或は築礁(ヅキ)を設けて行ふ地曳網・船曳網・飼附漁業・鯨漁業等で，地方長官の免許を受けて行ふ漁業。

とくべつ-けいやく-ぎょく[特別契約漁區] 露領漁業の協定による工場を設置した特別契約の漁區。略して特契漁區と呼ぶ。

とくべつ-こうげきたい[特別攻擊隊] 大東亞戰爭の劈頭に5隻の特殊潛航艇を以て布哇眞珠軍港に突入し，敵艦隊を强襲していづれも艇と運命をともにした攻擊隊。爾後これに類した行動をとつたものにもこの名を用ひる。

とくべつ-さんとうしつ[特別三等室] 客室等級呼稱の一。設備・待遇ともに普通三等に優るも二等又はツーリスト・キャビンより劣る。

とくべつ-しがんへい[特別志願兵] 朝鮮・臺灣の男子にして海軍の兵役に服することを志願するものを，銓衡の上採用して海軍兵籍に編入したもの。海軍兵志願者訓練所で一定の訓練を實施，それを經たものでなければ受驗することが出來ない。

とくべつ-ぜんこうしょう[特別善行章] 勇敢な行爲・奇特の行爲又は勤務拔群にして衆人の模範とするに足る者に附與せられ，普通善行章の上位に附け金色櫻花を添へてこれを區別する。

とくべつ-そうかいてい-たい[特別掃海艇隊] 特別掃海索を裝置した1對の機動艇若しくは艦載水雷艇數對を以て編成された艇隊。

とくべつ-だいえんしゅう[特別大演習] 大元帥陛下の親しく御統裁遊ばされる大演習。

とくべつ-たんていいん[特別短艇員] 荒天又は緊急の際にカッターの運用に從はせるため軍艦で特別に編成する短艇員。本艦を代表して短艇競漕に出場する場合には，この短艇員を以てするを例とす。

とくべつ-ぼうえきこう[特別貿易港] 貿易の相手國・貿易品の種類に制限があり，又は輸入若しくは輸出の何れか一方のみに限られる特別開港。(特別開港場・制限附開港)

とくべつ-りくせんたい[特別陸戰隊] 陸上戰鬪又は警備のため特別に編成された建制の海軍陸上部隊。軍艦又は艦隊から臨時に派遣される軍艦○○陸戰隊又は第○艦隊聯合陸戰隊などの對。

どくぼく-しゅう[獨木舟] 丸木船(マルキブネ)に同じ。➔同項。

とくみ-どいや[十組問屋] 江戸時代内地貿易をなした各種問屋の組合。江戸・大阪間の漕運中屢々荷打・破船等の海難があつて船頭・水主のこれに乘じ不正を行ひ載貨を盜み或は殊更に荷打の體を裝ひてこれを横領する者もあつたので，回漕業者に對する荷主の同盟を作つたもの。始め10種の組合であつたから，漸次その數を增加したがこの名を用ひた。

とくむ-いん[特務員] 軍艦乘組の軍樂員・看護員・主計員の總稱。

とくむ-かん[特務艦] 練習特務艦・工作艦・標的艦・測量艦・運送艦・碎氷艦など。**——-てい**[特務艦艇] 特務艦・特務艇の總稱。⇨特務艦・特務艇。

とくむ-しかん[特務士官] 特別の任用によつて兵から昇進した海軍高等武官で，從前は海軍特務大尉とか海軍主計特務少尉とかいはれてゐたもの。現今は單に海軍大尉とか海軍主計少尉となり名稱の差別が廢止され兵科及び軍樂・看護・主計・技術の各科に別れてゐる。

とくむ-てい[特務艇] 潛水艦母艇・掃海特務艇・敷設艇・電纜敷設艇・驅潛特務艇・哨戒特務艇など。

とくめい-けんえつ[特命檢閲] 將官が勅命により特命檢閲使となつて行ふ檢閲。⇨檢閲。**——-し**[特命檢閲使] 檢閲を行ふため，勅命によつて補せられる職。

とく-りく[特陸] 海軍特別陸戰隊の略稱。➔同項。

どくりつ-かい[獨立海] 面積が廣大で自海內に起源する强勢な海流があり，他海と絕緣しても鹽分その他が萬事に殆んど影響なく，眞に大洋と稱し得るもののみをいふ。太平洋・大西洋・印度洋。(大洋)

どくりつ-しゃげき[獨立射擊] 軍艦の各砲臺又は砲が，その砲臺長又は砲長の指揮により砲術長の一々の號令を待たずして射擊する方法。一齊射擊の對。

とくれい-ねんれい-へい[特例年齡兵] 水兵・整備兵・機關兵・工作兵・衛生兵・主計兵中，年齡15年以上16年未滿の者は，入團後練習兵と稱し約1ヶ年海兵團に於いて特別教育を受けた後試驗に合格したる者を，それぞれ學校に練習生として入校せしめこれ等は特修兵となる。特年兵と略稱す。

とこ[床]①川の底。②ふなどこ。③舵床(カジトコ)。**——-いた**[床板] 和船の艫の上部に横架せる主要な材で，舵軸を嵌裝する切缺がある。**——-じき**[床敷] 船床の敷板。

と-こう[渡航] 船にて海をわたること。(航海)

とじ-ぶね[綴船] 數個の材料を縫ひ合せて作つた船。(縫合船・接船(ツギブネ))

とせん-ば[渡船場] わたし船で渡す所。(渡場)

と-だて[戸立] 和船の後部を構成し，兩端及び下端は上棚・中棚及び底板に斜に釘著せる主要の板材。

トータル-ロス[total-loss] 全損。➔同項。

ドッキング[docking] 入渠。➔同項。

ドック[dock] 船渠。➔同項。

ドッグ-ウォッチ[dog-watch] 折半直。➔同項。dodge-watch の轉訛したもの。

ドッグ-ショアー[dog-shore] 船の進水する間際まで船體の動くのを止めておく支柱。行止支柱(ヤリトメシチユウ)。トリガー(trigger)の副裝置。⇨トリガー。

とっけい-かんぜい[特惠關稅] 或る特定國間殊に主として本國と植民地間又は自國の植民地相互間に於いて，特に引下げられた稅率を課する割引關稅。

とっけい-ぎょく[特契漁區] 特別契約漁區の略稱。➔同項。

とつ-げき[突擊] 敵中に突貫して攻擊すること。

とっ-てい[突堤] 繫船のため陸岸から水中に突出した堤防のやうな構造物。

とってい-じん[凸梯陣] 中央が突出し左右兩翼に梯形に列れた陣形。突梯陣又は凸横陣ともいふ。

とってい-へんたい[凸梯編隊] 飛行隊形の名。

トップ[top] 檣樓(シヤウロウ)。➔同項。

とっ-ぷう[突風] 突然吹き起り速度の變化著しく且つ方向の急變する風。水平方向のものは飛行機に對し甚しき影響を與へぬが，垂直方向のものは翼に强く衝擊を感ずる。

トップスル[topsail] 上檣帆。横帆船に於いて"コース"直上の帆。

トップスル-ヤード[topsail-yard] トップマストに横架する桁。

トップ-ヘビー[top-heavy] 船の構造上又は貨物積載の關係上船體の重心が上部にある狀態，その程度を過ごすと顚覆する虞がある。

トップマスト[topmast] 上檣。➔同項。

とつ-りょう[突梁] 吊索の滑車を取附けるため檣へ横に突出した臺。(アウトリガー(outrigger))

と-なみ［戸浪・門浪］（古）瀬戸に立つ浪。

とばせ-ずり‥ヅリ［飛せ釣］"たちばづり"に同じ。➔同項。

とび-こみ［飛込］水泳に於いて水上より水中に躍り入る技術。日本固有の飛込は飽くまでも武術として發達した實用的のものであるが，現今の競技では形の美を競ふやうになつた。

ど-ひょう‥ヘウ［土俵］定置漁業の漁具を定置するに用ひる碇で，藁繩製の袋網に人頭大くらゐ以上の大石を詰めて1俵數十貫の重量とし，要所々々に數十俵宛沈めて網の形狀を保つ。網の大小によつて數十俵乃至數千俵を使用する。近頃鐵製の錨に代へたものもあるが矢張土俵と呼んでゐる。

とびら-せん［扉船］船渠の入口を開閉する一種の防水扉。（戸船）

どぶ［溝］水深く流れの緩やかな場所。——**ずり**‥ヅリ［溝釣］沈釣(シヅリ)に同じ。➔同項。

と-ぶね［戸船］扉船(トビラブネ)に同じ。➔同項。

とま［苫・簾］菅や茅で編んだ莚のやうなもの。和船の上部を覆ふに用ひる。——**て**［苫手］日本型漁船等に使用する苫に附せられた細索。苫を葺き合はす際これを緊縛する用をなすもの。——**ぶね**［苫舟］苫で屋根を葺いた舟。

とまり［泊］船著(フナヅキ)。港。津。——**ぶね**［泊船］碇泊してゐる船。掛船(カケフネ)。

トムソンしき-そくしんぎ［トムソン(Thomson)式測深儀］海水の壓力を利用して，水深を表示する裝置の器械。鋼線の先端に鐵錘を附けその上部に著色管を結び著けて海中に投入し，海底に達すればこれを引揚げ藥品の變色により海底の水壓を知り，標深尺にてその水深を測る。又發條を裝置しその壓縮度により水壓を知り水深を測るものがあり，多くの場合兩者を併用する。錘底に詰めた獸脂に附著する物を檢べて底質を檢べる。

とめ-うき［留浮木］浮木が移動せぬやうに錘を水底につけ一定の位置に留めて魚を釣る，池や釣堀などで行ふ釣方。

とめ-がわ‥ガハ［留川］漁獲を禁じてある川。

とめ-き［留木］トグル(toggle)。ベケット(索端の環)を懸け留めるのに用ひる。

とめし　海女が潜水作業中靜かに櫓を押しながら船を同じ位置に止めてゐる役をする者で，海女が息苦しくなつて腰に附けてゐる生綱を引くとトメシがこれを引揚げる。概ね海女の夫である。

とめ-ば［留場］①漁獵・伐木などを禁じてある場所。②簗を架けて魚を捕る場所，そのため一般の漁業をとめてゐる。

とめ-むすび［止結］滑車より索の抜けないやうに索端に作る結節。

とも［艫・艉］船の後方。船尾。

——**おし**［艫押］漁夫中船頭の職名。網船の操縱上最も重要な艫櫓を操縱し船の方向を司る者。これが下手だと操業は完全にいかないので責任の重い役。

——**がい**［艉櫓］艇尾員の使用する櫓。（ストローク-オール(stroke-oar)）

——**じき**［艫敷］和船の最後部底板。（艫航(トモヅカ)）

——**ずけ**‥ヅケ［艫著］船の艫の方を岸に舫ふこと。

——**ながし**［艫流］潮上に舳を向け潮流に隨つて船を流すこと。釣漁の場合などに行ふ。

——**なみ**［艉波］船が航走する時に船尾から起る波。

——**のぼり**［艫幟］もうこれ以上は積めないといふ程の大豐漁の時に漁船に立てる幟。地方的習慣。

——**のり**［艫乘］①膠揚繰網漁船等に乘組める老練な漁夫。②一般に漁撈長格の漁夫。

——**ぶと**［艫太］丹後の與謝海邊にて行はれる，艫の平たくて大きな漁業用の傳馬船。

——**ろ**［艫櫓］艫の方にある櫓。脇櫓・前櫓と對稱す。

——**ろうか**‥ロウカ［艉廊下］將官室の後方，艦尾外舷に設けてある廻廊。現今の軍艦にはこれを設けてない。（スターン-ウォーク(stern-walk)）

ともあし-トリム［艉脚トリム］トリムが船尾に傾斜して船尾の吃水が船首の吃水よりも深い狀態。➔トリム(trim)。

とも-えさ‥エサ［共餌］魚を釣るのに，釣れた魚の肉を切つて用ひる餌。

とも-ずな‥ヅナ［纜・舫索］艫の方にあつて船を繫ぎとめる綱。

とも-ずり‥ヅリ［友釣］掛鉤をつけた絲に鮎の生魚を囮としてつないで水中に放し，鮎を誘ひよせ鉤にかけて捕へるもの。

とも-ど　隱岐の海邊に見られる最も古い和船の一種。3枚の板で矧いだ箱船で櫓と櫂とで動かす。底の兩側が獨木で上櫂をその上に附け，古の刳舟の型式が殘つてゐる。艫太(トモブト)から來た語らしい。

とも-ぶね［友船］①友連の船。つれだつて行く船。②同じ船にともに乘ること。

とも-ぶね［從船］ 大船に從ふ小船。

どよう-こち［土用東風］ 夏の土用の中に吹く東風。

とよう-さくせん［渡洋作戰］ 制海・制空の兩權を掌握し大洋を越えて攻擊する作戰。

どよう-なみ［土用波］ 夏の土用の頃起る波長の長い背に丸味を持つた波。

とよう-ばくげき［渡洋爆擊］ 陸上機が遠い海を越えて敵地に到り，敵の艦・船舶・軍隊・軍事施設などを爆擊すること。

とよはた-ぐも［豐旗雲］ 夕方西の空になびいて見える赤い美しい雲。

ど-ら［銅鑼］ 青銅で作つた盤狀の樂器。"ばち"で擊ち鳴らし船客に食事用意の整ひしことを報ずる等種々通報用に用ひられる。

トライアチック-ステー［triatic-stay］2檣頂を水平に相維持する靜索。（ジャンパー-スティ(jumper-stay)）

ドライ-ドック［dry-dock］乾船渠。➔同項。

トラス-せん［トラス・組桁船］ 沈沒船引揚作業に使用されるもので，2隻の鐵船が組桁で連結されてゐる。人力又は動力で捲揚機を動作させ，引揚げた沈沒船を抱いたまま排水作業を行ふ。

ドラッグ-アンカー［drag-anchor］走錨を知るために前甲板直下に錨索を弛めて投下して置く錨。

ドラッグ-チェーン［drag-chain］制動鎖。➔同項。

トラバース-テーブル［traverse table］平面三角の式を應用し緯度の差・針路・距離・東西距の4要素から構成した表。これらの中2要素を知れば他の2要素を求めることが出來る。甲乙兩地の距離が左程の誤差を生じない範圍では，對數計算によらずこの表を利用し所要の要素を求めて航海する。

ドラフト［draft］吃水。➔同項。

トラベラー［traveller］引揚索の末端に取附けた導環。

トランク-せん［トランク(trunk)船］ 上甲板艙口緣材を6～8尺の高さとし凹甲板の全長に亙り艙口を連れたもので，穀物・石炭等の粒狀貨物の運搬に便利な船型として往時造られたもの。トランク甲板船ともいふ。

トランク-ホール［trunk-hole］大艇の底に設けた孔で錨運搬の際索條を導くためのもの。

トランスポーチング-チョック［transporting-chock］索道。曳索その他の動索を導くため舷上などに設けた受金。デッキ-チョック(deck-chock)ともいふ。

トランソム［transom］艇尾を裝成する材板。（艇尾板）

トランパー［tramper］不定期船。➔同項。

トリガー［trigger］船舶の進水直前，龍骨盤木・腹盤木・行止めが取り除かれた船體を進水固定臺の上に支へおく止金。トリガーには重錘物があり支綱によつて式場で支へてあるからこれを切斷すればこの重錘物が落ち，支へが落ちて船は靜かに進水臺より滑り出す。止金の副裝置を行止支柱（ドッグ-ショアー(dog-shore)又はダッガー(dagger)）といふ。⇨ドッグ-ショアー。

とり-かじ［取舵］船の前進中，艏を左へ向ける時の舵のとりかた。面舵の對。

とり-つき［鳥附］ 魚の群つてゐる上に鳥が集まること。又その魚群。小魚が大魚に追はれ水の表面に群り浮ぶところを鳥が見附けてそこに集り小魚を捕食する。漁業者は鳥の群集飛翔する樣を遠方から見て魚の群集せることを知る。"とりづき"又は"とりやま"ともいふ。

とり-つき［取附］船舶が外洋より陸地に接近し初めてこれを認識すること。初認ともいふ。

とり-つぎ［取次］ 當直將校や准士官以上の傳令及び艦門の送迎等に從事する艦內役員たる水兵。

トリップ-チャーター［trip-charter］定航海傭船契約。➔同項。

とり-の-いわくすふね［鳥の磐楠船］楠の丸太の中身を石の刄物で削り火でこがした丸木船。⇨天鳥船。

ドリフター［drifter］流し網附の掃海作業船。流し網漁船。

ドリフト［drift］①測鉛手用膝覆の上端から水際までの距離。②海流及び潮流の1時間の速度。③船が自然のままに洋上に漂ふこと。

とり-ふね［取船］（遊漁用語）①船宿へ借りる釣船を豫約すること。②船頭つきの釣舟。

とり-ぶね［鳥船］ 神代に用ひられたといふ船。

トリマー［trimmer］石炭・貨物等を均す人。

トリム［trim］船又は飛行機などの釣合。船舶の場合は船首吃水と船尾吃水との差。船尾吃水が船首吃水より大なる時は艉脚トリム，その反對を船首トリム，トリムがない場合をイーブン-キール(even-keel)といふ。

とりもち-あじろ［鳥持網代］ 海鳥が海面近くにゐる小魚群を空中か

ら狙つてこれを襲ふ，この小魚群の下には大魚が集り群れて居る，それを漁師が多數の漁船で取卷いて漕ぎ廻りながら釣る。廣島縣に行はれる特異な漁法。鳥附漕釣(とりつきこぎつり)といふ。

とり-やま［鳥山］ 魚群に追蹤してゐる鳥群。⇨魚群(ナムラ)・鳥附(とりつき)。

と-りょう‥レウ［塗料］ 塗具に同じ。➔同項。

ドルフィン［dolphin］ 繫柱・繫船浮標。船舶繫留のため水中に設ける柱形の構造物。 **——-ストライカー**［dolphin-striker］ボースプリットの下面より垂下する鐵杆で，ジブ-ブーム及びフライング-ジブ-ブームを下方に維持する靜索に角度を與へるためのもの。

どれい-ぼうえきせん［奴隷貿易船］ アフリカで購買若しくは掠奪した黑人を，アメリカに輸送し奴隷として取引するのに用ひた大型の武裝した木造船。西班牙・葡萄牙・ブラジル人が主に奴隷賣買業に從事した。

ドレッジ［dredge］①底棲生物を採集する用具。熊手のやうな鐵製の齒が口の所に附いてゐる函形の金網で，これに太い鋼索をつけて海底を引掻きまはす。②爬網(ケタアミ)。桁網(ケタアミ)。鋤簾。

ドレン-コック［drain-cock］蒸氣の凝縮した水を拔取る活嘴。(疏水嘴)

ドレン-もとくだ［ドレン(drain)主管］ 船の殆んど全長に亙る鐵管で各區劃にその支管を分岐し，ポンプで任意の區劃の水を排出することが出來る。疏水主管又は主疏水管とも稱す。

とろ［滯］河水の流れの靜かなこと。又，その所。

どろ-うたせあみ［泥打瀉網］底質泥土の所に於いて使用する打瀉網の一種。

ドローグ［drogue］①海錨。➔同項。シー-アンカーの別稱。②捕鯨用銛綱の浮標など。③飛行場上空に揚げる風向指示用のズック製長圓筒。

ドロップ-キール［drop-keel］ 潛水艦が潛航中或る原因のため操縱の自由を失ひ安全深度以下に沈降せんとする場合に，艦内の排水により難き時は中央部キールの一部に取附けられた鑄鐵又は鑄鐵中に鉛を流し込んだ5～7噸の重量(水上排水量500噸位の潛水艦で)を，艦内より必要に際し落下させて急激に浮力を得る裝置。(落下龍骨)

とろみ 小魚の大群の浮游によつて生ずる海上の小波と，微風によつて起る小波と，互に消し合つて靜かになるといふ海面に於ける現象。又鯖の排泄物等によつて附近の波立つた海面がそこだけ滑らかになるのを"鯖のトロミ"といふ。

トロール［trawl］トロール漁業の略稱。正しくは汽船トロール漁業といふ。 **——-ウィンチ**［trawl-winch］トロール漁船で網を引揚げる際に使用する强力なウィンチ。蒸氣で動かすのと電動機で動かすのと2種がある。 **——-ぎょぎょう**‥ギヤウ［トロール漁業］汽船トロール漁業に同じ。略して單にトロールともいふ。⇨汽船トロール漁業。 **——-せん**［トロール船］トロール漁業に從事する漁船。

と-わた-る［門渡る］①(古)海を渡る。②河・海などの狹き處，卽ち瀨戸・川戸を渡ること。

トン［噸・ton］一般に物の重さと大きさを示す單位で，重量については2240封度(1.016瓩＝270.95貫)を1噸とし，容量については40立方呎(1.133立方米)を1噸とする。艦船については重量を基準として排水噸・重量噸，及び容量を基準として總噸・純噸・容積噸等の種類がある。

ドンキー-エンジン［donkey-engine］補助機械。➔同項。

ドンキー-ボイラー［donkey-boiler］ 補助罐。➔同項。

どんぐり-ぶね［團栗船］北國船(キタブネ)の別稱。➔同項。その形が團栗に似てゐるのでこの稱がある。

トン-すう［噸數］ 噸に同じ。話し言葉としては"噸數"が用ひられる。排水噸數・總噸數はその例。 **——-かいこう**［噸數開口］噸數輕減口ともいひ2層以上の甲板を有する船舶で，規程の位置の甲板に開口を設けその下部の區劃の總噸數及び純噸數を除外すること，又その開口。(トンネージ-オープニング(tonnage-opening))

トン-ぜい［噸稅］ 外國貿易のため，外國に往來する船舶が開港場に入港する時，その都度稅關に納める稅金。 **——-ほう**‥ハフ［噸稅法］噸稅につき規定した明治32年3月公布の法律。

どんび 鰯を生けておく竹で編んだ生簀(イケス)の俗稱。ボテともいふ。(志摩地方の方言)

とんぼ-なわ‥ナハ［蜻蛉縄］ "びんながまぐろ"の漁獲を目的とする鮪延縄。"とんぼ"とは"びんながまぐろ"の別名。(鮪縄)

トンボロ［(伊) tombolo］陸と島との間に砂洲が出來て，陸と島とつながつて半島になつた洲。陸繫島。➔同項。

な

な［魚］（古）食用とする魚類。（さかな）

ない-かい［内海］狹小な海峽により，海洋と連絡し，陸地で圍まれた"海"より小さい水面。⇨うちうみ。

ないがいげん-がかり［内外舷掛］軍艦の内外舷を清潔に保つ事に從事する艦内役員。

ないか-てい［内火艇］"うちびてい"に同じ。➔同項。

ないか-みんせん［内河民船］中支地方では，外洋を帆走する戎克(ジャンク)に對し，内河クリークを主として航行する船をいふ。單に民船とも稱す。支那政府の交通部などでは，汽船以外の小さい船，卽ち帆・櫂・橈又は櫓を用ひる船を總て民船と稱へてゐる。

ない-げん［内舷］船體の内側。

ない-こう［内港］港の内部で河川或は陸地に深く入り込んだ部分。外港の對。

ないこう-しかくせん［内航資格船］内地各港間を往來し得る資格ある船。

ない-こく［内殼］二重船殼の潛水艦の内側の殼。船體そのもので，防水隔壁によつて數室に區劃され，發射管室・乘員室・二次電池室・械械室・電動機室・發令所などが各區劃の中に設けられてある。

ないこく-ぼうえき［内國貿易］一國の領土内に於いて行はれる通商交易で，その性質は内國商業といふに同じ。外國貿易の對。**——こう**［内國貿易港］外國貿易港を除きその他の港は内國貿易港。内國貿易船の出入は自由であるが，外國貿易船は特許を得た場合の外出入することが出來ない。外國貿易港の對。

ない-すい［内水］領水の一種。湖水・河川・運河などの稱。**——うんが**［内水運河］内地水運用の船舶を通航させる人工的水路。海路運河の對。**——ぎょぎょう**［内水漁業］陸地内の湖沼・河川の漁業。**——せん**［内水船］湖水・河川・運河・港灣などを航行する船。航海船の對。

ないせん-ぶたい［内戰部隊］本國の沿海域に於いて警戒に從事するとともに，來襲の敵艦艇を邀へ擊つ部隊。外戰部隊の對。

ないたい-かっしゃ［内帶滑車］殼(カラ)の内部に鐵帶を挿入してある木製滑車で，ピンはこの鐵帶により支持せられ比較的堅牢なもの。

ない-てい［内底］船舶の二重底の上側。

ないとう-ほう［内膅砲］砲の膅中に小銃を取附けて射擊訓練用に用ひるもの。

ナイト-グラス［night-glass］夜間海上に於いて使用する双眼鏡。特種レンズによつて普通の雙眼鏡では視認困難なものをも能く見ることが出來る。

ないねん-きかん［内燃機關］機關の氣筩内で直接に燃料を燃燒させる原動機の總稱。瓦斯機關・石油機關・ガソリン機關・ディーゼル機關等がある。

ないねん-きせん［内燃機船］内燃機關を裝備してゐる船。海軍では内火船(ないかせん)と稱す。

ない-は［内波］海水の溫度や鹽分の濃淡の差が著しい水層が重さなつてゐる時にその界面に起る波。海面にあたる風又は潮流が急に方向や速力を變へた場合に起ることもある。

ないむ-か［内務科］艦内防禦・運用・電機・艦内工作及び潛水に關することを擔當する軍艦内の一科。⇨運用科。

ないむ-ちょう［内務長］軍艦に於いては艦長の命を承け内務科員を監督し，戰鬪に當りその指揮を執り，艦内防禦・運用・電機・艦内工作及び潛水に關することを擔任しこれが教育訓練を掌り，主管の船體機關・機關附屬物・艦船艤裝品及び兵備品を整備する職員。

ない-ゆうせい［内遊星］火星・金星のやうに，その軌道が地球軌道の内にある星。

ない-よう［内洋］内海。入江。

ないりく-か［内陸河］地表の水が集つて流れる水路が大陸内に終る河。

ないりく-すいろ［内陸水路］内陸に於ける川湖の水路。

ない-りゅうこつ［内龍骨］龍骨の上面に取附けた添材で，肋骨を上から抑止し檣及び肋材下端の座をなすもの。

ない-わん［内灣］山岳に圍繞され風浪を遮蔽してゐる水面。

なえ-ば（方）潮流の小錯合してゐる所。熊野灘から紀南地方の浦々で用ひられる語。

な-おり [波折] 波の折り重なつて高く立つこと。高波が挽め折れるやうになること。

なが-さ [長さ] 上甲板梁上にて，船首材の前面から船尾骨材の後面までの水平距離をいひ，これを垂線間の長さといふ。⇨長幅深(ナガクフカシ)。

ながさき-ぶぎょう [長崎奉行] 江戸時代に長崎の市政を管し，支那・和蘭などとの外國貿易上の事務と海防の事を掌つた職名。

なか-し [仲仕] 船舶搭載貨物の積卸に從事する港灣勞務者。

ながし-あみ [流網] 長い幕狀の網で，魚の通路に張り下し長時間潮流に從つて流し，流れを上下する魚類を網に鑷絡させて漁獲する網。**——ぎょせん** [流網漁船] 流網を使つて漁業する船。

なか-しお [中潮] 大潮と小潮との中位で，干滿差が中間の程度の潮汐。⇨大潮・小潮。

なが-しお [長潮] 小潮の後，滿干の差が最も少く流れが緩漫になり，滿潮から干潮になるまでの時間が最も長くなる時。だれ潮ともいふ。

ながし-かじ [流舵] 舵を後方に傾けて斜に差入れること。漁船の航走中順風にて舵の働を多く要せざる時，若しくは海岸を航走する際，舵の抵抗を避けるためにこれを行ふ。

ながし-ずり [流釣] ①海釣では舟を潮の流れに任せて流しつつ釣ること。(不精釣・隱居釣) ②川釣では釣餌が自然に流れて行くやうに見せて釣る方法。

ながし-はつほ [流初穂] 神樣に奉る御初穂を海に流して獻上するもの。主に軍艦の乘員によつて行はれ，御初穂を樽の如きものに收めて金刀比羅宮に奉獻するといふ幟を立てて流すと，附近の漁船がこれを拾得して金刀比羅宮に屆け，海岸に漂著すれば村人がこれを屆ける風習がある。

なか-す [中洲] 風浪のため海中に土砂の堆積した所，又は流下した土砂の河口又は河中に堆積してゐる所。

なか-ずみ [中積] ①荷物などの中程に積むこと。②積荷の中程に在るもの。**——せん** [中積船] 遠洋漁業に際し，漁期中物資を內地から漁場へ運搬し，漁獲物を漁場から內地へ持ち歸る船。"なかつみぶね"ともいふ。

なか-だな [中棚] 櫓艇の沒水部を構成する傾斜してゐる舷板。

なかつわたつみ-の-かみ [中津綿津見神] 海を掌る神。

なか-とだて [中戸立] 漁船の中間に隔壁を設くるにあたりその仕切板となるべき板材。中仕切ともいふ。

なが-とろ [長瀞] 瀞の長く續いて居る所。⇨瀞。

なが-なみ [長波] 波長が水深に較べて十數倍もあるやうな波。

なかぬき-あみ [中抜網] 鮭・鱒の漁獲に用ひる定置漁業建網の一種で，露領漁業に於いて魚族保護の立場から餘り成績の擧らぬやうに條約で許されてゐる最も非能率的な角型の網。

なか-のり [仲乘] 地曳網その他の網漁に，網船に乘つて指揮する人。二艘卷の網に於いては多くは逆網船に乘つてゐる。⇨沖合。

なか-ばしら [中柱] 大型和船の大檣と矢帆柱との間にある檣。

なか-ほど [中程] 索の中部(端に對し)。1本の索を廻して使用する場合，その彎曲せしめた部。(バイト(bight))

ながもち-ぶね [長持船] 陸上を持ち運び行く船。櫓櫂を內に入れ，艤軸を疊み込む。(疊船(タタミブネ))

なぎ [凪] 風が止んで海上の波の穩かに靜まること。朝夕海陸風の交代するので生ずる無風。時化(シケ)の對。

なぎさ [渚・汀] 平らな岸に波の打寄せる所。(なみうちぎは・みぎは)

なぎ-すじ [凪筋] 靜かな海上に白く線を引いたやうになつたもの。

なぎり 日本型漁船の加敷(下棚)の上に横たへ，板子(簀板)を敷くべき臺となる梁材。

なぐら 靜岡地方漁夫の語。波のうねり。沖に立つ高波。"なぶら"ともいふ。

なぐら 魚群(ナムラ)・なぶらに同じ。➔各項。

なげ-あみ [投網] 投網(トアミ)に同じ。➔同項。

なげこみ-ずり [投込釣] 車竿或は手で鉤を遠くに飛ばして磯魚などを釣る釣方。(打込釣・投釣)

なげだし-せんぷく [投出船腹] 不況對策として採算を度外視した格安運賃率を以て荷主に提供する過剩船腹。

なげ-に [投荷] 共同海損行爲の一。海產卽ち船舶及び積荷その他が海上の危險に遭遇した場合，船舶及び積荷の共同の安全と利益のために，船長が故意に船舶(帆・檣・索具・錨・鎖・圓材等)又は積荷の一部を海中に投棄する行爲をいふ。(打荷・刎荷)

なご (方) 鱁(ボラ)のこと。伊豆地方の語。

なご-の-わたり (方) 蜃氣樓のこと。伊勢四日市地方の語。

なごり［餘波］①風の風いだ後に，波がまだ全く靜まらないこと。②波が退いても尙ほ濱に殘る水。

なだ［灘］潮流が强く又は風波が荒いため，航海の困難とされた海。**——いみ**［灘忌］昔，航海を忌み嫌つた日。1・9・17・25日など，又7・17・27日をも凶日として忌んだ。**——し**［灘師］急流や早瀨などの案内をしたもの。**——ぶね**［灘船］攝津國灘地方の廻船。灘酒を積み送る船。

ななつ-の-うみ［七洋］世界の海のこと。從來は南北太平洋・南北大西洋・南北氷洋・印度洋をいつた。

なぶら　魚群(ナムラ)に同じ。➔同項。

なま-うお‥ウオ［生魚］漁獲したままの加工せざる魚で，氷藏魚・冷藏魚をも含む。その中の生鮮魚は最も新鮮で活魚に近い程のもの，鮮魚は生鮮魚に次ぐ新鮮なものをいふ。

なま-えさ‥エサ［生餌］魚を釣るに用ひる蟲・蝦・章魚・烏賊及び魚類などの新鮮なのを餌とする。

なみ［波・浪］海・河・湖水などの水面に生ずる水の運動。波の山から山に至る水平距離を波長，谷から山に至る垂直距離を波の高さといふ。ウネリは遠方の洋上に在る低氣壓によつて起つた波が傳播して來たもので，波の高さに比べて波長が非常に長いのを特徴とする。夏季我が國太平洋岸に多い土用浪といふのはこのウネリの事である。津浪は地震又は火山の破裂等による海底の震動及び暴風等によつて起る波高・波長・速度・週期の大きい波浪が突然陸地に侵入するもの。海嘯は潮汐が漏斗狀の河口や水道へ侵入する時，前部の抵抗により海水が壁のやうになつて突進するもの。(波浪)

〜-あと［波跡］打寄せた波の痕跡。

〜-うち-ぎわ‥ギハ［波打際］波のうち寄せる所。なみぎは。➔なぎさ・みぎわ。

〜-おろし［波颪］水面を吹いて波をたたせる强い風。

〜-がしら［波頭］波の高まつたいただき。(波頂)

〜-きり［波切］①波を切り破つて突き進むこと。②船のへさきの下部殆んど水に入る部分。

〜-さか［波坂］波の勾配。

〜-じ‥ヂ［波路］船の通ふ路すぢ。(ふなぢ・しほぢ・航路)

〜-の-あや［波の文］波の皺。波紋。波の縱横に打ち寄るさまが綾織物を織るに似たるをいふ。

〜-の-しわ［波の皺］波によつて現はれる水面の皺。波紋。

〜-の-はな［波の花］①白波を花に譬へていふ語。②食鹽の異稱。

〜-の-ほ［波の穂］波の高く立つたそのいただき。(なみほ・なみがしら)

〜-の-みね［波の峯］波の一番高くなつたところ。

〜-のり［波乘］海岸に打ち寄せる波の上に乘り泳ぐこと。寄波に板を浮べ，それにつかまつて波に乘りつつ岸の方へ泳ぐのに用ひるものを波乘板といひ，それを用ひて泳ぐことを波板乘といふ。

〜-びらき［波開］未だ航路の開けてゐない海を初めて渡ること。

〜-ま［波間］①波と波とのあひだ。②波の打寄せざる間。波のたえま。

〜-まくら［波枕］①船路の旅。船中にねること。(なみのまくら)　②枕もとに浪の音の聞えること。

〜-やぶり-ぶね［波破船］小早(コハヤ)船に同じ。➔同項。

〜-わり［波破］和船の軸の名稱。(なみきり)

なみ-うち［竝打］　數十艘の漁船が2列に竝び一齊に網を投ずること。

なみ-かっしゃ‥クワ［普滑車］最も常用される木製滑車で，これに帶索を施し鉤又は心鐵を附けてある。

なみきる-ひれ［切浪比禮］　波をしづめる效があるといふ上古の寶物。振浪比禮(ふるなみヒレ)の對。

なみ-テークル［普絞轆］　鉤及び心鐵を有する各1個の複滑車及び單滑車に1條の通索を通したテークル。船內に於いて最もひろく使用するテークルで，"ジッガー"・"ラフテークル"等種々の稱がある。

なみふる-ひれ［振浪比禮］　波をおこす效があるといふ上古の寶物。切浪比禮(きりなみヒレ)の對。

なみ-よけ［波除］　①波をよけるために設けたものの總稱。②商船に於いて船首に上つた波を出來るだけ喰止め，その後部一番艙口等に大波の來るのを防ぐ用をなすもの。(ブレーク-ウォーター(break-water))　➔艦首水除(カンシュスイヂョ)。**——ぐい**‥グヒ［波除杙］打ち寄せる波によつて河岸・堤などの崩れるのを防ぐため，岸・海中等に波除に立てつられた杙(クヒ)。

な-むら［魚群］　魚の群集。普通水面に鰹・鮪・鯖などの群集してゐるものをいふ。鰹などは多くの場合，鯨や鮫(じんべいざめの類)又は流木に附いてゐる。それに又鳥群が附隨してゐるのが普通であるが，鯨や流木又は鳥

群などもなく，魚だけの大群の場合を素魚群(ムラ)といふ。訛つて"なぶら"又は"なぐら"ともいふ。

なや-しゅうらく［納屋聚落］盛漁期に漁民が，海岸の近くの納屋に集つて住む小部落。

なや-もと［納舍元］漁船と漁業に要する小道具とを網組に提供し，漁業經營の責任者となり，且つ漁撈中は親船に乘り指揮するもの。

ならいナラヒ［乾風・北風］(方)北系統の風。舟人の語。

ならび-うち［竝打］數人又は數艘の船で，同じ方向に進みつつ魚群に向つて投網を打つこと。

なりゆき-うんちん［成行運賃］海運取引用語。荷物を容易ならしめる等のために，豫め運賃を決定せず市場の成行によつて臨機に取極められる運賃。

なる-せ［鳴瀬］水音の高い川の瀬。

なる-と［鳴門］潮水が激して急流となり渦等まき起つて鳴りひびく瀬戸。

なわ-ずりナワ［繩釣］延繩(ハエナワ)又は曳繩(ヒキナワ)を用ひて魚を釣ること。⇨延繩・曳繩釣。

なわ-たてナハ…［繩楯］昔船戰の時，繩吸簾のやうに船側の水際まで垂らして船體の楯としたもの。

なわ-ばしごナハ…［繩梯子］2本の繩を縱に平行にして，所々に棒を横たへ梯子にしたもの。

なわ-はちナハ…［繩鉢］延繩を1鉢づつ納める容器で，餌を容器の緣にかけて整頓する。多くは丸形の竹籠。

なわ-ぶねナハ…［繩船］延繩(ハエナワ)を用ひて漁業する船。

なん-い…ヰ［南緯］赤道以南の緯度。⇨緯度。

なんかい-はく［南海船］安南・廣州(廣東)間を通つた南蠻船。出帆のとき先づ鳩を飛ばすのを例とした。眞如法親王の廣州を船出せられし時これに御乘りになつたことで知られてゐる。

なん-きょく［南極］地軸及び天球の軸の南端。北極の對。⇨北極。**——きより**［南極距離］天球上の南極と或る天體との角距離。**——けん**［南極圈］地球上南緯66度30分の地を連結した線及びその線以南の地方の名稱。この圈以南は南寒帶で，夏至前後の一定期間は全く太陽が地平の上に現れない。又，冬至前後には若干日間太陽が沒しない。南極に至れば半年間は晝，他の半年間は夜である。**——せい**［南極星］天球の南極に近い光度

の低い五等星の微光星で，辛うじて肉眼で視得る。**——たんけん**［南極探檢］南極探檢は18世紀より試みられたが南極圈内に到達し得なかつた。1910年ノルウェー人アムンセンが初めて南極に到達し，翌1911年英人スコットも到極したが歸途吹雪のため全員遭難し，同年(明治42年)我が白瀨中尉は開南丸にて出發し南緯76度6分に達し，附近の氷原を大和雪原と命名した。1928～29，1933～34年米人バードは飛行機を南極の上空に飛ばして種々の研究を遂げた。

なんき-るい…ルヰ［軟鰭類］硬骨類の一目で，脊・腹・臀鰭は棘條なく，すべて軟らかに胸鰭の前方に腹鰭あり，鰾を具へてゐるが，食道と連絡する導管を持たない。淡水產のものもあるが多くは海產の魚類で鱈・鮃などはこれに屬する。

なん-こう…カウ［難航］暴風雨・激浪のために困難する航海。

なんこつ-ぎょ［軟骨魚］骨骼はすべて軟骨からなる魚で，口は腹面に開き，體の表面には楯鱗と稱する粗雜で微小な鱗を被る。鮫類。

なん-すい…スヰ［軟水］カルシウム・マグネシウム等の鹽類を含むことの少い水。洗濯・染色・汽罐用水に適する。硬水の對。

なん-せん［難船］船舶が航行中風浪のため破損或は顚覆し又は暗礁に乘り上げたりすること。**——しんごう**…ガウ［難船信號］船舶が危難に罹り他船又は陸地から救助を求める信號。(遭難信號)**——もの**［難船物］遭難船に積んであつて水に浸りなどした貨物。

なんたい-どうぶつ［軟體動物］內骨骼を持たない體質の柔軟な動物。體は外套膜で包まれてゐる。外部骨骼は體の外面に存在する場合(貝類)，體內に二次的に埋沒する場合(イカ類)及び全くこれを缺くもの(タコ類)等がある。水陸に廣く分布する。

なん-ちゅう［南中］太陽又は他の天體がその地の子午線上に來ること。(正中)

なん-でい［軟泥］有孔蟲・珪藻その他の生物の遺骸及び赤色粘土等より成る海底の泥。

なんど-ぶね［納戸船］小荷物を運送する船。(小荷駄船)

なん-ぱ［難破］暴風雨などのために船舶の破壞すること。(難船)**——かもつ-きゅうじょせん**…ケウ…［難破貨物救助船］難破船の搭載貨物の揚收に從事する船。**——せん**［難破船］難破した船。

ナンバン　船員俗語。火夫長のこと。No. 1 oiler(ナンバーワンオイラー)の轉化。

なん-ばん［南蠻］物を引き寄せ又は吊し上げるに用ひる滑車。(轆轤)　**——せん**［南蠻船］室町時代末期以降，江戸時代の初期にかけて，南蠻方面即ちマニラ・ジャワ・マカオ等の南洋諸國から來朝したポルトガル・イスパニヤ等の船を漠然と呼んだ名稱。(黒船・紅毛船)

なん-びょう［軟氷］表面の軟かい氷の總稱。生長の初期で表面がまだ堅くならない薄い氷で，人又は海驢を乘せ得ざる程度のもの。

なんびょう-よう［南氷洋］南極を繞(メグ)る海洋。

なん-ぷう［軟風］①波の間に處々白波を見る程度の風。②秒速 3.4～5.4 米の風。

なん-ぷう［難風］船の進行をさまたげる風。

なん-めい［南溟・南冥］南方の海。北溟の對。

なん-よう［南洋］①太平洋中赤道を界としてその南北に沿ふ海洋。地理學上の範圍については各國ともに一定せぬが，我が國では通常ジャワ・スマトラ・ボルネオ・フィリッピン等の外南洋諸島と，マリヤナ・マーシャル・カロリン・パラオ等の内南洋諸島を總稱する。②南洋群島の略稱。　**——ちょう**［南洋廳］我が統治下の南洋群島(マーシャル・カロリン・マリヤナ諸島)を統治する官廳で，長官は大東亞大臣の指揮監督を承ける。

に

ニー［knee］支金(ブラケット)。➔同項。

に-あげ［荷揚］積荷を船より陸に揚げること。　**——こう**［荷揚港］積荷を陸揚げする港。積荷港・荷積港・積取港の對。　**——にんそく**［荷揚人足］船舶積載貨物の揚卸しをする勞務者。　**——ば**［荷揚場］荷揚げする所。(あげば)

に-あし［荷足］脚荷(アシニ)に同じ。➔同項。

にうけ-にん［荷受人］積送貨物の受取人。

にうり-ぶね［煮賣船］川筋または港内などで旅船に漕ぎ寄せて客に酒肴をすすめ，又餅・果物の類を賣る小船。

におくり-にん［荷送人］積送貨物の發送人。

に-おろし［荷卸］船舶搭載貨物をおろすこと。

にかい-つくり［二階作］和船の作りの一種で，船側の櫂板(ガンバン)を2枚重ねたもの。

にかけ-ぐさり［荷掛鎖］荷役の際重量物の揚卸しに用ひる吊鎖。(チェーン-スリング(chain-sling))

にかけ-ずな［荷掛索］重量物の揚卸しに用ひる吊索。(ロープ-スリング(rope-sling))

にが-しお［苦潮］一局部に一時に多量のプランクトンが發生して水の色を變へ，時に魚介藻類に惡影響を及ぼすもの。水の色は多くは黄又は黄綠色となる赤潮のこと。➡赤潮。

にがし-べん［逃弁］汽缶の上下兩端に作られた戻止めの弁で，平常時には發條の作用で密閉されてゐるが，汽機運轉中或は汽缶内に溜水し不當の高壓力を生じた時に自動的に押し開かれてそこに溜つた液體を逃がすもの。

に-がわせ［荷爲替］隔地者間の賣買に於いて賣主が買主を支拂人として爲替手形を振出し，賣買した貨物又は有價證券を擔保として銀行に割引を求める擔保附手形割引。➡荷(附)爲替手形。

にがわせ-てがた［荷爲替手形］隔地者間の賣買に於いて代金取立又は代金取立前，資金の融通を受けるため，賣主が賣買の目的物を代表する有價證券(船荷證券・貨物引換證等)又は賣買の目的物たる有價證券を擔保として添附し，買主を支拂人として振出す荷爲替取組みのための爲替手形。荷附爲替手形ともいふ。➡荷爲替。

にき-しんごう［二旗信號］國際信號旗中の2旗で意味を示す重要信號・遭難信號・行船に關する信號等。

にきゅう-せん［二級船］管海官廳が船舶安全法施行細則により船舶定期檢査執行の際，その構造・材料・工事及び現狀に應じその長さ及び速力を標準として定める船舶資格の一。汽船は長さ30米以上最强時速8海里以上，帆船は長さ20米以上のもの。航行區域は近海區域以内に限る。

にぎり-ずな［握索］船の舷門出入用舷梯の手摺(タスリ)の末端についてゐる索。達著した舟艇から本船に乘り移る際にその索を握り輕く身を支へて梯の下段に上る。(メン-ロープ(man-rope))

にぎり-て［握手］櫓(オール)の漕手が握る内端の細き部をいふ。

に-くさび［荷楔］ 船の兩舷を藁で包みかこひ，波のあたりを避け和らげるもの。（にくさい・にくさみ）

に-ぐり［荷繰］ 積附の都合等により積荷を艙内に於いて轉置すること。

に-ご［荷粉］ 運送中に生ずる積荷のコボレ・破片又は包裝よりの漏脱物の總稱。

にこう-ずみ［二港積］ 同一口の荷物の積地が2港に亙ること。

にごし-づり［濁釣］ 濁つた水の中で餌を喰ふ習性のある黒鯛・はぜ等を釣るのに，水の一部を濁しそれを見て集まるのを利用して釣る方法。

にごり-ぐち［荷棚口・艙口］ 和船の荷を積入れる口。

に-さばき［荷捌］陸揚貨物を仕分け整理して各受荷主に引渡す事務をいひ，荷捌をなす人を荷捌人といふ。**——じょ**［荷捌所］荷捌をなす場所。

に-しき［荷敷］積荷の移動を阻止するために敷込む木片・藁蓆等。（ほて・ダンネーヂ(dunnage)）

にじ-でんち［二次電池］ 潜水艦の電動機に電流を供給する蓄電池。鉛電池とアルカリ電池の2種ある。 **——しつ**［二次電池室］潜水艦の水中原動力たる二次電池を格納してある室で，乗員室の床下にある。

にじゅう-きらい［二重機雷］ 2個で1組になつてゐる機雷で，その1個が爆發するか，又は敵に掃海されるかすると，他の1個が海底から昇つて來て有効な位置をとる裝置になつてゐるもの。

にじゅう-しお［二重潮］ 海中に二つの層をなした海水が互に反對方向に流れるもの。"ふたへしほ"ともいふ。

にじゅう-てい［二重底］二重に構成された艦(船)底。外方のものを外底，内方のものを内底と稱し，兩底の間を多數の防水區劃に分ち，船體の强度を增大するとともに擱坐損傷の際外底が破損しても尙ほ内底で海水の浸入を防ぐことが出來る。水槽ともいひ，飲料水・罐水又は海水を入れ必要に應じポンプで排水する。（複底）

にじゅうてい-すいそう［二重底水槽］ 船舶の二重底を水槽に利用したもので，この中に海水を充して脚荷とし貨物を積まない場合にも成るべく深く船體を沈め，推進器や舵が有效に水につかり安全に航海が出來るだけの吃水をつくる。

にじゅうよじかん-きそく［二十四時間規則］ 交戰國の軍艦は，中立國の港灣に24時間以上碇泊することを得ずといふ戰時國際法による規則。

に-しり［荷尻］ "ほてに"同じ。➔同項。

に-じるし［荷印］ 貨物の包裝面に記載する文字・記號又はその組合せで，貨物の性質・到達地・荷送人・荷受人等を簡單に示すことによつて運送取扱を便利ならしむるもの。

に-すき［荷隙］ 積附けの都合によつて搭載貨物の間に出來た隙間。

にずみ-こう［荷積港］積荷港に同じ。➔同項。

にそう-こうはんせん［二層甲板船］2層の甲板を有するか，又は1層の甲板と甲板を張り得る1層の甲板梁を有する船舶をいふ。

にそうばり-あみ［二艘張網］ 敷網類の一種。2艘の漁船を使用し主に鰯及び鯵などを漁獲する。

にそうびき-きせんそこびきあみ-ぎょぎょう［二艘曳機船底曳網漁業］一つの網を2艘の船で曳き擴げながら曳く機船底曳網。機船底曳網は概ね二艘曳である。➪機船底曳網。

にそう-まき［二艘旋］ 鰯揚繰網その他の旋網を2艘の漁船に分載して，魚群を包圍し漁獲する方法。一艘旋の對。➪揚繰網。

に-たり［荷足］荷足船の略。➔同項。**——ぶね**［荷足船］河川の運送や渡船などに使用し，又は漁船・遊船に用ひられる小形な和船。（荷足）

にち-ぼつ［日沒］ 太陽が地平線下に沒すること。ひのいり。

にちょう-だて［二挺立］猪牙舟の一名。➔同項。

にちょく-しょうへい［二直哨兵］艦内の哨兵を兩分して警戒すること。4分したものを四直哨兵，8分したものを八直哨兵といひ警戒の程度に應じて定める。

にち-れい［日令］ 司令部から隊務に關し麾下の艦船部隊に發する命令の一種で，最も當面的なもの。

にっ-か［日課］ 艦内で朝の總員起床から夜の巡檢まで毎日定例になつてゐる課業。 **——ていれ**［日課手入］艦船部隊で毎日朝食後，時を定めて行ふ居住甲板の掃除，露天甲板の金物磨き，武器手入などの總稱。

にっこう-べん［日光弁］燈臺守の居ない燈臺で，日光の作用により自動的にスイッチを開閉し燈を點滅させる裝置。中央を支へられた硝子管の兩端に黑く塗つた球と透明な球とが附いてゐて，中に容れてあるアルコールは黑球の日光による冷熱で移動しスイッチを開閉する。

にっ-さ［日差］ 經線儀が1日の間に標準平時よりも進み又は遲れる秒數。

にっし-すいさんほう [日誌推算法] 日誌に記された針路と航走距離との推算により，船の位置を出す法。(デース-ウォーク(day's work))

にっしゅう-こ [日周弧] 太陽その他の天體が，出より沒までの運行で天球上に描く弧。

にっしゅう-ちょう [日週潮] ほぼ1日を週期とする潮汐。

にっ-しゅつ [日出] 太陽が地平線上に出ること。(ひので)

にっ-しょく [日蝕] 月が太陽と地球との間に來て太陽面の全部又は一部を蔽す現象。

にっちょう-ふとう [日潮不等] 1日2回現はれる高潮と低潮はほぼ同高且つ同一間隔に起るべきものであるが，實際の潮汐ではその相次ぐ2高低潮は高さ及び間隔が季節・場所によつて異なる。この現象を日潮不等と稱し支那沿岸・九州有明海(福岡・熊本)・本邦北部に於いて大なるものがある。

にっぽん-かいいん-えきさい-えんごかい [日本海員救濟援護會] 海員の養成保護，殉職船員の遺族，傷病廢疾船員及びその家族，遺族の援護救濟等に從事する社團法人。本部は東京都京橋區明石町に在る。もと，日本海員救濟會と稱したが，事業を擴充して改稱した。機關誌"海の世界"。

にっぽん-かいいん-くみあい [日本海員組合] 海員の社會的地位の向上を圖る目的を以て設立された一種の勞働團體。日本海運報國團の結成とともに同團に統合された。

にっぽん-かいうん-きょうかい [日本海運協會] 我が國海運の總力を最も有效に發揮させるため，海運業に關し必要な指導統制を行ひ，且つこれに關する國策の立案及び遂行に協力し以てその健全な發達を圖ることを目的として，海運組合法により設立せられた法人。

にっぽん-かいうん-しゅうかいじょ [日本海運集會所] 我が國唯一の海運取引所。大正10年，ロンドンのボルチック-エキスチェンジに倣ひ組織された株式會社神戸海運集會所を昭和8年社團法人に改組し今日に至る。船主・荷主・海上保險業者・倉庫業者・造船業者・海運仲立人等廣く海運關係業者を會員とし，會員に集會所を提供して商談に便し取引所としての機能をなすとともに海運調査及び報道・海運關係刊行物の出版並びに海事紛爭の仲裁調停をなす。

にっぽん-かいうん-ほうこくだん [日本海運報國團] 海上運送業者・船員並びに海運業に從事する陸上勤務者等全海運産業人が，和衷協同してその

本分を盡し海運報國の實を擧げることを目的とする報國團體で，團員の海運報國精神昂揚・教育・訓練・養成・技能の向上・福利・厚生・生活指導・海運國策の遂行・海上勤勞の調査研究を主たる事業とする。機關誌"海運報國"。本部は東京都日本橋區濱町二丁目に在る。

にっぽん-かいこう [日本海溝] 千島沖に起り，北海道・本州に沿ひ小笠原島の東方に至るもの。その長さは1600浬，幅は50浬内外，世界第一の海溝で深さ6000米以上，最も深い所は10600米もある。

にっぽん-かいじ-けんていきょうかい [日本海事檢定協會] 船積貨物の積附檢査及び監督，入港時船口檢査，損害貨物檢査並びに處分の立合證明，積荷口別檢査，船體機關並びに屬具の現狀及び損傷調査，その他一般海事に關する檢定・鑑定及び一般船積荷物の檢量を行ひ，海事に關する公益を圖る事を目的とする社團法人。

にっぽん-かいじ-しんこうかい [日本海事振興會] 昭和15年遞信省の指導により，海事關係諸會社の協力によつて結成された財團法人。造船・海運の重要性に鑑み，政府と表裏一體の關係に於いて，海運・造船に關する調査・研究及び海事思想の鼓吹・普及を以て目的とする。機關新聞"海事新聞"・機關誌"海と船"。東京都京橋區新川二丁目に在る。

にっぽん-かいりゅう [日本海流] 黑潮(くろしお)に同じ。→同項。

にっぽん-かしら [日本甲螺] 南洋に進出した八幡船の異稱。甲螺(カフラ)は首領または頭目の義。國語のカシラを支那人が漢字に當てたもの。

にっぽんがた-せんぱく [日本型船舶] 我が國在來の構造による船舶。主として木材を以て建造し，專ら帆又は櫓によつて航走するもの。(和船)

にっぽん-こううん-ぎょうかい [日本港運業會] 地區別統制機關としての各地港灣作業會社を構成員とし，その綜合的統制運營を圖り，國策の遂行に萬全を期するを目的とする斯業の中央團體。昭和18年3月設立。

にっぽん-せんしゅ-きょうかい [日本船主協會] 我が國に於ける船主の統一的團體で殆んど全部の船主を會員に網羅し，會員相互間の協力により日本海運の發達を圖るを目的とし，國際的には日本船主を代表し國内的には政府の海事諮問機關たりし外，進んで各種の研究陳情をなし幾多の貢獻をしたが，日本海運協會の結成に伴ひ發展的に解散した。

にっぽん-せんめいろく [日本船名錄] 日本の汽船・帆船・機帆船の船名・噸數・機關・馬力等を記載してあるもの。

にとう-くちくかん［二等驅逐艦］1000 噸未滿の驅逐艦。

にとう-じゅんようかん［二等巡洋艦］最大備砲口徑 15.5 糎以下の巡洋艦を我が國では二等巡洋艦と稱し，それ以上のものを一等巡洋艦と稱する。

にとう-せんすいかん［二等潛水艦］1000 噸未滿の潛水艦。我が海軍では呂號第〇潛水艦と名づく。

にどめ-いた［荷止板］仕切板に同じ。➔同項。

に-ぬし［荷主］本來，荷物の所有者を意味するが，一般には所有權の有無にかかはらず運送契約の當事者中運送業者にあらざる他の當事者を廣く荷主といふ。例へば荷送人を出荷主，荷受人を受荷主といひ又傭船者をも荷主といふことがある。

にねん-げんえきしかん［二年現役士官］大學又は專門學校を卒業してから試驗を受け出身によつてそれぞれ軍醫・藥劑・主計・技術・齒・法務各科の士官になる。先づ見習尉官に採用されその後大學出は中尉に，專門學校出は少尉に任官する。

にひゃく-とうか［二百十日］立春より210日目に當る日。颱風の來襲する時期として警戒する厄日。

にひゃく-はつか［二百二十日］立春より220日目に當る日。颱風襲來の厄日として二百十日とともに警戒される。

に-びょうはく［二錨泊］雙錨泊にして雙錨繫鎖を使用せざる場合をいふ。

に-ふそく［荷不足］①荷物が不足すること。➪不足。②積荷の陸揚又は荷渡數量が積込數量より不足すること。

にぶね-ひきあげ-そうち［荷船引上裝置］坂路に釣瓶式の鋼索2條を設け，舟は鋼索に附けた船臺に載せられて交互に上下する仕掛け。（インクライン(incline)）

にべ［鰾膠］鮸(ニベ)・鱈・石首魚(ツチ)等の鰾(ウキブ)から採つた膠(ニカハ)。鰾をそのまま晒白乾燥したものと，熱湯に漬け浸出液を凝固乾燥したものとある。良質のものは露國產鱘(チョウザメ)から採る。熱湯に溶け易く，特別の料理に用ひ，清澄劑・接著劑・布類の硬張劑・防水劑にする等用途が廣い。

にぼし-ひん［煮乾品］水產製品分類上の名稱。魚介類を煮た後，日光又は火力・蒸氣熱等を使用して乾燥したもの。

にまい-かい［二枚貝］貝類。2枚の堅い貝殼は普通左右相稱であるが，カキ・アコヤガヒの如き不相稱のものもある。浮游生物を餌とし，多くは

沿岸又は內灣の砂若しくは泥質の淺海に棲む。卵生體外受精で，孵化後の幼蟲はしばらく浮游生活をなし，稚貝となつてから海底に沈み砂泥中に潛むか又は他物に固著して生活する。アサリ・ハマグリ・カキ等種類が多く殆ど皆食用となり，貝殼は石灰原料・雞の飼料又は工藝品の材料になる。➪鰓腳類(ベンケイガニ)。

にまいだな-ぶね［二枚棚船］上下2枚の棚板(外板)より成れる日本型船。普通の漁船は多くこれで薩摩地方に於いては“はぎぶね”と稱す。

にまち-ていせん［荷待停船］①或る港に入港した船舶が積荷無きため積荷あるまで碇泊して待つこと。②運送引受荷物が何等かの理由によつて本船出帆日迄に未著でしかも日ならずして到著するが如き場合，その來著迄出帆を延期し碇泊すること。

にもつ-かた［荷物方］船舶乘組の檢數人。➪タリーマン(tally-man)。

にもつ-しゅにん［荷物主任］船內に於いて主に積荷關係の事務を擔當する事務員。

にもつ-つみつけず［荷物積附圖］揚地別に色分けを以て，出來るだけ明細に積荷の積附所在を明記する艙口・船艙の平面圖による一覽表。（ストウェジ・プラン(stowage-plan)）

にもつ-ぶね［荷物船］荷物を積む船。（荷船・貨物船）

に-やく［荷役］貨物の船積及び陸揚作業の總稱。➪港灣荷役。——**きかん**［荷役期間］①荷役のために要する碇泊日數。②碇泊期間。➔同項。——**こう**［荷役鉤］荷役の際重量物を引懸ける鉤。（フック(hook)）——**せつび**［荷役設備］貨物の陸揚及び積込のための設備。水上荷役には艀・浮動起重機等，接岸荷役には繫船岸壁又は繫船棧橋とそこに設けられた固定又は移動式の起重機・エレベーター・コンベヤー等。船內荷役用としては揚貨機・デリック等がある。——**ちん**［荷役賃］荷役に對する報酬。——**にっし**［荷役日誌］船長又は一等運轉士が船舶積揚荷役の狀況を記載せる日誌。——**にっすう**［荷役日數］荷役のために要する日數。積荷又は揚荷の終了した時傭船契約に基づき船長がこれを計算する。➪荷役期間。——**もっこ**［荷役籠］網狀の荷役用具。貨物を揚貨機で積卸するに用ひる。（荷役網）

にゅう-か［入荷］荷物が他所より到著すること。又はその荷物。（いりに）

にゅう-きょ［入渠］船舶が，檢査・修理又は船底塗換などのために船渠(ドック)に入ること。——**せんきょう**［入渠船橋］後部船橋の別稱。出入

渠の際常に使用されるのでこの名がある。(ドッキング-ブリッヂ(docking-bridge)) ——-りゅうこつ[入渠龍骨] 船渠内の中央に設けてある枕木で，船の龍骨がその上に据はるやうになつてゐる。(ドッキング-キール(docking-keel)) ——-りょう…ヤウ[入渠料] 船渠使用料のこと。

にゅうぎょ-けんニフ…[入漁權] 設定行爲(入漁する契約)又は舊漁業法施行前(明治36年以前)の慣行により，他人の專用漁業權に屬する漁場に入會ひ，その專用漁業權の全部又は一部の漁業をなす權利。

にゅうぎょ-りょうニフ…レウ[入漁料] 他人の專用漁業權に屬する漁場に入つて漁業を行ふ際に支拂ふ料金。

にゅう-こうニフカウ[入港] 船舶が港に入ること。——-しんこくしょ[入港申告書]明告書ともいひ，入港の際港務部へ提出する書類で，積荷・寄港地・入港時刻・乘組員・旅客數及び衞生狀態を記載してあり，入港許可に必要なもの。——-ぜい[入港稅]外國貿易船が開港場に入港した時，その登簿噸數又は積量に對して賦課せられる稅金。普通，噸稅の形式で課せられる。⇨噸稅。——-とどけ[入港屆]外國貿易船の開港に入港した時，船長が入港の時より24時間以內に稅關に積荷目錄・船口申告書・船用品目錄・船客氏名表を提出し，船舶國籍證書及び仕出港の出港免狀若しくはこれに代る可き書類を預け，入港の事實を屆出づること。又はその屆書。

にゅう-しんニフ…[入津] 船舶が港に入ること。(入港(ニフカウ))

にゅう-だんニフ…[入團] ①海軍の新兵が初めて海兵團に入ること。陸軍の入營に相當する。新兵が航空隊の如き隊名ある陸上部隊に初めて入ることは入隊といふ。②下士官・兵が轉勤によつて海兵團に入ること。

にゅうとう-じょうりくニフトウジヤウ…[入湯上陸]海軍で夕食後より翌朝の食事時刻まで許可される上陸(外出)。

にょご-の-しま[女護の島] ①女子だけのゐるといふ想像上の島。②八丈島の異稱ともいふ。

に-よし[子丑] 大和船の船首材。轉じて水押(ミヨシ)の意。

にれつ-じゅうじん…ヂン[二列縱陣] 艦艇が縱に2列となつて航行する陣形。

に-わたし[荷渡]積荷を引渡すこと。——-さしずしょ…ショ[荷渡指圖書]積荷到著の際，船主が荷受人より船荷證券を回收しその代りに發行するもので，本船又は荷捌所に對し當該積荷を荷受人に引渡すことを命ずる書類。

にんい-ざしょう…セウ[任意坐礁] 船舶の沈沒・拿捕等を避けるため，船長が適當な場所を選び故意に船舶を坐礁せしめることをいふ。

ぬ

ぬ-い…ヰ[沼井] 鹽田で鹵水を採集するに當り，鹽分の乾燥して固まり著いてゐる鹵砂から鹵水を浸出する裝置。

ぬいあわせ-ぶねスヒアワセ…[縫合船] 船板を藤蔓や植物の纖維を撚つたもの等で縫合はせて造つた古代の船。これが發達して釘で船板を接合するやうになつた。現代もこれを用ひる種族がある。⇨縫船(ヌヒフネ)。

ぬいきり-あみスヒ…[縫切網]筌網類に屬し，夜間集魚燈を點じ鰯を主として鯵・鮪・柔魚類を漁獲す。長崎縣・熊本縣に於いて鰹釣用餌料鰯の漁獲に盛に用ひられたが，大正の中頃から巾著網に變り今日では殆ど無い。

ぬい-ふねスヒ…[縫船]刳船から構造船へ移る過渡的時代のもので船板を索で縫ひつけた船。縫合船に同じ。⇨縫合船。

ぬき-で[拔手] 手を水上に拔き出しておよぐ泳ぎ方。互拔手・諸拔手・片拔手等。

ぬきで-がんこう…カウ[拔手雁行]數人が縱につらなり泳ぎながら，拔手を同時に揃へて行ひつつ進む應用水泳術。

ぬき-に[拔荷] 運送業者又はその使用人等が，荷役中又は運送の途中に於いて積荷を盜み取ること。又はその盜難。

ぬけ-に[拔荷] 江戸時代の密貿易のこと。又，その荷物。出買(デカヒ)・仲買・拔買ともいつた。多く唐船との間に行はれ，航路以外の海上で夜間行はれたり，また外國船として漂流を裝はしめ九州邊の往來少い海岸で行はれたりした。(奸關)

ぬた 浮泥。水中に浮游して水を濁す細かい泥。濁り。

ぬま[沼]湖に似て水が淺く，湖底に泥土の多いもの。

ぬり-ぐ[塗具] 塗料の材料。大氣又は海水中に於ける船體その他の部分酸化腐蝕や，海藻介蟲の附著するを防ぐため及び室內に類する場所の美觀等を保つために塗る材料の總稱。——-ばけ[塗具刷毛]獸毛を束ね，その端

を揃へて切つた，塗料を船體船具などに塗るのに用ひる要具。

ぬり-こはや［塗小早］ 丹青で彩つた小舟。

ぬり-ぶね［塗舟］ 漆で塗つた和船。蠟色・本朱・花塗等がある。

ぬれ-しろ［濡代］ 裸代(ハダカシロ)に同じ。➔同項。

ぬれ-に［濡荷］ 船積・陸揚又は運送中に海水・雨水又は船底汚水などのために濡れた荷物。

ね

ね［根］①錨の幹と腕の相接する部分で兩腕の中間。(クラウン(crown)) ②水底に岩のある所。

ね-いた［根板］ 和船の航(カハヅ)と上棚との中間にある横板。この種の船を五枚板作りといふ。

ね-うお［根魚］常に岩礁の間，又は海藻の繁茂する所に棲息して，遠く離れない魚類。

ネオン-とう［ネオン燈］ 船空燈臺又は飛行場にネオン放電管を裝備し，濃厚な霧のある場合に，その霧層上部を強く赤色に輝かせる特性あり，又附近に多數の燈火の存在する所で，非常に認識を容易ならしめる。

ネクトン［nekton］海水の中を，自分自身の力で活潑に游泳する水産動物。多くの魚類はこれに屬し鯨も亦ネクトンである。

ねこ 日本型漁船中，旋網(マキアミ)船の局部の名稱。旋網船が2艘相合して舫を取り漕ぎ進む際，相互に船の摩擦を防ぐため，上棚の上部に木片を釘附し，これを"ねこ"といふ。眞網船には左舷に，逆網船には右舷にこれを附け，その中央部に在るを"はられこ"軸部に在るを"おもてねこ"上部に在るを"つらねこ"といふ。

ねこさい-あみ［根捨網］大敷網の一種。根扱網(ネカキアミ)とも稱す。海岸に沿つて移動する種々の魚類を漁獲する網で，相模及び伊豆地方に於いて盛に使用せられる。

ネジがた-こうか［ネヂ形降下］飛行機を操縱して螺旋のやうにねぢれつつ降下すること。(螺旋降下)

ねじり［捩］昆布の採取に際し，昆布をこれに卷きつけ，ねぢりとるのに使用する一種の漁具。

ねずみ-じょうりく［鼠上陸］艦内にて捕鼠を奬勵するために，これを捕殺したる上，甲板士官に屆け出ると入湯上陸1回を許可される。油蟲200匹以上に對し入湯上陸1回を許されるのも，艦内衛生上の趣旨によるものである。

ねずみ-よけ［鼠除］ 棧橋等に繫留してゐる船の繫留索に取附けて鼠の入るのを防ぐブリキ製の圓形板。(ラット-ガード(rat-guard))

ね-ずり［根釣］岩礁の根などを目ざして釣ること。(暗礁釣)

ね-だな［根枻・根棚］ 和船の枻の内，最も下部に位し，敷の左右兩側に在るもの。小型の船にてはこれを缺き，敷より直に中枻となる。

ねつ-きかん［熱機關］熱のエネルギーを力學的エネルギーに變へて仕事をなさしめる裝置。蒸氣機關・内燃機關・熱空氣機關・蒸氣タービン等。

ねっしゃ-びょう［熱射病］長時間持續的高熱の作用によつて起る疾患で，機關部作業中に起るものと日光の直射によつて起る日射病との總稱。

ねっ-たい［熱帶］南北回歸線間の地帶。地球上で溫度最も高く，晝夜長短の差なく四季の變化も少ない。**——かいようせい-きこう**［熱帶海洋性氣候］熱帶海岸部に於いて，海洋のために和らげられた氣候と豐富な雨量とを有する氣候。**——ぎょ**［熱帶魚］熱帶に棲息する魚類。珍奇な形態と美しい色彩を有するものが多いので觀賞される。**——せい-ていきあつ**［熱帶性低氣壓］①熱帶地方に發生する低氣壓の總稱。②颱風。**——ちほう**［熱帶地方］北回歸線と南回歸線との間。

ネッチング［netting］①舷緣上に張られた墜落防止用の網。②釣床格納所。ハンモック-ネッチング(hammock-netting)。

ネッツル-スタッフ［nettle-stuff］2～3條のヤーンを固く撚り合はした細索で，釣床のクリューを作る等に用ひるもの。

ネット［net］①網。②正味の。net-weight(正味の目方)などその例。

ね-なみ［根波］ うねり。風の無い時に起る沖の高波。

ね-なわ［子繩］ストランド(strand)。➔同項。

ね-の-ほし［子の星］北極星。

ね-はずし［根外］ 海釣で用ひる懸り外し。仕掛が海底の障碍物に引懸つた時や，竿を海中に落した場合等に用ひる道具。

ね-ばり［根梁］ 船艇の中棚と底板を固著し，舷側と底部を强める曲材。

ネーバーリズム［navalism］海軍主義。海軍本位主義。重海主義。海國主義。

ネプチューン［Neptune］①ローマ神話中の海神の名。②海王星。③海洋。大洋。

ね-ほう［子砲］砲身の上に取附けて，射撃訓練のために用ひる口徑の小さい砲。母砲の對。

ね-まわり［根廻］その上に魚群が集まる漁礁の俗語。

ネームド-ポリシー［named-policy］船名記載積荷保險證券。積荷保險契約の際積込まるべき船名が確定し居る時，船名を記載して發行せられる海上保險證券。フローチング-ポリシー(floating-policy)又は船名未詳積荷保險の對。

ね-もと［根本］動索の固定部。引手(ヒキテ)の對。（スタンディング-パート(standing-part)）

ね-やけ［根燒］晩夏に海藻類が枯れる狀態。このために漁礁は褐色を呈するやうになる。"ね"は礁のこと。

ねり-あみ［練網］手繰網の一種で大なるを大練網，小なるを小練網と稱し又1艘にて使用するものと2艘にて使用するものとある。海藻繁茂せる岩礁の上で使用し"めばる・かはばぎ・いな・ぼら・黑鯛"等を漁獲する。

ねり-えさ［練餌］魚を釣るに用ひる甘藷・小麥粉などの植物性餌に蛹粉(サナギ)・干海老粉・魚肉・又は魚粉などを加へ水で練り固めた餌。主として撒餌(マキエ)に用ひる。

ねり-かい［練櫂］傳馬船などで舷にぴつたりつけて片手でそろそろ漕ぐ櫂。

ねり-かじ［練檝］船尾のおさへに立てる長丈の櫂をいふ。

ねり-ずり［練釣］舟を漕ぎつつ釣る方法。

ねん-ぎょ［年魚］①その年に生れてその年に死ぬ魚類。②鮎の別名。

ねんしょう-しつ［燃燒室］罐の中で重油の燃燒する場所。

ねん-なし［年無］釣で，大物の內でも特に大型の魚で年數の明らかでない魚をいふ。

ねんゆ-せん［燃油船］重油を燃料とする船舶の總稱。

ねんりょう-タンク［燃料タンク］潛水艦の內殼と外殼との間に，重油などのディーセル機械の燃料を入れておく所。

ねんりょうゆ-ポンプ［燃料油ポンプ］燃料油に壓力を加へて噴燃器へ送るポンプ。

ねん-りん［年輪］魚の鱗にある樹木の切口とよく似た輪。夏は鱗の發達が速かで輪は荒く冬はその發達遲く從つて輪は細かくなつて，年輪として刻みこまれ魚の年齡を知ることが出來る。

ねんれい-まんげん［年齡滿限］現役の士官・下士官の現役定限年齡(大將は65歲，中將は62歲，以下これに準ず)に達すること。

の

のうぶん-けい［濃分計］罐水のなかに含んでゐる鹽分の濃さを計る計器。（サリノメーター(salinometer)）

のう-ほう［囊砲］藥囊に入れた裝藥を使用する艦砲。

のう-む［濃霧］こい霧。深い霧。

のじ-うんどう［之字運動］艦船が不規則なジグザグ(zigzag)卽ち之字形に進航することで，敵をしてわが固有針路を見定めることを困難ならしめる運動。（ジグザグ航行）

のじ-どけい［之字時計］輸送船團が之字運動を行ふ際に用ひる時計で，普通の時計の長針に白金針を接續させ，1分おきの間隔にあけられた外枠木箱の穴に隨意にさし込んだ金屬釘にひつかけて電鈴を鳴らす裝置をしたもの。船團の各船がこの時計に同じ時間をさしてさへおけば，一齊に轉舵することが出來る。

の-ずみ［野積］貨物を保管するに倉庫・上屋などに收容せずして露天に積み上げて置くこと。（露天積）

のぞき-めがね［覗眼鏡］箱眼鏡に同じ。➔同項。

のち-せ［後瀨］(古) ①流れの緩かな瀨。早瀨の對。②下流の瀨。後に逢ふ瀨の意で"下つ瀨"に同じ。⇨しもつせ。

ノック［knock］內燃機關に於いて，壓縮行程中に早期點火又は自然發火等で爆發を起し，ピストンを逆方向に壓し戻さんとする異狀現象。

のっ-こみ［乘込］魚類が冬籠りを終へ港灣のものは河口へ，河口のものは川

を遡り，大川のものは細流へ，それぞれ深所から淺瀨へと產卵期を前にして餌をあさりに上り行くこと。

ノット［knot・節］①船の速力を示す單位で，1時間に走る距離(浬)を以てあらはす。1時間に10浬航走する船の速力は10節であるといふのがその例。②結節。➔同項。

のど［喉］囊網の中間につけてある漏斗狀の網。(舌) ⇨囊網。 ——**あみ**［喉網］漁網の局部の名。一旦漁網の中に入つた魚の逃出せぬやう囊網の口或は中央部に附けた逆網。

のど-はずし［咽喉外］釣具。釣れた魚が鉤を深く呑み込んで外せぬ場合に，これを鉤素に通して鉤を押すと容易に外れる。

ノートフォン［nautophone］電氣的振動板により高强音を發する霧信號器。米國で使用してゐる。

のべ-ざお［延竿］繼竿にあらざる普通の釣竿。

のべなわ-ずり［延繩釣］延繩を用ひて魚を釣ること。⇨延繩。

のぼり-やな［上簗］氷魚・鮎などが川に遡るのを簗で捕ること。又，そのやな。

のめ［船茹］横肌に同じ。➔同項。

のりあい-ぶね［乘合船］多人數がともに乘る船。

のり-あげ［乘揚］船舶が海岸・淺瀨又は暗礁の上に揚り，暫くそのままで居る狀況をいふ。

のり-くみ［乘組］①艦・船舶に乘ること。又，その人。②軍艦に乘つてゐる初級士官以下の職名。 ——**いん**［乘組員］軍艦・船舶に乘組み，艦・船內の業務に從事する人。通常，艦・船長以下の全員をいふ。

は

バー［bar］門洲。➔同項。

はいあげ-き［灰上機］焚火室から灰又は焚殼を鐵桶に入れて上甲板に引上げる機械。(灰揚機械)

はい-いん［配員］艦・船舶で乘組員に一定の持場を定めてやること。

はい-えい［背泳］速泳を背面向にした形で，手は身體の兩側を搔く泳法。廣義には平泳を裏返しにした形で，交互に脚を蹴り手を搔く浮身泳・仰向泳・背伸をも含む。(せおよぎ)

ばいえん-まく［煤煙幕］煙幕に同じ。➔同項。

はい-おち［灰落］罐の火床の下部で灰の落ちる所。火床の上の石炭は灰落から進入する空氣によつて燃燒する。 ——**ど**［灰落戸］灰落の前方に取附けられた戸で，これを開閉して通風の程度を加減する。

はい-か［配下］指揮下にある人。

はい-かき［灰掻］灰落內の掃除や，罐底に溜つた泥を掃除する焚火用具。(マッド-レーキ(mud-rake))

はい-かん［廢艦］老齡等により艦籍から除かれた軍艦。

はい-き［排汽］仕事をなし終つた蒸氣を汽筩から逸出させること。

はい-き［廢氣］蒸氣捨管から逃出する蒸氣。

はい-き［排氣］蒸氣機關で仕事を終つて排出された壓力の低い蒸氣。 ——**タービン**［排氣タービン］蒸汽の使用效率を高めるために，往復機械の排汽を利用し往復機械と併用することによつて高速力を出させるやうにした舶用機關の一。(混成汽機・エキゾースト-タービン(exhaust-turbine)) 廢氣タービンともいふ。⇨往復機械。

はいき-かん［廢棄艦］軍縮條約等により戰鬪の用に供し得ざる狀態にした軍艦。

バイキング［viking］8～10世紀にかけ歐洲の海岸を劫掠した北歐の海賊。

はい-こう［配航］商船を所要の航路に分配して就航させること。

はい-じょう［配乘］船員を船舶に分配して乘せること。

ばい-じょう［陪乘］貴人のともをしてその船に同乘すること。

はいしょく-だな［配食棚］烹炊室の外側に取り附け，下士官・兵の各食卓に配給する米飯副食物などを容れる配食器を竝べておく棚。配食器は細長い四角な鑵で前列にある大きいのに飯，後列の小さいのに副食物が容れてある。

はい-すい［排水］內部に停滯してゐる水を排除すること。 ——**くだ**［排水管］甲板の水を舷外に流すため排水孔から外舷に通ずる導管。(スカッパー-パイプ(scupper-pipe)) ——**こう**［排水孔］甲板の水を舷外に流出させるため，露天甲板の周緣所々に設けてある孔。(スカッパー(scupper)) ——

こう［排水溝］甲板上の溜水を流すために上甲板の周圍に設けた溝。——そうち［排水裝置］艦・船舶内に溜つてゐる不用の水を疏通し，又はポンプに導いて船外に排除する裝置。——トン［排水噸］排水量に同じ。軍艦の噸數を表はすに用ひる。約1016瓩を1噸とする英噸で計る。汽船は總噸數を用ひる。⇨排水量。——ポンプ［排水ポンプ］蒸氣・ディーセル・電氣などの機力により船舶内に浸水した海水を排出する强力なポンプでその力量毎時1000瓲に達するものがある。——もん［排水門］舷墻などに穿つてある方孔で，荒天の際甲板に打込んだ海水を舷外に流出させ且つ外方から海水の浸入しないやうに扉を裝置してある。排水口ともいふ。——りゅう［排水流］船舶の螺旋推進器が回轉する時その翼で噴出される水流。吸水流の對。

はいすい-かん［配水管］船内の浴室・洗面所等に導かれてある細い水管。

はいすい-りょう［排水量］艦船の沈水部の排除した水の重量を噸數であらはしたもの。卽ち船の重量で軍艦の噸數を表示するに用ひる。現今戰艦は小なるものも10000噸以上，大なるものは50000噸以上にも及び巡洋艦は5000噸内外より10000噸に及んでゐる。計畫排水量・輕荷排水量・基準排水量・滿載排水量に就いてはその各項を見よ。——きょくせん［排水量曲線］船の吃水と排水量との關係を圖示した曲線。排水曲線ともいふ。

はいすて-ずつ［灰棄筒］船舶の機關部から灰を海中に投棄するための筒。（アッシュート(ash-shoot)）

はい-せん［配船］航路を主眼に置き，いかなる方面に如何なる船舶を就航させるかを決定すること。

はいぜん-しつ［配膳室］船内各食堂に近接し，配膳・食器の洗濯・その保管の外，喫茶の準備，生菜の調理等をなす室。（パントリー(pantry)）

はい-ち［配置］①軍艦乘員の各について戰鬪部署を始めとして防火・防水・陸戰隊などの種々の部署に於いてなすべき役目を定めたもの。②一般船舶に於いて一定の任務・場所の持場を決めること。——きょういく［配置教育］下士官・兵に各自の諸部署の配置を完全に遂行するやうに，必要な教育訓練を行ふこと。——くんれん［配置訓練］夜間戰鬪態勢から晝間戰鬪態勢に移る日出前後と，この反對の日沒前後に毎日2回，この外に午前・午後・夜間とその時々の狀況により，艦船の乘員が各その戰鬪配置に就いて自己の受持つ作業を習練すること。

ばい-ちょう［倍潮］海岸附近の淺海に於いて，地形その他の影響を蒙つて基本の潮汐がその波長の若干倍の波長を有するものと合成されて，若干倍の振動數を有するやうになつた潮汐。

ハイドロフォイル-ボート［hydrofoil-boat］流體力學より案出された特殊な構造を持つ高速艇で，水と船體との摩擦によつて生ずる抵抗を激減したところに特長がある。

はい-び［配備］それぞれの任務に應ずる艦船部隊の持場。

パイプ［pipe］號笛。➔同項。

はい-ぶね［灰船］船舶の石炭の殘滓を運搬する船。（アス船）

バイブル［Bible］①ハリストーン(holystone) ➔同項。②手斧の一種。

ばい-べん［買辨］外國商人・汽船・商館の代辨をして支那人に對する商取引を行ひ，代金・諸經費を立替へ一定の手數料と利息を取得することを營業とする支那にのみ存在する中間支那商人の一種。（コンプラドーア(comprador)）

はい-ほうしゃき［灰放射器］水の放射に誘導されて，灰又は焚殼を焚火室から直接船外に射出する器械。（灰放出ポンプ）

ハイポセケーション［hypothecation］船舶・運賃・積荷を擔保として借金契約をすること。主として荷爲替の場合に用ひられる。

ばいよう-こうろ［培養航路］最初の定期航路が出來ると，漸次近接する諸地方への貨物の定期交通を促して更に新しい航路を生み出し，曩の定期航路から獨立した航路。

バイランダー［bilander］三角帆の2檣船。

ばい-りき［倍力］絞轆の動滑車に加はる力と引手に加はる力との比を絞轆の倍力といふ。

はい-れつ［配列］各部隊が作戰その他の行動のため占位すべき相互の位置。

パイロット［pilot］水先案内人。➔同項。——チャート［pilot-chart］米國海軍水路局で毎月刊行され南北太平洋・印度洋・南北大西洋と各別の圖に作つてあるもので，各地の風の方向・天氣の晴曇・雨霧・氣溫・氣壓の狀況・磁氣偏差量等を始めとして，帆船や汽船の一般航路まで掲載され航海に要する總ての參考資料が示してある。

パイロン［白龍］毎年5月5日長崎で行はれ，大小多數の船が沖で櫂を漕いで競爭をする。廣東地方で白龍(パイ)又は"ペーロン"といふ。（競渡・競漕・

競船) ⇨ペーロン。

ハウス-ボート [house-boat] モーターを備附けた水上移動別荘ともいふべきもので，單に川又は湖邊に浮べベランダの延長のやうにしたものとある。

バウメン [bowman] 短艇の前橈手(雙座艇の一番及び二番，單座艇の一番)。

バウンド [bound 又は bounce] 飛行艇が著水の際，波風があつたり，速力が過大であるとき水面上を跳躍すること。

はえ (方) ①南風。(中國・四國・九州地方) ②暗礁。(舟人の語)

はえ [暗] 潮の干滿によつて水面に隱顯し，或は風の荒い時は白波をその附近に立てるが，常には纔かに水面下に隱れてゐる礁。(高ばえ)

はえ-なわ [延繩] 釣漁具の一。1條の幹繩に適當な間隔を置き，多くの釣絲を垂れてそれに餌をつけたもの。配繩(ハエ)又は這繩・長繩古くは拷繩(ハエ)。⇨浮延繩・底延繩。**——ぎょせん** [延繩漁船] 延繩を使用して漁業を營む漁船。船を漂流させ又は低速で進みながら船尾から海中に延繩を投げ，曳揚の際は低速で進み或は時々停止しながら引揚げる。繩捲揚裝置を備へたものもある。

ばか-ずり [化釣] "化し釣" の轉。だまし釣のことで餌を用ひず光るものに飛びつく魚の習性を利用して錘と鉤のみを用ひる釣り方。

は-き [爬起] 漁法の名稱。水底に棲息して運動不活潑な目的物を引きかき起し又は堀り起して採捕すること。

はぎ-つけ [舷附] 和船の高舷の上部にはぎつける數枚の板材で船側の上部を組成し，垣立(カキタツ)の內部に當る船側。古代は船張以上に荷を積込むのは少量であつたので，舷附は低かつたが後に積量を上に高く積込むやうになつてから舷附も高くなつた。

はぎ-ふね [接舟] 沖繩地方で，刳舟に對して板を接ぎ合はせて造つた舟をいふ。接(ハ)ぐといふのは板を接合すること。又，"とぢ舟" ともいふ。

バーク [bark] 帆船で前の方の檣にはすべて横帆を備へ一番後方の檣に縱帆を備へるもの。檣の數によつて三檣バーク，四檣バークと呼ぶ。

ばく-えん [爆煙] 爆裂したときに發生する煙。

ばくおん-しんごう [爆音信號] 火藥爆發の裝置により音響を發する霧中信號。

はく-げき [迫擊] 近距離にせまつて敵を攻擊すること。

ばく-げき [爆擊] 飛行機より爆彈を投下して，敵の艦船・軍隊又はその營

造物を擊碎すること。水平爆擊・急降下爆擊・緩降下爆擊の3種類がある。**——き** [爆擊機] 爆彈を搭載して敵の陣地・都市・軍隊・艦船等を襲ひこれに爆擊を加へるための飛行機。重擊機と輕擊機とある。

はく-さい [船載] ①大船に搭載して運搬すること。②船にのせて運んで來ること。(船來)

はく-せんきょ [泊船渠] 水陸運輸の連絡，貨物の集散に便ならしむるため港灣・河川に沿ふ陸地を，船舶を收容し得る面積及び水深を考慮して堀鑿し，安全に船舶の繫泊をなし得る如く施設されたる巨大なる水溜。

ばく-だん [爆彈] 金屬容器に爆藥をつめ，投げつけ又は投下して破裂させる彈丸。**——とうかき** [爆彈投下器] 飛行機から所要の目的物に對し，爆彈を投下する器械。爆彈を懸吊する設備と，これを投下する裝置及び照準器とから成る。

はく-ち [泊地] 單調の海岸に於いて多少風浪を遮蔽し得る錨地で，船舶の一時避泊し得る所。

は-ぐち [端口] 定置網の局部の名。垣網で誘導した魚群を囊網に入らしめるための囊網の入口。

ばく-ちゃく [縛著] 索を結び附けること。索端を互に結び合はせ，或は索端をリング等に縛ること。錨結(イカリムスビ)・大綱接(オホナワツギ)・小綱接・一重接・二重接などの方法がある。(ベンド(bend))

はくちょう-ざ [白鳥座] 北十字とも呼ばれ主要星のデネブは一等星であるが，この星座の附近には一等星のベガが燦として輝いてゐる。

ばく-ちん [爆沈] 艦船が爆破して沈沒すること。

はく-どう [拍動] 風のために帆がバタつくこと。(飄動)

はくにく-ないとうほう [薄肉內筒砲] 砲身の內筒比較的薄く外筒の間に若干の間隙があつて簡單に脫脫し得る大砲。

ばく-はつ [爆發] 化學變化によつて氣壓が急激に增進し爆鳴・火焰及び破壞作用を伴ふ現象。**——しんごう** [爆發信號] 船舶が他船或は陸上より救助を求むるために砲その他の爆發物によつて行ふ信號。又燈臺で行ふ霧砲及び爆發霧警號。**——せん** [爆發尖] 魚雷の頭部に裝著せられ，敵艦に命中すると雷管を衝いて頭部內に裝塡してある爆藥を爆發させるもの。**——むけいごう** [爆發霧警號] 暝濛な天候に際し航海者に警戒を與へるため，晝夜の別なく一定時間を隔て，電氣を應用して綿火藥を爆發

させる警警號。⇨霧信號。

ばく-ふう［爆風］ 火藥が爆裂する時に發生する强烈な空氣壓力。

はくぼ-こうか［薄暮效果］薄暮の頃無線方向探知に障害の起る現象で，大洋上に著しく生ずるもの。

はく-めい［薄明］ 日出前又は日沒後，大氣の上層にある細末物質が太陽の光線を反射して天空がほの明るく光つてゐる現象。⇨黃昏。

はく-や［白夜］ 高緯度の地方では，夏は夜が極めて短いため太陽の反映により日沒より日出まで薄明が續き暗夜がないこと。

ばく-やく［爆藥］ 化學的變化により急激に高溫度の瓦斯を多量に發生して爆發する化合物若しくは混合物。高勢爆藥と低勢爆藥とある。

はくよう-きかい［船用機械］ 船體を水の抵抗に打勝つて航進させるため，推進器を回轉させる裝置。その原動力により蒸氣機械（吸鍔機械・タービン機械）・電力機械及び內火機械に大別する。

はくよう-きかん［船用汽罐］ 船舶に用ひられその推進用蒸氣機關に蒸氣を供給する罐で，煙管罐と水管罐の2種類がある。

はくよう-タービン［船用タービン］ 艦船の推進原動力を供給する蒸氣タービン。

はく-らい［船來］ ①外國から大船に搭載して來ること。②外國から渡來した品物。舶來品。

ばく-らい［爆雷］ 潛水艦攻擊用兵器。圓筒形の鐵罐に炸藥を裝塡して，投射（投下）後調定深度に達した時に水壓により自動的に發火裝置が作動して爆發する。これを投射するには爆雷投射砲，或は發射砲といふ短い砲から發射する場合と艦尾の傾斜臺から投下する方法とがある。又，飛行機からも投下する。（デップス・チャーヂ(depth-charge)） ——**とうしゃき**［爆雷投射機］艦船から爆雷を投射する裝置。一種の砲で爆雷を砲口外の受板に載せ，受板の柄は砲身中にあつて發砲すると柄に火藥瓦斯が作用し受板とともに爆雷を投射する。

はくらんかい-せん［博覽會船］船內に種々の產物を蒐集陳列して公衆の觀覽及び購買に供し販路の擴張を圖るために，特別の施設をして各港を巡航する汽船。（展覽巡行船・巡回汽船）

ばく-りょう［幕僚］軍令部總長・司令長官・司令官などに直屬して參謀の事務をとる將校。

はぐ-るい［爬具類］要部を堅い物で作つた櫛狀或は板狀の部分で水底に在る生物を爬き起して獲る漁具。

はぐるま-げんそくタービン［齒車減速タービン］ 齒車を用ひる減速裝置を有するタービン。（ギヤード・タービン(geared-turbine)） ⇨減速裝置。

ばく-れつ［爆裂］ 爆發して破裂すること。

ばく-ろ［暴露］ ①風波・雨露にさらされること。②敵の砲火をまともにうけること。③危險に身をさらすこと。 ——**かんぱん**［暴露甲板］風波に暴露してゐる甲板。（最上甲板・露天甲板）

ばけ-ずり［化餌］鯉釣などに用ひる擬餌鉤。鋼線又は眞鍮線の釣鉤の基部に鉛を嵌め，この部分に白い鳥の羽毛を總狀に縛著し羽毛の根もとを白又は黑色の魚皮で包んだもの。

バケツ-しゅんせつき［バケツ浚渫機］輪狀に懸けた連鎖の運行により土砂を掬ふバケット(bucket)を多數備へた機械。この裝置を備へた船をバケツ浚渫船といふ。

パケット-シップ［packet-ship］純貨物船から快走を誇るクリッパー(clipper)へ移る過渡期の定期郵船の一種で，歐米兩大陸の通商及び移住民を英國その他の國から新大陸へ帆走して運ぶのに多く用ひられた。

バーケンチン［barkentin］帆船で前檣だけに横帆を備へ，後の檣はすべて縱帆を備へるもの。檣の數によつて三檣バーケンチン・四檣バーケンチンと呼ぶ。

はこ-いけす［箱簗］ 檜・杉・松等の板で四壁を作り底は木桟とし內側に竹簀を敷き，河流又は池面に浮べて魚を活けて蓄ふもの。

は-こう［波高］波の高さ。波の高い所を山，低い所を谷といひ，波高とは谷底から山の頂までの垂直距離をいふ。 ——**けい**［波高計］波の高さを測る器械。目盛りした竿の下にカンバス框と錘を長い綱で吊つて水中に入れると，カンバス框は深層にあつて殆んど動かず，その上に竿は直立しその目盛で水面の上下を讀み波の高さを出す，これをフルード式といふ。ペンで水面の上下を紙上に自記するものをパーサ式といふ。

はこおき-ずくり［箱置造］中古水軍の兵船の形式。和船の艙樓以上の部分に船の首尾に亙つて船樓を設けて働き場所とし，その舷側防禦用の楯板を附けてこれに矢挾間又は銃眼を穿つてある。

はこ-ぶね［箱船］ ①漁夫の用ひる箱形の小船。②起重機及び絞盤などを裝

置した海上の工作に使用される鐵製の船。③浮桟橋として代用する船。(ポンツーン(pontoon)) ——**クレーン**［箱船クレーン］密閉空氣室を備へた扁平な船に備へ，荷物を吊り上げたまま荷役場所へ自航又は曳航されて荷役を行ふ起重機。(ポンツーン-クレーン(pontoon-crane))

はこみ-かがみ［箱見鏡］ 箱の底に硝子板を張つたものを水面に浮べ海底を覗いて魚を探るもの。

は-こん［波痕］ 波浪の痕跡の意で，海岸の緩傾斜面に見られるが岩石にも存する。

パーサー［purser］ 事務長。➔同項。

は-さく［把索］ 救命艇・救命筏・救命浮器・救命浮環の周圍に或る間隔を置いて取附け，海中に墜落又は漂流する者が取縋る索。(グラブ-ライン)

は-ざし［羽差］ 純日本式の網取り捕鯨で鯨に銛を刺し，又は捕獲した鯨の骨に跨り手形切と稱する大庖丁で鯨の鼻孔を切貫きそれに綱を通す漁夫。かくして鯨を船に繋ぎ海岸に曳いて來る網取り法は明治35年頃まで，時には大正の初年まで續行された漁場もある。

はさみ-の-ま［鋏の間］ 日本型漁船の間割りの一つ。胴の間と艙の間との間に挾まつてゐる間。現今の發動機附の船の機械の据つてゐる所。在來の船には釜など据ゑてあつたので釜前又は火床などともいつた。略して"はさみ"(鋏)とも呼ぶ。

はさみ-ふなばり［鋏船梁］ 日本型漁船に於いて鋏の間の横にある船梁。船の主要部で上下2本あり，上部のものを上船梁，下部のものを下船梁又は根船梁ともいふ。

はしけ［艀］ ①"はしけぶね"の略稱。②艀錢。 ——**うんそう**［艀運送］曳船により大型の艀船で貨物を運送すること。 ——**せん**［艀錢］艀舟に乘つた人が拂ふ賃錢。(はしけ) ——**ちん**［艀賃］波止場より本船へ貨物の積込又は本船より波止場へ貨物の積卸に要する費用。——**にやく**［艀荷役］港内に於いて沖荷役をする場合に艀から本船に，又は本船から艀に荷物を積卸すること。——**のうりょく**［艀能力］艀船が船積又は陸揚すべき貨物を積載し得る能力をいふ。——**わたし**［艀渡］取引した商品を，艀に積み込んだ際に相手方に引渡すこと。

はしけ-ぶね［艀船・脚船］ ①港内・内海・湖川などで乘客又は荷物運搬に用ひる小型船。②波止場と本船との間に貨物・旅客などを運ぶための小舟。

(傳馬船・短艇) ——**はいたつ**［艀船配達］速達郵便・電報などを艀船にて碇泊中の船舶に配達すること。配達料として特定の料金を納附する。

はし-ける［艀ける］艀で乘客又は貨物を少しづつ運ぶ。

はしご-ぶね［梯子船］ 水戰のとき敵の大船に梯子を寄せかけて登りこむための小さい軍船。

はし-どめ［端止］ 索端の解けるのを防ぐ方法。

はし-ぶね［端舟］①大船に添つて用をたす小舟。(はしけ・小船・艇)

はじゅう-ち［爬住地］ 錨の利く海底。錨掻きの良い海底。

はじゅう-りょく［爬住力］ 錨が船を繋ぎとめる力。

はじょう-うん［波狀雲］ 波狀をなして竝んでゐる雲。主として高積雲・卷積雲・層積雲等に出來る。(なみがたぐも)

はじょう-がいはん-せん［波狀外板船］ 外板を船側に於いて波形に曲げ，船側に2條の溝を作つた西暦1909年頃英國で造つたもの。

ばしょう-ずな［芭蕉綱］ 芭蕉の皮で作つた大綱。多く碇綱とする。

はじょう-ひこう［波狀飛行］ 昇降舵を用ひ高度を變換しつつ波狀を描いて飛行すること。

は-しょく［波蝕］波の浸蝕作用。 ——**あ**［波蝕窪］岩石に波のあたる所が他の部分よりも少し窪くなること。——**だいち**［波蝕臺地］ 海蝕段丘の中，崖の下に出來た長い平らかな海底で，堆積物で被はれて居らぬもの。➪海蝕臺地・礁の臺。 ——**どうくつ**［波蝕洞窟］波浪の浸蝕によつて海岸に出來た洞窟。

はしら［柱］①船體の甲板間を結合するのに隔壁を設けることが出來ない場合，これに代用し船體の梁を支へるために立てた鋼製の支柱。②短艇の艇座の中央を支へる木柱。(スオールト-スタンション (thwart-stanchion)) ——**びき**［柱引］帆柱を立てるのに用ひる綱。

はしり［走］魚などの初物。はつ。はしりもの。

はしり-ぶね［走舟］ 早くはしる舟。

は-しん［波心］ 波のまなか。

はず［筈］船の蝉挾(はさみ)の上部。➪蝉・蝉挾。

ば-す［馬素］ 生き馬の尻毛を拔いて川釣の綸絲に用ひるもの。

バス［bath］ 風呂。➔同項。

バース［berth］ ①錨地。②船中の寢床又は釣床を吊し水夫用の衣服函を入

れて置く場所。

はず-お [筈緒] 帆柱の筈につけて表へ引く綱。

バース-カーゴー [berth-cargo] 船舶の餘積を利用して船主が積荷となす荷物をいふ。

はすのは-じょう-かいひょう [蓮葉狀海氷] 新しい海氷でほぼ圓板狀をなし，その緣邊まくれあがり白色を呈して海面に浮泛するもの。その直徑10糎位より數米に及ぶ。(餅氷)

はすのは-じょう-ひょうばん [蓮葉狀氷板] 蓮葉狀海氷の大なるもの。

パス-ポート [passport] 旅行免狀。

は-ぜ [羽瀨] 簀卷ともいふ。干潟となるべき所に竹簀を建て廻してその形を三角に口を陸の方に向はしめ三角の頂點に魚溜を設く。滿潮の際海邊に入つて來た魚が干潮に伴ひ沖合に去らうとする時この中に陷り捕獲される。

は-せん [破船] ①船舶が風や浪の激しい作用によつて海岸又は海中に於ける岩礁に乘上げ，その被害の程度が甚大で獨力を以てしては運航し能はざる狀態に陷ること。②破壞した船。

は-せん [波線] ①海岸に殘せる波の跡。②造船上船體の波狀線。

ば-せん [馬船] 中古水軍に用ひた馬匹輸送用の船。

は-そく [波速] 波の速度。

はた [鰭] ①魚のひれ。②棘鰭類の魚。

はた-あし [蹠足] 游泳の基本練習の一。脚全體を輕く伸ばし兩足交互に水を打つこと。

はだか-しろ [裸代] 海豚追込網などで，網中に追ひ込められて岸に寄つた海豚(いるか)を裸になつて抱きながら陸揚げする作業に從事するものに，特別に分配される配當。(潜代(かづき))

はだか-にもつ [裸荷物] 包裝を施さない荷物。木材・レール・石炭の類。

はだか-ようせん [裸傭船] 期間傭船の一種で，傭船主が船員給料・港費・航海費・修繕費など一切を負擔するのみでなく乘組員までも整備するものをいふ。

はた-かんばん [旗甲板] 信號所の俗稱。軍艦で信號兵が信號旗などを操作する場所。

はた-ざお [旗竿] 軍艦の首尾兩端にある鐵杆又は木杆で艦首のものを艦首旗竿(ジェッキ-スタッフ(jack-staff))といひ碇泊中艦首旗を揭げ，艦尾のものを艦尾旗竿(フラッグ-スタッフ(flag-staff))と稱し，航海中及び碇泊中は午前8時より日沒時まで軍艦旗を揭揚する。商船では碇泊中國籍を示す國旗を船首尾に航海中は船尾のみに商船旗を揭げる。

はた-の-さもの [鰭の狹物] 小さい魚。こざかな。

はた-の-ひろもの [鰭の廣物] 大きい魚。おほざかな。

はた-ぶぎょう [旗奉行] 中古水軍の主將の旗を掌つた者の職名。

はだん-りょく [破斷力] 切斷荷重に同じ。➔同項。

はちインチほう-じゅんようかん [八吋砲巡洋艦] 重巡に同じ。➔同項。

はちじ-なみ [八字波] 船が航走する時に船首尾から左右に八字型に開いて竝ぶ波。

はち-しゅようてん [八主要點] 羅針儀の羅牌の四方點と四隅點との總稱。

はちじ-わがね [8字縮] 索條が8字のやうな渦狀に縮れること。(スネーク-ダウン(snake-down))

はちだ-あみ [八田網・八手網] 敷網類中，浮敷網に屬する網漁具。大きな四角形の網を張り下し，潮に乘つて來る魚群を待ち受け又はこれに魚群を追ひ寄せて網の上に乘せ，網を引上げて捕へるもの。夜間は集火燈で魚群を網の上に誘導する。九州地方に特に盛である。

はちはち-かんたい [八八艦隊] 艦齡8年未滿の戰艦8隻，巡洋戰艦8隻より成る主力艦を根幹とし，これに補助部隊として巡洋艦以下各種艦艇を附屬せしめて組織する艦隊。軍府會議の結果その實現を見るに至らなかつた。➪八四艦隊。

はちまん-せん [八幡船] ばばん船に同じ。➔同項。

は-ちょう [波長] 波につき山から山，又は谷から谷までの水平距離をいふ。

は-ちょう [波頂] 波の峰。

はちよん-かんたい [八四艦隊] 戰艦8隻と巡洋戰艦4隻とを主力とする艦隊。八八艦隊を實現する前に差當り實行豫算上我が海軍軍備の最小限度として大正4年に議會の協贊を經て裁可公布されたもの。➪八八艦隊。

はちろく-かんたい [八六艦隊] 八四艦隊の建造に次いで大正6年に第四十議會を通過した戰艦8隻巡洋戰艦6隻の建造に著手し長門・陸奥の起工となり，更に翌年八八艦隊建造案が議決せられて土佐・加賀が起工された。

はつえん-かん [發煙函] 急速煙幕を發生するのに用ひるもの。

はつえん-そうち [發煙裝置] 煙幕を發出する裝置。多くの種類がある。

はつえんとう-だん［發煙投彈］ 飛行機の搭載する爆彈の一種で，海上戰鬪には爆發と同時に多量の煙を噴出し，味方の艦船を掩護し又はこれを利用して敵艦隊を攻擊するもの。

はっか-そうち［發火裝置］ 大砲の裝藥の發火及び水雷の爆藥の爆發を起こさせる電氣的若しくは機械的の裝置。

はっ-かん［發艦］ 軍艦から出發すること。飛行機が航空母艦の飛行甲板から飛び立つ時などに用ひる語。著艦の對。

はっ-かん［發汗］ ①船艙の內壁に水蒸氣が附著すること。②穀物など乾燥した積荷に濕氣を生ずること。

はっ-き［白旗］ "しらはたに"同じ。➔同項。

はっきょ-ふとう［泊渠埠頭］ 潮差大なるがため水門又は閘門を要する場合又は陸地に切込んで水面を設ける必要のある場合に，水面を圍んで設ける埠頭。

ばっきん-ばこ［罰金函］ 艦內の清潔整頓を重んずるために，定所外に放置してあるものを甲板士官が取上げて入れておく箱で，日を定めてこれを開き，相當の罰金を支拂つた上受戻し，その集まつた金錢は艦內慰安その他の費用に充てる。

バックウインド［backwind］ 詰開きで帆走中船が更に風上に向ふやうに舵を取ると，帆の背面から風を入れて帆がバタついて來ること。

バックステー［backstay］ 檣を後方に張りたる靜索。海軍にてはベッキステーとも呼稱す。

バック-フレート［back-freight］ 船主が積荷を陸揚港に運送し受荷主にこれを引渡さんとするも受荷主がその運賃を支拂はぬ場合に，船長は積荷を留保し又は裁判所の許可を得てこれを競賣に附し，その代金を運賃に充當し尙ほ不足な場合にはこれを荷送人又は傭船者に請求する，その不足運賃をいふ。

はっ-こう［發航］ 船舶が港を出航すること。航海の始發港のみを指す場合と始發港と中間港とを指す場合とある。 **——ち**［發航地］ 船舶が仕向地に向け航海を開始する港。（仕出港）

はっこう-き［發光器］ 魚雷の頭部に裝著し，發練發射の際その自停後光を發して浮上位置を明示するもの。（ホルムス-ライト(Holmes-light)）

はっこう-しんごう［發光信號］ 燈火の種類を問はず凡て燈光を隱顯する裝置（普通電燈の光を用ひこれを明滅する）により長・短光を發しモールス符號等を表はし送信する方法。

はっさん-せい［發散性］ 潮の流れ（海流）の線のひらき散る性質。發散性の渦卷は下層から榮養分の豐富な水を湧昇させ，プランクトンが繁殖し，それが運ばれて收斂部に集まることになる。收斂性の對。

はつ-しお［初潮］ ①初めてさしくる潮。②陰曆8月の大潮。

はっ-しゃ［發射］ 砲彈や魚雷を打ちだすこと。 **——かやく**［發射火藥］ 彈丸・魚雷を發射し，飛行機を射出する時に用ひられる緩性火藥で，黑色火藥・無煙火藥など。（發射藥） **——しつ-とうばん**［發射管室當番］ 魚雷發射管室の清潔整備にあたる水雷科の兵員。

はっ-しん［發信］ 有線電信・無線電信又は信號の送信を發令すること。著信の對。 **——しゃ**［發信者］ 電信又は信號の發信を命ずる者。 **——しょ**［發信所］ 發信者が居る艦船・信號所・無線電信所・無線電信局など。

はっそうばり-あみ［八艘張網］ 漁船8艘にて取扱ふ敷網の一種で，焚入又は撒餌の方法により鰯・鰺・鯖等を漁獲するに用ひる。

パッチ［patch］ 當金(アテガネ)。➔同項。

ハッチ-ウェー［hatch-way］ 一つの甲板より他の甲板へ通行する等のため甲板に設けてある孔口を海軍ではハッチ-ウェーといひ，その木蓋又は鐵蓋をハッチと稱する。而してこの通行用のものには梯子を備へ昇降口(ラダーコン)といふ。商船ではこの昇降口をコンパニオンといふ。商船で用ひるハッチといふ語は艙口（荷物の積卸し口）のこと。

はっちゃく-かんばん［發著甲板］ 航空母艦の上甲板で飛行機の發艦・著艦に充てるため特別の設備を有するもの。⇨歸著甲板。

パッツン［batten］ 當木(アテギ)。➔同項。

はってい-そうち［發停裝置］ 魚雷の發動並びに自停作用を司り，且つ停止後自沈せしめる等の作用をも營む裝置。

バッテーラ［(蘭)baterira・(伊)battella・(葡)bateira］ ボート。短艇。明

治時代に於ける呼稱。

はつでん-き［發電機］ 機械的エネルギーを電氣エネルギー卽ち電流に變化する機械。交流發電機と直流發電機とがある。

はつてん-しょう［八點鐘］ 艦船で30分毎に時鐘を鳴らして時刻を報じてゐるが，4時・8時及び12時には八つ鳴らすので八點鐘と呼び，當直員・救助艇員等はこの時に交代する。

はつどう-き［發動機］ ①原動機。②瓦斯機關・石油機關・ガソリン機關等の內燃機關の稱。**——せん**［發動機船］ 燃料油の爆發力を利用して機關を運轉するもので，石油發動機・ガソリン發動機・アルコール發動機又はディーゼル式重油發動機を據附けたものがある。**——てい**［發動機艇］發動機を据附けた小艇。（自動艇・モーター-ボート・ポンポン舟）

はつどう-ふ［發動符］ 行動を開始させる合圖。

ばつ-びょう［拔錨］ 錨をあげて船が出港すること。

はっ-ぽう［發砲］ 銃砲を發射すること。

はつれい-じょ［發令所］射擊指揮所から又は發射指揮所から，また潛水艦では司令塔からの命を受け，これを砲側又は發射管室などへ傳達する所。

は-てい［波底］ 波と波との間の凹み。

は-と［波戶］ はとば・埠頭・防波堤に同じ。➔各項。

ハート［heart］中孔滑車。➔同項。

は-とう［波濤］なみ。濤は大なみ。（波浪）

は-どう［波動］ 波の動き。又，波が動くこと。

パート-カーゴー［part-cargo］數量の揃はざる場合の荷物。端荷物。

パートナー［partner］ 各檣・絞盤等の周圍に於いて甲板を强めるための鐵鈑或は木板。

はと-ば［波止場］ 防波及び乘船・下船・荷役等のために水中に突出して築いたコンクリート構造物。（埠頭） **——うけとり**［波止場受取］船積の荷を波止場で受取ること。 **——ぜい**［波止場稅］官營の波止場（埠頭）を使用するのに對して支拂ふ稅金をいふ。 **——にんそく**［波止場人足］港灣勞務者の俗稱。 **——にんぷ**［波止場人夫］波止場で荷物を運搬する勞務者。（仲仕） **——わたし**［波止場渡］船舶の貨物を波止場で引渡してしまふこと。

はと-め［鳩目］ 帆緣などにある丸孔の金物で索を通すもの。（グリンゲル

(cringle)）

はな［鼻］島嶼・大陸などから海洋へ突出してゐる低地端。（角・崎）

はなれ-いそ［離磯］ 遠く海上に出てゐる磯。（はなれそ・はなりそ）

はなれ-いわ［離岩］水中に孤立する岩。

はなれ-ず［離洲］ 陸から遠く離れた洲。

はに-ぶね［埴舟・埴土舟］埴土で塗料を作りこれを裝飾に用ひた古代の船。"はにつちぶね"ともいふ。

はね-に［撥荷］①荷物の中から選り分けて除いたもの。 ②難船した時などに海中に投げた荷物。（刎荷）

はば［幅］船體の最も廣き部分に於いて肋骨の外面から外面までの水平距離をいふ。

バーバックル［parbuckle］ 丸太掛。圓材・樽その他の貨物などの揚卸しに用ひる索のかけ方。

ハーバー-デュース［harbour-dues］ 港費。

ハーバー-マスター［harbour-master］港長。

ば-はん［八幡］商船の竊かに外國に渡航すること。ぬけあきなひ。 **——せん**［八幡船］①鎌倉時代の初から室町時代の末まで支那・朝鮮沿岸を始め安南・ジャワ・マライ等に進出した我が邊民の乘用船を支那人等が稱した語。八幡大菩薩と書いた旗を立ててゐたため明人が"バッハン"といつたともいひ，その他諸說がある。（やはたぶね・はちまんせん） ②拔荷を賣買する船。

はへん-ぼうぎょもう［破片防禦網］砲彈や爆彈の破片による人員の殺傷を防ぐために張る網。（スプリンター-ネット(splinter-net)）

はま［濱］①海又は湖の水際の平地。水濱。海濱。②海岸線より干潮汀線までの區域。➔海岸線・干潮汀線。③橫濱の略稱。**——だんきゅう**［濱段丘］大嵐の後，平常波のとどく線よりも更に陸の方に砂利を堆積し海岸線に沿つて長く作られた堤防のやうなもの。 **——デッキ**［濱デッキ］漁獲した魚を運搬して揚陸する際砂濱に作るもので，中央に運荷帶の通る溝があり，デッキ面の傾斜で辷り落ちた魚は運荷帶で所要の場所へ搬入される。 **——どて**［濱土手］濱の近くに出來た土手。土地の隆起により新しい濱土手が古い濱土手に平行して出來ることがある。 **——なかし**［濱仲仕］陸岸又は埠頭などで荷役に從事する港灣勞務者。沖仲仕の對。（濱人夫

・沿岸人夫）——にんぷ［濱人夫］沿岸人夫・濱仲仕に同じ。➔各項。

ハーマッタン［harmattan］12月から1月にかけてサハラ地方からアフリカ西海岸に向つて吹く乾燥して細砂を混じた熱風。

はみ　鯨・鮫などの鬪爭。小鰹・鰯・鯖などは逃げ惑ひ群れ集るので漁獲に利用される。

はめ-わ［帙輪］　索具の眼を造るのに用ひるもの。（シンブル(thimble)）

は-もん［波紋］　波のあや。波の模様。

はや-お［早緒・逸緒］　船を漕ぐとき櫓にかける綱。（ろづな・櫓繩）

はや-およぎ［速泳］　下向きに浮き，ばた足を行ひ兩手で交互に水を掻き，頭を右或は左に廻して，吸つた息は水中に吐きつつ泡む泳法。（クロール-ストローク(crawl-stroke)）

はや-しお［速潮］潮干の速かな潮。

はや-すい［速吸］海峽の潮流の呑吐すること。

はや-せ［早瀬］　水の早く流れる瀬。（急潮・湍水・湍流・湍瀬）

はやだし-りょう［早出料］　傭船者（荷主）が豫定以上に短時間にて荷役を進捗せしめたるとき，船主が支拂ふ碇泊期間節約料。➔碇泊期間。

はや-て［早手・疾風・颱］　急に吹き來る暴風。多くの場合雲雨を伴ひ一陣の冷風が吹いて來て物凄い光景を呈する。（陣風・スコール）

はや-ぶね［早船］　①急いで漕ぎ行く船。早く走る船。②昔の軍船。輕快で駛走に適し，打櫂又は櫓を用ひて漕ぐ小舟。③貨物の積取を急ぐ場合に於ける廻船期日の早い船と，傭船者の希望に應じ直に引渡し得る船と取引上2樣の意味に用ひられる。

はや-もり［早銛］　鯨の網より逸せんとするとき突き留むる用に供せられる捕鯨用の銛。現今はこれを使用しない。

パラシュート［parachute］落下傘。➔同項。

バラスト［ballast］　脚荷・底荷・輕荷。➔各項。　——**タンク**［ballast-tank］船體の底が二重になつてゐて，水の出入によつて吃水を加減する水艙。（脚荷水槽）　——**ポンプ**［ballast-pump］脚荷水槽（バラストタンク）の海水を放出するのに用ひるポンプ。

ばら-ずみ［撒積］　荷造りしないでばらばらのまま船艙内に搭載すること。——**かもつ**［撒積貨物］撒荷（バラニ）に同じ。➔同項。　——**かもつせん**［撒積貨物船］撒荷を運搬する船。

ばら-に［撒荷］　石炭・礦石・穀類等にして箱又は俵などに包裝せずそのまま船艙に積込まれた荷物。（撒積荷）

パラベーン［paravane］防雷具。➔同項。

はらみ-つな［孕索］　横帆の兩緣の中央に取附けた索で，詰め開きの時などに帆の緣を引張り，成るべく風を受けるやうにするもの。（ボーリン(bow-line)）

はら-む［孕む］　風で帆にふくらみを持たせること。風上の帆脚索（シート）を伸ばして風下の帆脚索を縮め帆を孕ます。

はらら-ご［鮞］魚類の產出前の卵塊。又，それを鹽漬などにした食品。

バランゲー［balangay］比律賓諸島住民の操る橈艇。

バランス［balance］釣合。

はり［梁］船體の肋骨上部を固定し甲板を支へる材。（りょう）

はり［針路］針路の略。（コース(course)）

はりあげ-ずな［張揚索］ヤード（桁）の中央部に取附けヤードを引上げるのに用ひる動索。

はりあみるい-ぎょぎょう［張網類漁業］　定置漁業の一。簗網（ヤナバ）又は立廻網（タテマワシ）を支柱若しくは碇等を以て一定の水面に建設又は敷設するもの。

はり-あわす［張合す］索の緩みをなくしてピンと張ること。

はり-いかり［張錨］　雙錨泊の際現に風潮の影響を受けて錨鎖が緊張してゐる方の錨。弛錨の對。

はり-いた［張板］　船舶の內外舷の首尾に通ずる一列の板。ビルヂの直上を通過する外舷張板をビルヂ-ストレーキ(bilge-strake)，龍骨に接する外舷張板をガーボード-ストレーキ(garboard-strake)といふ。

ば-りき［馬力］　工率の單位。卽ち33000ポンドの目方の物を1分間に1呎の高さまで差上げる動力。馬力には公稱馬力・實馬力・軸馬力等の種類がある。

ハリケーン-デッキ［hurricane-deck］　船のほぼ中部に於いて兩舷に跨り架設された甲板。（ブリッジ-デッキ(bridge-deck)）

はり-す［鉤素］鉤（ツリバリ）を結ぶ絲。澄んだ水では透明な絲を用ひる。

ハリストーン［holystone］軟質の砂石で甲板を摺り磨くのに用ひるもの。平な大塊をバイブル(Bible)，隅を摺るのに都合よき小塊をプレヤー-ブック(Prayer-Book)といふ。（砂摺石）

はり-ずな[張索] 荷役用デリックの圓材又は起重機などに吊した荷物を安定させるために張る索。前張索(まえはりづな)・後張索(あとはりづな)・中張索(なかはりづな)とで操作する。(ガイ-ロープ(guy-rope))

はりだし-うけ[張出承] 推進軸の水中に在る部分が長い場合に，推進器の回轉による震動を防止するため推進軸を支持するもの。

はりだし-ほうもん[張出砲門] 大砲の射界を大きくするために舷側に張出した砲門。(スポンソン-ポート(sponson-port))

はり-びょうさ[張錨鎖] 雙錨泊の際張力の加はつてゐる方の錨鎖。他(ほか)錨鎖の對。(ライジング-ケーブル(riding-cable))

ハリヤード[halyard] 帆桁・帆・旗などを引き揚げる綱。

はりゅう-しん[爬龍船] 琉球の船の一種。舳に龍頭，艫に龍尾をつけ太鼓・銅鑼をうち多人數で漕ぐもの。支那の端午の競渡や長崎のペーロンに相當する。

はりょく-けい[波力計] 波浪の壓力を計る器械。波壓計ともいふ。

バリンガー[balinger] 比律賓諸島を通ふ貿易船の一種。

バルジ[bulge] 水線下に敵の魚雷又は砲彈を受けた場合に備へ，これが防禦のために艦底兩側外鈑を張り出したもの。

はる-とわり[春潮] 相模灣などで用ひる語。潮廻(しおまわり)に同じ。➔同項。

バレル[parrel] 帆桁を檣に固定するための嵌輪。

は-ろう[波浪] 波に同じ。➔同項。

はろう-がん[破浪岩] 風が吹く時，波浪がこれに激しく打ち當つて白雪の堆積するやうな狀態を現はす岩。

はろう-じん[破浪神] 船首に附ける飾で多く海又はその船に緣故ある人物の全身或は半身像又は鳥獸類の形狀を彫刻せるもの。(フィギュアー-ヘッド(figurehead))

バロメーター[barometer] 晴雨計。氣壓計。➔各項。

バワー-アンカー[bower-anchor] 大錨。➔同項。

バワー-ボート[powerboat] 高速の小型艇。

はんえい-らしんき[反映羅針儀] 下部操舵室に羅針儀を置き司令塔には其の映像板のみを供へてゐるもの。

はんえん-さ[半圓差] 船首方向が全周する間に半圓(圓を二分した一半)毎に最大又は最小に變化する羅針儀の自差。

はんえんよう-ぎょじょう[半遠洋漁場] 200～2000米等深線の陸棚から見ると甚だ急傾斜をなす部分で漁業が行はれる場所。(大陸急傾斜盤面漁場)

バンカ[banca] 比律賓諸島で用ひられる獨木舟。

バンカー[bunker] 石炭その他燃料を貯藏する場所。(燃料庫・炭庫) ——**コール**[bunker-coal] 燃料用の石炭。

はんかく-せん[半客船] 客も乘せ貨物も積む船。(貨客船・貨客混用船)

バンカー-ルーブル-しき[バンカールーブル(Punkah-Louvre)式] サーモタンク(thermotank)式通風裝置に於いて，客室その他所要の場所に冷風又は暖風を通風管にて誘導その吐出孔に食用椀とほぼ同型同大の器具を用ひる樣式をいひ，椀の口部は氣管に氣密に裝著，氣密を保ちながら自由に動かし得，又その底部に開口を有するため吐氣に任意の方向を與へることが出來る。

はん-き[半旗] 弔悼の意を表するため竿頭より軍艦旗又は國旗を半ば下げて掲揚すること。

ばん-き[盤櫃] 羅針臺上にある筐で，その蓋(ふた)を羅針儀蓋，羅牌を照らすランプを盤櫃燈といふ。羅針箱。

ばん-ぎ[盤木] 船舶の進水する前に船體の重さを支へるため，船底の諸所に取りはづすことが出來るやうにして設けるもの。進水の際次々にこれを取りはづすと，船體の重さはすべて船臺の上にかかり滑るばかりになつた際，索を切つて滑り止めの裝置がはづされると船體が動き出して進水する。

バンク[bank] ①航空用語。飛行機を傾斜せしむること。艦上機が燃料の無くなつた時，航空母艦などへの合圖として機體を左右に動搖させること。②海中に於ける淺所。(淺堆) ——**ファイヤー**[bank fire] 罐の火を埋火にして置くこと。to bank(up) the fires (火をいける)を略していふ。

バング[vang] ガフを左右に動かし或は支持する綱。

はん-げき[反擊] 引きかへして追つて來る敵を打つこと。

はん-げん[半舷] 軍艦の乘組員を左舷の任務者と右舷の任務者とに分けていふ稱。商船・漁船もこれに準ず。——**じょうりく**[半舷上陸] 休養のため艦艇及び部隊の兵員の半數に許される上陸。日曜日・祝祭日・記念日その他特命による公休日・土曜日に於いて許可され，土曜日は午食後より，その他の日は儀式行事終了後より夕刻まで外出を許される。入湯上陸

の番に當つてゐるものは引續き翌朝の朝食時までに歸ればよいことになつてゐる。

はん-こ［帆庫］ 帆や天幕などを格納して置くところ。

はん-こう‥カウ［反航］船舶が互に反對の針路をとつて航行すること。 ——**せん**［反航船］ 反航する船舶。 ——**せん**［反航戰］敵と逆行して戰ふ海上の戰鬪。

はん-こうこう‥カウ［半公港］ 港灣の水面使用權・棧橋等を所有する私人(鐵道會社・船渠會社・海運會社・倉庫會社等)若しくは官廳が共同して港灣の經營をなすもの。

ばんこく-かいほうかい‥クワイ［萬國海法會］萬國海法の統一を圖る目的を以て1897年に設立せられたる國際會議。爾來開催の都度世界各國は有力なる海法學者・海運業者・海上保險業者の代表を列席せしめ船舶の衝突・船主の責任限度・船舶物權等に關する各國法の統一を企圖審議した。

ばんこく-せんぱくしんごう‥ガウ［萬國船舶信號］國際信號の舊稱。 ➔同項。

はんさい-るい‥ルイ［板鰓類］鰓は板狀をなし骨骼は軟骨より成る魚類。鮫・赤鱏(エヒ)など。(軟骨類)

はん-し［判士］軍法會議の審判機關たるべき職員。將校を以てこれに充てる。

はん-じ［帆耳］横帆の下隅。縱帆の後隅。(クリュー(clew))

はんじつ-しゅうちょう‥チヤウ［半日週潮］ほぼ半日を週期とする潮汐。

はんじつ-ちょう‥チヤウ［半日潮］半日を週期とする潮。

はんしゅ-てん［半首點］羅針方位の各點を二等分した二分の一點。北東・北西・南西・南東。(四隅點)

はん-しょう‥セウ［帆檣］ ほばしら。

はんじょう-なんぴょう‥ジヤウ‥ヒヤウ［板狀軟氷］蓮葉狀海氷若しくは混合軟氷が互に凍り著いて板狀をしてゐるもので厚さ5～20糎。表面に龜甲のやうに丸い輪の模樣が殘つてゐる。⇨蓮葉狀海氷・混合軟氷。

はん-しん［帆心］ 各帆面に當る風力の中心。諸帆共同の總力に就いて稱するものを公帆心といふ。

はん-せん［帆船］ ①帆の裝置によりて風を動力として航走する船。(はぶね・ほまへせん・帆走船) ②法規上では主として帆を以て運航する裝置を有する船舶をいひ，機關を有するものと雖も主として帆を以て運航する船舶はこれを帆船と看做す。

ばん-せん［番船］ ①川口や關所の警戒見張をする早船。(詰船(ツメ)) ②江戸時代長崎御番所に屬した見張船で外國船を看視した。③海上を急速に航走して先著を競ふ船。その第一著船を一番船，第二著船を二番船と呼んだ。菱垣番船一名綿番船は新綿を，樽番船一名酒番船は新酒を積載し船頭をして運用の祕術を盡さしめ懸賞で江戸に先著を爭つた。⇨樽番船・樽廻船。

ばん-せん［蕃船・蠻船］江戸時代に於ける外國船の稱呼。(蕃舶・異國船)

はん-そう［帆走］風力を用ひ帆によつて船を動かすこと。(セーリング(sailing))

はん-そう‥サウ［帆裝］帆とこれに附隨する仕掛をまとめて裝備すること。横帆式と縱帆式とある。 ——**ぐ**［帆裝具］帆・檣・綱具及びその他の附屬品とともにいふ。

はんそう-すいらい‥スイ‥［反裝水雷］敵港の敷設水雷を爆發させるために使用する水中爆發物。

はんそう-てい［帆走艇］ 櫓艇にして帆を以て推進する場合にいふ。

はん-そく［半速］ 艦・船舶の速力段階の一。原速と微速との中間の速力。原速12節微速6節の場合に半速は9節。

はんぞく-ちょう‥チヤウ［半續潮］潮流がほぼ高潮時或は低潮時に最强となり高潮時或は低潮時の前後約3時間流續するもの。

はんたい-ぼうえきふう［反對貿易風］ 赤道地方の高溫度によつて大氣が膨脹して上層の風は貿易風(恒風)と反對の方向に南北兩極に向ふやうになる，その上層の風。地球の自轉のために北半球では南西風，南半球では北西風となる。反(逆)恒風・逆恒信風・反(逆)貿易風ともいふ。⇨貿易風。

はん-ちょう‥チヤウ［班長］分隊內の各班の長たる下士官で，その班の紀律を維持し，これが一致團結を圖り，分隊長及び分隊首席下士官を輔佐するもの。⇨分隊。

はん-ちょうさ‥チヤウ‥［半潮差］潮差の半分。

バンチング［bunting］旗布。丈夫で水に濡れてもべとつかない毛製の布。

ばん-て［番手］ 紡績絲の太さを表はす語。120碼(ヤード)のものを7個合せた840碼のものを10個を以て1綛(カセ)といふが，10綛の重量が10封度あるものを10番手と稱し，20綛で10封度のものを20番手と稱す。番手の數が多くなるほど絲は細い。

はん-てい［帆艇］ヨット(yacht)に同じ。 ➔同項。

はん-てん［反轉］ ①或る方向に向つて進航してゐたのを反對の方向に引きかへすこと。②前進にかけてあつた汽機を後進に變更すること。 **——-きかい**［反轉機械］リンク裝置又は齒車の嚙合せの變更などによつて，クランク軸の回轉方向を逆轉し得る機械。往復動汽機・蒸氣捲揚機・發動機船等に必要なもの。

バント［bunt］ 横桁(ヤード)の中央部をいふ。（スリング(sling)） **——-ライン**［buntline］ 横帆の中央を引絞るための索で，甲板上で引くやうにできてゐる。

はん-とう‥タウ［半島］大陸から突出して三方海洋に面してゐる土地。

パントリー［pantry］食器室。➔同項。

ハンドレール［hand-rail］ 甲板の周圍に張りまはされた鐵又は鐵鎖製の手摺(テスリ)。

はん-ぶ［帆布］帆を作るための布で，亞麻又は麻を織つたもの。幅は24吋，長さ36～42碼を1卷とする。その質の厚薄・强弱により1～8號までに分ける。（ケンバス・キャンバス(canvas)） **——-てい**［帆布艇］帆布(ハンプ)でつくつた小艇。

ハンプ［hump］ 水上機・飛行艇が離水に際し浮舟若しくは艇のステップより後方の部分が水を離れるをいふ。この時の速度を水上限界速度と稱し水抵抗が最大である。

バンプ［bump］ 溫度の變化，雲又は風のため氣流が穩かならずして飛行機を動搖させること。衝突氣流。

はんぷう-ろう‥フウ［反風浪］風向と反對に寄せ來る浪。

ばん-ぺい［番兵］張番をする兵。**——-とう**‥タウ［番兵塔］艦門の番兵が立つ所に天幕の張つてあるもの。

はん-まき［半捲］ 錨鎖が半捲だけ揚んでゐること。揚みの狀態により一捲(ヒトマキ)又は一捲半といふ。

ハンモック［hammock］釣床。➔同項。 **——-ネッチング**［hammock-netting］釣床格納所。

ばん-やき［麵麭燒］ 調理手の舊稱。船舶に乘り込んで，パン又は菓子の製造に從事するもの。（ベーカー(baker)）

はん-らん［氾濫・汎濫］ 水の漲りあふれること。

はん-りゅう‥リウ［反流］本流の側にこれと反對の方向に流れる流。

はん-りゅう‥リウ［伴流］船の進行に當り船尾に生ずる渦動。

ひ

ひ-えいりせん［非營利船］ 營利を目的とせざる船舶。學術船・教育船・感化船など。

ひえき-かん［非役艦］ 就役してゐない軍艦。

ビー-エル［B/L］船荷證券。Bill of Lading の略語。

ひかえヒカヘ［控］和船を漕行する際，櫓の操作によりて船首を左方に轉向せしむるをいふ。押(オサヘ)の對。

ひかえ-ずなヒカヘ［控索］①重量物などを揚卸しする際，その動搖を防ぐため別に取附けた索。②船首より陸岸等に取りたる繫留の外，更に船尾より陸岸等に取りて船を定繫するための索。

ひ-かき［火掻］爐中の火を掻き出したり，又はならす用をなす焚火用具。（ファイヤー-レーキ(fire-rake)）

ひがき-かいせん‥クワイ［菱垣廻船］江戸時代，大阪から江戸へ貨物を運漕した船。垣立の筋を菱垣(檜の薄板を網代組にしたもの)に造つたのでこの名がある。（檜垣廻船・檜垣船・菱垣船）

ひがき-ぶね［菱垣船］ 前項に同じ。➔同項。

ひかく-さ［比較差］ 經線儀と甲板時計との示時の差。

ひがし-ようせんけいやく［日貸傭船契約］ 傭船料を定める基準を1日幾何とする傭船契約。

ひ-かた［干潟］ 潮の干た潟。

ひ-かま［火鎌］炭滓(クヅ)が空氣の通路をふさぐのを除き去るために，火床の裏面から火床棧の間に挿し込む焚火用具。（プリッカー(pricker)）

ビカーム［becalm］ 風上の船又は山などが風を遮り，船又は帆に風が當らないやうになること。

ひかれ-ぶね［被曳船］ 曳船によつて曳航される船。

ひがん-じお‥シホ［彼岸潮］春分と秋分の頃の大潮を指し，1年のうちで干滿

の差が最大の潮汐。干満の差が最も大きいのは月・地球・太陽が一平面上の一直線に並んで起潮力の和が一年中で最大の時となるからである。

ひき　海光に同じ。➔同項。これを"しき"と稱する地方もある。

ピーキ［peak］①短艇帆の上部後隅。（スパンカー-ツライスル(spanker-trysail)）ラグスルの上部後隅。②斜桁の外端。その尖端のやや細くなつてゐる部をガーフ-エンドといふ。③船首尾の船舷狹尖部。④錨爪。

ひきあげ-さぎょう［引揚作業］難船の船體及び積荷を海中から引揚げる作業。

ひきあげ-せんか［引上船架・曳上船架］水邊の斜面に船架を設置し，これに船舶を乘せて陸上に曳き上げ修理を行ふ裝置。（スリップ(slip)）

ひき-あみ［曳網・引網］引寄せて漁獲する網の總稱。多くは囊狀で左右に袖網が附いてゐる。これを引廻して海岸又は船上で引揚げる。地曳網・船曳網・手繰網・トロール網等。

ひき-おろし［引卸］坐礁又は坐洲してゐる船舶を，そこから引下すこと。

ひき-こ［曳子］地曳網の左右の曳綱を曳いて網を海岸に引き寄せる人々。網の所有者を網親と呼び，その網を曳く人を曳子と呼び家族は皆出て曳く。昔から曳子の所屬する網親は代々一定してゐて，どんな不漁の時でも網親は所屬の曳子の家族を養つてゐたものである。

ひきこみ-いかり［引込錨］船首部錨孔に捲き込めばそのまま收まる錨。（引入錨）

ひき-しお［引潮］下潮。⇨潮流。

ひき-ずな［曳索］一船が他の船舶又は浮泛物を曳いて行く場合に使用するつな。（綱手）**——スリップ**［曳索スリップ］曳船索の脱股掛金。

ひきずの-ずり［曳角釣］帆又は機力で船を走らせつつ釣る。曳角は獸角製の擬餌を用ひる。曳繩釣の内擬餌鉤を用ひるもの，角(ツノ)は擬餌の別名。⇨曳繩釣。

ひき-ずり［曳釣］舟を操り餌を曳きつつ魚を誘つて釣る海釣の方法。

ひき-て［引手］動索の引く方の部分。根本(ネモト)の對。（フォーリング-パート(falling-part)）

ひき-とびら［引扉］船渠入口を閉ぢる戸が横に滑動出來るやうにした扉。

ひき-なみ［引波］船が高速度で進行する時に立てる波。

ひきなわ-ずり［曳繩釣］長き絹絲の末端に釣鉤を附け，これに餌又は擬

餌鉤を附して，漕櫓或は帆走して魚群中を曳き廻り魚を釣り捕へる。主として浮魚を漁獲するに用ひる方法であるが，烏賊・蛸の漁獲にも用ひる。

ひき-ぶね［曳船］①艦船・筏等に鋼索(カウサク)・綱(ツナ)・鐵鎖などをつけて曳いて行くこと。又，曳く船。②强力な推進機關を備へ他の船舶の錨地變換又は出港に際し，その船舶の運用を容易ならしめるために曳索を以てその船舶を移動させ，或は沖から帆船を港内に曳込む作業用に特に設計建造された船。（綱手船）**——けいやく**［曳(挽)船契約］船主がその船舶により相手方の船舶を一定の地點へ又は一定の期間曳航することを約し，これに對し相手方が報酬を支拂ふことを約する契約。阪神間艀を以て海上運送をなすに汽船を以て曳船せしむるが如き場合である。**——しんごう**［曳船信號］①曳船實施の際に限り，曳船と被曳船(ヒキフネ)との間に行ふ特定信號。②衝突豫防法上，霧中航行中一般汽船と異なる汽笛信號。**——りょう**［曳船料］曳船に對して支拂はれる報酬。

ひき-ぼし［曳干］干したる海藻。

ひきゃく-せん［飛脚船］①發著の時日を定めて船客・郵便物などを搭載し急航する汽船。②江戸時代に飛脚のために，發著の時日を定めて，日和に關係せず往復した船。"ひきゃくぶね"といつた。

び-きょう［尾框］魚雷の尾部で，鰭及び舵が取附けてある所。

ひきわたし-じゅうりょう［引渡重量］積荷引渡の時に於ける重量。積込重量の對。

びく［魚籠］釣つた魚を入れる器。籠びく・箱びく・桶びく・網びく・活し鏢，その他鮎釣用の囮箱・囮桶など。

ひくき-こうちょう［低き高潮］相次ぐ2高潮中の低い方。

びくに-ぶね［比丘尼船］勸進船に同じ。➔同項。

び-げき［尾擊］敵の後尾より攻擊すること。

ひけん-ひょう［避險標］暗礁その他の危險を避けるのに役立つ天然若しくは人工的の陸標又は海標。浦賀水道通航船舶が劍崎燈臺を避險標として海獺島を避ける等がその例。

ひ-こう［避航］危險なものをよけて航進すること。

ひこう-うん［飛行雲］飛行機が通つたために，その航跡に長く尾を曳く高層の白雲をいふ。高層を飛行する敵機の音も姿もないがそれによつて初めて襲來を知ることが出來る。

ひこう-か [飛行科] 飛行に關する業務を擔當する艦内の一科で，飛行長を科長とし，その下に飛行士・掌飛行長及び下士官・兵を配し1個乃至數個分隊を編成す。

ひこう-かんぱん [飛行甲板] 航空母艦の飛行機が發著するための甲板。

ひこう-き [飛行機] 機體・翼・發動機等を具へ，發動機でプロペラーを回轉して推進させ，翼に働く揚力で上昇し空中を飛翔するもの。——**かんそく-しゅげき** [飛行機觀測射擊] 飛行機をして遠大距離射擊に於ける彈著觀測をなさしめ，觀測の結果を無線電信・電話を以て砲術長に報告し，これによつて射擊を適正に指導すること。——**こうそく-そうち** [飛行機拘捉裝置] 航空母艦の甲板上，飛行機の尾部にある鉤を引掛けるために張つてある鋼索で，なるべく早く安全に滑走を止めるやうにしてある仕掛。

ひこう-きち [飛行基地] 航空作戰の根據となすために，飛行機・燃料・修理設備等を有し防備施設をも備へた所で戰局の進展に伴ひ前進する。

ひこう-し [飛行士] 飛行長の命を承け，その仕事を分擔補助する乘組兵科士官。

ひこう-じ [飛行時] 彈丸が砲口を離れてから彈著までの所要時間。

ひ-ごうし [火格子] 罐の炉内に配列して火床(ヒドコ)を作り，炭火を燃燒させる所。——**うけ** [火格子受] 火格子を2節以上にする場合，火格子の一方の端をかけるために炉の眞中に裝置せられる鐵製の受け棒。火床棧ともいふ。

ひこう-せん [飛行船] 錘形の氣囊に浮揚ガスを塡充して上昇し，推進機によつて飛翔する航空機で，氣球・氣囊及び吊船より成る。軟式・半硬式・硬式・金屬製の4種類がある。航空船ともいふ。

ひこうたい-し [飛行隊士] 飛行隊長を輔佐して訓練教育に從事し，飛行隊の事務を執る中・少尉。

ひこうたい-ちょう [飛行隊長] 軍艦で飛行長を補助し艦長指定の飛行隊を監督し，戰鬪に當りその指揮を執り，飛行及び航空機の整備に關することを分擔し，飛行長の指示に從ひ，これが教育訓練を掌り，分擔の船體・艦船艤裝品及び兵備品を整備する職員。

ひこう-ちょう [飛行長] 艦長の命を承け飛行科員を監督し，戰鬪に當りその指揮を執り，飛行機及び航空機の整備に關することを擔任し，これが教育訓練を掌り，主管の船體・艦船・艤裝品及び兵備品を整備する兵科將校。

ひこう-てい [飛行艇] 水上飛行機の一種で，ボートに翼をつけたやうなもの。胴體が耐波性の大なる浮舟になつてゐる大型のものが多く，長距離飛行に堪へ，偵察・爆擊の任務に從事する。單艇型と雙艇型とある。——**ぼかん** [飛行艇母艦] 水上基地に在つて，飛行艇乘員の慰安と休養を得られるための設備を有し，補給燃料・豫備品及び修理材料を搭載する特務艦。艇母と略稱す。

ひこう-へい [飛行兵] 海軍航空機の操縱竝びに諸作業に從事する兵種。⇨甲種飛行豫科練習生・乙種飛行豫科練習生・丙種飛行豫科練習生。

ひこう-よか-れんしゅうせい [飛行豫科練習生] 甲種・乙種・丙種とあり，甲種は中學校三學年修了程度の學力ある者から徵募檢査を行ひ選拔し，乙種は少年飛行兵と呼ばれるもので國民學校高等科修了程度の者から，丙種は海軍兵から選拔される。いづれも海軍練習航空隊に入隊して特別の教育を受ける飛行兵。

ひ-ざかな [乾魚] 魚をその儘又は鹽にして乾したもの。(ひもの・ひうを)

ひさご-あみ [瓢網] 定置漁業落網の一種。囊網に入つた魚は殆ど脫出が出來ない構造になつてゐる。富山灣に多い。鰯・柔魚等割合小型の魚類を目的とする。

ひさご-ぶね [匏船・瓢船] ①ひさご形の船。②上古，ひさごを浮力としてつけた船。

ひし [鑒・魚叉] ①棹の先端に菱形の鋭い鐵をつけて魚を突き刺して捕へる漁具。矛(ヤス)の類。② 割竹を編んで蒲鉾形に作り，河中に沈めて魚を捕へる具。

ひしがき-せん [菱垣船] 菱垣廻船(ヒガキカイセン)に同じ。➔同項。

ひしがた-ふひょう [菱形浮標] 方錐形をなしてゐる浮標。(ナン-ブイ (nun-buoy))

ひじ-しょう [臂章] 下士官・兵の科別及び官職を識別するために制服の右腕に附けるしるし。

ひ-しゃく [柄杓] 船中に備へて淦水(アカ)などを汲む具。

ひじゅう-かいりゅう [比重海流] 海洋學術語としては多く密度流といふ語を用ひる。⇨密度流。

ひじゅう-けい [比重計] 海水の比重を測るに用ひる計器。上部細くして

下部の太き硝子管の下端に水銀を入れ，これを測るべき海水を充たした硝子の圓筒に入れると比重に應じた所まで沈む。その時細管の目盛を讀んでその比重を知ることが出來る。

ひ-しょう [脊章] "ひぢしゃう"に同じ。➔同項。

び-しょう [尾檣] 4檣船の最後檣。(ジッガー-マスト(jigger-mast))

ひじょう-せん [避讓船] 海上衝突豫防法の規定により，他船の航路を避くべしと定められた側の船。俗にこれを義務船といふ。⇨義務船。

ひじょう-ろうどうしょく [非常勞働食] 艦艇の乘員が非常勞働に從事し，衛生上必要ありと認めた時に支給される食物。

ひ-ず [氷頭] 鮭・鮭などの頭蓋の軟骨。氷のやうに透明で脆く柔かい。

ひずけ-へんこうせん [日附變更線] 地球の自轉により，經度を異にする各地は同時に同じ時刻を示さず。故に太平洋横斷などに日附を變更する基準線。これを日附變更線といひ，大體180度の子午線に沿ひ，東より西に超えれば1日を除き，西よりすれば同日を二度數へ地方時の差異による日附の混亂を除く。

ピストン [piston] 蒸氣機關・內燃機關等に於いて氣筩(シリンダー)中に裝置し，蒸氣の壓力を受けて往復運動をなすもの。吸錫棒(ピストン)は接續銲を經て，その作働が推進器軸の中途にある曲肱(クランク)を押し，軸が回轉することによつて推進器がまはることになる。(吸錫) ——**きかい** [ピストン機械] 吸錫(ピストン)機械に同じ。➔同項。

ひ-ぜき [火堰] 船用罐の爐の奥に煉瓦で造つた障壁。火焔が素通りするのを妨げるために設けたもの。

ひ-せん [避戰] 敵の挑戰を避けること。

び-せん [尾栓] 砲に彈藥の裝塡を終へた後，その砲尾の口を閉鎖するもの。(閉鎖機)

ひ-せんそく [非戰側] 海戰で，現に交戰してゐる反對側。

ひ-せんとういん [非戰鬪員] 戰爭に從軍しても，直接戰鬪行爲に加はらない者。

び-そく [微速] 艦・船舶の速力段階の一。通例原速の約4～5割程度の速力に當るが，機關の種類その他の事情により必ずしも一定しない。編隊航行の際は微速何ノットとその都度指示される。舵の利く程度に緩やかに航行する速力を最微速といふ。⇨原速・半速。

ひたき-ぎょぎょう [火焚漁業] 焚寄漁業(タキヨセギョギョウ)に同じ。➔同項。

ひたき-てぶくろ [火焚手袋] 火鉗(ヒバサミ)その他の焚火用具を使ふ時に，手首に熱氣を感じないやうにするために用ひる綿入の手袋。商船では古布層を使ふことが多い。

ビータ-センタウリ [β Centauri] 天測常用恒星の一。センタウリ星座のうち，地球から最遠の恒星で南十字に近い方に在り，遠い方のアルファ-センタウリ(α Centauri)は地球に最近の恒星。

ひだり-いかり [左錨] 左舷に備へ錨泊に常用する主錨。右錨・右舷錨の對。(左舷錨・ポート-アンカー(port-anchor))

ひだりげん-ちょく [左舷直] 艦船部隊の下士官・兵は各配員番號によつて配置を定められ，その奇數番號の者を右舷直，偶數番號の者を左舷直とし，隔日交互に當直・非番直となる。

ひだり-びらき [左開] 帆船が左舷側より風を受けて前進すること。右開の對。(ポート-タック(port-tack))

ひっかけ-ずり [引掛釣] 掛鉤又は錨型の鉤で魚を引掛ける釣かた。

ひっ-き [筆記] 主計科下士官の舊稱。

ピッチ [pitch] ①推進器の1回轉によつて進む理論上の距離。節といふ。②短艇を漕ぐ際オールを水に入れる調子をいひ，1分間に何枚といふやうに數へる。漕率に同じ。➔同項。③漏斗(ジョウゴ)に同じ。➔同項。

ひっちゅう-だん [必中彈] ①發射した上は命中するにきまつてゐる砲彈。②入念に照準して投下する爆彈。

ピッチング [pitching] 船の前後に縱に搖れる動き方。(たてゆれ・縱動・縱搖)

ビット [bitt] 繫柱。➔同項。

ひてき-せん [避敵戰] 敵を避けて戰ふ作戰。索敵戰の對。

ビート [beat] 風上に切上る際(詰開きの時)にジグザグ-コース(zigzag-course)を取つて帆走すること。間切る。稀には上手廻しの意味にも用ひられる。

ひ-どこ [火床] 罐の爐內で石炭を燃えさせる平らな場所。

ビーナス [(羅)Venus] 金星。

ひなた-かんぱん [日向甲板] 特に日當りのよいやうに設備してある甲板。大型客船には旅客が日光浴をする場所としてこの設備のあるものが多い。(サン-デッキ(sun-deck))

ひ-なわ [火縄] 竹・檜の纖維又は苧を縄としたもので，これに火を點ずると永く消えず，艦艇で上甲板に喫煙用として煙草盆にそへて出すもの。

ひな-わし [雛鷲] 少年飛行兵の別稱。

ひなん-こう [避難港] 船舶が海難又は拿捕若しくは捕獲せらるることを避けんがため寄航する港。必ずしも開港たるを要しない。

ひのき-ずな [檜綱] 檜皮(ヒハダ)で作つた綱。多く碇綱に用ひる。

ひ-はいし [皮筏子] 昔，牛や羊の頭・足・尾などを切り去り，それを縫ひ合はせて袋とし，それに空氣を入れて浮袋としたものを，澤山並べて木材で結び筏にしたもの。

ひ-はく [避泊] 外敵を避け又は風波を凌ぐために船舶が或る錨地に一時碇泊すること。 **——ち** [避泊地] 風波を遮蔽し，保安上，艦・船舶が碇泊することが出來る錨地の總稱。

ひ-ばん [非番] 當番でないこと。 **——ちょく** [非番直] 兩舷直のうち，當直舷に屬してゐないもの。當直の對。⇨兩舷直。

ひび [篠] 小枝つきの竹や粗朶を海中に立て，これについた海苔の胞子や牡蠣の卵を附著させて養殖する。その材料のこと。 **——たて** [篠建] 海苔や牡蠣を養殖するため，淺海に篠を建て込むこと。

び-ひん [備品] 消耗品に對し永久に保存すべき性質の品物にして錨・燈・時計・國旗・信號書・寢具・食器・繫船索等をいふ。

ヒービング [heaving] 船の上下に動搖すること。

ヒービング-ライン [heaving-line] 大索を渡す準備として先づ投げ與へる細い導索で，その一端に小砂囊を附けたもの。

び-ぶ [尾部] 魚雷の一部。推進器・操舵機及び舵の取り附けてある部分。

ひ-ふく [被服] きもの。衣服類。被服洗濯・被服點檢などのやうに用ひられる語。 **——てんけん** [被服點檢] 海軍で被服物品の整頓・清潔・畳み方・諸臂章の附著，及び姓名・兵籍番號等の記入，破損の有無などを點檢し，且つ各自所持品の定數等をも調査することで，規定によつて被服物品を配列して點檢を受ける。

ひふく-せん [被覆船] 本船の外側を船底から水際まで銅鈑または眞鍮鈑を張つた船。船喰蟲が穴をあけたり海草や貝殼が附著して船底を汚し又は腐蝕を防ぐためにする。

ひ-ぶた [火蓋] ①火縄筒の火皿の火口を被ふ蓋。②敵に對して戰鬪を開始する準備をすることを"火蓋を切る"といふ。

び-ほう [備砲] 軍艦に裝備してある大砲。

ひぼう-だん [被帽彈] 徹甲彈の裝甲鈑に對する穿入力を增すために，彈頭に柔軟鋼製の彈帽をつけた砲彈。鋼鈑の硬い組織を壞した後，徹甲彈の硬い頭を以て鋼鈑を貫くことが出來るやうにしたもの。

ピー-ボート [P-boat] 第一次歐洲大戰中，英國が特に建造した600～700噸の輕快艇で，4吋砲1門及び12听砲1～2門を裝備したもの。

ひみつ-しつ [祕密室] 魚雷の一部で，內部に燃料(石油)室と清水室と深度機とが取附けられてゐる。深度機は，魚雷を常に水平に定められた深さに保たせるもので，錘重と發條の弾力と水の深さによつて生ずる水壓の力とにより，上下に舵を取らすもの。

ビーム [beam・梁] 兩舷側1對の肋材を水平に連結する船材でこれに甲板を張る。家屋の梁(ハリ)に相當する。 **——エンズ** [beam end] 船體の傾斜その極に達して横倒しとなり，原狀に復さず甲板面が垂直となつた狀態。 **——トロール** [beam-trawl] 曳網の開口裝置として横桁を用ひたトロール網。

ひ-もの [干物] 魚介類を乾燥して貯藏に堪へ得るやうに製造した食品。素乾・鹽乾・煮乾・燒乾などある。

ひ-やり [火鉗] 石炭が火格子受(ヒノガラ)に粘著するのを防ぐために火格子受に挿し込む焚火用具。(スライス・バー(slice-bar))

ビューフォートしき-ふうりょくかいきゅう [ビューフォート(Beaufort)式風力階級] 風力を13階級に區別し，風力計等の器械によらず，五感の力によつて決定するもの。⇨卷末附表。

びょう [鋲] 鋼鈑や鐵鈑などを永久的に接合する時に用ひる兩頭の圓い釘。(リベット(rivet))

ひょう-あつ [氷壓] 氷山などの緊迫による壓力。氷海航行の船舶はこれがため破壞沈沒することが屢々ある。

ひょう-い [氷衣] 連續して氷・半凍氷又は雪に覆はれること。

びょう-い [錨位] 碇泊位置。

びょういん-せん [病院船] 交戰國の傷者・病者及び難船者をその國籍の如何に關せず，救護扶助することを目的とする船舶で，戰鬪開始の際，又は交戰中これを使用するに先だち，船名を交戰國に通告したるものは交戰

中これを尊重せられ捕獲を免かれる。船體は外部を白色に塗り，幅約1米半の緑色又は赤色の横筋を施し，國旗の外に赤十字旗を揭げてこれを標識する。

ひょう-えい [氷映] 視界外にある氷塊の表面から反射する光線のために，雲が白く輝くこと。これによつて視界外の氷の區域を察知することができる。(氷照(ひてり)・アイス-ブリンク(ice-blink))

ひょう-かい [氷海] 一面に結氷した海。 **——みずさきにん** [氷海水先人] 氷海航行の熟練者である水先案内人。

ひょう-かん [標竿] 淺瀬や澪筋を示す立標。

ひょう-がん [氷岩] 海面上1米以上の高さを有する氷塊の浮泛するもの。

びょう-かん [錨銲] 笄(かぎ)に同じ。➔同項。(ストック(stock))

ひょう-きゃく [氷脚] 海水の飛沫により沿岸に生ずる氷の低き緣。

ひょう-きゅう [氷丘] 氷野又は氷原上に大浮氷より分離した氷片又は氷塊の積み重なつて，丘狀或は堆狀をなせるもの。(堆氷・ハンモッキー或はハンモックド-アイス(hummocky 又はhummocked-ice)) **——みゃく** [氷丘脈] 氷野若しくは氷原上に氷丘が，恰も田の畦のやうに脈狀をなして連なるもの。

びょう-ぐ [錨具] 錨作業に使用する諸要具。

ひょう-げん [氷原] 南北兩極地方に於ける氷野の一層大なるもの。この一部が海水に浮んだものは浮氷，その大なるものは氷山。➪氷野。

ひょう-こ [氷湖] 氷野若しくは氷原中にある相當の廣さを有する氷の無い部分で，氷の中の湖の如く見える場所。

ひょう-こう [氷光] 遠距離に於ける廣大な氷面に反射してゐる白色又は帶黃白色の光。

ひょう-こう [鰾膠] にべ。魚の鰾(フエ)卽ち"うきぶくろ"を煮た汁を乾かし固めて作つた"にかは"。

ひょう-こう [標高] 海の基準水面から地表の或る點に至る垂直距離。海拔ともいふ。

びょう-こう [錨孔] 錨鎖を舷外より前甲板に導くために船首附近兩側に斜に穿つた圓孔で，これにホーズ-パイプ(hawse-pipe)と稱する鋼筒を嵌め込んである。(ホーズ-ホール(hawse-hole))

ひょう-こく [氷殼] 厚さ5糎以内の硝子狀の薄板狀の氷の海面に皮殼をなす

もの。彈性を有し，破碎する際には硝子の破れる時の如き音を發す。

ひょう-さ [漂砂] 海の波や流れにつれ，浮いて方々に漂つて行く細かい砂や泥。流れの弱い波の小さい處で沈積して海濱に打寄せられ流動する土砂で，海を淺くしたり陸地を擴げることもある。

びょう-さ [錨鎖] 錨のくさり。船舶の碇泊に用ひるもの。その全長を1房，その一部分を1節と稱し，1節の長さは15尋(ひろ)で，1房は8～10節。(チェーン-ケーブル(chain-cable)) **——くだ** [錨鎖管] 錨鎖を揚錨機より錨鎖庫に導くために，甲板より錨鎖庫まで設けた圓筒。(チェーン-パイプ(chain-pipe)) **——しゃ** [錨鎖車] 鏈齒を使用し，機力により錨鎖を出入するのに用ひるもの。

びょう-さく [錨索] 錨につけるつな。

びょうさ-こ [錨鎖庫] 錨鎖を繰り込み置く處で，揚錨機の下方，中甲板以下にある。 **——スリップ** [錨鎖庫スリップ(slip)] 錨鎖を錨鎖庫内に於いて隨時切斷することが出來るやうになつてゐるもの。

ひょう-ざん [氷山] 氷河又は陸の氷原の一部が海洋中に辷り込んで流れ出し浮游する大氷塊。寒冷な高緯度地方に於いて氷河の下端が落下すると，大小の塊に分れて海面に浮ぶもの。屢々海面上の高さ100米以上に及ぶものがある。氷山の海水面上に現はれた部分は氷の比重からいへば約9分の1で8分の9は海面下にあることになるが，氷山には割目や穴が多く海面下にある部分は5～6倍が普通である。 **——かんしせん** [氷山監視船] 北大西洋横斷主要航路を航行する船舶が，遭難せぬやうに氷山の多く流れ出る期間に氷山の狀況を監視して通報するためにニューファウンドランド近海を中心に間斷なく航行する船。(氷巡視船)

ひょう-し [氷子] 數粍乃至數糎の大きさを有する薄板又は針狀の結晶で結氷の最初に出來るもの。(晶氷)

ひょう-しき [標識] しるし。めじるし。 **——ぎて** [標識技手] 燈臺を守る役目の人。以前の燈臺看守のこと。 **——ほうりゅう** [標識放流] 魚類の洄游の狀況を調査するために，元氣な魚を捕へ，その鰓や尾などにセルロイド・銀・ニッケルなどで作つた標識をつけて，直に逃しやり，次の漁場で他の魚に交つて漁獲された時に檢査し，標識番號によつてこれを放流した者へ送附させ，又は報告させて，その魚類の洄游狀況を推定する。

ひょうじ-き [標時旗] 艦隊の時辰を整一ならしめるために，旗艦の標時

旗降下によつて，各艦時辰の整合を行ふ。

ひょうじ-きゅう [標時球] 在港船舶等に正確な時刻を知らせるため，港内からよく見える丘等に高き柱を立て，通報する時刻，例へば正午直前に大きな球を柱の頂上に引上げ，正午に球を落下させて知らせる信號用の球。(タイム-ボール(time-ball))

ひょうじ-とう [表示燈] 水先船に掲げる水先燈又は水先船燈。

ひょうじゅん-うんちん [標準運賃] 海運市況判斷の標準となり，又各種運送契約に於ける運賃率裁定の基準となる運賃。我が國に於ける若松～京濱間の石炭運賃，歐洲に於けるリバープレート～歐洲間の小麥運賃の如き適例である。

ひょうじゅん-えいほう [標準泳法] 在來の日本諸流派の泳法の中から，最も重要なものを採擇し，更に速さを主とした競泳の泳法を加へた國民必修の泳法。

ひょうじゅん-き [標準旗] 陣形變換に際し，運動の基準となる艦艇の掲揚する旗。夜間は燈光を以てこれに代へ標準燈と稱す。

ひょうじゅん-きあつ [標準氣壓] 大氣の壓力の標準として，緯度45度の海上で，攝氏零度，切口の面積1平方糎，高さ76糎の水銀柱の重量に相當する壓力の强さを1氣壓といふ。⇨氣壓。

ひょうじゅん-こう [標準港] 潮汐推算上の標準にする港。

ひょうじゅん-じ [標準時] 經度を異にする各地の時差を統一するため，一國内で或る特定の子午線に對する地方時を標準として，一定區域内の地域で用ひる時刻。

ひょうじゅん-じょうたい [標準狀態] 潜水艦のメーンタンクに滿水し，潜航し得る如く艦の重量・釣合を按配した狀態。

ひょうじゅん-せん [標準船] 鋼材の統一，構造の簡易化，材料の節約，機械の急造等に考慮を拂ひ，或る標準によつて統制された船型の船舶。

びょう-しょう [錨床] 錨を收めるために設けた甲板上の斜面臺。海軍では錨座(びょうざ)といふ。(アンカー-ベッド(anchor-bed))

ひょうじょう-かっそうせん [氷上滑走船] 滑走橇のやうな一種の船にスループ型帆裝を施し，氷上を快速力で帆走するもの。(アイス-ヨット(ice-yacht))

ひょうしん-かん [表深管] 水深に比例する壓力により，螺旋發條を伸長

せしめ，その割合を指標により吸鍔鋒に自記せしめる長さ2呎3吋の眞鍮製管。

ひょうしん-りゅう [標信旗] 現行國際通信書による以前，萬國船舶信號書では先づ本旗を國旗の下に掲げて"萬國船舶信號書による信號を爲さんとす"との意思表示をするのに用ひられたが，現今はかかる手續信號を廢して直に所要の信號に入ることとなつた。

ひょう-そう [氷艙] 遠洋漁船の氷を貯藏しておくところで，活魚艙の兩側及び前方に設けてあるもの。

ひょう-ぞう [氷藏] 氷雪により低溫で魚類その他腐敗し易きものの腐敗を防止して貯藏すること。 ——**こ** [氷藏庫] ①船内で氷を貯藏しておく倉庫。②漁獲した魚類を氷漬にして貯藏しておく倉庫。

びょう-ち [錨地] ①船舶が錨を下して安全に碇泊し得る場所。②海圖に示された錨地の記號は，水深・底質が船舶の碇泊に適する所たるを意味す。

ひょう-ちゃく [漂著] ただよひながれて岸に著くこと。

ひょう-ちゅう [漂躊] 强い風波のなかで，激浪の侵入しないやうに船首を風向から6～10點に保ち且つ出來るだけ船位を同じ所に保つやうにする船の運用法の一。(ライ-ツー(lie-to))

ひょう-ちゅう [標柱] 艦・船舶の速行試驗を行ふために定距離(1海里)に立てた目じるしの柱。(海里標柱・マイル-ポスト(mile-post)) ⇨速力試驗標柱。 ——**かん-こうそう** [標柱間航走] ⇨速力試驗標柱。

ひょうちゅう-とっしん [氷中突進] 機力又は帆力を以て，小氷又は弱氷中を突破して船を推進すること。

ひょうてい-うんちん [表定運賃] 定期船の運賃で，運賃同盟によりて制限せられるとともに，荷主の如何を問はず運送を引受ける意思を以て賃率表を表示するもの。自由運賃の對。

ひょう-てき [標的] 艦砲射擊訓練や魚雷發射訓練の際に用ひる的(マト)。 ——**いかだ** [標的筏] 標的を取附けてある筏。主に移動標的として曳行する際に用ひられる。 ——**かん** [標的艦] ①艦砲實彈射擊訓練の際，標的の準備・曳航及びその操作をなし，又射擊實施中は監的作業に任じ，彈著の記錄などをする特務艦。②魚雷發射の際標的として使用する小船を標的船といふ。

ひょう-とう [標燈] "めじるし"の燈光。

ひょう-どう ［飄動］風の變轉や舵の取り方などによつて，風が帆をばたばた震はせること。（拍動）

びょう-どう ［苗頭］發砲後彈著する迄に，自艦及び敵艦の針路・速力・風向・風力・定偏等のため彈著が照準點より左右に偏するので，發砲に際しこれに對する修正をする。これを苗頭といふ。

びょう-どけい ［秒時計］秒時を精確に示す精巧な懐中時計。最初に押釦を押すと，長針は零秒の位置に戻り，次に押すと發動し，三度目に押した瞬間に長針は停止するので，二度目と三度目の間の所要時間を知ることが出來る。通常1秒の何分の一といふ短時間を讀み得るやうになつてゐる。（ストップ-ウォッチ(stop-watch)）

ひょう-はく ［漂泊］錨を入れずに海上にただよふこと。ただよひ流れること。

びょう-はく ［錨泊］船舶が錨をおろしてとまること。（碇泊）

ひょう-ばん ［氷盤］板狀軟氷若しくは平坦海氷が風波等のために破壞されて浮泛するもの。解氷期近くに氷野・氷原などが破壞されて出來ることが多い。

ひょう-びょう ［氷錨］厚い氷に船を繫ぐとき，丈夫な索をつけて使用するS字狀の錨。氷原と氷山と移動方向の異なる海面で，船は氷錨で氷山に繫ぎ置き，自然に氷原を通過し得ることもある。

ひょう-びん ［漂瓶・漂壜］海流瓶に同じ。➔同項。

ひょう-ぼう ［氷帽］小規模な氷原。北極地方・グリーランド・南極大陸に多く表面は雪であるが，内部は氷に化する。氷臺又は氷冠ともいふ。

ひょう-む ［氷霧］極寒の地方で，氷晶となつて浮泛する水蒸氣。

ひょうめん-さいすいき ［表面採水器］海面の水を汲み取るに用ひる器械。

ひょうめん-なみ ［表面波］波長が水深の割合に小さいものは，水面下の大部分が全く波の影響を蒙らない。これを表面波といひ大洋上の風波はすべてこれに屬する。

ひょうめん-ふくすいき ［表面復水器］器内に數多の細管を取附け，その管内に海水を流通させ，蒸氣機械で働き終つた蒸氣を冷却された管の外面に觸れさせて再び給水として罐に送るもの。觸面復水器とも稱す。

ひょうめん-りゅう ［表面流］皮流に同じ。➔同項。

ひょう-や ［氷野］廣い海面に氷の張り詰めたもので，廣袤少くも1平方浬以上に亘るもの。

ひょう-よう ［氷洋］堅氷で被はれてゐる海洋。

びょうよう-きじゅうき ［錨用起重機］錨を錨座に收めるための起重機で，斧を有する錨を裝備してゐる船にあるもの。（アンカー-クレーン(anchor-crane)）

ひょう-りゅう ［漂流］①風波のままに浮び流れること。②風によつて起る海流。（吹送流・皮流）——**すいらい** ［漂流水雷］①灣口から敵艦のゐる灣内に向つて流し込み，又は揚子江に於いて敵が流し込んだやうな水雷を漂流水雷といふこともある。②繫維索が切れて，流れ出した機雷。——**せん** ［漂流船］難破又は故障のため海上に漂ひ流れてゐる船。——**びょう** ［漂流錨］船が風潮に從ひ漂流するため船首から吊り下げておく船具。木材を組み，帆布を張りなどして錘を附し，海中に直立するやうにし索にて海中を曳き，船首を風浪に向け安全を圖るとともに，風浪による壓流を防ぐ。（海錨・シー-アンカー(sea-anchor)・ドリフト-アンカー(drift-anchor)・ドロガ(drogue)）

ひょう-りょう ［氷量］海氷が海面を覆ふ面積の，海面に對する割合。全面氷ならば10とし海面の約3割が氷ならば3とする。

ひょうろう-ぶね ［兵糧船］兵糧を運送する船。糧船ともいふ。海軍では運送船のうちこの任務に從事するものを給糧船と稱したことがある。

ひょう-わん ［氷灣］氷原の中で龜裂や大きな裂け目が出來て灣のやうになり，その大なるものは船舶の碇泊さへも可能ならしめる。

びょう-わん ［錨腕］錨の幹の根元から左右に出てゐる2個の腕。海軍では腕といふ。（アーム(arm)）

ひより-み ［日和見］天候をうかがひ測ること。船の舳にゐて天候を觀測する役。又，その役に當る人。

ひらい-しん ［避雷針］檣頂にそなへた金屬の針より銅線を甲板に導き，雷鳴の際，その銅線の下端に錘を附けて海中に投じ，落雷による被害を防止するもの。

ひら-およぎ ［平泳］體を下向きにして浮き，顔を水面に現はし，蛙足を用ひ，兩手を揃へて前方に伸ばし左右に開きつつ後方に水を掻いて進む泳法。

ひらかんばん-がた ［平甲板型］航空母艦の飛行甲板の一種類。甲板上に艦橋や煙突を一切設置しないもの。（フラッシュ-デッキ(flush-deck)）

ひらき［開］①風を正横前より受けて帆走する帆の張り方。右舷びらき，左舷びらき等がある。②淵の尻。淵が下流になるに從つて淺く開いて平瀬になつてゐる所。

ひらきそこ-せん［開底船］ 浚渫機から受けた泥土・砂利を處分する運搬船で，土砂を捨てる位置に，船底の一部を開き積載物を落す裝置の船。

ひら-く［開く］ 帆船が現在より以上に風上へ上るために，そのコースを換へること。（切上ぐ・ラフ(luff)）

ひら-じめ［平締］索端の結著等，强い力を受けない所に施す簡單な括著法。（フラット-シージング(flat-seizing)）

ひら-ぞこ［平底］ 川船のやうに底の平な和船。

ひらた-ぶね［平田船・艜船］ 底の平たくて長い小船。扁平で耕田の用としたからこの名がある。江戸時代に川船として交通の用に供したが，主に石材を運んだ船。略して平田(ヒラタ)ともいふ。

ひら-ば［平場］ 深淺なく平坦で魚の隱れ場がない所。

ひら-ばり［平張］ 短艇外板の張り方の名稱。平に接ぐ竝搭法。（カーベル-ビルト(carvel-built)）

ひら-ぶん［平文］ 信號の普通語句その儘にて符字化せざる通信文。

ひ-りゅう［皮流］ 海水の表面流。風によつて起る海流で季節風向等によりてその流域・速度・方向等の一定せぬもの。（表面流）

ひ-りょかくせん［非旅客船］ 船舶關係法規で12人以下の旅客定員を有する船舶をいふ。

ヒール［heel］ 檣若しくはボースプリット(bowsprit)等總て圓材の下端をいひ，又その上端をヘッド(head)といふ。

ビル-オブ-レージング［Bill of Lading］船荷證券。略して B/L ともいふ。

ビルジ［bilge］ ①艙底の淦水(アカ)。②艙底(船底の彎曲部で最大の幅を有し殆んど扁平)。 **——エゼクター**［bilge-ejector］ 蒸汽力により船底の淦水を船外に排出させる器械。（ビルジ放射器） **——キール**［bilge-keel］彎曲部龍骨。➔同項。 **——ポンプ**［bilge-pump］淦水排出用に使用するポンプ。

ひれ［鰭］魚類の水中游泳の際，前進・方向轉換又は上下運動を起す時に役立つ器官。背鰭・胸鰭・腹鰭・臀鰭・尾鰭の5種ある。

ビレーイング-ピン［belaying-pin］ 動索を捲止めるために内舷又は檣の周圍等に取附けてある木杆・鐵杆又は眞鍮杆。

ひろ［尋］①錨の長さ又は水深などを測る長さの單位で，6尺。②漁業者常用の長さの單位で，曲尺5尺。

ひろめ-あみ［廣目網］地引網・巾著網・揚繰網等のやうな大型の網の破損を防ぐため，その上緣若しくは下緣に當り太い絲で大目に編んだ網地。

びん-じょう［便乘］ 都合よく出る船に乘つて渡航すること。

びん-せん［便船］ 幸便の船。便乘すべき船。

ピントル［pintle］舵の前面に取附けた何個かの針。船尾材の後面に取附けた同數の壺金にこの舵針を嵌めて舵を船體に取附けて舵旋回の軸となるもの。（舵針）

ピンネース［pinnace］ もと12～16本の櫓を使用する大型短艇に使つた名稱であつたが，海軍では現今はこれを使用しない。

ふ

ファイヤー-メーン［fire-main］消防主管。➔同項。

ファウル［foul］競漕で他船の進航を妨げる行爲。

ファトック-リギン［futtock-rigging］ 檣から檣樓の緣端にかけられた短い索梯子。斜後方に傾いてゐるのでこれから仰向に登る。

ファンネル-ケーシング［funnel-casing］煙突圍(ケムトヒ)。➔同項。

ブイ［buoy］浮標。➔同項。 救命浮標・救命浮環をライフ-ブイといふ。

フィギュアー-ヘッド［figurehead］艦(船)首飾。船首像。艦船の船首を飾る像。破浪神。昔は船の首を飾るものがその船の運命に重大な關係があるものとして，種々の意味を持つた裝飾をした。帆船時代に船の頭に海神や龍などの彫刻をつけて魔除けとした。

ブイ-ばんぺい［ブイ番兵］ 軍艦の航海中，乘員が海に落ちた場合に，時機を失はず救命浮標を溺者に投げ與へるために後甲板に在つて番をする兵員。後方の見張をも兼ねる。

フィン-キール［fin-keel］ヨットの下鰭龍骨。

ふう-あつ［風壓］風の及ぼす壓力。風速の2乘に比例して增加する。**——けい**［風壓計］風壓を測定する器械。最上部に矢羽があつて水平の管に風が吹込み，他の諸部の小孔が風に當つて吸出の作用をなし，それによつて浮標が昇降し，その上部に取附けたペンで回轉圓筒上に風壓變化を自記する裝置のもの。**——さ**［風壓差］船首の方向と實際に船の進む方向との差角。（リーウェー(leeway)）

ふう-い［風位］風向に同じ。➔同項。海洋學術語としては多く風向といふ語を用ひる。

ふう-いん［封印］當該責任者以外の開閉を禁ずるため，櫃・袋等の口又は艙口を紙又は紐等にて結びその結び目に押す印，又は印を押す事。拔荷・脫稅等を防ぐために，稅關吏が入港船舶の艙口を封印する事を艙口封鎖といふ。

ふうか-げん［風下舷］風下(かぜしも)側の"ふなばた"。

ふうか-とうばん［風下當番］見張當番の援助や連絡の役をつとめ，なほ30分毎に時を報ずる時鐘を打ち，或は必要な時刻に必要なことを船内に告げ廻る役目を兼ねる者。

ふうか-びょう［風下錨］船が雙錨碇泊中，風下側に投入してある錨。下手錨ともいふ。風上錨の對。（リー-アンカー(lee-anchor)）

ふう-けい［風系］風の發生する系統。赤道無風帶の兩側にある貿易風，溫帶高氣壓帶の外側にある偏西風のやうな大氣の大環流によるものと，季節風のやうな週期的なものとある。

ふう-こう［封港］戰爭などの際に港灣の出入を禁ずること。

ふう-こう［風候］風の吹く樣子。

ふう-こう［風向］かざむき。風の吹いて來る方向。（風位）**——けい**［風向計］風の方向を知る計器。**——ひょうしき**［風向標識］天氣豫報信號標の一。風の方向を示す三角旗。北は白，東は綠，南は赤，西は青等。

ふう-さ［封鎖］⇨海上封鎖。**——かんたい**［封鎖艦隊］封鎖した沿岸・港灣の附近に碇泊又は巡邏して，その目的を達成する任務に從事する艦隊。**——こう**［封鎖港］封鎖せられてゐる港。**——しんぱ**［封鎖侵破］船舶が封鎖の存在するにも拘らず封鎖艦隊の許可なくして封鎖地域に入り又はこれより出でんとすること。封鎖を侵破する船舶及びその載貨は拿捕沒收される。封鎖違反ともいふ。**——はん**［封鎖犯］封鎖侵破の行爲を

なすこと。⇨封鎖侵破。

ふうじょう-げん［風上舷］風上に向つた方の"ふなべり"。風下舷の對。

ふうじょう-びょう［風上錨］船が雙錨碇泊中風上側に投入してある錨。上手錨ともいふ。風下錨の對。（ウェザー-アンカー(weather-anchor)）

ふうしん-き［風信器］風向計に同じ。➔同項。

ふうせい-かいりゅう［風成海流］風を原因とする海流。

ふう-せつ［風雪］雪を伴ふ暴風。（吹雪）

ふう-そく［風速］風の吹く速度。1秒間に走る風の速さ。**——けい**［風速計］風の速度を測る計器。普通4個の風盃を十字桿の末端に取りつけ，これを垂直な心棒の上部に固定させ，風盃に風を受けて回轉し，下部の計器によつて風の速度を知る裝置のものが廣く用ひられてゐる。（風速測定器・風力計・アネモメーター(anemometer)）

ふう-たい［風袋］商品の容器又は包裝材料の重量。風袋を取去つた中味のみの重量を正味といひ，風袋と正味との總量を皆掛(かけ)といふ。正味の對。

ふう-ちょう［風潮］風に伴ふ潮。

ふう-とう［風濤］風が吹いて浪の立つこと。又，その浪。（風浪）

ふうとう-せん［風筒船］風力を利用し，圓筒を旋回させて推進する船。燃料節約を目的とするものであるが，未だ一般に使用されない。（ローター船・回旋圓筒船・帆無し帆船）

ふう-はく［風泊］船首が風に向つて碇泊すること。

ふう-はん［風帆］①風をよく受けてふくれた帆。②風に吹かれる船。

ふうはん-せん［風帆船］西洋型の帆前船。

ふう-ひょう［風標］風向を見るための具。かざみ。

ふうみつ-めいれい［封密命令］或る作戰を開始するに先立ち，豫め作戰命令を作製し，封書して艦長などに渡して置き，愈々作戰を開始する時にこれを開封せしめるもの。

ふう-りょく［風力］風の吹く力。**——かいきゅう**［風力階級］風の强弱を示す便宜上作られた風力の段階。海上では波の高低を基準としてビューフォート(Beaufort)式風力階級と呼ばれ0～12の13階級に分れてゐる。⇨卷末附表。**——けい**［風力計］風速計に同じ。➔同項。

ふう-ろ［風路］艦船内通風裝置の箱型をしてゐる長い筒の空氣流通路。

ふえ［鱈］魚の"うきぶくろ"。

フェーア-ウエイ [fairway] 航路。道路。澪(ミヲ)。

フェーア-リーダー [fair-leader] 索道(ワイヤ)。➔同項。導索器・フェーア-リード(fair-lead)ともいふ。

ふえき-さ [不易差] 船首方位の變化に關係なく，常に一定の値を有する羅針儀の自差。

フェンダー [fender] 防舷物。➔同項。

ぶえん-だて [無鹽立] 生魚を運搬する船。魚の新鮮なものを無鹽といひ，これを訛つてビエンといふ地方もある。九州地方で生魚で積出すことを無鹽漕(ブエンヤク)といふ所もある。

フォーアマスト [foremast] 前檣(ゼンシヤウ)。➔同項。

フォーアマン [foreman] 貨物の積揚をする仲仕を指揮監督する頭(カシラ)。複數はフォーアメン(foremen)。

フォクスル-ウォッチ [forecastle-watch] 前甲板見張當直。船の最前部船首樓にありて見張をする當直者。

フォースル [foresail] 横帆船の前檣。最下の大帆。

フオックスル-デッキ [forecastle-deck] 船首樓。➔同項。

フオマルハウト [(羅)Fomalhaut] 航海中天測常用恒星の一。スキートからマルカブを過ぎてほぼ正南へ約45度辿むとフオマルハウトに到達する。スキートは天馬座(ペガスス)の四邊形の北西角を占め約5度離れた所にある2星と組合つて小三角を造り，マルカブは天馬座の四邊形の南西角を占めてゐる。

フォール [fore] 船の前部。軍艦内では下士官・兵は前部に居住するので下士官・兵のことを指すことにもなる。商船では普通海員の俗稱。

フォールス-キール [false-keel] 副龍骨。➔同項。

フォールディング-ボート [folding-boat] 折疊式短艇。

ぶ-がい [部外] 海軍の者が海軍以外の者に對する呼稱。部内の對。

ふ-かいこう [不開港] 外國船舶又は外國貿易船の出入を許可せず沿岸貿易のみに開放せられる港。開港の對。(不開港地)

ふか-かじ [深舵] 船をやる時，舵を深く水に入れること。かくすれば進行鈍けれども動搖の度少し。

ふ-かく [俯角] 砲軸の水平に對して下向きの角をいふ。普通の砲では5度を最大とする。②潜水艦が艦首を下げて釣合(トリム)を調整すること。仰角・仰角釣合の對。(俯角釣合・ダウン-トリム(down-trim))

ふか-こうりょく [不可抗力] 天災・地變・戰爭などの防ぐことの出來ない自然又は人爲の出來事。

ふかさ [深さ] 長さの中央に於いて，龍骨の上面から上甲板の舷側に於ける上面に至る垂直距離。

ふかん-き [不管旗] 他艦と行動をともにせず，又ともにし得ざることを意味する信號。

ぶ-き [武器] 直接敵人・敵物を殺傷破壞する兵器。➔兵器。——**ていれ** [武器手入] 軍艦日課の内，水兵部員及び雜部員が各その戰鬪部署に從ひ大砲・發射管その他特に命ぜられたる擔任場所の手入をなすこと。

ぶ-ぎ [武技] 劍道・柔道・銃劍道などの武術。

ふき-かえし [吹返] 風が前と反對の方向に吹くこと。

ふき-せん [不期戰] 遭遇戰に同じ。➔同項。

ふき-だん [不規彈] 種々の原因によつて，とんでもない所に落下する彈丸。

ふき-ながし [吹流し] 風向・風力の概略を判定するに便ならしめるため，飛行場に揭げる長さ1米の布を直徑30糎の輪に附け末端の直徑を20糎とし竿端から風に靡かすもの。艦船でも飛行機の出入の際これを揭げる。——**しゃげき** [吹流射擊] 長い布を圓形の輪に取附け風に靡かせつつ長い索で標的曳航機が曳いて飛行すると，他機はその吹流しを標的として射擊の練習をする。

ふぎょう-りん [俯仰輪] 大砲の仰角または俯角の運動を掌るハンドル(handle)で，射手がこれを操作する。

ふく-えき [服役] 兵役に服すること。

ふく-かん [副官] 司令部・官衙・學校等に置かれる定員で，長官に直屬し軍事上の庶務を掌る武官。元帥・軍事參議官副官を附屬せしめられる。

ふくかん-て [副罐手] 碇泊中副汽罐の焚火に從事する機關部普通船員。舊稱は副汽罐番。

ふく-きかん [副汽罐] 碇泊中使用する蒸氣を起すための小型汽罐。——**ばん** [副汽罐番] 副罐手の舊稱。➔同項。

ふく-きとう [副汽燈] 船舶の前後中央線上に高さを異にして揭げる2燈で他船に概略針路を表示する用に供するもの。(レーンジ-ライト(range-light))

ふく-ぎょぐ [副漁具] 漁具の作用を補助するもの。主要漁具の對。➔漁具。

ふくげん-せい [復原性] 船舶が浪等のために一方に傾斜してもすぐ元の狀

態にかへり容易に顚覆しない性能。船が平衡の位置より少しく傾いた時に復原力が働く場合は安定と稱し，更に一層傾斜せんとする力が働く時は不安定といひ，復歸せんともせず傾斜せんともせざる場合は中性といふ。(スタビリチー(stability))

ふくげん-はんい [復原範圍] 復原力の働く範圍。⇨復原性。

ふくげん-りょく [復原力] 船が外力を受けて一方に傾斜した時，原位置に復歸せんとする力。⇨復原性。

ふく-こう [副港] 本港の主要泊地内又はこれに近く別に小規模の泊地を形成したもので，小船溜又は小内港の如きものも副港と呼ぶことがある。

ふく-ごう [輻合] 帆走競技に際し同一方向に並んで航走する時に，一艇が有利に風を受ける結果次第に他艇に接近して寄つてくること。

ふく-こうはん [覆甲板] 覆甲板船の上甲板。**——せん** [覆甲板船] 2層以上の甲板を有し，その構造輕裝なる船。オーニング-デッキ船と同意。

ふくこく-しき [複殼式] 潜水艦の船體構造が單殼式の上を更に薄い外板で包んだ二重船殼のもの。⇨單殼式。

ふくざ-き [複座機] 操縱者の背後に1人の射手を乘せ，後方・側面並びに上方の敵に對する旋回自由な機銃を裝備した軍用飛行機。

ふくしき-きかい [複式機械] 船用機關の往復機械とタービンとを組合せた機械。蒸氣を先づ往復機械で使用し，その排氣を蒸氣タービンに入れて充分膨脹せしめ，最後に復水器に送つて效率を高め使ひよい機械とするもの。(組合(クミアワセ)蒸氣機關・コンパウンド-エンジン(compound-engine))

ふくしゃ-ぎり [輻射霧] 地面に近い氣層が輻射作用で夜間冷却し早朝内陸・海岸又は山間に生ずる霧。朝霧・陸霧・夏霧等この類。

ふく-しょう [副檣] 他檣に比し著しく小さく旗章揭揚裝置のないもの。

ふくすい-き [復水器] 蒸氣機關等に於いて，その排出蒸氣を冷却凝縮させて水に復せしめる器。(コンデンサー(condenser))

ふく-そうじゅう-そうち [複操縱裝置] 操縱裝置が前後二重になつてあるもの。⇨初步練習機。

ふく-ちょう [副長] 艦長を輔佐し，艦長の命令を執行し，艦務を整理し，乘員の服務を監督する職員。**——ずき** [副長附] 副長の命を承け，服務する乘組兵科士官・特務士官又は准士官。平常甲板士官として服務する。⇨甲板士官。

ふくちょく-しょうこう [副直將校] 軍艦で交番に副直勤務に服し，當直將校の命を承け，日常の艦務を處理する乘組兵科士官・特務士官又は准士官。

ふく-てい [複底] 二重底に同じ。→同項。

ふく-ていきあつ [副低氣壓] 低氣壓の通過した後に踵いて來る低氣壓。

ふく-テークル [複絞轆] 2個以上の絞轆を連接したるものをいふ。艦船に使用するものはランナー-エンド-テークル(runner-and-tackle)・ラフ-アポン-ラフ(luff-upon-luff)である。

ふく-とう [副燈] 立標を建設することが出來ない暗岩などで，燈船又は浮標を置いても風波のため維持困難の場合には，その附近の陸岸に設けてある燈臺の下部に副燈を設け，危險區域を俯射し，又この目的のために燈臺の近傍に別に該危險區域のみを俯射する副燈を設けることもある。

ふく-びょう [副錨] 主錨の應急用豫備として，船首樓附近に備へ，主錨を失ひ，又は主錨のみにては繫泊に不充分の場合に用ひられる錨。(豫備大錨・シート-アンカー(sheet-anchor))

ふくべ-ぶね [匏船] 上古，筏のやうなものに浮力を增すため，瓢箪の浮力を利用し，これを並べ裝置した船。或は浮氷の補助として泛子(ウキ)に使用したもの。支那ではこれを腰舟(ヨウシウ)といふ。(瓢船・瓠船(ヒサゴブネ))

ふく-ほう [副砲] 戰艦に於いて主砲の次に重要なる砲熕。口徑は13糎・14糎・15糎等であつて戰艦目がけて襲ひかかつて來る敵の巡洋艦・驅逐艦・潜水艦，水雷艇等の擊攘に用ふる大砲。副砲に次ぐものは高角砲・機銃等の對空兵器である。⇨主砲。

ふくほう-ちょう [副砲長] 艦長の命を承け，砲術長の職務中副砲に關することを分擔する少佐又は大尉。

ふく-ぼつ [覆沒] 艦船などの轉覆して沈沒すること。

ふくよう-き [複葉機] 上下に相重なつた2翼を有する飛行機。翼長及び幅が小さく出來て艦載機に適し，安定性良好なれども抵抗が大きく取扱が不便で比較的高價である。

ふく-りゅうこつ [副龍骨] 主龍骨が木製なる時，その下面に取附け，擱坐等の場合にこれを保護する添材。

ふく-れる [脹れる] 引くべき汐の引かぬこと。海がふくれるといふ。

ふくれん-めいあんとう [複連明暗燈] 燈臺用語。不動光で一定の間隙毎に俄然2回以上の全暗を呈するもの。

ふくろ-あみ［嚢網］ 曳網の中央後部にあつて袋狀をなしここに魚を集積する。通常細目の網地を用ひ，その中間には舌とか喉(ノド)といはれる漏斗狀の網をつけて，一度この中に入つた魚は再び脱出することが出來ぬやうに作られてゐる。

ふ-けい［浮景］ 光線の屈折に因りて生ずる物體の映像。蜃氣樓の一種。

ふ-けいざい-せん［不經濟船］ 船舶の運航採算が有利ならざる船舶。經濟船の對。

ブザ［buzzer］ ①各砲側にあつて，電磁的に鐵片を振動せしめ，電路を斷續してブンブン鳴らせ砲火指揮所からの合圖に用ひる一種の信號裝置。潜水艦の司令塔から各要所に傳へる警報にも用ひられる。②無線電信用の挑勵器。バザーともいふ。(蜂鳴器)

ふじ-こしゅう［不時呼集］ 思ひがけない時，急に呼び集めること。

ふじ-ずな［藤綱］ 藤かづらで作つた綱。和船の繫綱・碇綱に用ひる。

ふじ-ちゃく［不時著］ 飛行機・飛行艇が事故のため操縱手段を盡して著水(陸)すること。

ふ-しつ［浮室］ 魚雷機構の一部で，内部に縱舵機・車軸があるのみで，室中は殆んど空虛な魚雷に浮力を與へる所。

ふじ-ぶん［符字文］ 信號の本文が普通語句を用ひず，文字又は數字の符字より成るか，又は普通語句と斯かる符字との混淆せる通信文。

ふしみ-ぶね［伏見船］ 江戸時代，伏見～大阪間，及びその附近の淀川筋を往來した船。伏見奉行の支配下にあつた。

ふ-しゅう［浮舟］ 飛行機の機體の直下に大型のものを1個又は2個を併列し，又主翼の兩端下に小型のもの各1個を取附け，機が水上に在る時に浮力と安定を與へるために内部が水密隔壁で區劃されてゐる構造物。浮舟型水上機の乘員は浮舟とは別個の胴體に占位する。俗に下駄といひ浮舟型水上機を"下駄ばき機"といふ。飛行艇の胴體は浮舟兼用といふ形に造られ特にこれを艇體といふ。(フロート(float))

ぶ-しょ［部署］ 役目を割當てること。(配置) **——きょうれん**［部署教練］ 艦船の乘員が皆各自の配置に就いての戰鬪の教練や，艦船の保安(火災・浸水・荒天などの場合に對する處置をとつて安全を圖る)に關する教練をいふ。

ふ-しょく［腐蝕］ 彈丸を打ち出す火藥のガスが大砲の筒の内側を腐ちせること。紐狀火藥(ﾀﾏ)は殊にその作用が强く砲の命數を縮める。(エロージョン(erosion)) ⇨命數。

ふ-しん［浮心］ 浮力の中心。物體が，液體面に浮んで靜止せる時，浮力はその物體の重さに等しく，且つその重心を通過する鉛直線に沿ひ，排除せる液の重心に働く。この浮力の著力點を浮心といふ。

ふ-ずみ［不積］ 荷主又は傭船者から契約數量の荷物を船積せざること。斯かる場合には荷主又は傭船者より船主に對し不積運送賃が支拂はれる。**——うんそうちん**［不積運送賃］ 契約數量の貨物を積載せざるにも拘らず，積載せるものとして，傭船者より船主に對し支拂はれる運賃で，等しく運賃と稱するも，傭船者の契約違犯に因る一種の懈怠金の性質を有する。(空積運賃・空運賃)

ふ-せつ［敷設］ 沈置物を水中に定置すること。**——かん**［敷設艦］ 多數の機械水雷を搭載し，所要の海面にこれを敷設する任務に從事する軍艦。⇨機械水雷。**——すいらい**［敷設水雷］ 水中に繫留する機械水雷。管制式と非管制式の2種がある。管制式は機雷から電線を陸上に導いておき，適當な時に電流を通じて爆發させる。これには信號浮標や，水中聽音機などを使ひ，敵艦の來るを計つてきめる電氣管制機雷と，陸上から人が見張つてゐてきめる視發機雷とがある。非管制式は又繫維式ともいひ，錘(おもり)の附いた索を以て適當な深さの水中に沈置しておくもの。⇨機械水雷。**——せんすいかん**［敷設潜水艦］ 機雷を敷設する任務に服し，特殊の構造と裝備を有する潜水艦。**——てい**［敷設艇］ 機雷敷設の特殊裝備を有する特務艇。**——めん**［敷設面］ 機雷を敷設してある區域。**——もうかん**［敷設網艦］ 防潜網を敷設する小艦。

ぶ-そう［武裝］ ①武器を身につけること。②艦船に武器を裝備すること。**——かいじょ**［武裝解除］ 艦船や人の武裝を解いて，戰爭に參加させないやうにすること。**——せん**［武裝船］ ①戰時特に大砲・爆雷などを搭載して，敵水上艦艇・敵機・敵潜水艦などの襲擊に備へた船。②相當有力な大砲を裝備して，敵の通商破壞に從事する船。

ふ-そく［不足］ 實際船積・陸揚又は荷渡しせられた積荷の數量が船積・陸揚又は荷渡しされる筈であつた數量より足りない事。過剩の對。**——かもつ**［不足貨物］ 不足する貨物。⇨不足。

ふぞく-かい［附屬海］ 面積が比較的に狹く，海流が微弱であり，しかもそ

の多くが大洋より入り込んで來たもので，總てにその所屬する大洋や，陸の影響を蒙むることが著しいもの。更に内海と邊海とに區別する。(枝海)

ふぞく-せん［附屬船］ 海軍諸學校に附屬してゐる練習船。

ぶ-たい［部隊］ 戰鬪力を有する集團。

ふたまた-ぶね［二股舟・兩枝船］二股の材を用ひて作つた小舟。(ふたまたぶね・ふたまたせん)

ふたり-こぎ［二人漕］櫓1挺に，水手2人がかりで漕ぐこと。またその船。關船の40挺立以上の大船。2人掛りともいふ。

ふち［淵］水の深くたたへた所。(潭)

ふち-ずな ～ツナ［緣索］帆の周緣に縫ひつけた索條。(ボルトロープ(bolt-rope))

ふちん-せんかん［不沈戰艦］ 防禦完全にして敵の砲彈・爆彈・魚雷などが命中しても沈沒する虞なしと稱せられる戰艦。

ふつ-いつ［沸溢］罐の水の沸出すること。(プライミング(priming))

ふつう-かいいん ～オン［普通海員］ 海技免狀を必要としない船舶乘組員の總稱。その提供する勞務の種類により普通，甲板部(甲板長・船匠・操舵手・甲板庫手・甲板員)，機關部(操機長・操機手・機關庫手・機關員)，事務部(司厨長・司厨手・調理手・司厨員・司厨庫手・調理員)の3部に分たれる。高等海員の對。 ——**ようせいじょ** ～ショ［普通海員養成所］ 運輸通信省海運總局所管に屬する普通海員の教育養成をなす施設。航海科及び機關科の2科を置き，その修業期間は3月。

ふつう-ぜんこうしょう ～ショウ［普通善行章］ 海軍の兵籍に入つてから3年間品行方正勤務精勵なる下士官・兵に對し善行章1線が附與せられ，爾後3年毎に同樣1線宛を加へられる。黃色山形で臂章の上部に附ける。 ⇨特別善行章。

ふつう-とうびょう ～ビョウ［普通投錨］錨孔よりその儘投錨すること。深海投錨の對。 ⇨深海投錨。

ふつう-ほけん［普通保險］ 戰爭危險にあらざる普通の海上危險，例へば衝突・沈沒・坐礁・膠沙・火災，その他の事故による損害補塡を目的とする保險。戰爭保險の對。

フッカー［hooker］ ①和蘭式2檣帆船又はアイルランド沿岸で用ひられる英國式1檣漁船の型式。②古風で出來の不器用な船。

ふっ-かく ～カク［伏角］磁針の方向が水平面となす角。偏角の對。

ふつ-ぎょう ～ギョウ［拂曉］日出時太陽が地平下18度以内に在る時の間。黃昏と併稱して天文薄明といふ。(よあけ・あかつき・夜あけがた) ⇨黃昏・薄明。 ——**せん**［拂曉戰］ 特に拂曉を選んで行ふ戰鬪。

フック［hook］鉤。爪。

ふっ-こう ～コウ［復航］船舶が到達港(仕向港)より發航地(仕出港)に歸る航海。往航の對。

ふっ-トン［佛噸］キロ噸とも稱し1000瓩を以て1噸とする重量單位。わが國の約267貫に當る。メートル法の普及とともに漸次廣く使用せられるようになりつつある。

ふていき-こうろ ～コウロ［不定期航路］不定期船の航路。定期航路の對。

ふていき-せん［不定期船］ 時と所とを擇ばず，轉々積荷を追つて航海に從事する船舶。普通，貨物船である。(トランプ(tramp))

ふてい-ふう［不定風］ 方向不定な風。

ふてい-りゅう ～リュウ［不定流］方向の定まらない海流。

フート［foot］帆の下緣。帆裾(ホスソ)。

ふ-とう［埠頭］ 港灣内の陸岸から海中に突出させた構造物で，船舶を繫留し，水陸の連絡を便にするもの。(波止場(ハトバ)) ——**うきばこ**［埠頭浮函］貨客昇降用の函船。潮汐干滿の差大にして水面の上下が多い所等に多く用ひられる。(ポンツーン(pontoon)) ——**かんしゅにん**［埠頭監守人］埠頭を監視し取締る人。 ——**にんぷ**［埠頭人夫］船貨の積卸に從事する勞務者。(波止場人足・仲仕) ——**べり**［埠頭緣］繫船岸に接した平場。船貨の揚卸，船客の乘降の際等に使用せられる。(エプロン(apron)) ——**りょう** ～リョウ［埠頭料］船舶を埠頭に繫留した場合に支拂ふ埠頭の使用料。 ——**わたし**［埠頭渡］到著港の埠頭に貨物を陸揚げしたる時を以て引渡しの時及び場所となすもので港稅・艀舟賃及び陸揚費用等は賣主の負擔である。

ふどう-かっしゃ ～カッシャ［不動滑車］絞機使用に際し眼鎖等に固定した方の滑車。動滑車の對。

ふとうき-せん［不登記船］ 船舶登記及び登錄をなすことを得ず且つこれを必要としない船舶。西洋型船舶にあつては總噸數20噸未滿，日本型船舶にあつては積石數200石未滿のもので，總噸數5噸未滿，積石數50石未滿の帆船及び櫓櫂船を除き，船籍港を定め船鑑札を受けることを必要とする。

登記船の對。

ふとう-こう[不凍港] 年中，海面が凍結しない港。

ふどう-とう[不動燈] 燈臺の燈質の一で，一定の燈色と光力を持續して間斷なく輝くもの。

ふとうぼ-せん[不登簿船] 登簿船にあらざる船舶。⇨登簿船。

ふところ[懐] 激流が岸の岩間に入り込んだ淀みとか流れの曲る所で，その流れを離れた内側のよどみ等のこと。

ブート-トップ[boot-top] 空船吃水線と滿載吃水線との間の船側をいひ，この部分には水線塗料といふ茶褐色の防蝕塗料を塗布する。

フート-ロープ[foot-rope] ①桁及びブームに沿つて垂れてゐる綱索で，作業する人員の足懸となるもの。②帆の下緣に縫びつけられた索。

ふな[船・舟](古)"ふね"に同じ。→同項。

ふな-あし[船脚] ①船の進む速さ。(船足)②吃水の通稱。單に足ともいふ。

ふな-あまり[船餘] 船が岸に著いた時，その反動で岸から少し離れ返ること。

ふな-あらため[船改・船檢] 通航の船を檢査すること。(ふなしらべ)

ふ-ない[部内] 部外の對。⇨部外。

ふな-いかだ[船筏] 小船を幾艘も連繫して，その上に板を並べ，筏のやうにしたもの。

ふな-いくさ[船軍] ①兵船に乘る軍兵。(水軍・船手・舟軍・舟師) ②水上の戰鬪。(水戰)

ふな-いけす[船活洲] 側壁に小孔を穿つた古船，又は箱を海に浮べ，活きの良い魚類を蓄へいけておく裝置。

ふな-いた[船板] ①船中のあげいた。②造船用の板。

ふな-うた[船唄] ①船夫が船を漕ぎつつ歌ふ唄。船漕唄・櫓押節などといふ。また新年の船おろし・船乘り始め・新造の船おろし・網引き始め・大漁祭祝・大漁祝及び各種の漁業勞働唄などを總稱していふ。(海歌(かいか)・欸乃(あいない)・棹歌(たくか)・櫂歌・漁歌) ②船夫・漁夫の唄ふ形式を模して作つた器樂曲・追分唄・ゴンドラの唄等。

ふな-うち[船打] 船から投網を打つて魚を捕へること。徒打(かちうち)の對。

ふな-えい[船酔] 船の動搖するために氣分の惡くなること。船暈。(ふなよひ・ふなやまひ・ふなやもひ)

ふな-おさ[船長] 船をあやどる舟子のかしら。船長(せんちやう)。

ふな-おろし[船卸・船下] ①新造の船を初めて水上に浮べること。(進水) ②船の積荷をおろすこと。③濱邊に引き上げてある漁船を，出漁のため海に押し出すこと。

ふな-がかり[船繋] 船を繋ぎ留めて泊ること。又その所。(ふなとどめ・ふなどまり)

ふな-がく[船樂] ①船中にて奏する音樂。② (古) 龍頭鷁首の船をうかべその中で奏した雅樂。

ふな-かけ[船駈] 競漕。船を漕ぎ走らす競爭。(船競(ふなくらべ))

ふながこい-ば[船圍場] 防波堤で防護された小水面で，小型船舶若しくは舟艇の繋泊に供せられる所。

ふな-かざり[船飾] ①船のかざり。旗・武器等にて船を飾り，船體に色塗などすること。②船の出帆の用意。

ふな-かじ[船火事] 船又はその積荷の火災。

ふな-がしら[船頭] 船頭・船手衆，また船奉行の一稱。

ふな-かた[船方] 船に乘ることを業とする者。(ふなのり・せんどう・かこ・ふなこ)

ふな-がため[船固] 坐礁した船舶が風浪又は潮流などのために移動して破壞しないやうにする應急工作。例へば船の沖側に强力な錨を入れ，その反對側には岩などを利用し，鋼索を取つてその船を固定させること等。

ふな-がみ[船神] 船を守護する神。船玉神。

ふな-かんさつ[船鑑札] 日本に船籍を有する總噸數5噸未滿の船舶及び櫓櫂船以外の船舶で20噸未滿のものは登記及び登錄する必要はないが，取締の必要上，船籍港を管轄する地方官廳に届出をなし，船鑑札の交付を受けることになつてゐる。船籍の證明をなすもので，小船は常にこれを携航して船舶國籍證書に代へる。(せんかんさつ)

ふな-き[船木] 船を造る材料とする木。

ふな-ぎおい[船競] 船の競漕をすること。((古)ふなくらべ・ふなかけ・競漕)

ふな-ぐ[船具] 船に用ひる器具。柁・檣・桁・碇・櫂・帆等。(せんぐ)

ふなくい-むし[船喰蟲] 船體の木材部分等に寄生して蜂巣狀に木材を喰ひ損ずる蟲。(ふなむし)

ふな-ぐみ[船組] 昔の海戰に於ける各軍船の戰鬪隊形のこと。又軍船の碇

泊陣形。

ふな-ぐら［船蔵・船庫］ ①水邊で船を納めておく建物。②船中で品物を納れ置く處。（艙・船艙）

ふな-くらべ［船競］"ふなぎほひ"に同じ。➔同項。

ふな-ぐり［船繰］ 船舶に主眼を置き，如何に差繰して船舶を運航するかを決定すること。

ふな-こ［船子］船を操縱する人。（ふなびと・せんどう・ふなかた・かこ・水夫）

ふな-こし［船越］（古）兩側が江又は海で，その間の陸地がくびれて細くなつてゐるところ。舟を擔いで越したからといふ。

ふな-ごみ［船込］ 港灣等に多くの船の入り込み泊れるところ。

ふな-ごや［船小屋］ 船又は船具を入れておく小屋。

ふな-し［船師］①海上の商人。江戸時代の語。②せんどう。又，船長。（ふなをさ）

ふな-じ［船路］①船の行き通ふ路。（しほぢ・うみぢ・航路・水路）②船でする旅。（船旅）

ふな-じり［船尻］ 船尾（舵の前方上部）。

ふな-じるし［船印］船舶の所有者・乘手等を示すため用ひられた記章。帆・旗・幟・幕等が用ひられた。（船章・船標）

ふな-しろ［船代］ 漁獲高の分配で，水揚高からその航海の經費を引いた純益を舟夫（カコ）に配當する際，船の働いた分として船主の收入になる分。

ふな-ずまい［船住］ 船を住居とすること。（水居）

ふな-ずみ［船積］①船舶に貨物を積載すること。②運送品を契約した船舶に積込むこと。

〜-あんないじょう［船積案内狀］荷送人が商品を船積した時，荷受人に船名その他とともにその旨を通知する書狀。船積通知狀ともいふ。

〜-おくりじょう［船積送狀］商品を船舶に積込發送する際その積荷とともに送附する送狀。送狀とは荷送人から荷受人へ送附する荷物の明細書。（輸出送狀・外國送狀）

〜-きかん［船積期間］廣義では貨物の船積に要する期間のことをいふが，普通は傭船者が船積港に於いて契約貨物を本船に船積するため本船を碇泊せしめ得る期間をいふ。

〜-こう［船積港］運送契約上，傭船者又は荷送人がその荷物を船積すべき港。（積荷港）

〜-ごくいん［船積極印］滿載吃水線標・乾舷標に同じ。➔同項。

〜-さしずしょ［船積指圖書］ 船主（運送人）が積込船の船長に宛てて出す積荷の積込命令書。

〜-しょるい［船積書類］ 貨物の船積に必要なる書類又は船積したことによつて必要となる書類の總稱。船積指圖書・積荷受取證・船員受取證・船荷證券・海上保險證券・積荷目錄・船積送狀等。

〜-つうちじょう［船積通知狀］①船積の際，運漕問屋その他船舶仲立人がその貨物とともに本船に提出する通知書で，船積すれば本船責任者に於いてその旨を記入署名の上返附する。船積指圖書に代るもの。②本船入港の際船主又は傭船者が積荷の數量・種類等積附準備その他のため船長に通知する書類。③倉出願書によりて保稅倉庫より倉出したる貨物を愈々船舶に積込むことを貨主より稅關吏に通知する一種の報告書。

〜-ふなにしょうけん［船積船荷證券］ 積荷が船積された後に發行される船荷證券。➔受取船荷證券。

〜-もうしこみしょ［船積申込書］ 荷物を積送せんとする時，荷主より船會社に差出す荷物の積送依頼書。品名・荷印・數量・荷送人・荷受人・仕向港等を記載する。

ふな-ずもり［船積］昔，航海するとき陸上の目標と航程を線香・磁石・時計などによつて測りその船の航路と位置とを知つたこと。

ふな-ずり［舟釣］ 陸釣に對して舟に乘つて釣ること。海では沖釣ともいふ。

ふな-せ［船瀬］（古）船舶が風波を避けるための碇泊所。

ふな-せき［船席］ 繫船岸に横附けする船の占める場所。

ふな-そこ［船底］ 船の底。（船底（ヂテイ））

ふな-そろえ［船揃］ 多くの船が，航海準備をなすこと。

ふな-だいく［船大工］ 船を造る大工。（船工・船匠）

ふな-だいしょう［船大將］ 水軍の指揮者で現今の司令長官に當る。

ふな-だち［船立・發船］"ふなで"に同じ。➔同項。（出帆）

ふな-たて［船燎・船燻］ 船底の蟲喰及び腐蝕を防止するため航海終了の際船を陸上に引揚げ船底を燻燒すること。船底掃除又，燻船（ヂテン）ともいふ。

——ば［船蟇場］船の底を蟲に食はれることを防ぐため，船を濱に干上げて燒く，船蟇をする場所。（蟇場）

ふな-だな［船棚・船捌］大和船の兩舷の板の總稱。數段をなし船底に最も近き最下の板を根棚，その上で沒水部を構成する傾斜せる舷板を中棚(なかだな)乾舷部を構成する木板を上棚(うわだな)といふ。（ふなべり・ふなのべ・ふなばら・ふながは）

ふな-だま［船靈］船を守護し，海上航路の事を掌る神。船玉神。**——の-あな**［船魂の穴］帆柱を受け支へる筒の下方左右にある2個の小方穴。右舷の方へ船魂の神體及び賽2個を，左舷の方へ五穀及び金錢等を納める。各地方により納め方を異にする。**——の-かみ**［船靈の神・船玉の神］船靈(ふなだま)に同じ。➔同項。

ふな-だまり［船溜］港の一部で，船が碇泊するところ。（船瀉(ふなゆ)）

ふな-だより［船便］船に托する音信。（ふなびん）

ふな-ちん［船賃］船に乘り又は船を雇ふ時に拂ふ賃錢。（ふなせん）

ふな-つ［船津］船の泊るところ。（ふなつき・湊・津）

ふな-つき［船著］船のついて泊る所。（ふなつきば・はとば・ふなば・ふなつ・船繫(ふながか)・港・津）**——れっしゃ**［船著列車］船・車連絡のため本船繫留棧橋迄運轉する列車。（臨港列車）

ふな-つば［船鍔］木造船舶の最上甲板の兩側に於いて肋骨の上端を覆ふ材。

ふなつりあい-なおしやく(ふなつりあいなおしやく)［船釣合直役］中古水軍で船大工の中から選ばれ，帆船にあつては前後左右の傾きの釣合を直し，又糧食・馬匹などの搭載につき船體の釣合の事を掌つた者の職名。

ふな-て［船手］①（古）船路。航路。②水軍・海軍。③船舶・海上運輸の事務を掌るもの。④船手頭の略。**——がしら**［船手頭］德川幕府の職名。幕府の用船を保管し海上運輸事務を管掌し，その下に船手組と稱する水主同心(かこどうしん)があつて總ての作業をなした。（船大將衆・船奉行）**——ぐみ**［船手組］德川幕府の職制の一。幕府の用船を督し，運輸のことを掌つた組衆。**——しゅう**［船手衆］水軍を掌る人々。海賊衆(かいぞくしゅう)。水軍の將士。**——ぶぎょう**(ふなてぶぎょう)［船手奉行］船奉行に同じ。➔同項。

ふな-で［船出］船が岸を離れて出發すること。（ふなだち・解纜・出帆・出船(でふね)）

ふな-どこ［船床・船答］①船中に床として敷く簀。答。②船底の積荷場所。

——がし［船床貸］船床とは船底積荷場所卽ち船艙を意味し，船床貸とは船の賃貸借の意であつて當今の期間傭船に類似する。

ふな-どまり［船泊］船繫(ふながか)。

ふな-どんや［船問屋］運送取扱人・回漕問屋・運送問屋に同じ。➔各項。（ふなどひや）

ふな-なか［船中］大和船中の一種の制度。乘組員の共濟を目的とするもの。

ふな-に［船荷］船舶に搭載して運送する貨物。**——がかり**［船荷係］主として積荷に關する事務を擔當する船舶乘組の事務員。（フレート-クラーク(freight-clerk)）**——しょうけん**［船荷證券］船主が運送品を受取り船積したことを認證し，これを海上運送して指定港に於いて船荷證券の正當なる所持人に證券と引換に引渡すべきことを約する有價證券。**——つみおろしにん**［船荷積卸人］沖仲仕・荷役人夫に同じ。➔各項。

ふな-ぬし［船主］船の持主。

ふな-ぬすびと［船盜人］水上に横行し財貨を强奪する盜賊。海賊。

ふな-のり［船乘］①汽船・帆船・和船の乘組員の總稱であるが，普通には汽船の乘組員を稱し，和船の乘組員は船頭・舟子などといふ。②船に乘ること。

ふな-ば［船場］船の出入する所。（船著(ふなつき)・波止場・埠頭）

ふな-ばし［船橋］數多の船を竝べ繫いでその上に板を渡し通行し得るやうにした橋。（浮船橋・浮橋）

ふな-ばしご［船梯子］船に乘降するためにかけた梯子。（ラダー(ladder)）

ふな-ばた［船端・舷］船のへり。ふなべり。

ふな-ばら［船腹］①船の腹部。②船舶若しくは船舶の載貨能力。**——がし**［船腹貸］次項に同じ。**——けいやく**［船腹契約］賃積契約の變形せるもので船腹全部を傭船するも，傭船料を定める基準を1噸何圓とせず包括的に"甲乙兩港間運送賃何千圓"又は"船腹貸切運賃何千圓"の如く定める傭船契約。この場合の傭船料を船腹契約運賃・船腹貸切運賃又は總括運賃(ランプ-サム-フレート(lump-sum-freight))といふ。（ランプ-サム-チャーター(lump-sum-charter)）

ふな-ばり［船梁］和船の兩側の棚板間に横たへた角材で，船の受ける水の横壓を支へて船の形を維持するもの。➔横梁(よこばり)・根梁(ねばり)。

ふなびき-あみ［船曳網］網を船の上に引き上げるか又は網を船で暫らくの間曳いて廻る網で，中央に囊があり左右に袖網と引綱がある。トロール網

は船曳綱の一種。

ふなひき-ば［船曳場］ 小規模な漁船などの修繕設備で，コンクリート又は石畳の斜路に引き揚げ修理掃除に充てる所。又砂濱をそのまま利用することもある。

ふな-びと［船人］ ①船に乘つてゐる人。②舟を漕ぎやることを業とするもの。（船頭・舟子・水夫）

ふな-びん［船便］ 船の便り。船の都合。

ふな-ぶぎょう［船奉行］ ①武家の職名。船頭(ふなのかみ)。②中古水軍の役員で現今の艦隊幕僚中最も重要な地位にあるものに相當す。⇨船大將・海賊衆。

ふな-べり［船緣・舷］ ふなばた。（船側・船邊(ふなべ)）

ふな-ぼし［船星］ 北斗が北極星の上に高く横たはつて見える季節に，柄の端の2星を除いた5星を結んで船の形と見て呼ぶ。

ふな-まち［船待］ 船の出帆を待つこと。

ふな-まわし［船廻］①一地より他地へ船舶を回航すること。②回漕に同じ。

ふな-めんじょう［船免狀］ 朱印船に與へた外國貿易免許狀のこと。

ふな-もち［船持］ 船を所有すること。またその人。（船主(ふなぬし)）

ふな-もよい［船儲］ 船出の用意。船裝(ふなぜわ)。

ふな-もり［船守］ 船舶の番人。また船の番をすること。

ふな-やかた［船屋形］ 船の屋形。船上の屋。船の部屋。（蓬庫(ともこ)・舫屋）

ふな-やど［船宿］ ①船の運送を營業とする家。②遊船又は釣船を仕立てることを營業とする家。

ふな-やどり［船宿］ 船が碇泊すること。又船中に宿ること。

ふな-やまい［船病］ 船に酔つて病むこと。（船暈・船酔）

ふな-ゆ［船滄・淦］ 船中に滲入した水あか。滄(ニ)又は淦(アカ)ともいふ。（船湯・閼伽）

ふな-ゆうれい［船幽靈］ 水中で死んだ人の幽靈。雨夜などにあらはれて船を覆し人を害するといはれてゐる怪物。（海坊主）

ふな-よい［船酔］"ふなよひ"に同じ。→同項。

ふな-よせ［船寄］ 船をよせること。又その場所。

ふな-よそい［船裝・船艤］ 出船の用意。船儲(ふなぜわ)。

ふな-よばい［船呼］ 船を呼びよせること。又，その聲。

ふな-わたし［船渡］①船で荷物又は人などを對岸へ渡すこと。又，その所。

（渡(わたし)・渡場(わたば)）②賣買貨物の受渡場所を本船とするもので，買主は本船に到りて貨物を引取ることを要し，賣主の責任は貨物が本船を離れると同時に止むものである。

ふね［船・舟］⇨船舶。

ふね-さし［船差］ 棹さして船をやる人。（撐夫(ちょうふ)）

ふ-はつ［不發］ 故障で發火しないこと。發射しても彈丸が破裂せぬこと。

ふはん-しんごう［布板信號］地上から味方の飛行機へ連絡通信するために用ひられ，白布を種々の形狀に展張して信號する。布板の大きさは通常4米平方で，高度1500米以下に用ひ，この組合せにより約150種の約束信號が出來る。

ふはん-せい［浮泛性］水に浮く性質。

ふ-ひょう［浮氷］ 海上に浮べる氷塊。

ふ-ひょう［浮標］ 船舶の航行する水面の特定の場所に碇泊した目標及び船を繫留するもので，船舶繫留用の繫留(船)浮標，航路を指示する航路浮標，沈船の位置を示す沈船浮標等がある。——**さく**［浮標索］浮標を繫止するための索。——**しようりょう**［浮標使用料］浮標を使用するために支拂ふ料金。（浮標料）——**ぜい**［浮標稅］租稅として徵收する浮標の使用料。（浮標料）

ふひょう-しょくぶつ［浮漂植物］うき草の類。水面に葉を浮かせば根を生じて水中より榮養をとる植物。

ブープ［poop］最上後甲板。（ブープ-デッキ(poop-deck)）——**デッキ**［poop-deck］船尾樓。→同項。

ふぶき［吹雪］ 降雪が風のために飛散するもの。海員は一般に風雪を吹雪といふことがある。（風雪）

ふふ-タンク［負浮タンク］ 潛水艦の急速潛入或は深度增加に際し，豫め滿水しておき艦に若干負浮力を與へ，その沈下惰力を大ならしめるもの。

ぶぶん-ふくこうはんせん［部分覆甲板船］ 覆甲板船と同一構造で，その覆甲板が船の首尾を通じて全通せず，單に一部分のみに有する船舶をいふ。

ふみ-ぼう［踏棒］ 飛行機操縱者の足の屆くところにあつて，鋼線索で方向舵に連繫しそれを足で押して機首を所要の方向に廻すもの。

ブーム［boom］ ①帆の下桁の縱桁(帆の裾を張るための圓材)。②圓材。——**ス**［booms］ 舊式軍艦の豫備圓材の收納所。——**ボート**［boom-

boat] 舊式軍艦の豫備圓材の收納所がある敷材甲板に收められるランチ・ピンネースの如き大型短艇。

ふゆう-きらい [浮游機雷] 水中に投下後浮游すると直に有效になり，短時間經過後，自爆して沈むやうな裝置になつてゐる機雷。浮子を有するものと，浮子なしに上下に浮沈して一定の深度を保つものとある。

ふゆう-くうらい [浮游空雷] 氣球に機雷を附けて上空に揚揚し，敵機がこれに引つ掛るや否や爆發してこれを墜落させる仕掛けのもの。

ふゆう-せいぶつ [浮游生物] 體は多く透明で自動的運動力を具へるもの少く，概ね潮流に隨つて移行する顯微鏡的微生物の總稱。植物性と動物性とある。（プランクトン(plankton)）

ふ-よう [浮揚] 沈沒せる船を浮き揚がらせること。また坐礁した船を滿潮に浮上らせ離礁させること。

フヨールド [fiord] 氷河の浸蝕によつて生じたる谷に，海水が侵入して形成する深く切込んだ細長い入江で，ノルウェー國の海岸にはこれがが多い。フィヨルド又は峽江・峽灣とも稱す。

フライイング-ブリッジ [flying-bridge] 普通商船では船橋の屋根の上，雨ざらしの所を指していふが，船尾樓から船首樓へ行くのに凹甲板へ降りずに橋を渡つて行けるやうになつてゐる，その橋をいふこともある。

ブライドル [bridle] ①繫留索。大索端に附したる短索で他の大索に結び附けるに用ひるもの。②艦首から浮標に至る短錨鎖。シングル-ブライドル及びダブル-ブライドルは片舷繫及び兩舷繫。

ブライミング [priming] 罐水の沸出ること。沸溢。

フライング-ジブ [flying-jib] 帆船の最前部に懸る三角帆。これを懸けるための帆杠を先斜檣（フライング-ジブ-ブーム）といひ，ジブ斜檣（ジブ-ブーム）の延長部である。 **——-ブーム** [flying-jib-boom] 先(サキ)斜檣。ジブ斜檣（ジブ-ブーム）に沿つてその先に突出した圓材でフライング-ジブと稱する帆を懸けるために設けたもの。

フライング-スタート [flying-start] ヨット競技の際，海上に浮かべた標識旗を見通して連れた一直線を發艇線と見做して，その後方に適宜に帆走しつつ發艇信號と同時にこの發艇線を横切る方法。

フライング-ダッチマン [Flying Dutchman] ①大西洋に就航するクリッパー型の優秀郵船。②荒天中希望峯附近に出沒したと傳へられる幽靈船。

ブラインダー [blinder] 盲蓋(メクラブタ)。➔同項。

プラグ [plug] 栓。➔同項。

ブラック-スコール [black-squall] 黑雲と雨とを伴ふ急風。ホワイト-スコール(white-squall)の對。

フラッグ-スタッフ [flag-staff] 旗竿(ハタザホ)。➔同項。

フラッシ-がた [フラッシ(flush)型] 航空母艦の發著甲板に司令塔・煙突等の突出部を有しない型式。アイランド(island)型の對。

フラッシ-デッキ [flush-deck] ①機關室圍並びに罐室圍の頂部の外，一切突出物なき全通甲板。②航空母艦の上甲板全部を飛行甲板に使用するものをフラッシ-デッキ型と稱す。司令塔・艦橋・煙突等は總て飛行甲板下に按配す。➪アイランド型。

フラッシ-プレート [flash-plate] 戰艦等に於いて首尾に裝備してある重砲の周圍甲板に張つてある鐵鈑。發砲の際砲口より噴出する火氣のために甲板張板の燒損するのを防ぐもの。

フラット [flat] 中下甲板及びその以下の甲板の區劃したものを區別して呼稱する名。發射管を裝備した所をトルピード-フラット (torpedo-flat)，衣服箱を排列した所をチェスト-フラット (chest-flat)といふ。

プラットフォーム-デッキ [platform-deck] 近時の大艦に於いて下甲板の下部に設けてある防水鋼甲板で彈藥庫等の直上の甲板。

プラフ-せん [プラフ船] 馬來群島で用ひる細長い一種の快速帆船で首尾ともに尖り前後何れの方向にでも航走し得るもの。（プラフ(prahu)）

プランク [plank] 船の外側の張板。

プランクトン [plankton] 浮游生物。➔同項。

ブランチ-パイプ [branch-pipe] ①筒先(ツツサキ)。➔同項。②消防主管の枝になつた管。

フリー [free] 海運用語で船舶が一航海を終了し何時にても次の航海に就き得る狀態となること。又はその狀態に在ること。

ふり-がかり [振繫] 陸や浮標へ纜索(ランサク)を取らず，錨だけを卸して船を泊すること。

ブリガンチン [brigantine] 2檣を有し前檣には横帆，後檣には縱帆を裝備する船。

ふり-き [振木] 魚群を威嚇して網の中に追ひ込む振綱に結びつけてある數

多の薄板。

フリゲート［frigate］全裝帆船で，甲板2層を有し，上下の甲板に30～50門の大砲を備へた現時の巡洋艦に相當する木造艦。大きさの順序はラインオブ-バットルシップ(line-of-battleship)，フリゲート(frigate)，コルベット(corvette)，スループ(sloop)等。

ブリスター［blister］軍艦の水線以下外底に施した艦底防護裝置。

ふり-ずな［振綱］魚群を驚して網の中に追込む麻繩で作つた綱。

ブリーチェス-ブイ［breeches-buoy］救命浮袍。麻布製の半股引に浮袋を附けたもので，難破船より海岸にひきわたした索に吊下げ，遭難者はこれを纏つて海岸に引寄せられる。

ブリッグ［brig］2檣を有し各檣とも横帆を裝備する帆船。

ブリッジ［bridge］艦橋・船橋。➔同項。

フリッツ［Fritz］獨逸潛水艦の俗稱。

ふり-なわ［振繩］桂繩(けいじょう)に同じ。➔同項。

フリー-ボード［free-board］乾舷。➔同項。

ふりゅう-すいらい［浮流水雷］①無繫維式機雷で，潮流や河流を利用し敵の艦船の居る所の上流から故意に浮流させ，まぐれあたりに觸れて爆發させるもの。②繫維索が切れて，流れて來る機雷。③水中に投下するや否や有效になり，短時間經過後自爆して沈むやうな裝置になつてゐるものもある。敵に迫はれたり又數分後に必ず敵がその上を通過する見込の時に用ひる。

フリューク［fluke］錨の爪。⇨爪。

ふ-りょ［俘虜］犯罪のためでなく，軍事的理由のために自由を奪はれた敵人。國際法によつて，軍に屬する者・軍に屬しない從軍者・自國領土内にある敵國の平和的人民は俘虜とすることが出來る。（とりこ）**——こうかん-せん**［俘虜交換船］俘虜交換規約により交換した俘虜を敵國から本國に送るために使用される船舶。（カーテル-シップ(cartel-ship)）

ふ-りょう［不漁］漁で獲物が少ないこと。

ふ-りょく［浮力］物體が流動體中にある時，周圍の流動體に押上げられる力。**——けいすう**［浮力係數］潛水艦の豫備浮力を排水量に對する百分比で表はしたもの。**——タンク**［浮力タンク］①潛水艦が潛航中，艦が俯角にて沈降せんとする場合に急速に空氣排水をなし艦首を擧揚させるために

用ひるタンク。②遭難船の破損の箇所が大きいか或は海の狀況で水中の密閉作業が困難な場合に，圓筒形のタンクを船體の周圍に縛りつけ，このタンク内へ空氣を送り，タンク内の水を排することによつて船を浮ばせるもの。

ぶ-りょく［武力］戰爭に當り直接間接に兵力を消長する有形無形の要素の數量。⇨戰鬪力。

プール［pool］①游泳池。②合同計算。➔同項。

ブルー-ピーター［blue-peter］出帆旗(青地に白い四角を出した國際信號旗中のP旗)➔同項。

ふる-ぶね［古船］日本型帆船の建造後13～18年の間のもの，又婆丸(ばばまる)ともいふ。⇨新造船・中年船。

ブルーム［broom］甲板上の水を掃き取る水箒(ほうき)。

フルリグド-シップ［full-rigged-ship］3檣を有し何れも4個の桁を備へてゐる船。

ブルー-リボン［blue-ribbon］嘗て英國の濠洲羊毛積取船が速力競爭をなし一ヶ年中に於いて最も迅速なりし船舶に與へ，榮譽として檣頭高く掲げさせた長旗の藍綬章で，その後これが北大西洋に於ける定期船の速力競爭に引用せられ必ずしも實際に檣頭に藍綬章を掲げなくても，最高速力の保持船舶をブルーリボン船の保持者と稱する。

ブルワーク［bulwark］舷墻。➔同項。

フレアー［flare］船首又は舷側の外板の張り出し。波やしぶきを左右に側れ飛ばし且つ船の安全性を保つ目的を以て高速の巡洋艦・驅逐艦・機動艇などにつけられる。非常に張り出してゐるものをフレアーが多いとか强いとかいふ。

ブレーカー［breaker］水樽(ふなだる)。➔同項。

フレガータ［(伊)fregata］中世の戰艦で速力が早く通報・哨戒の任務に從事した。後世"フリゲート"といふ巡洋艦はこれが發達したもの。

ふれ-こみ［振込］外海に近いやうな港に潮汐とか波浪とか"あびき"(二次的振動)などが入り込むこと。

プレジュア-ボート［pleasure-boat］娯樂用の汽艇・モーターボート・ヨットなど。

ブレース［brace］帆桁を正しく維持させ，又は旋回させるに用ひる綱。

ブレスト［breast］船の中央部の繫留索。

ブレスト-バンド［breast-band］短艇で緣板(ふち)の直下に於いて内側を周繞する細い木材をいふ。上帶(じやうたい)。

ブレスト-フック［breast-hook］①船首肘材。しゆちゆうざい。②艇首を强固にするため艇首材の内方に於いて左右の上帶或は緣板(ふち)と艇首材とを結合する彎形の木材若しくは金具。

ブレディクター［predictor］飛行機射撃に對して方向・高角・距離・上下左右の修正を同時に測定し得る要具。

ブレード［blade］①櫓の水掻(みかき)。⇨水掻。②螺旋推進器の翼。タービンの翼。

フレート-コンフェレンス［freight-conference］運賃同盟。➔同項。

ブレベンター［preventer］補助索具。靜索補强用の副索。

ふれ-まわり［振廻］錨又は繫船浮標に船首を繫がれた船が，風や潮流の變轉に從つて自由に廻り動くこと。**——く**［振廻區］船舶が水面上を振廻ることが出來る區域。

フレーミング［framing］船體の骨となる材料卽ち肋骨・甲板梁・船艙材等の通稱。

ブレール［brail］絞帆索。絞帆用の索條。

ふれん-じょう［浮連城］數十隻の船舶を連結してこれを住居としたもの。八幡大菩薩の旗を飜へし海路の要衝に浮べ，通行の船舶を發見すれば忽ち散開してこれを包圍攻擊するのが八幡船の戰法であつた。(洋寨城)

ふれんぞく-せん［不連續線］不連續面の下に延びてゐる空氣が地面と交る線で，その兩側で氣溫とか風向とかが急にちがふ。

ふれんぞく-めん［不連續面］溫帶地方で低緯度地方から來る暖氣が高緯度地方から來る冷氣と接觸するときに生ずる現象で，此の面に沿つて空氣の渦動が起り易い。

ブロークン-スペース［broken-space］荷隙(にすき)又は空積(くうせき)といひ，積載貨物相互間の空隙，換言すれば貨物によつて充塡されざる船腹の部分をいふ。(荷隙・空積)

ブロシオン［(羅)Procyon］天測常用星の一。シリウス及びベテルギウスとともに立派な正三角形をなし，各邊の長さは平均26度。シリウスの光度には及ばないが，黃色によく輝いてゐるので容易に見出される。

ブロック［block］滑車。➔同項。

フローティング-ドック［floating-dock］浮船渠。➔同項。

フローティング-ポリシー［floating-policy］船名未詳積荷保險證券。積荷保險を契約する時，積込まるべき船名未だ詳かでなくて"一船又は數船に積込まる可き"條件の下に發行せられる海上保險證券。ネームド-ポリシー(named-policy)・船名記載積荷保險證券の對。

フロート［float］浮舟(フシウ)。➔同項。

プロペラー-ブーム［propeller-boom］推進器防護材。船舶の碇泊中，推進器を保護するためその上方舷側に張出してゐる小圓材。

プロミネード-デッキ［promenade-deck］遊步甲板。➔同項。

ふん-か［焚火］罐の火をたくこと。**——きょうぎ**［焚火競技］軍艦などで同質同量の石炭を互に罐の側に積み置き，早く火力を起して最高度の蒸氣力を發生させる競技。**——しつ**［焚火室］罐室の火を焚く所。(ストーク-ホールド(stoke-hold))**——ちょう**［焚火長］軍艦の焚火室一般の指揮を掌り，焚火・整火・罐更へ等に規定の方法を嚴守し汽罐規律の勵行振肅に就いてその責に任ずるもの。**——て**［焚火手］罐室で焚火口及び灰落戸の開閉及び投炭に從事する者。焚火助手は罐室汽罐用各補助機械の發停・注油に從ひ又炭庫内石炭の繰出し及び撒炭に從事し，なほ焚火手・整火手の補助をなす。

ぶん-か［分火］①射擊を同一の目標に集中しないで砲火を分散すること。②罐水の循環をよくさせるため，圓罐の全爐に同時に點火せずに中央爐又は兩側爐の何れかに點火し，火床全面に火勢が及んだ時にその燃炭を殘りの爐に分配して火床全面に火を早く行渡らせること。

ぶん-げき［分擊］我が兵力を分ち各別の攻擊目標を攻擊すること。

ぶん-けん［分遣］或る任務を授け本隊から分れて派遣すること。**——かんたい**［分遣艦隊］特別の任務に從事するため本隊から分けて派遣する艦隊。**——たい**［分遣隊］海軍航空隊に必要に應じ置かれるもので，航空隊の隊務を分掌し，分遣隊長以下所要の職員を置かれてゐる。

ぶん-こ［分孤］燈臺の明孤中或る部分に異色の燈光を示し航行船舶に對し障害物を警告するもの。

ぶんさん-こうこう-じょれつ［分散航行序列］敵飛行機の空中偵察圈に在つて，艦隊は敵機による發見報告を不正確且つ疑義多きものたらしめるために，小集團に分れ種々の變化をなしつつ目的地點に向つて航行する序列。

ふんじ-ほう[分時砲] 弔砲又は遭難信號として1分間隔をおいて空砲を發射すること。

ふんしゃ-すいしんき[噴射推進器] 特種の裝置により船外から水を吸ひこみ，これに壓力を加へて船外に噴射させ，その反作用で船を進行させるもの。これを救難船に裝備すれば螺旋狀推進器の如く推進器によつて水に浮かべる人を傷ける危險がない。

ぶん-しょく[分食・分蝕] 日・月食の部分食。皆既食の對。

ぶんすい-かい[分水界] 相接する河系の流域の外周の境界。(分水線)

ふんすい-かねつそうち[噴水加熱裝置] 魚雷の氣室内にある壓搾空氣を機關に送る前に，石油と空氣を吹込んだものに點火して燃燒させ，高溫度の炭酸ガスと窒素にし，その燃えた焰の中に周圍から水を吹込んで出來た蒸氣・炭酸ガス・窒素を混合さして機關へ送る裝置。

ぶん-そん[分損] 海損ともいひ，船舶又は積荷が一部分の損害を被つた場合をいふ。その性質に從つて，共同海損と單獨海損とに分たれる。全損の對。

ぶん-たい[分隊] 艦船部隊編成の稱呼で，教育・訓練・作業等總てこれを單位とし，分隊を更に或る數の班に區分する。陸戰隊では陸軍の如く指揮の最小單位とし2乃至數分隊を以て小隊とする。 **——ごちょう**[分隊伍長] 海軍陸上部隊の各分隊首席下士官。軍艦の首席下士官と同樣の役をする。 ⇨首席下士官。 **——し**[分隊士] 分隊長を輔佐して訓練教育に從事し分隊の事務を執る中・少尉，准士官。⇨分隊。 **——ちょう**[分隊長] 海軍に於ける分隊の長で少佐・大尉又は先任の中尉。艦船の兵科分隊長は艦長の命をうけ分隊員を監督し戰鬪に當りその指揮を執り，これが教育訓練を掌り，分擔の船體・艦船艤裝品・機關・機關附屬物及び兵備品を整備する職員。なほその配屬により內務長・航海長・砲術長・水雷長・機雷長・通信長・飛行長・機關長・副砲長・高射長又は飛行隊長の命をうけて服務する。 **——てんけん**[分隊點檢] 分隊の軍容及び各個の服裝容儀を檢べるもので，艦(團)長點檢及び分隊長點檢の2種がある。

ふん-たん[粉炭] 粉末狀の石炭。

ふんたん-がま[焚炭罐] 石炭を燃燒させる罐。

ふん-ちょう[噴潮] 息吹(イブキ)に同じ。➔同項。

ぶん-ちょう[分潮] 調和分解卽ち或る不規則な變化を規則正しい多くの變化に分つことによつて分たれた各規則正しい潮汐。太陰半日潮・太陽半日潮・太陰一日潮・日月合成一日潮などはその主なるもの。

ぶんてん-ちょう[分點潮] 太陰が赤道附近卽ち春秋兩分點附近に在る時の日潮不等が最小な潮汐。

ふんねん-き[噴燃器] 燃油裝置の中で最も重要な部分で，爐筒の前面に取附け，燃料油を霧狀に噴出させ，爐內で完全に燃燒させるもの。(油バーナー)

ぶん-ぱ[分派] 分遣に同じ。➔同項。

ふんばり-いた[踏張板] 競漕用短艇の足掛(アシガケ)で板に足革がついてゐる。

フンボルト-かいりゅう[フンボルト(Humboldt)海流] ペルー沿岸を北流する極めて寒冷な海流。(ペルー海流)

ふんゆ-がま[焚油罐] 重油を燃燒させる罐。

ぶん-り[分離] 兵軍を分割する行動。

ぶんり-き[分離器] 罐より蒸氣機械に通ずる蒸氣管の中ほどに裝置された圓形の器で，內に仕切板を設けて，蒸氣の中に混入した水分を分離するためのもの。

ぶんりつ-がん[分立岩] 陸岸などから遠くない水中へ分派してゐる岩。

ぶんりつ-とう[分立島] 地質・地形・島容などからみて陸岸・島岸から分派してゐる狀態の島。

ぶんり-とう[分離島] もと大陸の一部であつたものが，地盤陷落のために分離して出來た島。洋島の對。(陸島)

ぶん-りゅう[分流] 本流から分れて流れること。又，その川。(えだがは・支流)

へ

へ[舳] 船の前の方。(へさき・みよし・船首)

ベーア-ポール[bare-pole] 素檣。荒天準備のため，各檣總帆を收疊し，檣桁が赤裸になつてゐる狀態。

へい[兵] 海軍兵に同じ。➔同項。

へい-いん[兵員] 下士官・兵の總稱。 **——しつ**[兵員室] 下士官・兵

の居住する甲板。艦の前部より右左の順に第一兵員室・第二兵員室の如く呼稱する。

へい-えき［兵役］海軍兵役に同じ。➔同項。 **——めんじょ**［兵役免除］兵役法用語。兵役の一部又は全部を免除すること。（免役）

へい-おん［平穏］風の秒速 0.3 米以下のこと。

へい-か［兵科］海軍の科別の一つ。士官にありては兵學校又は機關學校出身者は兵科將校となり，官階は海軍少尉～海軍大將。特務士官・准士官にありては水兵科・飛行科・整備科・機關科又は工作科の出身者。下士官・兵にありては水兵科・飛行科・整備科・機關科・工作科の總稱。主計科・軍醫科・技術科等の對。

へい-がく［兵學］兵術を攻究する科學。

へい-がっこう［兵學校］海軍兵學校の通稱。同項。

へい-かん［兵艦］いくさぶね。兵船。

へい-き［兵器］直接兵戰に使用する機具。➔武器。 **——がく**［兵器學］兵器の構造・製法及び理論を研究する學問。

へいき-えんしゅう［兵棋演習］軍艦の模型を，碁盤の目を描いた大きな卓上に動かして，海上戰鬪の指揮法を修得する方法。

へいきん-きっすい［平均吃水］前後部吃水の平均をいふ。

へいきん-こうちょう-かんかく［平均高潮間隔］月が子午線に南中してから，高潮になるまでの平均時間。

へいきん-じ［平均時］平均太陽時に同じ。➔同項。

へいきん-すいめん［平均水面］長期に亙る高低潮の觀測によつて得た平均の水面。

へいきん-たいよう［平均太陽］1日の長さの差がなくて，時を測るに便利なため假想した太陽。眞の太陽が黃道を一週するのと同時間内に，天の赤道上を不變の速度で一週すると想像した太陽。（平太陽） **——じ**［平均太陽時］平均太陽の回轉する時角によつて時刻を表はすもの。日常生活に用ひてゐる時刻。（平均時） **——じつ**［平均太陽日］1年中の太陽日を平均して定めた1日。平均太陽の中心が子午線を經過してから再び同じ子午線を經過する迄の時間で平均太陽時の1日卽ち24時間。（平太陽日）

へいきん-ちょうこうじ［平均潮候時］或る地點に於いて，太陰がその地の子午線に正中してから，高潮となるまでの時間を，長期に亙つて觀測した平均高潮間隙。

へいきん-ちょうこうりつ［平均潮候率］半ヶ月以上にわたる高潮間隙の平均。

へい-ぐん［兵軍］兵戰に從事する人衆。

へい-こう［竝航］船舶が平行に竝んで航行すること。 **——せん**［竝航戰］海上で敵と竝行する針路を航進しつつ戰鬪を交へること。

へいこう-うんが［平行運河］①種々の事情により，河川の改修困難なる場合，その河水を利用し，船舟の便を得るため，その河川に沿つて開鑿された運河。②相平行する運河。

へいこう-こう［閉口港］潮汐干滿の差大なる港を利用するため港口に水門或は閘門を設備し，滿潮時に開き干潮時に閉ぢて港内の水深を充分に保たせるやうにしてある港。

へいこうしき-はくせんきょ［閉口式泊船渠］入口に閘門或は水門を有する泊船渠。潮汐干滿の差著しき地に施設せられ，海潮の出入を制限し，常に同一水深を維持せしめる。閘船渠ともいふ。

へいこう-じょうぎ［平行定規］海圖上に方位・針路を引き，又物標の方位を記入し，船の位置を求むる等のために使用する製圖器械。

へいこう-だ［平衡舵］舵板が舵心材の前後にある舵。舵の面積を廣くし舵效を良好ならしめる。速力の高い軍艦・商船に用ひられる。

へい-こうはんせん［平甲板船］全通せる上甲板を有する船舶で，上甲板上に船の全幅を占むる船首樓・船尾樓・高後甲板等の構造物なきもの。

へいこう-ふとう［平行埠頭］陸岸に平行して繫船岸を設けたる埠頭。上屋の背後に廣濶なる倉庫敷地を取り得る特長がある。棧橋の場合に於ける平行埠頭を片棧橋・横棧橋などと呼ぶ。

へいさ-き［閉鎖機］尾栓(びせん)に同じ。➔同項。

へい-し［兵資］兵戰に利用し得べき機具・物資・材料等。

へい-じ［平時］平和な時。戰時の對。 **——ていいん**［平時定員］平時に於ける艦船部隊の定員。戰時定員の對。 **——ふうさ**［平時封鎖］平時に一國又は數國の軍艦を以て，他の一國の海岸を封鎖すること。戰爭せずに要求を貫徹する目的を以て實施するもの。 **——へんせい**［平時編制］海(陸)軍の平時の編制。戰時編制の對。 **——ほうげき**［平時砲擊］戰時でないのに，一國の海軍を以て他國の海岸を砲擊すること。

へいじ-かいず ･･ッ［瓶子海圖］ 或る一箇所で多數の海流瓶といふ報告用の葉書を封入した瓶を海中に投入し，その拾得者より漂著場所及び日時を記載して郵送させ，これを海圖上に記入したもので海流測定の資料となる。

へい-しゃ［平射］砲の仰角を小さくし，大なる初速で彈道を低く遠くに伸ばして射擊すること。

へい-しゅ［兵種］海軍兵各科の種別。水兵・飛行兵・機關兵・整備兵・工作兵・衛生兵・軍樂兵・主計兵・技術兵の8種の外，水兵は更に一般水兵・電信兵・水中測的兵の3種に分れてゐる。

へい-しゅう ･･シウ［平洲］潮流の去來する平低な淺處で，その全部に亙り殆んど水深の差なきもの。

へい-じゅつ［兵術］戰略及び戰術の總稱で，兵戰に於いて敵に對し兵力を運用する技術。⇨戰略・戰術。

へいしゅ-ひこう-よかれんしゅうせい ･･･ヒコウ･･･［丙種飛行豫科練習生］水兵や機關兵その他の一般兵から試驗の上採用し，飛行豫科練習生として基礎教育を6ヶ月，飛行練習生として術科の專修6ヶ月の教育を經た後，實施部隊に入つて活躍する。

へい-しょく［兵食］艦船部隊に於ける下士官・兵並びに海軍諸生徒に給與される食事。海軍には軍艦・海兵團等で，通常の勤務に服する者に給する基本食，發育期にある海軍諸生徒・新入團兵等に增加給與をする增加食，また航空隊搭乘員・潛水艦乘員等に給する特別な糧食の外に患者食・戰鬪應急食・熱地食・夜食などがある。

へい-すい ･･スイ［平水］①河・海などの平日の水かさ。②水面の平穩なこと。**——くいき** ･･キイキ［平水區域］ 船舶安全法に規定された航行區域の一。湖川・港内及び灣内等の限定された小範圍の平穩なる水面の區域。（平水航路）**——りょう** ･･リョウ［平水量］河川の平均水位に對する流量。⇨流量。

へいすい-こうろ ･･スイ･･［平水航路］平水區域内の航路。 **——せん**［平水航路船］平水區域（航路）を航行する船舶。

へい-せき［兵籍］軍人の身分に關する事項を登錄する帳簿。

へい-せん［兵船］ 兵艦に同じ。➔同項。

へい-せん［兵戰］ 人類が干戈を以て相爭鬪する現象を總括していふ。その兵力・戰地・戰時の大小に準じ，戰爭・戰役・戰鬪・格鬪の4種に大別する。

へい-そう ･･ソウ［兵裝］兵器の裝備。

へい-そう ･･ソウ［兵曹］海軍各科の一二等下士官（一等兵曹・二等兵曹等）。上等下士官（上等兵曹等）の次位。**——ちょう** ･･ソウ･･［兵曹長］海軍各科の准士官。

へいそく-せん［閉塞船］ 敵艦艇の出入を不可能ならしめるために，港灣の入口を閉塞するやうに自沈する船。

へいそく-たい［閉塞隊］閉塞船を以て編成した部隊。⇨閉塞船。

へい-たん［兵站］ 戰線の後方に在つて，本國と前線との聯絡をとり，軍需品・糧食などの補給に從事すること。**——きち**［兵站基地］兵站を設置した作戰の足場となる所。**——せん**［兵站線］兵站部と作戰部との聯絡線。

へい-だん［平灘］ 潮流の去來する平低な淺所で，その全部に亙り殆んど水深に差異のないもの。水深3尋以下のときは淺灘又は淺洲と稱することがある。

へいたん-かいひょう［平坦海氷］ 板狀軟氷の發達したもので厚さ20糎以上の平坦な海氷。⇨板狀軟氷。

へい-ちょう ･･チョウ［兵長］ 海軍で新に設けられた，海軍兵職の最上階級。水兵長・飛行兵長・整備兵長・機關兵長等。元の一等兵に相當する。

へいてい-せん［平底船］ 船底の平らな船。ライター（艀）・浚渫船等は平底である。（フラット(flat)）

へい-とう［並頭］ 一つの船と他の船とが互に正横に見て同航すること。

へい-トン［米噸］ 2000封度(242貫)を1噸とする重量單位。主として米國に於いて用ひられるのでこの稱がある。英噸・重噸の對。（輕噸＝ショート・トン(short-ton)）

へいび-きょく［兵備局］海軍省の一局。出師準備・兵器軍需品の整備及び徵發・軍需工業動員・物資の統制・港務・運輸・通信・船舶等の調査利用の事務を擔任する。

へいめん-ず ･･ッ［平面圖］①海圖圖法樣式の一。港灣・海峽及び島嶼などの極小局部を，平面と看做して描畫したもの。②船體を平面から見た圖。

へい-り［兵理］ 兵術の原理。

へい-りょく［兵力］ 兵軍の人力及び機力。⇨兵軍。

べか 次項の略稱。 **——ぶね**［べか船］東京灣内で，海苔採集に用ひる小舟。略して"べか"といふ。1人乘で長さ4.24米餘。艫部に縛りつけた櫂で漕ぐ。東京近郊の川の釣船の一種を"べか舟"と稱してゐる。

ベガ［(羅)Vega］天測常用恒星の一。レグルスとアルクツルスを結ぶ線を，

更に同長だけアルクツルスの方向へ延ばすと青白色の輝星ベガの附近に達する。和名が織女で，附近に大十字架狀をなした白鳥座と三つ星の中心をなしてゐる牽牛卽ちアルタイルとが存在してゐるから見出し易い。

へきざい-こう [僻在港] 主要商工業地又は貿易港より遠く離れた僻遠の地に在る港。稅關所在地より遠隔の地に在る港。

へ-きり [部切] 船艙或は船室の仕切り，又はその仕切り板。**——-ぶね** [部切船] 水取船・糞尿船等に於いて液體の移動に從つて船體の動搖を少くするため船內を幾つにも仕切つた船の呼稱が漸次に轉訛したものらしい。一名，間船(マブネ)。

ベケット [becket] 索端に作られた索環で，留木(ハヅシ)を挾め連ねるのに屢々用ひられる。

へ-さき [舳・舳先] 船の前頭。艫(トモ)の對。(みよし)

へた [邊] (古) 海の陸に近い部分。濱の方。"へ"ともいふ。沖の對。

べた-なぎ [汎風・總風] 無風のため，大洋の海面上に小皺一つ見當らないやうな狀態。

へ-ち [邊地] 釣用語。岸又は汀に近い所。

ヘッド [head] 帆の上緣(ヒタヅ)。

ヘッド-ギヤ [head-gear] 前檣の前方に懸けるヘッドスル(head-sail)の動索。

ベデット [vedette] 艦載水雷艇。

へ-のり [舳乘] 經船の船首にゐて釣する漁夫。普通，その船で最も上手な釣手で，所によつてはヒノリ又はオモリヅリともいふ。

へや-にんぶ [部屋人夫] 甲種人夫に同じ。➔同項。

ベヤリング [bearing] ①方位。他物で船から見て羅針儀で子午線の何の方向に見えるかを表はす航海術語。②機械の軸受。

ベリー [belly] 帆を張つた場合一番脹らんでゐる部分。

へり-いた [緣板] 短艇の舷緣上部を構成する側板。(ガンネル(gunnel))

ペリスコープ [periscope] 潛望鏡(センバウキヤウ)。➔同項。

へり-ずな [緣索] 帆の周緣に縫ひつけた索條。(ボルトロープ(bolt-rope))

ペルー-かいりゅう [ペルー海流] フンボルト海流に同じ。➔同項。

ベルト-ライン [belt-line] 同一港灣內の各埠頭に引き込まれた臨港鐵道を，相互に連絡させるために特設した環狀線。

ベル-ブイ [bell-buoy] 打鐘浮標。➔同項。

ペーロン [剝龍・白龍] 長さ10〜14間の舳の突出した支那式の競漕用短艇。20〜30人の漕手は舳に向つて兩舷に列んで席をとり，舵手又は乘員の打鳴らす大鼓等の鳴り物に調子を合はせ，小型の櫂を以て水をかき競漕をする。ペーロン競漕と稱し長崎に於ける年中行事の一。

へんあつ-き [變壓器] 磁力線の媒介により，或る電壓の交流を他電壓の交流に變更する裝置。

へん-い [偏倚] ①船が風壓・潮流等にて針路線外に出で片倚ること。②磁針が鐵器等に感じ偏向すること。

へん-い [變緯] 船が航海する場合，その針路の角と航走距離とのなす三角形上にて，地球の南北線たる子午線上の距離をいふ。卽ち船が發航地より北若しくは南に進んだ場合は，その航走距離は變緯となる。

へん-いつ [偏逸] 風浪又は不注意なる操舵のため，船舶が定針路より外れること。

へん-かい [邊海] ①大陸の外邊にあつて，島嶼或は半島で界せられる海灣であるが，その閉鎖が不完全で，外海との流通が自在な枝海。これを附近地殼の主要斷層線に並行してゐる縱邊海と，これに直角な橫邊海とに區別する。日本海・北海の類。②近邊の海。③國境の海。

へん-かく [偏角] 磁針の方向(地磁氣子午線)と地球の子午線との間の角。伏角の對。(方位角)

ペンキ [paint] 船舶・木材・鐵等の外面防腐用及び裝飾用として使用する塗料。鉛白又は亞鉛華等に亞麻仁油・テレピン油・桐油・揮發油等を混じて練つたもの。

へん-きょ [泛舉] 沈沒船を引き揚げること。

へん-きょ [變距] 自艦と目標との距離の變化の割合。每時彼我の距離の伸縮量を浬で表はす。

へん-けい [變經] 兩地間の經度の差。

へんこう-ふう [變向風] 風向の不定で變り易い風。

へん-さ [偏差] 地球の眞の南北線に對し，磁氣子午線のなす角度。偏差は地球上の位置により，その量を異にする。等量の偏差の存する地點を連ねた線を，等偏差線といふ。**——-ず** [偏差圖] 船舶の航海すべき海面の偏差を測定してその數値を記入し，これを磁針方位に加減して眞方位を知

ることが出來る。

へんざい-せい［遍在性］ あらゆる海上に存在の疑がかけられること。潜水艦の特徴とする性能の一。

べんさい-るい［瓣鰓類］軟體動物中の一類。淡水又は鹹水に產し，左右2枚の殼と，左右2枚づつの瓣狀の鰓とを有するもの。雙殼類。蛤・牡蠣・帆立貝の類。

へん-しん［變針］艦船又は航空機が，その針路を變更すること。**——てん**［變針點］航行中の船舶がその針路を變換する位置。

へんしん-き［偏心器］ 偏心內輪と外輪の兩部より成り，回轉運動を往復運動に變へて滑弁棒に傳へるクランク裝置の一種で，舶用機關には普通に前進用と後進用の偏心器を裝備してある。（エクセントリック(eccentric)）

へんしん-ぎ［偏針儀］ 羅針儀の偏差を最小ならしめるための修正要具。

へん-せい［編制］ 兵軍の單位を集團して，隊を組織すること。平時に於けるものを平時編制，戰時に於けるものを戰時編制，又編制の永久成立して變更せられざるものを建制と稱す。

へん-せん［返船］ 傭船者が傭船期間滿了の船舶を船主に返還すること。

へん-そう［偏走］ 船舶や航空機が針路よりそれて航走すること。魚雷の場合も亦同じ。

べん-そう［鞭藻］植物と動物の間の子がプランクトンになつてゐる褐色や黃褐色の藻で，鞭毛を活潑に動かして海水を游泳する。赤潮になる主なるもの。

ペーンター［painter］ 短艇の艏に固定してある纜索(ともづな)。⇨もやひ。

へん-たい［編隊］隊列をつくること。**——ぐん**［編隊群］飛行機の單編隊2組以上をいふ。**——ちょう**［編隊長］編隊飛行に於いて，先頭機に搭乘指揮するもの。大編隊にては別に編隊長機のみ最先頭，又は前側方に在つて指揮に當る。編隊長機を指揮官機といふ場合もある。**——ひこう**［編隊飛行］飛行機が隊を組んで飛行すること。3～9機を以て1隊とし，通例梯陣を制つて飛行する。⇨編隊長。

へん-たい［變體］ 孵化した幼生が，成體と著しく形態を異にし，或る短期間內に急激に變化して成體の形になること。

へんたい-せん［變態船］ 事實は外國より輸入せる日本船舶なるも，船質改善助成施設目的達成のため實施せられたる外國船の輸入許可制が，實際上外國船の輸入禁止なるため已むを得ず船腹增加の合法的對策としてその船籍のみを關東州等の外地に置き邦船同樣に運航する船舶。

ベンチレーター［ventilator］ 通風筒。➔同項。

べん-てき［弁笛］ 霧笛の一種。簧(シタ)を以て笛を吹鳴し音響を發せしむるもの。

ペンデント［pendant］ ①艦船裝備の索の一種。曳索・繫留索などに使用する。②長旗。➔同項。③海軍兵の帽前章。

ベントス［benthos］ 海底に定著性の生活を送る動物。貝類・蛸(タコ)のやうな軟體動物，蝦・蟹のやうな節足動物や鰈・鮃のやうな魚類はこれに屬する。

ベント-べん［ベント弁］ 潜水艦が水中に沈降する際，金氏弁を開いてメーンタンクに注水させてからベント弁(vent-valve)を開きメーンタンクの中の空氣を排除する。

へん-ぴょう［片氷］氷の破片が，互に衝突して周緣が圓くなつてゐるもの。

へん-ぴょう［泛氷］ 漂流する浮氷。流氷に同じ。➔同項。

へんらん-うん［片亂雲］ 亂雲の中・下層にあつて裂片をなすもの。

へん-りゅう［偏流］①潮流に因つて針路からそれること。②横風の時，船首の向いてゐる方より風下に吹き流されること。**——かく**［偏流角］航空機の針路（豫定航路）と航跡とのなす角。偏流測定器で測定する。**-そくていき**［偏流測定器］ 偏流角を測定する計器で，飛行機が洋上（陸影を見ることなく）に於いて所要の地點に到達する航法上，速力計・羅針儀とともに特に必要なるもの。偏流計ともいふ。

へん-ろ［變路］ 船舶が豫定の航路を變更すること。（離路）

ほ

ほ［浦］灣より小なる入江の總稱。

ほ［帆］帆柱に張り上げ，風をふくませて船を進ませる船具。ケンバス・麻布・木綿布などでつくる。

ほ-あし［帆脚・帆足］ ①帆の下緣(カエン)。②檣の上から舳と艫へ張つた綱。

——ずな[ッナ] [帆脚索] 帆の下隅を張り出す索。(シート(sheet))

ボイス-チューブ [voice-tube] 傳聲管。➔同項。

ホイッスル [whistle] 汽笛。➔同項。

ホイップ [whip] 單鉸轆で，單ホイップは單滑車に1條の索を通し輕い物品を揚げるのに用ひ，複ホイップは2個の單滑車と1條の索とより成り上方滑車を固定滑車，下方滑車を動滑車とし，單ホイップよりは比較的重い物品を揚げるのに使用する。

ボイラー [boiler] 罐(カマ)・汽罐。➔各項。**——ルーム** [boiler-room] 罐室(カマシツ)。➔同項。

ポイント-ヤード [point yards] 風の全力を受けないやうに帆桁を風位に向けること。

ぼう [ボウ] [房] 錨鎖の全長を1房と稱し，錨鎖・接續鐵枷・轉鐶・錨鐵枷を以て構成される。

ほう-い[ホウイ] [方位] 觀測點から見た地平上の方角。東西南北の四方位の中間の方向を北東・南西・北西・南東とし，更に北々東・北微西等の如く三十二方位を區別する。**——かん** [方位杆] 羅針儀の上に直立してゐる1本の針で船の位置を決定するために，陸上物標の方位を測るに用ひるもの。**——きょう**[ホウキヤウ] [方位鏡] 天體その他物標の方位を測る器具で，羅針儀カードの硝子蓋上に隨時裝置出來る。**——きょうかくほう**[ホウキヤウカクホウ] [方位夾角法] 航行中船舶の位置を決定するのに，海圖上に明記してある2個以上の物標の方位とその夾角とによる法。**——こうていほう**[ホウカテイホウ] [方位航程法] 航行中，船舶の位置を決定するのに，基點から船舶のとりたる針路(即ち方位)と，航走したる距離とによる法。**——しんごう**[ホウシンガウ] [方位信號] 旗旗による船舶の方位表示の信號。**——の-せん** [方位の線] 方位線。基準となるものの方向に基づいて引いた線。航行中の船が，ある燈臺を右舷正横に見たとき，燈臺から船の位置に向つて引いた線は，方位の線の一種で，船はこの線上のどこかにゐる筈である。このやうに利用するときは，この線を方位による位置の線といふ。⇨位置の線。**——ひょう**[ホウヘウ] [方位表] 航海術上，變緯・東西距・距離を算定するに必要な表。(經緯表・トラバース-テーブル(traverse-table))

ほう-い[ホウイ] [包圍] 四方より敵を圍繞する作戰行爲。**——こうげき** [包圍攻擊] 敵の前後と，側面とを併せて攻擊すること。(包擊)

ほうい-ばん[ホウイバン] [方位盤] ①羅針儀で方位測定をすることが出來ない時，物標又は天體の方位を測定する器具。②方位盤射擊に用ひる射擊要具。**——しゃげき** [方位盤射擊] 砲術長の命令に從つて，方位盤についてゐる射手が照準を定めると，それは電氣仕掛で時計の針の動きのやうになつて砲塔内に表はれ，砲塔内の射手はその針の示すままに砲を動かし，砲身のねらひが方位盤の照準通りになつた時を見計らつて，方位盤射手は引金を引き一齊に射擊が行はれる。

ほう-いん[ホウイン] [砲員] 大砲の發射を掌るもの。**——ちょう**[ホウイン] [砲員長] 砲員中の最上級者は最重要配置に在る射手であるから，射手が砲員長として各砲員を監督する。

ぼううけ-あみ [棒受網] 鰯・鯵・鯖等の漁獲に使用する八手網(ハテアミ)の一種。餌を潮上に撒いて魚を集め，餌の流れるとともに魚を網の上に誘つて漁獲する。鰹釣などの餌に用ひる鰯又は伊豆七島の名物"くさやの乾物"にする鯵はこの網で捕る。

ぼう-えき [貿易] 商業と同意義に財物の交換を意味するが，普通には外國貿易，即ち國際間の商業取引をいふ。**——こう**[ボウエキカウ] [貿易港] 外國との通商交通をなし得る港。(外國貿易港) **——せん** [貿易船] 外國貿易に從事する船舶。**——ふう** [貿易風] 南緯・北緯各30度邊から赤道に向つて吹く風。(恒風・恒信風)

ホウエル-しき-ぎょらい [ホウエル(Howell)式魚雷] 米國海軍大佐ホウエルの發明による原動力として高速度に回轉してゐる"はずみ"車のエネルギーを用ひ，別個の軸に取附けた左右1對の推進器を互に逆回轉させて前進するやうになつてゐる魚雷。海面に航跡を殘さない特長がある。

ほう-えん[ホウエン] [砲煙] 發砲により生ずる煙。

ほう-えん[ホウエン] [砲焰] 發砲にあたり，砲口より發する火焰。

ぼうえん-きょう[ボウエンキヤウ] [望遠鏡] 遠距離の物體を見るのに用ひる眼鏡。當直中に使用する普通の望遠鏡の外に，旋回手用望遠鏡・照準手用望遠鏡など種々の種類がある。

ぼうえん-ぐ[ボウエン] [防煙具] 火災の煙煙による窒息を防ぐため，面部を覆ひ外氣を遮斷して，專ら器内の空氣及び酸素を呼吸するやうに作製された要具。

ほうえん-の-そなえ[ホウエンノソナエ] [方圓の備] 中古水軍の陣形。小舟大船入り雜つて豫めその形を示さず，機に臨んで一轉し，所期の陣形を作つて敵に當るもの。